

# 「八幡史学館」資料 第16シリーズ 令和3年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		八幡公民館主催事業「八幡史学館」第16シリーズ			
1	◎	第1回講座＝鎌倉府正嫡にかけた男～足利義明ものがたり	令和3年6月8日	山岸弘明	PP説明
		足利義明関係年表、寛政重修諸家譜喜連川・宮原、関係地写真			
		京都と鎌倉の2元政治～室町幕府の仕組み、兄高基と鎌倉公方の正嫡を争う～足利義明の生涯			
		①戦国動乱期に古河公方男として誕生、②真里谷武田氏、安房里見氏の招聘で総州に移る、③「市原市史」「市原のあゆみ」が伝える地元伝承			
		④五所の地名となった「八幡御所」はどこかにある、⑤小弓城を本拠に房総3か国をほぼ制圧、⑥国府台の合戦松戸相模台での壮烈死			
		⑦義明後の関東は北条氏が躍進			
2	◎	第2回講座＝八幡のリモート散歩	令和3年7月13日	平澤牧人	PP説明
		①市原・能満・門前・郡本関連地図、②房総往還八幡・五所散策地図			
3		第3回講座＝昔の八幡の思い出 パート2	令和3年8月10日	時田光夫	PP説明
		心に残る思い出がいまよみがえる、写真が語る八幡の昭和			
4	◎	第4回講座＝子規房総の旅	令和3年9月14日	塚原 茂	PP説明
		山はいがいが海はどんどん。正岡子規の房総旅行、かくれみの街道を行く～主要スライドショー			
5	◎	第5回講座＝「江戸城」と「花の大江戸八百八町」	令和3年10月12日	山岸弘明	PP説明
		江戸100万もロンドン70万～西欧こえた世界最大都市 天下泰平のシンボル「日本一の巨城」			
		①「の」の字にのびる、②江戸城の広さ、③将軍家の威風たなびく、④武家地ゆったり町方ぎっしり、⑤花の大江戸808町			
		主要スライドショー、飯香岡真景、海中鳥居			
		八幡公民館主催事業「いきいき八幡宿」第3回講座			

6	◎	五所歴史ストリート「神話と武士の町を歩く」	令和3年5月20日	山岸弘明	歴史散歩
		神話ともものふの町を歩く			
		八幡公民館主催事業「史学館関連講座」			
7		古事記「天孫降臨神話」を読む	令和3年4月	平澤牧人	
		1ににぎの命の出生、2猿田彦の先導、3天孫降臨、4あめのうずの命、このはなのさくや姫			
8		海苔のお話 豆知識	令和3年9月2日		
		1自己紹介、②海苔の分類、③海苔を食べる歴史、④江戸時代の養殖、⑤千葉県の養殖、⑥現在の生産、⑦海苔の御三家			
		⑫栄養価、⑬選び方、⑭恵方巻、⑮海苔の日、16小学校の海苔造り体験			
		松ヶ島神社の海苔種付け基準線、海苔取り船			
		市原市生涯学習センター「いちほら市民大学教養講座(歴史探訪講座)」			
9		八幡町歴史散歩「八幡さまと海の町を歩く」	令和3年5月20日	山岸弘明	資料欠落
		1始めに飯香岡八幡宮ありき、3飯香岡八幡宮、4市川本店、5八幡海岸、6浜本町みお跡、7河岸地、8八幡陣屋			
		市原市郷土博物館準備室「ふるさと市原をつなぐ連絡会」			
10		第22回講座「市原から江戸へ～史料でたどる近世房総往還の旅～」	令和3年7月14日	山岸弘明	PP説明
		千住まで遠回りした房総諸侯の参勤交代、会津藩主の富津海防陣屋巡見、行徳船で江戸へ向かった一般旅行記			
11		フィールドマップ第1回「八幡さまと海の町」を歩く	令和3年10月20日	山岸弘明	歴史散歩

八公運委 第24号  
令和3年 3月 1日

山岸 弘明 様

市原市立八幡公民館  
館長 池田 好徳



八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素、公民館事業に格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当公民館主催事業「いきいき八幡塾」「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。ご多用の折恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

記

- 1. 事業名 「いきいき八幡塾」「八幡史学館」
- 2. 依頼日時 「いきいき八幡塾」五所まち歩き  
令和3年 5月20日(木) 9:00~11:30  
「八幡史学館」  
令和3年 6月8日(火)・10月12日(火)  
9:30~11:30
- 3. 場 所 市原市立八幡公民館 会議室1と五所ストリート・視聴覚室
- 4. 内 容 五所まち歩きと八幡の郷土史について
- 5. 受講対象者 成人 30名
- 6. その他
  - ・受講者への配付資料や公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきますようお願いいたします。
  - ・謝礼金は、交通費と税金を含めまして、1回六千円になります。

〒290-0062  
市原市八幡1050-1  
TEL 0436-41-1984  
FAX 0436-43-7457  
担当 松濱 忍・及川 仁

6月8日(火)

# 八幡史学館①



講師

山岸 弘明氏

1回目 テーマ

鎌倉府正嫡にかけた男

— 足利義明ものがたり —



熱心に講師の説明に聞き入る参加者の皆さん！



貴重な資料の掲示と説明  
八幡史学館ならではの、本物の資料



わかりやすくまとめられたスライドショー  
パワーポイントによる説明

令和3年度 八幡公民館主催事業 5月5日より先着受付

第16シリーズ

30名募集

# 八幡史学館

回	月日	内容	講師
1	6月8日(火)	鎌倉府復活にかけた男 ～足利義明の夢～	山岸弘明 氏
2	7月13日(火)	飯香岡八幡宮と八幡	平澤牧人 氏
3	8月10日(火)	昔の八幡の思い出 パート2	時田光夫 氏
4	9月14日(火)	正岡子規と房総の旅	塚原 茂 氏
5	10月12日(火)	江戸城と花の大江戸八百八町	山岸弘明 氏

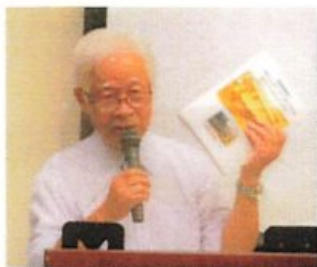
5回講座です。全ての回に参加できる方を対象とします。

時間 午前9時30分から11時30分

場所 視聴覚室

参加費 無料

持ち物 筆記用具



問い合わせ 八幡公民館 (41) 1984

山口 達画伯「四季草花」

市原は上総守護職を勤めた足利氏の準本貫地で、八幡宮とも深い関わりがあった。いったん別当寺・靈応寺(通称・若宮寺)内の満徳寺に入り五所に移る。『角川日本地名大辞典』は「地名は戦国期に足利義明の御所が置かれたことにちなむ。『里見九代記』は「社家(しやけ)様(義明)には下総の関宿ならびに生実(小弓)八幡に御殿を御所有せられて御住居なり」とする。同十八年小弓城に入り里見氏を配下に関東公方復活に夢を馳せたが、北条氏との「国府台(このうのだい)の戦い」で壮絶な討死、志は空しく夏草の露と消えるのである。



足利義明(1487?~1538)  
錦絵「国府台合戦の図」

みなさんは「五所」の地名の由来となった戦国武将・足利義明をご存知でしょうか。室町將軍・足利尊氏の次男・関東公方(くぼう)鎌倉將軍)家という武家棟梁名門の家柄。ところが次第に將軍家と対立、五代成氏(しげうじ)の時、鎌倉御所を古河に移し、全国に先駆けて関東を戦国時代にした。義明は動乱の時代、古河公方二代政氏の次男として誕生したが兄の三代高基とは不仲、永正十五年ころ小弓(おゆみ)城を攻略した真里谷(まりや)つ・武田氏の招きに、武蔵栗橋の御座所から利根川を下って八幡に入部した。

## 関東公方復活に夢馳せた足利義明御所さま

新型コロナ騒動下の秋晴れの一日、義明ゆかりの五所を歩いた。まずは八幡公民館の図書室とロビーで案内ちらしをゲット、白金通りに向かう。電柱の住所表示が五所、八幡、また五所とめまぐるしく変わる。江戸中期、江戸金杉の人・庄左衛門が海岸二十六万坪を拓いた「金杉浜塩田」の名残。およそ半分は四年後の台風で壊滅、跡地は現在の埋立て工業地帯となる。運河とポートピア裏道から遠望。ジョイフル前に塩の神様を祀る「磯辺神社」が佇む。

海③は五所の人たちにとって生活の場で職場でもあった。昭和三十年代までの北川や金杉川は海苔採り舟が並び、海苔干しが冬の八幡五所海岸の風物詩となった。五所生まれで公民館運営委員会の時田光夫さんは「当時はどの家も海苔をやっていた。厳冬期寒風の辛い作業で、子どもも海苔簾作りを手伝わされた。夏休みの海は天国。泳いだり小舟を出したり、仲間と小魚獲りに熱中した」と思い出も熱い。

ジョイフル裏側の入り組んだ地に「白幡神社」④が建つ。「この地は武威四隣を圧した足利義明が下総生実(小弓)に自立する以前に館を構えて八幡御所と称したが、天文七年市川国府台にて北条勢と合戦、敗卒するにおよび地名も五所と改められた」と碑文。ジョイフル一部を御所跡推定地として発掘調査も行われた。

### 古代官道と柳楯神事之道

いったん旧道バス通りに入る。かつての「房総往還」で、五井や久留里藩の参勤交代、文人墨客が行き来した。五所は「出羽三山信仰」や「富士信仰」が盛んな土地柄、共同墓地⑤の三段塚に「月山、湯殿山、羽黒山」を刻んだ古い碑が並ぶ。

### 神話ともものふの町「五所歴史ストリート」



五所白幡神社



御所跡推定地



御墓堂の伝義明墓



八幡満徳寺



# 主催事業

# 活動の様子



みんなで楽しくレッツ!ダンス(^.^)

## ヒップホップ

9月6・13・20・27日(日)

年中児から小学校6年生まで元気な子ども達が参加しました。音楽が流れると自然に体が動き、難しいステップも繰り返し練習するうちに覚えて、最終回では、保護者の前で上手に発表することができました。



ラリーもできるようになりました!

## 小学生卓球教室

10月11日(日)

小学生を対象に行いました。台風の影響で2日間が1日になりましたが、すぐに慣れてゲームを楽しんでいました。初めての参加者もいましたが卓球の楽しさを体験できました。



心と体を整えるヨーガ

## 中級ヨーガ

9月16・23・30日(水)

経験者対象に3回講座で実施しました。マスク着用・間隔を取って様々なポーズと呼吸法を学びました。インド式ヨーガなのでリラックスしてゆったりと行いました。自分と向き合い、瞑想する時間が持てました。

健康第一に和気あいあい、楽しく活動しています。会員は十六名です。男女は問いません。ぜひ一度、ラージボール卓球を体験してみませんか、お待ちしております。

白球会はラージボール卓球のクラブです。第一・二・三日曜日午前九時から十一時まで行っています。

## 白球会

代表 小針 久吉



囲碁を楽しんでいるサークルです。囲碁は大局観や、勝敗を予想する計算力などを高めると言われていて、脳トレにも適しているそうです。何よりも高齢になっても楽しむことができます。既に囲碁をやっている方、これから覚えたいと思っている方、是非一緒に楽しみませんか。活動は一カ月に三回(金)で、午後一時から五時です。

## 碁友会

代表 渡辺 秋二



# サークルの紹介

【二面から続く】  
満蔵寺6は新義真言宗で釈迦院末、創建は江戸中期か。入り口脇に市原新霊場札所巡拝塔、六地藏が並び、JR線際7には大正十年に合併した明照院の「五所小学校創立記念碑」が建つ。

五所バス停8あたりがかつての村の中心地。村高五八一石、旗本相給で家数九七、人口四四三、農間商い渡世を居酒屋九、髪結一、湯屋二、穀商売四、ボテ渡世五二と記す。コインランドリー前、押しボタン信号の小路9が市原台地を結ぶ八幡様「柳橋神事」の道。五所御三家に一泊(現在は町民館)して翌朝神社に向かう。柳橋が到着しない限りみこし渡御が開始できない決まりがいまも守られている。近くに「海中から神像を掬い上げた」とする八幡宮元宮10と大宮神社10がある。五所にはいまも神話の世界が息づいている。足に自信がある人は、信号の小路を右折、JR線を挟んだ五所小学校12も。時節柄職員室へひとこえ。校舎前に教育委員会看板。一歩進んで校庭越しに遠望。市原台地との間に広がる水田は古代地割り制度「条里制遺跡」13で古代官道が出土した。国府が置かれた市原台地から五所、八幡をへて下総に向かった。再び旧道に戻る。一千年の昔、「更級日記」の作者・菅原孝標女(むすめ)が京へ、源頼朝は鎌倉をめざし、鎌倉府復活を夢見た足利義明は千葉の小弓城から、悲運の最期を遂げる市川国府台へ運命の軍を馳せた。五所エリアの歴史ストリートは悲喜こもももの人生模様を織りなしながら今日に及んだ。

所要時間〓およそ六十分、五所小学校を回ればプラス四十分  
※「八幡公民館エリアものがたり」は休載。来年度史学館講座で「足利義明と八幡」を予定しています。

(山岸弘明〓八幡公民館主催事業「八幡史学館」講師)



五所小学校



柳橋の巡行

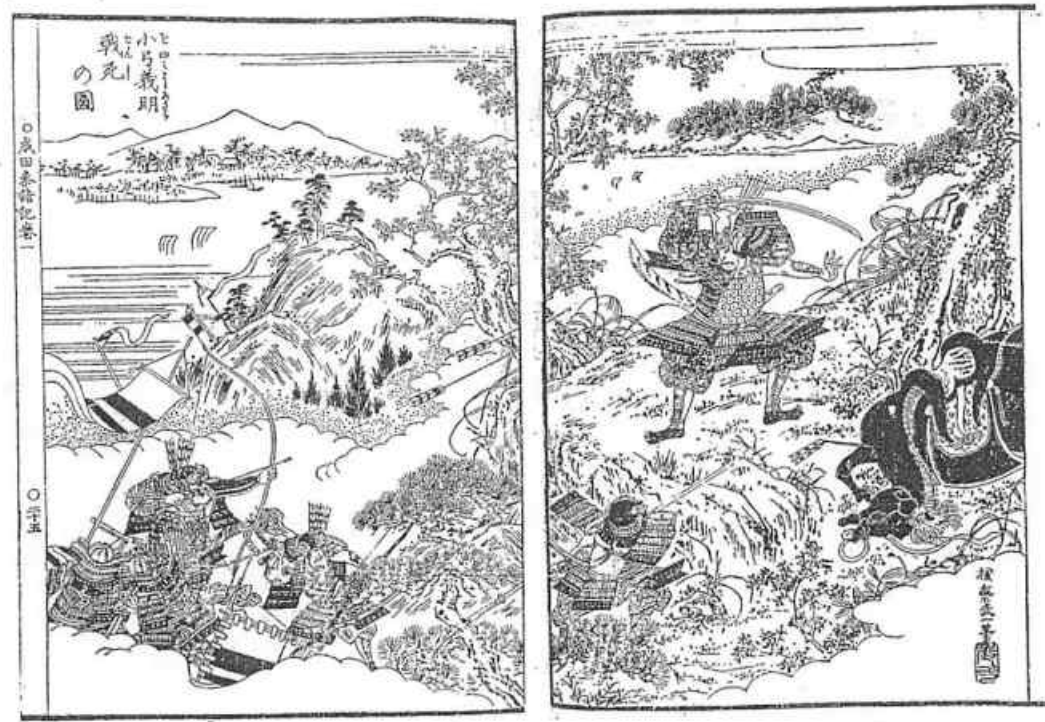


五所の町並み

八幡公民館主催事業「八幡史学館」第16シリーズ第1回講座

# 鎌倉府正嫡にかけた男～足利義明ものがたり～

令和3年6月8日（火曜日） 山岸弘明



小弓公方足利義明戦死の図

### 次回以降のスケジュール

- 第2回＝7月13日（火曜日）飯香岡八幡宮と八幡～八幡の史跡をめぐる  
平澤牧人 飯香岡八幡宮禰宜(新神主)
- 第3回＝8月10日（火曜日）昔の八幡の思い出② 時田光夫 八幡公民館運営委員会副会長
- 第4回＝9月14日（火曜日）正岡子規と房総の旅 塚原 茂 ふるさと市原をつなぐ会副会長
- 第5回＝10月12日（火曜日）江戸城と花の大江戸八百八町 山岸弘明

### 八幡史学館グループの新刊紹介

- ①市原の古文書研究第8集（令和3年5月発行＝B5版312ページ）  
内容＝市原市八幡・市川本店文書の書簡から（立教大学文学部史学科教授・後藤雅知）  
八幡・市川本店文書、菊間・若宮八幡神社旧蔵文書、古都辺・秋葉家文書、草刈・中村家文書、  
佐是・旧名主家旧蔵文書、土気駅往還御用留め
- ②館史ものがたり「八幡町と歩いた八幡公民館70年の黎明（令和3年4月再版＝B5版308ページ）  
内容＝町民総出の勤労奉仕で創立、戦後復興から漁業権放棄、海岸埋め立てへ。昭和23年から70年におよぶ「館史ものがたり」を町の歴史とともに振り返る





## 足利義明関係年表

永享 11 年 1439	関東公方足利持氏、幕府・関東管領と対立、永享の乱で自害
嘉吉元年 1441	結城合戦 結城氏朝ら持氏の遺児・安王丸を擁立して戦うが負ける
文安 4 年 1449	持氏の遺児・成氏関東公方に帰還、関東管領に上杉憲忠就任
享徳 3 年 1454	享徳の乱＝成氏、関東管領上杉憲忠を謀殺
康正元年 1455	幕府討伐軍が鎌倉を攻略、成氏古河へ逃れ古河公方成立
	古河公方派と関東管領上杉派に 2 分、関東の戦国時代始まる
	古河方馬加康胤、管領方の千葉宗家胤直の猪鼻城を攻略、滅亡させる
〃 3 年 1458	管領方扇ヶ谷上杉執権・太田道灌江戸城を築く
応仁元年 1467	京都で応仁の乱が起こり、戦国時代始まる
文明 17 年 1485	成氏の嫡子政氏の長男（兄）高基誕生
〃 18 年 1486	太田道灌暗殺される。管領山ノ内上杉家と扇ヶ谷家が抗争して分裂
長享元年 1487 ころ	政氏の 2 男義明誕生
明応 6 年 1497	成氏が没し、政氏が②代古河公方を継ぐ
文亀年間	義明、鶴岡八幡宮若宮別当となる。雪下殿、社家様とよばれる
永正 2 年 1505	両上杉および古河公方家和解するが、高基は上杉家嫌い北条氏に接近
〃 3 年 1506	父政氏と兄高基が権力抗争。いったんは収まる
〃 7 年 1510	父子抗争再燃
〃 9 年 1512	高基、政氏を追放、関宿城から古河城に入り③代古河公方となる
	義明、還俗
〃 10 年 ころ	旧来の地元伝承は、義明、市原八幡に移座とする
〃 13 年 1515	義明が政氏と結んで後継者を主張、高基と対抗
〃 14 年 1516	真里谷武田氏、小弓城を攻略
〃 15 年 1517	政氏、久喜甘棠院に引退。義明、高柳から総州へ移座、八幡御所成立か
〃 16 年 1518	高基、義明を支援する真里谷武田氏の支城の椎津城を攻める
	義明を支援する里見氏、高基派の長南、小田（大多）喜城を攻める
〃 17 年 1519	義明小弓城に入り、小弓御所を称す
〃 18 年 1520	里見氏西下総へ進出、小弓勢小金・市川で高基軍を追撃
大永 4 年 ころ	このころ小田原北条氏綱勢力拡張、江戸城、河越城を攻略、扇ヶ谷上杉派
	服属、高基と北条氏同盟関係強化、のち嫡男晴氏と北条氏綱娘で姻戚に
〃 5 年 1525	弟か晴直、上杉憲房養子として管領となる。のち上総で宮原御所を称す
〃 7 年 1527	両総諸将義明に従うもの多し、国府台城落とし、海路鎌倉も攻める
享祿 4 年 1531	政氏、甘棠院で没する
天文 2 年 1533	義明、上総、安房、下総の大半を勢力下に治め、高基は不安を募らせる
〃 4 年 1534	小弓元城主の子原基胤、奪還のため押し寄せるが野田で敗死
〃 5 年 1535	高基没し、嫡男晴氏が④代古河公方となる、北条氏が支援
〃 7 年 1537	義明、里見氏らを率いて国府台に出陣、北条氏綱と戦うが敗れ、義明父子
	ら討ち死に、里見軍は戦いの機を失し退却、遺児頼淳房州へ落ちる
元龜 3 年 1572	頼淳の長男・国朝誕生。天正 8 年次男・頼氏誕生
天正 9 年 1581	頼淳一家、安房・石堂寺に移る
〃 18 年 1590	豊臣秀吉の小田原征伐で北条氏滅亡。徳川家康江戸入府
	秀吉の命で古河公方の遺子・氏姫と義明の孫国朝婚姻で喜連川家創設
慶長 5 年 1600	関ヶ原の合戦で家康勝利
〃 8 年 1603	江戸幕府創立、喜連川家所領安堵

## 京都と鎌倉の2元政治～室町幕府の仕組み

### 1) 鎌倉幕府を倒した足利尊氏と新田義貞（ハイライト）

#### ① 鎌倉幕府の終末＝北条得宗家独断政治の破局

幕府の要職、守護、地頭を一族で独占。コネと賄賂が横行、幹部は遊興にふけり、政治は停滞する。一方御家人たちは不満をつのらせて忠誠心を失う

#### ② 後醍醐天皇の倒幕計画、何度も立ち上がる執念深さが結実する。

悪党・楠正成の奮闘。有力武士の反旗

#### ③ 倒幕の実行者は足利尊氏と新田義貞。鎌倉幕府重臣二人の謀反

幕府は本来、将軍の資格のない北条一族に乗っ取られている。有資格自認の源氏名門が切れた。

#### \* 足利高氏（尊氏）＝清和源氏嫡流、北条氏とも姻戚関係。下野（栃木県）足利庄領有

幕府軍を率いて京都への進軍途中で寝返り、幕府の京都拠点＝六波羅探題を急襲

#### \* 新田義貞＝足利氏と同族清和源氏嫡流、上野国新田庄領有

幕府軍として千早城攻撃中に戦線離脱、故郷に戻って一族を集めて倒幕の兵を上げる。

途中多くの不満武士を糾合、20万の大軍を率いて鎌倉を攻略、北条一族を滅亡させた

#### ④ 鎌倉幕府倒幕後、直接の功労者二人はやがて後醍醐天皇の許、敵対関係となって明暗を分ける。

#### ⑤ 鎌倉幕府を倒して武家から政権を奪った後醍醐天皇は天皇親政を理想に掲げた「建武の新政」を始めるが、性急な改革、武士軽視で不満が続出、政治は混乱し、わずか2年で終わる。

#### ⑥ 尊氏は不満武士を結集、天皇軍を破って京都を占拠、後醍醐天皇を追放して、新たに光明天皇を擁立、室町幕府を興した。

#### ⑦ 後醍醐天皇は吉野山に逃れ南朝を興す。ここに史上例をみない2人天皇の「南北朝時代」が始まる。

### 2) 兄は室町将軍、弟は関東将軍。禍根を残した2元制度（ハイライト）

#### ① 足利尊氏は幕府を京都室町に定めた。後醍醐天皇を京都から追放したとはいえ、吉野にこもって抵抗、京都が政権確立のための最重要拠点との判断に基づくものだった。鎌倉幕府のあった鎌倉にも幕府の出先機関として鎌倉公方を置いた。

京都と鎌倉には2人の子どもを将軍として据えた2元制度が始まる。

#### \* 長男義詮（よしあきら）＝京都・室町で2代将軍となり、以後子孫が継承

#### \* 3男基氏＝旧鎌倉幕府の本拠・鎌倉で関東公方（鎌倉将軍）に。以後子孫が継承

#### ② 富士川を境に西国は京都直轄、東国は鎌倉公方担当、のち奥羽が加わる。

#### \* 関東12か国＝関8州に甲斐、伊豆、奥羽。裁判、警察、軍事、一部土地支配権

#### \* 関東8家＝千葉（下総）、佐竹、小田（常陸）、小山、宇都宮、長沼、那須（下野）

#### ③ 管領（将軍補佐官）＝

室町将軍は細川、畠山、斯波3家交代

関東公方は上杉家（尊氏の母実家）、始め山ノ内、犬懸上杉家交代としたが、犬懸滅亡後山ノ内家が独占した

### 3) 3代義満に至って確立し、8代義政のとき崩壊（ハイライト）

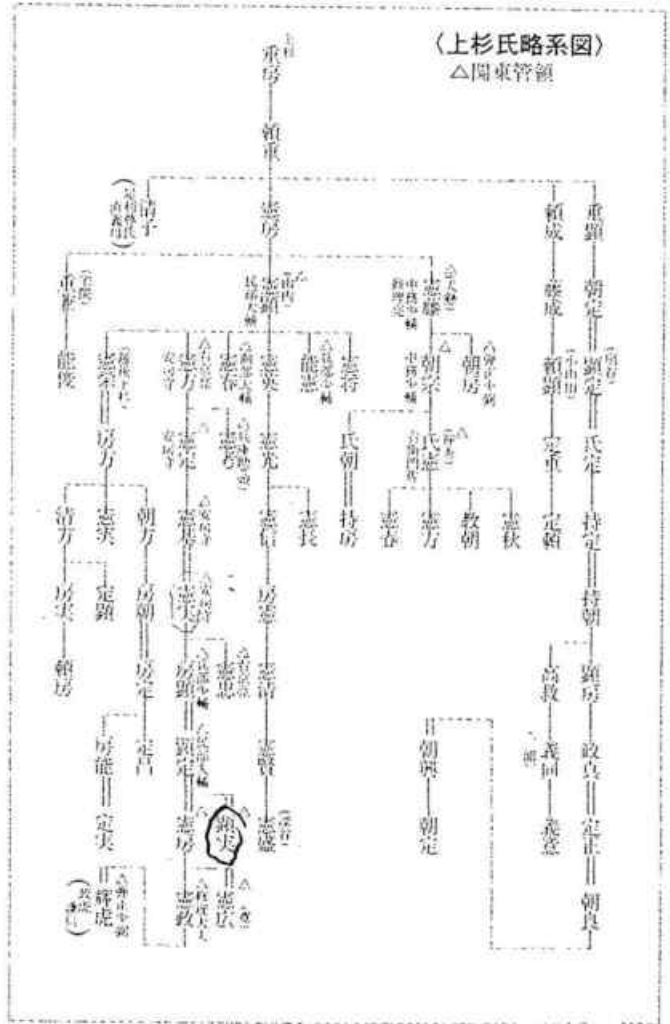
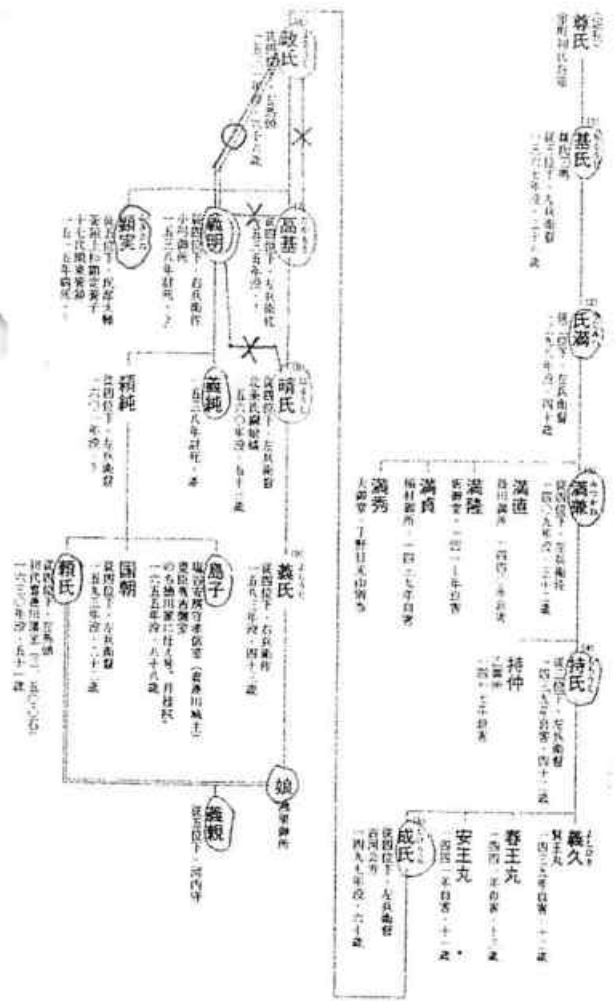
#### ① 足利尊氏 1338～＝室町幕府を開く。

#### ② 義詮 1358～＝南北朝戦争が続くなか、幕府基盤成立に尽力する。

室町幕府の最盛期



■ 房総の戦国武将たち



- ③足利義満 1368～＝南北朝を統合、独裁政治で幕府の最盛期を築く。
- ④〃 義持 1394～、1425～、⑤義量 1423～、義持はいったん隠居したが、後継した義量が早死にして復帰。義持が後継者を決めないまま死去したので、次の將軍は岩清水八幡宮のくじ引きで決定した。

混乱期

- ⑥〃 義教 1329～＝恐怖の専制政治を推進。ささいな理由での抹殺を続けた。関東の「永享の乱」にも介入、公方家持氏を断罪したが、本人も疑心暗鬼の赤松満祐に殺害される。
- ⑧〃 義政 1443～＝政治を顧みず芸道や娯楽に没頭、妻富子の横暴を許し「応仁の乱」を引き起こす。戦乱もわれ閑せず物見遊山に明け暮れた。応仁の乱に始まる「戦国時代」突入をもって足利幕府は実質的に崩壊した。

衰退期

- ⑨義尚 1473～、⑩義植、⑪義澄＝日野富子の子とその擁立者、すでに將軍權威はなく、守護大名の権力争いに巻き込まれて都を追われる。

崩壊期

- ⑬義輝 1546～＝將軍權威の復活をめざすが松永久秀に襲撃されて自害。
- ⑮義昭 1569～73＝(昨年度大河ドラマ＝麒麟はくる)織田信長に擁立されて京都に入るが、まもなく不和となり、信長討伐を画策して失敗、天正元年解任、室町幕府が滅亡した。豊臣秀吉の天下統一後、大坂に招かれ1万石が与えられたが慶長2年に没した。

4) 幕府はなぜ戦国時代も存続したのか (ハイライト)

- ①戦国時代に將軍はなにをしたか？  
戦国大名の権力争いに利用されながら実はなにもせず、有名無実化することで存続した。
- ②戦国時代は社会秩序が乱れた「下剋上の世界」  
將軍実権は管領の細川家に奪われ、細川家は執権の三好家に、三好はその家臣松永に倒される。守護大名の多くが守護代や家臣に乗っ取られた。名門、旧家の多くは没落し、新興の戦国大名がとってかわる。
- ③群雄割拠の時代、天皇と將軍の權威は失墜したが、天下人をめざす戦国大名にとっての利用価値は計り知れない。天皇の「綸旨(りんじ)」や將軍の「内書」も大儀名分になった。源氏嫡流「足利氏」の血統はなお絶大な神通力を有した。



室町幕府 足利尊氏  
あしかが たかよし  
●1332～1380年



二代 足利義詮  
あしかが よしあき  
●1350～1377年  
室町幕府二代将軍。豊氏の次男。母は北条、久時との娘。登喜、新田義興とともに鎌倉攻めに参加。京都幕府を樹立して幕政を執る。一三三五年、将軍となる。



三代 足利義満  
あしかが よしむつ  
●1358～1413年  
室町幕府三代将軍。義満の弟。母は岩清水八幡宮の松永満清の娘。松永文成から義満の名を継ぎ一〇歳で幕政を執る。のちに将軍職を継ぎ南北朝合一



足利義持



六代 足利義教



八代 足利義政

## 5) 古河公方の成立と関東の戦国時代 (ハイライト)

①京都室町將軍家と鎌倉公方との不仲は將軍家⑥代義教の就任のころピークに達した。

⑤代將軍義量の後継騒動で鎌倉公方④代持氏は次期將軍を期待したが、相談すら受けることなく終わる。不満の持氏は新將軍に祝いの使者も出さない、本来、鎌倉公方の子は將軍の面前で元服し、その一字をもらい受けるというのがならわしだった。ところが持氏はこれを無視し、鎌倉の鶴岡八幡宮で元服してしまう。さらに享徳4年康正、続く長祿、寛正、文正、応仁、文明への6年号の改元を無視して享徳年号を継続した。持氏のこれらの行動は幕府への挑戦、將軍職への野心とみられかねない、関東管領・憲実と將軍がホットラインでつながる一方、持氏と憲実そして幕府との対立は決定的となった。

②「永享の乱」がおこる

永享10年、持氏が領国に下向中の憲実を自ら出陣して追撃した。これに対して將軍義教は憲実を救援する目的で京都から大軍を派遣、箱根の合戦で持氏が敗れた。將軍義教は持氏を許さず、翌11年命を受けた憲実が軟禁先の鎌倉永安寺に軍兵を向けて自害させた。

③鎌倉公方持氏を自殺に追いやった將軍義教は、その後も過酷な粛清をくりかえし、疑心暗鬼となった重臣の赤松満祐によって誘殺された。將軍は⑦代義勝、⑧代義政と慌ただしく変わる。関東公方はしばらく空位のままであったが、文安4年持氏の遺児成氏の就任が認められ、関東管領も憲実の子憲忠に代わった。成氏は父の旧臣である結城、里見氏らを集めて上杉氏に対抗、かつての因縁を引きずる両者は反目しあって再び衝突する。

④享徳3年12月、成氏は西御門館で憲忠を謀殺、鎌倉を制圧したが、明けた4年1月兩軍は相模、武蔵各地で激突、決戦の分倍河原の戦いは成氏が勝利した。しかし6月、駿河守護職・今川範忠ら幕府の成氏討伐軍が押し掛けると打ち負け、今川軍が鎌倉市中に突入して火を放った。関東公方の御所や神社、仏閣が焼かれ、成氏は敗軍を集めて古河へ退転した。以後古河公方を名乗って、上杉管領家と対決することになる。

⑤幕府は成氏の後任公方として⑥代將軍義教の4男で⑦義勝、⑧義政の弟政知(堀越公方)を派遣、しかし鎌倉は今川氏、山ノ内・扇ヶ谷上杉氏、足利成氏が争う戦乱の地で鎌倉に入れない。やがて、北条氏が相模に進出、武蔵から上野へと勢力を伸ばす。追われた管領・憲政は越後の長尾景虎に助けを求め、山ノ内家の家督と関東管領の職を譲った。景虎はのちに上杉謙信を名乗り、戦国屈指の武将としてその名を轟かせた。

## 6) 東関東は古河公方、西関東は管領家が支配 (ハイライト)

①両家の争いは関東を真っ二つに分けた。

\*古河公方方=関東八家など下野、常陸、下総、上総、安房、武蔵では豊島一族

\*管領方=上野、伊豆、相模、甲斐、駿河、武蔵の大半

②管領方の扇ヶ谷上杉家執事・太田道灌は最前線基地として江戸城、岩槻城、河越城を築城。戦う所敵なく、連戦連勝の勢いであったが、高まる評価に不安をもった主人の上杉定正が暗殺すると、管領方が分裂し、扇ヶ谷家は一転して古河公方に与した。

③千葉氏は関東の動乱が始まると2派に分かれた。康正元年、古河公方方の馬加康胤、原胤房が、管領方の宗家千葉氏の猪鼻城を攻め、香取郡の多胡、島城で滅亡させた。康胤は幕府の追討軍によって村田川で討ち取られたが、子孫は千葉介を相続、本佐倉城に移って小田原征伐で滅亡した。八幡北町に康胤が東常縁によって打ち取られたとする「胴埋塚」がある。



## 兄高基と鎌倉公方正嫡を争う～足利義明の生涯～

### 1) 戦国動乱期に古河公方2男として誕生

①足利義明は関東戦国動乱さなかの長享年間ころ、古河公方足利政氏2男?として誕生、兄妹に、兄高基(3代古河公方)、弟晴直(兄、叔父?＝山ノ内家養子、関東管領、宮原公方)、基頼(国府台合戦討ち死に)、貞岩(甘棠院主)、女子(鎌倉東慶寺住職)がいる。幼名を愛王丸といった。6歳ころ、鎌倉鶴岡八幡宮別当尊徹(成氏の弟)養子、雪下殿を称した。雪ノ下は鶴岡八幡宮とその衆徒25坊の地名であったが、「雪下殿」の称号は鶴岡八幡宮別当職が名乗って関東10か国の寺社行政を統括(現在の大臣、長官に相当)した。代々関東公方家が世襲したが、古河以降、下総国高柳の宝聚寺を座所にした。

\*「寛政重修諸家譜」の義明没年令は57歳、逆算文明14年生まれで整合しない

②政氏のころ、一枚岩のはずだった上杉管領家の山ノ内と扇ヶ谷家で紛争が起こる。政氏は始め扇ヶ谷、のち山ノ内と結んで戦い、永正2年両上杉は和睦。政氏の子晴直が山ノ内家養子に迎えられ、第16代管領・顕実となった。のち、義明を頼って市原に移座、「宮原公方」と称された。子孫が家康に見いだされて、高家旗本となった。こうして関東の争乱はいったん収束をみせたかにみえた。

③戦国中期のこのころ、関東では小田原北条氏が台頭、政氏は上杉氏と組んで北条氏に備える。だが、嫡男高基は上杉家を嫌い、政氏との間で権力争いがはじまる。政氏を小山に逃れ、関宿城にいた高基が古河城に入って3代古河公方を名乗った。義明は父政氏を支持、後継を主張して兄高基に対抗することになる。

\*政氏は岩槻に移ったが、朝良が死ぬと再び行き場を失い、最後は久喜の甘棠院に戻って、享祿4年波乱万丈の生涯を閉じた。

### 2) 真里谷武田氏、安房里見氏の招聘で総州に移る

①このころ、房総3か国は群雄が割拠する戦国動乱のまっただ中であつた。

永正10年代の市原郡北部、八幡、五井、姉崎は千葉一族、白井城と小弓城を領有した生実原氏の支配下にあつた。小櫃川から養老川に勢力を拡大した真里谷武田信清(如鑑)と長南武田氏、茂原の三上佐々木氏、土気・東金の両酒井氏、安房の里見などがあつた。支配権を広げつつあつた小田原北条氏の動向と相まって烏合離散を繰り返していた。

②永正14年10月、公方方の真里谷武田氏が管領方の小弓城を攻略して原二郎を滅亡させる。房総武田氏は足利成氏が上杉氏との対抗上、甲斐守護職武田信満の子信長を上総介として迎えて真里谷、長南の2城を築いたことに始まる。安房里見氏も清和源氏新田義重の後裔。結城合戦で足利持氏の遺子を奉じて敗れたが、足利家御一家として位置づけられた。2人にとって義明は自らを正当化する「大義名分」となった。

③一方義明は、高基の古河御所と川1本、10kmにも満たない高柳御所は安住の地ではない。上総は足利氏の準本願地で、鎌倉府御料所が散在し、それらを所領している家臣や足利氏ゆかりの寺社領も多く、父後継者を名乗るには絶好の地であつた。

\*足利氏は鎌倉中期以降の実質的上総国守護職。「年来の先祖相伝の所領にも準じる、まさに重要な相伝の職といっても過言でなからう」(市原市史)

\*上総国内の足利氏ゆかりの武将＝武田、村上、堀江、椎津、二階堂、佐々木、多賀…

④市原八幡宮(飯香岡八幡宮)は室町幕府開創後も幕府の手厚い保護を受け続けた。

\*応安8年、3代將軍義満時代の「市原八幡宮造営工事」＝壮大な神社を建造。一国平均役、国家事業として各郡、各荘園に課税



\*至徳元年、義満が神輿4基を寄進＝至徳元甲子年九月太政大臣征夷大將軍朝臣義満公当社厚く御信仰、神輿四社造立寄進奉るものなり（飯香岡八幡宮由緒本記）。年輪、炭素同位元素鑑定で年代が一致した。重文クラスの逸品といえる

\*4代義持による太刀一振り、⑧代義政による本殿修復など（由緒本記）

④永正15年7月カ、義明は武田氏、里見氏の要請にこたえて武蔵・栗橋の御座所から利根川をくだり総州に入った。千野原靖方先生の著書などによれば、高柳から八幡ではなく、直接小弓に移座したとの解釈が有力らしい。

⑤千葉市の戦国時代城館跡（千葉市立郷土博物館）＝生実に入るまで義明は、父政氏と対立して奥州に出奔していたとされてきたが、実際は関東の宗教的世界の最高位にある鶴岡八幡宮若宮別当雪下殿として古河公方政氏とともに東国支配の一翼を担っていたのである。しかしやがて政氏と兄の高基の対立を経て、高基が古河公方となる過程で、義明も自立を目指し高基と対立するようになる。こうしたなか永正14年10月に真里谷武田氏によって、生実城が落とされた。ここに義明は、足利氏の血を引く「貴種」として武田氏に迎えられ、生実公方生実公方が成立するに至ったのである。（中略）義明が生実に入ったのは足利氏の所領や家臣が多く存在する上総に近いという点も背景になっている。生実に御所を構えた義明は、真里谷武田氏と安房里見氏を味方として、独自の権力基盤を築き上げ、古河公方と対抗した。（中略）しかし、小田原の北条氏が義明の背後である房総に手を伸ばし、（中略）義明と北条氏の対決は避けられなくなった。天文7年、義明は国府台に陣を構え、ここで古河公方足利晴氏の小弓公方追討の命を受けた北条氏と合戦に及び、弟基純や嫡子とともに討ち死にし、小弓公方は滅んだ。

3) 『市原市史』『市原のあゆみ』が伝える、これまでの地元伝承

①『市原市史』＝生年不詳、足利政氏2男。鎌倉別当寺に入り空然を名乗る。古河に戻るが父兄の争いをみて陸奥に出奔、三浦盛高の食客となる。真里谷武田信興に招かれ八幡霊応寺に入り、五所に八幡御所「乙酉館」を築く。八正院公方、社家様、八幡御所などと尊称され、安房里見、武田氏などを従えて勢力を拡大した。永正14年小弓城を攻め落とし原氏にかわって小弓城に入り、小弓公方、小弓御所を称した。

②飯香岡八幡宮由緒本記＝寛正6乙酉年足利右兵衛佐源義明公、御所を当郷に築かせられ、早速御殿造立有らせられ、すなわち八幡御所と称え奉る、当社御祈願において神領海面沖の方神輿幸行汐垢離場一の大鳥居御造立御寄進あらせられ、同年8月15日御舎弟源頼郷、両所御社参、御太刀一振神納奉る、すなわち御祈願において御祓い、大麻献上奉る。文明元己丑年8月小弓御所足利右兵衛佐源義明公御祈願によりて、当社屋根古来檜皮葺きのところ、新たに銅板屋根に葺き替え、その外御造営御寄付有らせられる、真里谷原式部入道恕鑑奉行を司る。

③快元僧都記＝小弓上様義明、古河公方高基様御連枝なり、先年御父政氏様御勘当あり、奥州へ御下向これあり、その後上総国住人武田真里谷三河守入道、同小弓城原二郎鉾楯におよび、毎度小弓打ち勝ちおわる、ここにより武田自力叶わず、奥州より義明大將として招請奉り、小弓城攻め落とす、原二郎ならびに高城越前守父子滅亡、同下野守逐電、義明様小弓城に御移り、房州里見、常陸鹿島、武州の小府の佐々木以下ことごとく従い奉るなり。御家風東国をおおう、近年小弓上様と称し奉る

④近年義明の研究が進み、現存史料によって義明の永正14年閏10月現在での高柳在住が証明されたことで、それ以前八幡から小弓城を攻略したとされる八幡伝承が否定された。しかし千野原先生の『小弓公方足利義明』は総州入りした永正15年7月から小弓城移座（17、8年）までの間、「その最初の入部地は義明由緒の市原八幡宮（飯香岡八幡宮）が鎮座した古くからの足利氏の所領である上総市原庄内がふさわしい。八幡郷は両総国境

の村田川を挟んで小弓城の南東に位置し、この一帯には義明の八幡御所跡や義明寄進の八幡宮「一の鳥居」あるいは義明の舎弟基頼奉納の御太刀一振り、義明御祈願・真里谷式部入道恕鑑奉行による八幡宮御屋根葺き替えなどの所伝がある。(中略) こうした条件も義明の最初の入部地が八幡郷の八幡御所であったことを想定させるが、残念ながらいま確証を得られず推測の域にとどまる」と八幡説にも配慮している。

#### 4) 五所の地名となった「八幡御所」はどこかにある

- ①『角川日本地名大辞典』は「地名は戦国期に足利義明(八幡公方、のち小弓公方)の御所(八幡五所)が置かれたことにちなむ、(中略)市原荘内における軍勢の乱妨、狼藉・放火などを禁じた天正18年5月の豊臣秀吉禁制にごしょとあるのが初見」としている。近世五所村は江戸時代から明治7年までの村名で、明治維新期の旗本白須甲斐守、南条太兵衛、森信八郎領、村高581石、家数97、人口443人、明治7年五所金杉村、22年八幡町、昭和30年市原町、38年市原市の大字となる。
- ②『里見九代記』は「下総の関宿ならびに生実(小弓)八幡御殿を御所有せられ御住居なり」。『上総国誌』は「市原郡八幡御所跡、足利義明小弓よりこれに徙居」とする。
- ③郷土史研究家の故落合忠一氏が御所跡地を五所・今井虎衛家、現在ジョイフル本田南側一画と推定し、当時定説化したが、その後行われた発掘調査で中世の遺物は一切発見できずほぼ否定された。今井家は金杉浜新田(塩田)の名主であり、塩田の溝が御所水堀に誤認された可能性がある。
- ④満徳寺の「伝義明夫妻の墓」など義明伝承の多くが昭和7年、開催された「足利義明400年祭」で、地元有力者らが町起こしの一環として制定したといわれている。

\*義明の墓=当時霊応寺古池で発見された五輪塔

『寛政重修諸家譜』は義明の埋葬地を市原の「十五沢村」とする。義明を頼って最後の地とした宮原御所・足利晴直が、遺骸を引き取ったと推測される(千野原著書)。満徳寺御墓堂の「由来碑」は「遺骸は家臣によっていったん小弓御所に運ばれ、小弓御所で自刃した夫人の遺骸とともに八幡の霊応寺に葬られた」と記し、教育委員会碑は室町時代造立の五輪塔、義明の墓といわれていると地元伝承を補足している。また教育委員会の発掘報告書などでは若宮寺開山など特定僧侶供養塔と推定された。

\*不動明王石像=義明供養とされるが碑文は後世住職供養を刻む

義明寄進のうの観音像=英国立博物館所蔵とされる?写真もなく確認できない

義明夫妻像=廃仏毀釈で焼失とされる 御墓堂碑=400年祭入選句

- \*『房総志料』は八幡神社の別当若宮寺に「小弓御所義明の興廃、記せしもの数多あり」とする。霊応寺は明治の「廃仏毀釈」で暴力的に破壊され、史学館で行った満徳寺「古文書確認作業」も、明治以降の火災と水禍で、関係する古文書はなかった。
- ⑤しかし一方、天保9年『五所村差し出し明細帳』は「古城跡除地、足利義明居城の由、申し伝えにござ候」とあり、江戸時代には義明居城跡とされる除地が存在したことは確実であろう。どこかに眠る御所跡の発見は今後の課題としたい。

#### 5) 小弓城を本拠に房総3国をほぼ制圧

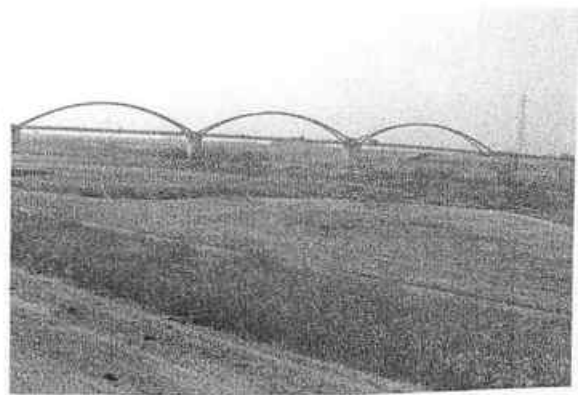
- ①上総武田氏と安房里見氏の支援を受けて永正15年(1518)両総に入った足利義明は、17年ころ小弓城に入って小弓上様、御所様などと呼ばれた。小弓城は千葉市中央区南生実町の高台、城跡一画に千葉市埋蔵文化財調査センターがある。八幡宿駅から北東直線距離およそ4kmを隔てる。城跡には地形や大手虎口、櫓台、土塁、空堀などの遺構が現存、支城群として北小弓城(生実城=生実陣屋の前身)、柏崎砦、永山砦などがあつた。

宝聚寺



古河公方  
館跡

古河城跡



徳源院  
古河公方墓

白幡  
神社



小弓城跡



北小弓城(笠奥城)跡

伝八階  
館跡



新伝寺

国府台(市川)



伝義明墓

義明討死の地

- ②比高 10mほどの台地上、古城とよばれる「要害台の墓地」一角が本丸に相当 I 郭で、現況は畑、墓地など、急がけ先端から上総八幡方面が一望できる。かつて規模の大きな堀と土塁が残っていたが埋め戻された。2の丸相当、3の丸相当と城縄張りは単純すぎ、北生実城が本城で最先端支城とする説の方が説得力がある。
- ③義明はこの地を本拠に上総、安房と下総のほぼ全域を掌中に収め、関東公方家の正嫡と威光復活に夢をはせたが、はたせぬまま生涯を閉じることになる。

#### 6) 「国府台の合戦」で義明壮烈最後

- ①一方、古河公方高基も義明の自立＝古河公方の分裂、衰退を見逃すわけにはいかない。義明の両総入り直後の永正 16 年結城、羽生、菅谷らに命じて、義明を支援する真里谷武田氏の領内深く椎津城を攻撃する。またこのころ、関東進出をはたした北条氏綱が高基に急接近、高基は氏綱に義明の討伐を命じた。こうして兄弟対決の代理戦争、小弓公方義明と小田原北条氏の戦いが、その境界線である江戸川、「国府台」を舞台で始まる。

- ②『市原市史』は次のように記す。

「天文 7 年 10 月 7 日、晩秋初冬の下総国府台の台地では朝の 10 時ごろから小弓御所対北条氏の遭遇戦が行われ、北条氏の勝利によって午後 3 時ごろに戦闘は終わった。小弓方は義明とその子義純、義明の弟基頼、重臣逸見浄仙を失い、大きな打撃を受けた。長年に渉る関東公方への野望も潰え、小弓公方家も崩壊した。上昇の気運にあった里見義堯はその勢いを挫かれ、ほうほうの態で安房へ逃亡した。彼とその軍勢はほとんど活躍しなかったか、あるいはその機会がわがままで拙劣な義明の軍略の下では与えられなかったのかも知れない。この戦いは合戦といえる程のものではなく、小規模な勢力のみを相手にして来て、小さな勝利に心をおごっていた向こうみずの武人と、多くの経験を積んでそれを生かすだけの合理的精神を持った武将との、しかも多勢に無勢の戦争であるから（中略）だれの目にも勝敗の帰趨は明らかかなはずである。」

- ③戦いなれた北条軍とばらばら小弓公方軍

\* 足利義明軍（本隊）＝直臣団（近臣、御馬回り衆）。義明、義純、弟基頼 3 大将に、逸見祥仙、佐々木源四郎、逸見八郎、椎津、村上、堀江など

応援軍＝安房里見義堯、真里谷武田、土気酒井など総合計 1 千人余衆

\* 北条氏綱軍＝武蔵、相模、伊豆の軍兵 およそ 5 千人

\* 義明軍で戦ったのは直臣団だけ、本隊が急を衝かれて全滅する中、里見軍は本隊を見殺しにして戦線を離脱した。義堯はすでに戦国大名として自立の方向にあり、義明を積極的に支援する気持ちはなかったようである。一方、真里谷武田氏は信清が義明より早い天文 3 年に亡くなり、その後継を巡って妾腹長男と嫡子が分裂、弱体していた。義明を支えた勢力基盤が大きく揺らいでいたことが背景にあった。

\* 快元僧都記＝天文 7 年 10 月から

下総に向け、氏綱父子進発、これ小弓上様義明、里見引率、国府台出張あり、同六日氏綱江戸城出陣、同七日合戦、敵、上様ならびに御曹司、基頼公三大将、椎津、村上、堀江など面々競戦、氏綱先陣、志水、狩野、笠原、遠山、伊東などこれを防ぎ、急に攻戦、小弓衆打ち負け、御曹司様、上様御舎弟基頼御討ち死に、（中略）三浦城代横井神助、上様討ち落とし奉り、松田弥次郎御首奉り（中略）およそ討ち死に百四十余人、そのほか御所方佐々木源四郎（中略）など戦場のがれ、上様末子伴い奉り、すなわち小弓城焼き払い、房州落ち行きおわる。

- ②飯香岡八幡宮由緒本記＝天文 7 戊戌年、小弓御所足利右兵衛佐源義明卿と古河御所源晴氏卿ならびに北条氏綱両勢と合戦におよび、義明卿勝利を得ず、ついに高野台にて父子

討ち死にす、よりにて当所の御所御取り払いに相成り、これより御所号を五所と改め、郷内を割り分け五所村と号す、よりにて天文8己亥年右御殿の跡へ白幡権現の社勧請す。

- ③市川市国府台は江戸川、かつての太日川東岸に張り出した丘状の舌状台地先端に立地する。古代に下総国府が置かれ、源家再興に拳兵した源頼朝もここを通過した。文明年間、太田道灌本格築城といわれ、一時分裂で千葉城を追われた宗家が拠ったこともあった。
- ④JR市川駅から松戸駅行きバス乗車10分、国立病院降車徒歩3分。入口は里見公園で、梅や桜時期は市民の散策でにぎわう。城址はこの公園と曹洞宗の総寧寺、北部は住宅地と畑地になっている。千葉県と東京都を分ける江戸川河岸段丘比高20mほどの急ガケ上、対岸小岩緑地を挟んで北小岩の市街を遠望、運がよければ富士山や丹沢山系も望める。奥まったI郭本丸相当、回りをII郭～V郭などが取り囲む変形梯郭式縄張り、土塁や空堀、櫓台などの遺構が現存する。城山入口の小高い櫓台らしい一面に永禄7年「第2次里見合戦」での戦死者の墓「里見広次ならびに里見軍将士兵亡霊の碑」と史跡看板がある。足利義明が討ち死にした26年後、里見義弘が再びこの地で北条氏康と戦ったが敗れた。
- ⑤ここに30年近く続いた古河公方家の正嫡争いは晴氏が嫡流としての地位を確定した。しかしほどなく晴氏と北条氏政は不仲となり、2度にわたって拳兵するが捕らえられ、最後の義氏も天正3年に古河で没した。

#### 7) 秀吉の命で50年後に両家が和解、4500石交代寄合で明治維新におよぶ

- ①天正18年、天下統一をめざす豊臣秀吉は22万を動員、「小田原里見征伐」の軍を起こす。北条配下の諸城が次々と攻略される中、7月には北条氏政が降伏して100年間にわたった北条氏が滅亡した。古河城は秀吉の命を受けた増田長盛によって破却された。古河公方は義氏のあと、1人娘氏姫が鴻巣御所にあった。名門・関東公方の断絶を憂いた秀吉は、氏姫と里見氏に引き取られていた小弓公方義明の遺子頼純の長男国朝との婚姻によって喜連川家を成立させた。

\*この喜連川氏の成立に大きな役割をはたしたのが、喜連川の旧領主塩谷氏に嫁いでいた義明の孫・島子であった。島子は秀吉の側室となることで、弟国朝を古河公方家の氏姫と結婚させ、関東公方家の再興が許されたといわれている。島子はのち家康に召され、振姫の輿入れに会津にも従った。新宿区の曙橋近い月桂寺を開基して木連川家の菩提寺としたが、現在は「開基月桂院墓所」の碑が残っている。

\*古河公方義氏と氏姫の墓は古河公方近くの徳源院（氏姫開基）跡にある

- ②国朝は父頼淳とともに安房の石堂寺から喜連川に移った。国朝は文禄2年秀吉の朝鮮出兵での名護屋出陣の途中急死、後継した弟頼氏が兄嫁を娶った。喜連川家は江戸時代、万石未満であったが血筋から大名として扱われ、参勤交代を行う旗本＝交代寄合として10万石の待遇を受けた。陣屋は東北本線氏家からバス、新川と内川の合流点の丘陵上、現在は栃木県さくら市の公共施設などになっている。城遺構はなく、山に囲まれた地形と模擬の大手門がわずかに往時をしのぼせている。明治元年もとの足利氏に復姓、明治3年、廃藩置県に先立って領地を返還、そのまま廃藩となった。

#### 主要参考資料＝

千葉県の歴史、改定房総叢書、市原市史、市原のあゆみ、市川市史、市原市八幡地区の遺跡と文化財、市原の古文書研究、八幡の石造物研究、千葉市の戦国時代城館跡、古河公方展、詳説日本史図録、新編房総史、鎌倉・室町人名事典、戦国房総人名辞典、寛政重修諸家譜、小弓公方足利義明、国府台合戦を点検する、戦国遺文、さきたま文庫、図説鎌倉幕府、図説鎌倉府、足利將軍15代、応仁の乱

トレ休め

10:50 ~ 11:20

(お1新大活)

30分

## 第2部 足利義明の生涯

### 1-1 1-2 泥沼の関東内乱

#### 第1部の復習

足利公方家の上杉管領家、室町幕府との争いは

3つの内乱となり、抜きさしならない決定的な事態へと突き進みます

#### 1-3

②..... 系図 = 持氏、義久、安王丸、成氏

③義政は尊氏当時の政治に戻すつもり... そうはいきません...

成り行きに放置、火に油を注いだこととなります...

#### 1-4 両家の争いは関東を2分

いまの「気象情報」だと北関東、南関東...

おおむね旧利根川、江戸川を境に、東西に2分...

西は古河公方足利方... 東は関東管領・上杉方に分かれて戦います...

千葉氏は一族兄弟が2派に分かれ、上杉方の幕張康胤が宗家を滅亡、自らも「村田川の戦い」で討ち取られます

#### 1-6 足利政氏

①将軍・義政の後継者争いから端を発した「応仁の乱」が全国にひろがります。

関東では公方、管領の争いに乗じて 北条早雲が勢力を広げます

③古河公方家も父子が相続をめぐるって分裂してしまいます...

#### 1-7

JR 宇都宮線久喜駅、徒歩 15分 政氏の最後の居城で、没地です...

#### 1-8

室町中期、古河から久喜に逃れた政氏が構えた城館を、寺とします...。周囲を120mの空堀で囲んだ単郭。かつて権勢をふるった古河公方館の面影はありません。

最後に従った家臣たちが門前に住みつき、寺はその人たちによってささえられたといえます。

### 2-2 2-3 古河公方

③武田家と里見家は「結城合戦」で持氏の遺児3人を奉じて戦った旧臣です。  
自らの家運もかかります

2-8

「古河」に移った成氏は 館に隣接して強固な古河城を築きます。  
城は戦いのための表の顔、公方館も私邸として利用します...

2-9 古河城

古河城址の遠望。城址はスーパー堤防の河川敷に埋没しています

3-3 宝聚院

埼玉県久喜市栗橋町。JR 宇都宮線栗橋駅から車 10 分。

総門は美しい「鐘楼門」...

室町中期、初代古河公方成氏の弟「定尊」が開山、代々東国の宗教界を担当した  
「雪ノ下殿」が居住します

3-7 義明の上総入り

②武田氏は甲斐武田氏の流れで、成氏が関東公方上杉氏との対抗上、上総の迎え  
られたという深い関係にます

木更津の中奥・真里谷を本拠に 大多喜、久留里、佐貫地方を領有、  
しばしば原氏の小弓城を攻めたが、いつも討ち負けます...

③...成氏の孫で後継者を名乗る義明に白羽の矢をたてたのです...

3-8 義明のメリット

①上総は、先祖相伝の旧領で足利氏に心をよせる旧臣も多い...

持氏の後継者を主張する義明にとって、旗上げには願ってもない好適地です...

4-1

八幡の飯香岡八幡宮と別当寺・満徳寺には義明にかかわる伝承く残ります

4-3 みこし

「3の宮」の部材調査...、 屋根を逆さにして内側部材の年輪や同位元素分析な  
ど... 室町はじめ建造が立証された...

「若宮」 修理少なく当時の姿残る...4基とも「重文クラス」...

また本殿建物もみこし4基が入れる特別仕様... か判明...

足利家との関係がはっきりすれば さらなる指定も夢ではないことに...

#### 4-6 八幡御所跡推定図

郷土史家・落合忠一さんが作った御所跡図...

屋敷周囲を土塁、空堀で囲んでいます...

昭和56年に発掘調査が行われたが、遺跡は× 八幡御所はここではなかった...

#### 4-9 八幡御所資料

八幡御所が置かれたことを記した 江戸時代の資料...

①里見九代記 = 社家様には下総の関宿、並びに生実八幡に御殿を御所あらせられて御住居なり

②上総国誌 = 義明、持氏の季子なり、上総に居る、故に社家公と称(とな)える

③南総郡郷考 = 八幡御所、小弓義明居城などと記録されています...

#### 5-1、5-2 角川、小弓御所

②幕府に提出した公文書... 幕府も認めていた館跡があったということ...

残念ながら... 状況証拠はそろったが、決定的な証拠はない...

せいぜい半径100~200m以内。どこかのお宅や畑から当時の瓦でも出てきてくれればありがたい

#### 5-3 小弓御所

市原八幡高校、サッカーグラウンド前を千葉、古市場... まっすぐ2、3キロ直進した、正面の山。目印は千葉市の埋蔵文化財センター...

#### 6-8 勇機、人に超えければ

勇機... = 勇ましさは常人ではない... 関東公方 = 鎌倉将軍の昔をわが手で取り替えさん...との野望に燃えている...期待され、恐れられたことがわかります

①... 相続争いでその一方に味方することで、介入します。

同盟はいろいろ...大体は配下に加えること、保護する一方で兵役義務を負います

#### 6-9 北条氏所領

①着々と所領を拡大する北条氏

2代氏綱の時、武蔵、駿河に所領を展開...

房総3か国は義明の所領ですが、境界争いも深刻です

#### 7-1 国府台の合戦



関東動乱の文明3年、管領方拠点城として太田道灌が築城。築城70年後のことで現在も空堀や土塁などが現存しています...

#### 7-8 10月7日の動き

葛西城に一泊した北条軍＝青ラインを北上...、江戸川と中川分流の合流点「猿が又」から、松戸宿へ渡る...

一方赤ラインの義明軍も松戸へ、両軍は相模台城を中心に戦端が開きます...

#### 7-9

①...思い込んだら誰にもとめられません。周囲の制止を振り払って飛びだします。

#### 8-1 松戸村絵図

①江戸川...、松戸の渡し...、松戸宿... 水戸街道...

相模台城＝義明討ち死に地、松戸城＝徳川慶喜ゆかりの戸定邸

②松戸の渡し、絵図と同じ方向、正面が松戸宿、小高い丘が相模台

#### 8-3 矢切地名看板

村人たちは人足に駆り出され、田畑を荒らされ、家を焼かれます。

弓矢の戦いは、これきりにしてほしい、悲痛な叫び声が地名として残りました

#### 8-4

現在は松戸中央公園、東京聖徳大学、相模台小学校、千葉地検松戸支部など...

比高10mほどの高台、丘城。

#### 8-5

①かつての陸軍兵舎の跡地。入口は門番所址

②現代的な女子大の一面に相模台連帯碑とならんで伝義明塚がある。

ここが義明討ち死にの地とされるが史跡表示などはない

#### 8-6 義明の討ち死に

相次ぐ敗報に参謀・逸見山城守の一時退却のすすめも聞き入れず

自ら大太刀を振るって敵陣に踊り込み、三浦城代・横井神介の強弓に胸を射抜かれた

#### 8-7 本土寺過去帳

②下総相模台御合戦、大弓上意(おゆみ上様?)父子、基頼御三人始め、千余人の打ち死にと申すなり。

天文7年10月7日申酉ふた時の御一戦なり

### 8-8 義明の敗因

- ①...戦さ巧者の北条氏には通用しません
- ②...里見義あきは渡河中の攻撃を主張したのを拒否されて見限る

### 8-9 国府台合戦後の関東

- ①...無傷の里見義あきは武田氏所領だった上総南部の大多喜、久留里、佐貫を攻めて
- ②...北条流名門ののっとり。千葉氏は娘を結婚させて生まれた嫡子を母方に庇護して乗っ取る



9



9



### 泥沼の関東内乱

①つは「永享の乱」  
関東公方4代持氏は、部下である関東管領上杉憲実+幕府援軍に敗れて幽閉され、将軍義教の指示で、鎌倉永安寺を攻められて自害させられる

嫡子義久10才?も  
報国寺で自害

持氏の将軍義教  
「恨みの血書」

②結城合戦=持氏の遺児を奉じた結城、武田、里見らが決起したが敗れ、安王丸、春王丸は殺害、幼い成氏は助命される →→  
敗軍の武田氏と里見氏が、のち義明を上総に招請する

鎌倉から古河へ脱出

③享徳の乱=  
8代将軍に足利義政が就任、恩赦で成氏が関東公方に復帰するが、上杉家との因縁コンビ復活で、最悪事態へエスカレート、成氏は憲忠を謀殺して、鎌倉を脱出、古河公方となる

9



### 2代古河公方足利政氏

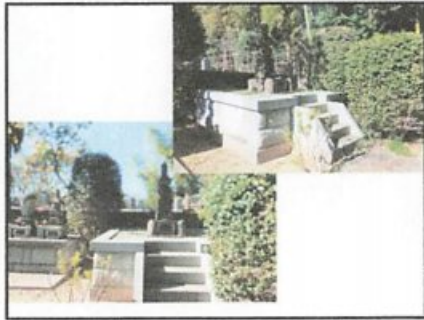
文正元年1466～享祿4年1531

①初代・成氏長男に誕生。このころ京都で「応仁の乱」、全国が「戦国時代」に →  
②関東争乱の火種になった管領山之内・扇ヶ谷上杉、公方3家和解を実現、旧勢力を結集したが昔日の勢いはなく、新興の北条氏に追い込まれてゆく  
③一方、長男高基は上杉家を嫌って北条氏に接近。父の古河城を攻めて追放し、自ら3代古河公方となる

9



9



小弓公方(八幡公方)足利義明

1487?~天文7年1538

①長享ころ?古河公方政氏2男に誕生  
寛政の没年57才の誤算、文明18年生まれ、兄より年上×  
6才ころ古河公方寺社担当・雪下殿となる

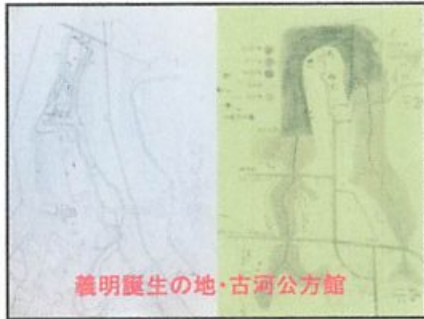
雪ノ下=鎌倉鶴岡八幡宮家徒25坊の地名  
雪下殿=鶴岡八幡宮別当職=関東10か国の寺社行政統括  
代々関東公方家子弟が世襲、  
鎌倉時代は八正院、古河時代  
は高柳の宝泉寺を居所とした

政氏のがく復活構想  
長男 高基=関東公方  
次男 義明=〃 補佐  
三男 晴直=管領家養子



②父の追放劇をまの当たりにした義明は、父後継者を主張して兄と対立

③永正9年、関東公方時代の旧臣・上総武田氏と安房里見氏の誘いを受けて上総に移る  
武田、里見家は結城合戦で持氏3遺児を奉じて戦って敗れた



義明誕生の地・古河公方館



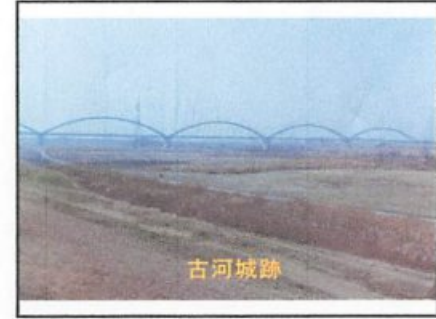
古河公方館跡



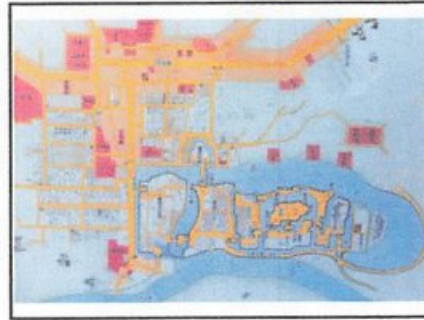
郷土博物館 公方館跡

古河城跡

遺跡は鎌倉時代から江戸時代まで



古河城跡



白河城の護長濱川村岸  
義明が居住した義興院跡

✓



### 義明の上総入り

①当時房総3か国は、「関東の戦国動乱」のまっただ中...

②市原の海岸部 八幡、五井、姉崎権津 は管領派の千葉一族生実原氏が領有、上総は公方派の上総武田、土気酒井、安房里見氏が対抗した →

③永正14年武田如鑑はついに小弓城を攻め落とし、「大義名分」のため、自らのリーダーに義明を迎える

✓

### 一方、義明にとってのメリット

①上総は足利氏の準本願地 (実質的な上総守護職)  
御料所が点在し、地頭や家の子郎党、ゆかりの社寺も多い →  
足利系滞在家臣=武田、村上、堀江、権津、二階堂、佐々木、多賀、安房里見

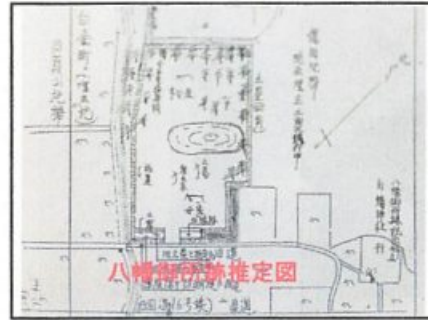
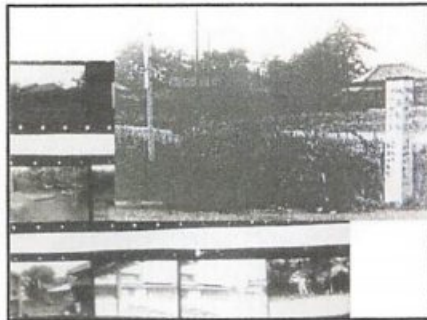
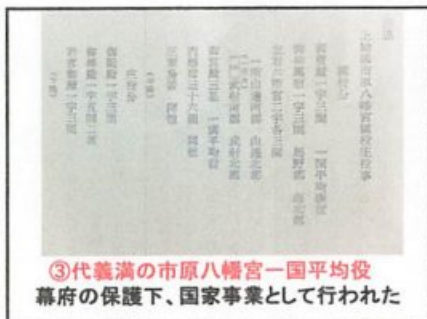
②市原(飯香岡)八幡宮は足利幕府から手厚い保護を受ける  
一國平均役としての市原八幡宮社殿造営  
義満の神輿4基の寄進、義政の本殿修復などの所伝多数

③持氏後継者として願ってもない話

✓

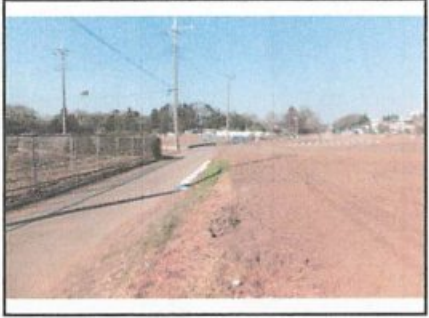
古室城  
高野御所

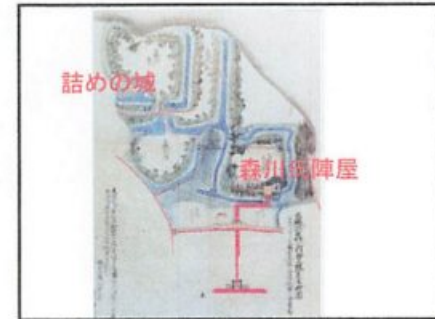
永正15年、義明は武田、里見氏の要請に応じて下総高野から上総に下った



①角川日本地名大辞典  
 五所＝地名は戦国期に足利義明(八幡公方、のち小弓公方)の御所(八幡御所)が置かれたことになむ  
 ②五所村差出明細帳(天保9年) → 古城跡除地(年貢免除地)、足利義明居城の由、申し伝えにござ候跡地特定できないが御所が置かれたことは確実といえる

義明、小弓御所となる  
 ①永正15年ころ、小弓城に入って小弓上様、小弓御所などと呼ばれた  
 ②小弓城は八幡宿駅から北東およそ4km、千葉市中央区南生実の比高10Mほどの高台に立地、現況は畑や空き地、民家などになっている  
 ③郭跡地形や空堀、櫓台などが現存している





「勇機、人に超えれば、  
関東八か国を従えん志あり」 →

①義明は里見、武田氏の内紛に介入し、  
また同盟関係を広めて、上総、下総、  
安房3か国を掌中に収める →

②一方関東制覇をめざす北条氏綱も  
勢力を広げ、房総へと触手を伸ばす

③高基死後、後継した晴氏が氏綱と同  
盟を結び、両者の対立は決定的に

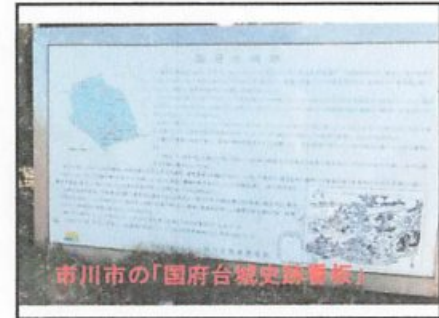




### 国府台の合戦

- ①天文7年9月、足利義明小弓城出陣、10月始め市川・国府台城に入る  
直臣団+応援の里見、武田、酒井などを加え、合計2千人?(1千、1万とも) →
- ②10月2日一方の北条氏綱小田原進発、6日江戸城出陣、葛西城に旗印あげる → 武蔵、相模、伊豆軍兵5千人
- ③7日北条軍、江戸川(大日川)を猿が又から松戸へ渡河
- ④義明、松戸へ進軍、合戦となる

8



0

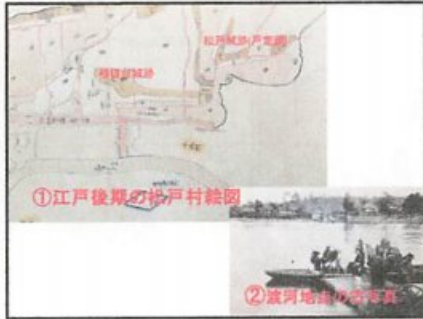


V

### 義明、敵陣に突撃して討ち死に

- ①午後2時ごろ、両軍は相模台で激突。緒戦は小弓軍が優勢、次第に数で勝る北条軍が押し勝つ、弟、嫡子の討ち死が伝わると、逆上した義明は単騎敵軍に突撃して、弓矢で射止められた →
- ②小弓方は敗走。戦死者140人1000とも 義明の首級は古河公方に送られた
- ③戦ったのは直臣団だけ。義理応援か、里見義あきは戦うことなく戦線を離脱

△



**義明軍の敗因**

- ①義明の思い上がり過信 将軍の血をひく私が負けるはずがない
- ②作戦拙劣=江戸川半渡攻撃進言を拒否、多勢に無勢を無視した平地決戦
- ③戦いなれた北条軍(弓矢重視)と一騎戦(槍刀)重視の義明軍
- ④里見軍などとの指揮不統一 里見軍は退路を確保、敗軍を見捨てて無傷のまま帰国

市原市史=向こう見ずの武人と多くの経験を積んだ武将との、しかも多勢に無勢の戦争。誰の目にも勝敗の帰趨は分かった

**「国府台合戦」後の関東**

- ①勝った北条氏は下総、上総に進攻、生実に旧領主の原氏が復帰する  
八幡・五井など市原北部は原領に戻る
- ②氏康は公方を利用するだけ。決起した晴氏、藤氏を幽閉、滅亡へ名門乗っ取り
- ③関東管領・上杉家を北へ追い込む  
北条氏の圧迫に耐え切れなくなった上杉憲政は越後の長尾家を頼り、家督と管領職を譲る。春日山城の上杉謙信と北条氏との宿命的対決が始まる



戦乱の歴史を伝える満徳寺の由来碑



改足利義明の墓

**義明以後の足利氏一族**  
 足利将軍家=15代義昭で滅亡  
 關東公方・足利家  
 4代晴氏=義明を滅ぼすが、利用されるだけ、拳兵するも負ける 北条氏に乗っ取られる  
 5代義氏=母方北条氏の庇護下、古河公方を名乗るが利用されるだけ。古河で没  
 6代氏姫=有名無実の女城主として居住  
**足利義明家**  
 頼純=里見氏の庇護下、安房石堂寺に居住



徳勝院、古河公方墓所



最後の古河公方・頼氏(右)と氏姫の墓

**秀吉の命で足利家が復活**  
 ①天正18年豊臣秀吉の「小田原征伐」で北条氏が滅亡  
 ②義明の孫・島子が秀吉の側室となり、名家没落を惜しんだ秀吉の命で、弟国朝と氏姫が結婚、足利(喜連川)家を復活させた  
 ③喜連川家=3500石の高家旗本、血筋から大名として扱われた。陣屋は東北本線氏家。城遺構はなく地形と模擬大手門が往時をしのばせる。明治元年、足利に復姓。3年鹿藩置県に先立って領地を返還した



**宮原御所**  
 ①足利晴直=古河公方政氏3男、義明の弟。上杉2家との和睦で山之内家にむこ入り、大永5年~の6年間、16代關東管領・顯広あきひろとなる  
 ②いったん古河に戻るが、義明を頼って市原郡宮原に移る。宮原御所は現在、御所山明照院として残る。土塁の保存状態がよく往時が偲ばれる。子孫は家康に見出され、高家旗本1100石で明治維新に続いた





● 公園  
公園は、市民の憩いの場として、また、自然環境の保全と向上を図るための重要な施設です。公園の整備には、市民の意見を十分に聴き取り、地域に合った公園づくりを進めています。

● 緑地  
緑地は、都市の環境を改善し、市民の健康増進に寄与しています。緑地の整備には、市民の意見を十分に聴き取り、地域に合った緑地づくりを進めています。

● 公園  
公園は、市民の憩いの場として、また、自然環境の保全と向上を図るための重要な施設です。公園の整備には、市民の意見を十分に聴き取り、地域に合った公園づくりを進めています。

● 緑地  
緑地は、都市の環境を改善し、市民の健康増進に寄与しています。緑地の整備には、市民の意見を十分に聴き取り、地域に合った緑地づくりを進めています。



照明をお願いします

# 寛永諸家系圖傳

## 第二



288.2  
Ka5Z

千葉県立中央図書館

千葉市中央区市郷町11-1 ☎222-0116



91-0289538-3

寛永諸家譜

清和源氏乙五冊之内  
義家流之内足利流

〔喜連川〕 喜連川 井宮原 蔭山

吉良 一色 岡山 荒川

今川 品川

藤田 瀬名 高林

寛永諸家系圖傳

清和源氏 乙二

義家流

足利流

喜連川 宮原 (清和源氏義家流足利流)

喜連川 宮原

清和天皇第六王子

●●● 貞純親王

(正統天皇五孫等末下同)

四品 中務卿 上総・常陸の太守 桃園親王  
と号す。

● 經基王

上総介 鎮守府將軍

天徳四年六月十五日、はじめて源の姓をたまふ。  
弓馬・武略に長ず。六孫王と号す。

● 満仲

正四位下 攝津守 鎮守府將軍 昇殿 歌人  
多田と号す。多田院を建立す。

● 頼信

254701

喜連川 宮原 (清和源氏義家流足利流)

從四位下 鎮守府將軍

永承三年九月、逝去。

賴義

從四位下 伊豫守 鎮守府將軍

永保元年、逝去。

義家

正四位下 陸奥守 鎮守府將軍

八幡太郎と号す。母ハ上野介平直方朝臣女。

義國

式部大夫 母ハ中宮亮有綱女。  
(藤原)

義康

足利新判官 昇殿

義兼

從五位下 上総介 足利三郎と号す。

母ハ熱田大官司季範女。  
(藤原)

鏡阿寺

義氏

法樂寺

泰氏

宮内少輔 平石寺

賴氏

治部太輔 智光寺

家時

伊豫守 報國寺

貞氏

讃岐守 淨妙寺

尊氏

從二位 大納言 征夷大將軍

延文三年四月二十九日、五十四歳にして薨す。

法名妙義。長壽寺と号す。

贈左大臣・從一位。

義詮

征夷大將軍 京都將軍家

基氏

左兵衛督 從三位

文和元年二月二十五日、元服。

貞治六年四月二十六日、逝去。

瑞泉寺殿玉岩所公と号す。

喜連川 宮原 (清和源氏義家流足利流)

氏滿

左馬頭 永安寺殿

應永五年霜月四日、四十二歳にして逝去。

滿兼

左兵衛佐

應永二十六年七月二十六日、三十三歳にて逝去。

勝光院殿泰岳道安と号す。

持氏

左兵衛佐 從三位

永享十一年二月十日、四十二歳のととき、永安寺  
におゐて自害。長春院殿陽山純公と号す。  
(藤原)

成氏

左馬頭 從四位下

喜連川 宮原(清和源氏義家流足利流)  
明應六年九月晦日、逝去。行年六十四。  
乾亨院久山昌公と号す。

政氏

左馬頭 從四位下  
享祿四年七月十八日、逝去。  
甘棠院吉山道長と号す。

高基

千光院

晴直

宮原 左馬頭 春敵院 管領たる時、慈廣と号す。後に上総の宮原に住す。

義明

八正院

義氏男子なきゆへに、氏女その家をつぐ。  
天正十八年、關白秀吉關東下向の時、其家のすたれんとする事をあはれひて、氏女をもつて國朝にめあはせて其家をつがしむ。國朝ハ八正院義明の孫にして、源家の同じながれなり。  
元和六年庚申五月六日、氏女逝去。德源院 茲峰晃公と号す。

國朝

左兵衛督 八正院の孫、頼純の子なり。氏女の夫となり、其家をつぐ。  
文祿二年、秀吉高麗を討たまふとき、國朝、秀吉にまみえんがため鐵西におもむくとて、藝州まてくだり、病にかゝりて卒。

頼氏

喜連川 宮原(清和源氏義家流足利流)

頼純

喜連川  
慶長六年五月四日、喜連川におゐて逝去。  
龍光院金山機公と号す。

晴氏

左兵衛督 從四位  
永祿三年五月二十七日、關宿嶋におゐて逝去。  
永仙院系山統公と号す。

義氏

古河 右兵衛佐 從四位  
天正十年十二月二十一日、古河の城におゐて逝去。香雲院長山善公と号す。

氏女

左馬頭  
兄國朝逝去により、其家をつがんがため、文祿三年、京都にて秀吉にまみえし時、秀吉又國朝か室氏女を頼氏が妻として、其家をつがしむ。  
慶長六年、東照大権現より御加増ありて、知行千石拜領す。  
寛永七年六月、逝去。

義親

河内守 頼氏より先に卒す。

尊信

右兵衛督  
父義親死去によりて、尊信祖父の跡をつぐ。是台徳院殿の命によりてなり。

喜連川 宮原 (清和源氏義家流足利流)

義勝

彈正 祥雲院

義照

宮原 勘五郎

天正十九年、大権現のおほせにより宮原を氏とし、上総國宮原に居住す。

慶長五年、眞田陣のとき、台徳院殿の供奉す。

同七年正月、死去。春光院と号す。

義久

勘五郎

兄義照か遺跡をたまへる。

大坂御陣のとき、台徳院殿の御供に列し、京まで發向し、大坂へおもむかずして二条の城の御番をつとむ。

寛永七年十二月、死去。龍寶院と号す。

晴克

右京進

母ハ武田勝頼がむすめ。天正十年六歳の時、甲州より駿州の田中にいたる。大権現のおほせによりて高力權左衛門にあづけられ、二十人扶持をたまへる。其後慶長七年、大権現の命にて義久が妻となる。

元和六年九月、晴克はじめて台徳院殿につかふ。

寛永八年、父が遺跡を拜領す。

喜連川家の紋 桐 幕 三幅白

宮原同前。

蔭山

尊氏

征夷大將軍

基氏

鎌倉殿 瑞泉寺と号す。

氏満

鎌倉殿 永安寺と号す。

満兼

鎌倉殿 勝光寺と号す。

持氏

永享十一年二月、永安寺にをひて自害す。

蔭山 (清和源氏義家流足利流)

持仲

上杉禪秀謀反の時、雪下にをひて自害す。

長春院と号す。

満直

稻村と号す。

持氏同時に自害す。

満隆

新御堂

持仲同時に自害す。

満貞

篠河と号す。

僧満秀



講師  
飯香岡八幡宮宮司  
平澤 牧人氏

# 八幡史学館 2回目 7/13

来年度7月の平澤氏の講座  
は、「夏越えの大祓」  
飯香岡八幡宮見学実施予定



「グーグルアース」を使って  
八幡の街を歴史散歩



八幡宿駅東口を出発！

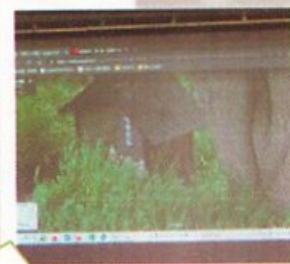
柳楯神事にも触れて説明がありました



「八幡は、  
石塚と御蔭の二つの町からできました。  
石塚は、「石握」「伊静」の二通りの表し方がありました。」  
歴史を紐解く講師の説明に聞き入る参加者



「こんなところに庚申塚！  
見落としてしまいそうな道の片隅に  
ひっそりと残る庚申塚」  
ストリートビューならではの映像



八幡のリモート散歩

八幡公民館 主催事業

「八幡史学館」2回目

令和3年7月13日

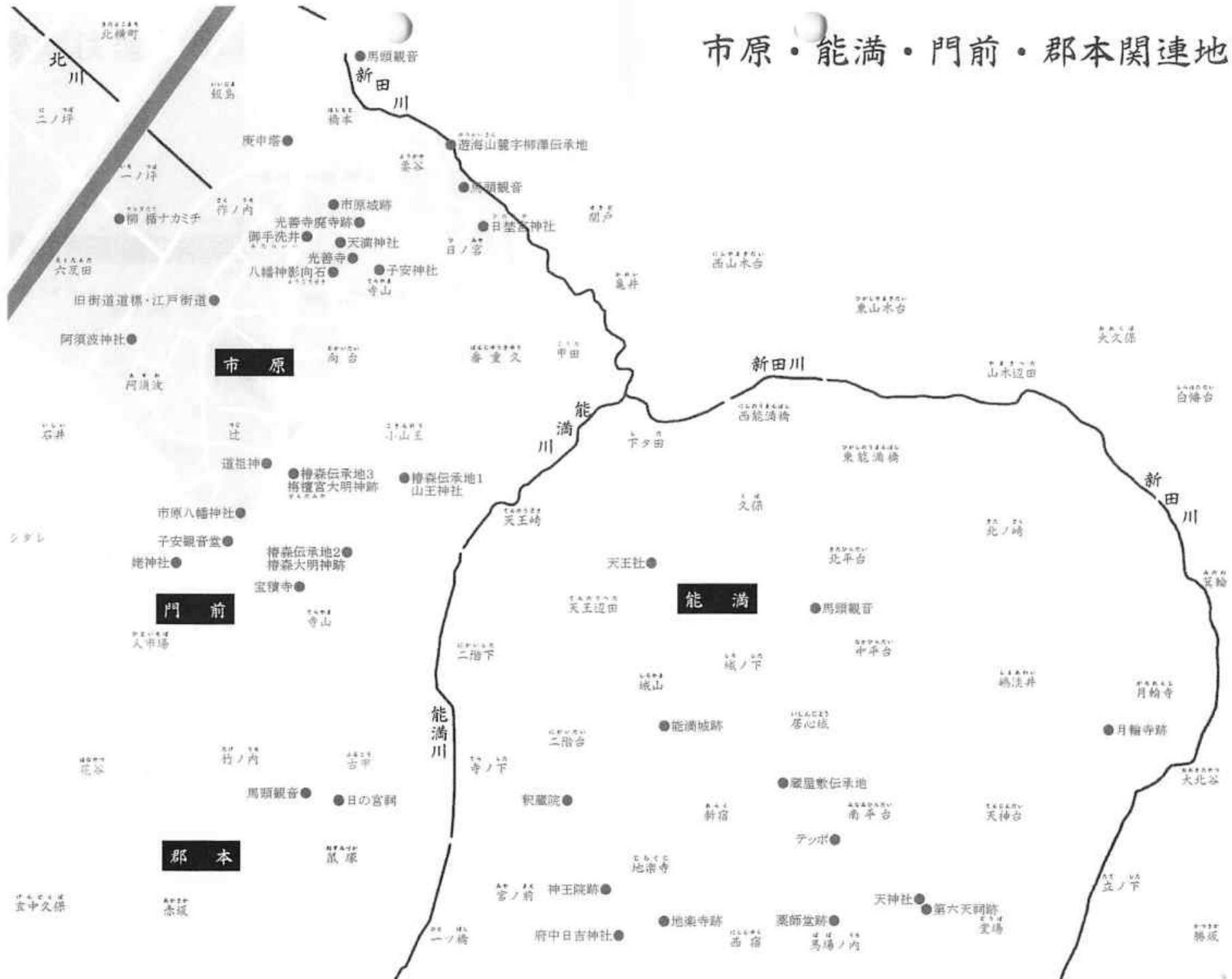
# 「八幡のリモート散歩」

講師

飯香岡八幡宮宮司

平澤 牧人 氏

# 市原・能満・門前・郡本関連地図



# 房総往還 八幡・五所散策地図 巻



村田川

●手永の浜伝承地

ごじゆうや  
五十谷

●卵塔場

八幡北町

●八幡八景  
池尻の月

●旧村田川跡(国境)

なかかわばた  
中川端

社・浅間神社

●胴埋塚

神明神社跡

●庚申塔

●村田川渡船場跡

きたやばた  
北谷端

きたしんでん  
北新田

司情園跡

馬頭観音・庚申塔

神社跡

おおかんだ  
大金台

ごほんまつ  
五本松

●旧東金道

なかかわばた  
上川端

おおかんだ  
大金台

八幡石塚

●八幡八景  
石塚春雨

●庚申神社  
伊静遺跡跡

なかかわばた  
上川端

おおかんだ  
大金台

いしづか  
石塚

村田川

●庚申塔

●八幡神社

おちばら  
落原

ききめ  
笹目

土  
景  
管

# 房総往還 八幡・五所散策地図 貳







市原

市原門前

市原郡本

馬頭観音  
新田川

遊海山麓字柳澤伝承地

馬頭観音

日笠宮神社

市原城跡

光善寺廃寺跡

天満神社

光善寺

子安神社

御手洗井

八幡神影向石

寺山

旧街道道標・江戸街道

阿須波神社

阿須波

市原

向台

番重久

甲田

石井

道祖神

椿森伝承地3  
梅檀宮大明神跡

椿森伝承地1  
山王神社

市原八幡神社

子安観音堂

姥神社

椿森伝承地2  
椿森大明神跡

宝積寺

寺山

シダレ

天王崎

天王

天王辺田

市原市場

市原市場

馬頭観音

日の宮祠

積蔵院

花谷

竹ノ内

古甲

能満川

二階下

二階台

寺ノ下

玄中久保

赤坂

鼠塚

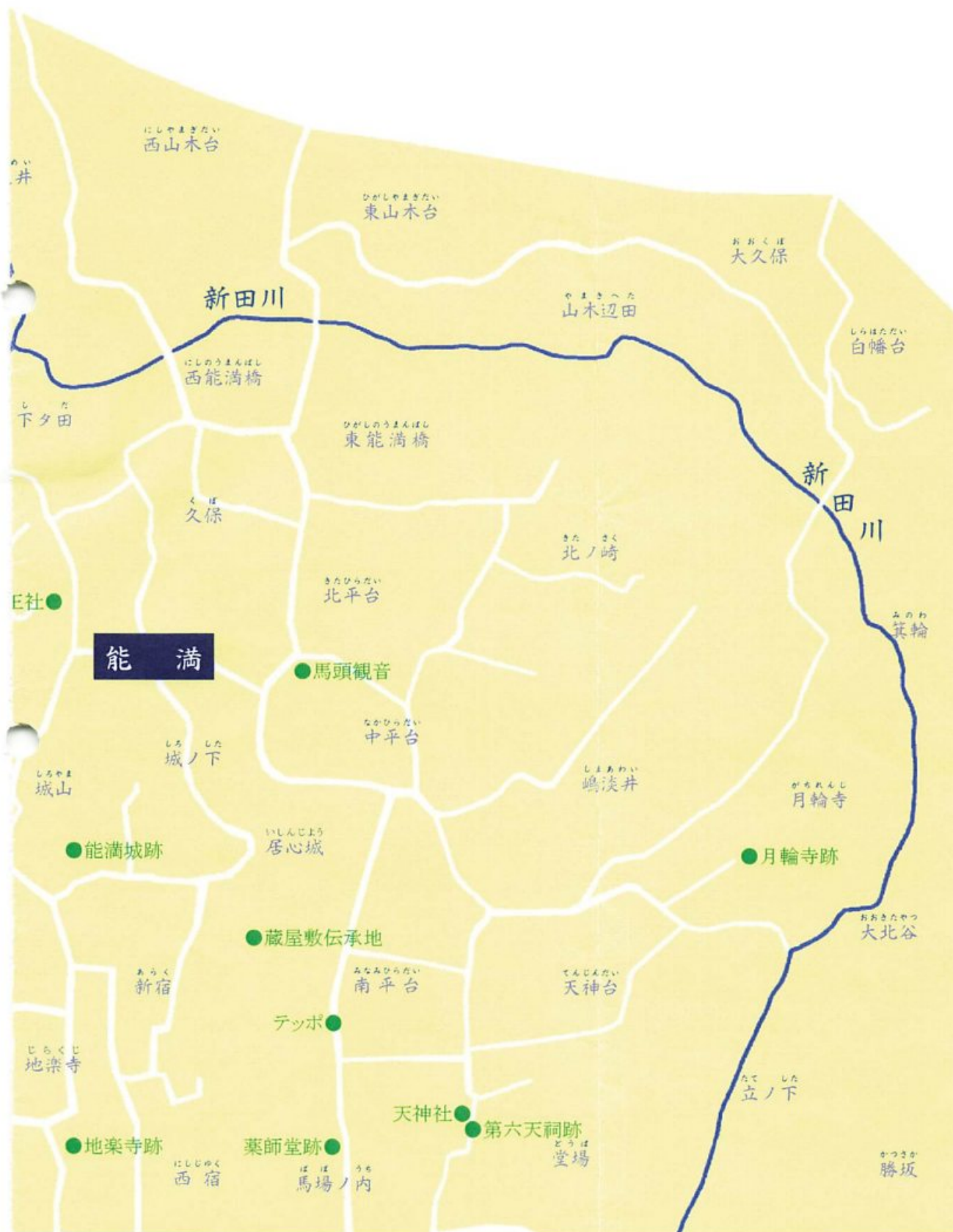
神王院跡

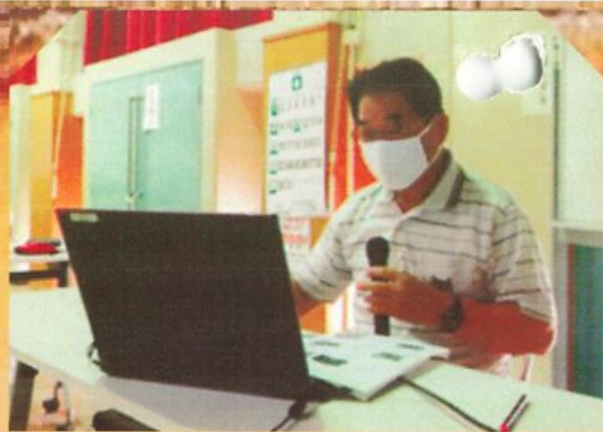
府中日吉神社

一ツ橋



# 市原・能満・門前・郡本関連地図





講師 時田光夫 氏

# 八幡史学館

3回目 8月10日(火)

昨年の続きを懐かしい写真資料をもとに説明してもらいました

講師の説明を熱心に聞く参加者の皆さん



八幡海岸の海苔干し風景  
(昭和35年)



八幡宿駅 (昭和35年)

貴重な昭和の写真資料



新型コロナウイルス感染症防止のため会場を講堂に変更して実施しました

来年度はパート3

乞うご期待!

## 「昔の八幡の思い出」パート2

心に残る思い出が今よみがえる。写真が語る八幡の昭和!



八幡海岸海の家「魚惣」  
(昭和30年)



工場地帯の見学「駐日アメリカ大使ライシャワー夫妻」  
(昭和38年)

令和3年度 八幡公民館 主催事業

# 「八幡史学館」③

## 昔の八幡の思い出

### パート2

— 心に残る思い出が今よみがえる。 —

写真が語る八幡の昭和！ —

8月10日(火) 講堂

午前9時30分から11時30分

講師

市原地区社会福祉協議会顧問

八幡公民館運営委員会副会長

# 時田光夫

# 講座目次と予定

## ○ふるさとの暮らしと祭り

### 1. 昭和のはじまり

～特色ある地域から～      ～ふるさとの原風景～

### 2. 銃後を守る

～贅沢ハ敵ダ～      ～戦前・戦中の教育～

### 3. 思い出の街並み

～開発と都市景観の変化～      ～若潮国体～

**※ここまで昨年度実施。4 から、今年度実施。**

### 4. 変貌する風景

～50年の歩み～      ～土に生きる～

### 5. 交通の変遷      ～市内交通と暮らし～

### ○. 臨海工業地帯

～埋め立てと開発～      ～漁業とにぎわう浜辺～

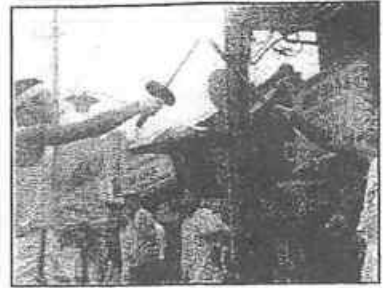
### 7. 暮らしのなかで      ～地域社会の変化～

### 8. 暮らしと伝統行事

～未来への継承～      ～七五三～

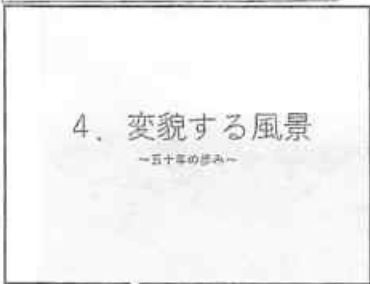
### 9. なつかしの学び舎

～戦後教育の改革と子どもたち～      ～戦後の子どもたち～



令和2年度  
実施済み

令和3年度  
ここから



4. 変貌する風景  
~五十坪の歩み~



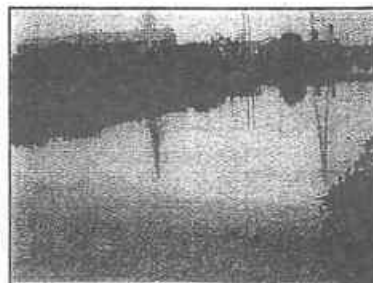
中央交差点 (S.43)



市川本店2階屋根上から  
五井方面を望む (S.30)



埋め立て後の海岸から八幡運河を望む (S.50)



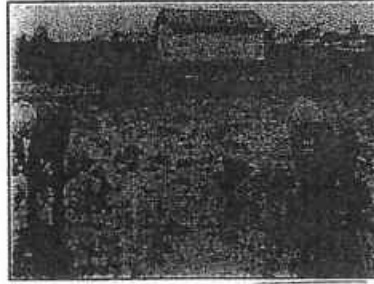
現市原看護専門学校裏から八幡運河を望む (S.36)



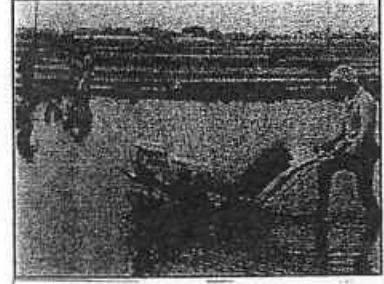
ベシヤ八幡店前信号から北町側を望む (S.40)

## 4. 変貌する風景

～土にまきら～



海保農協倉庫前の田植え風景 (S.30)



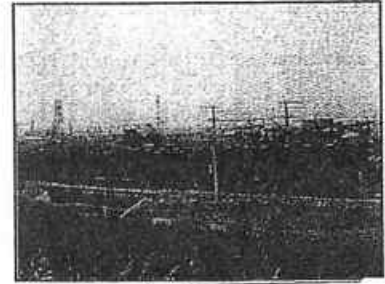
2条式田植え機での田植え (S.51)



五井地区での脱穀風景 (S.50)

## 5. 交通の変遷

～新時代を暮らし～



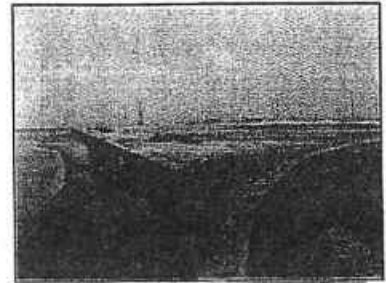
電化初日の通勤型電車 (S.43)



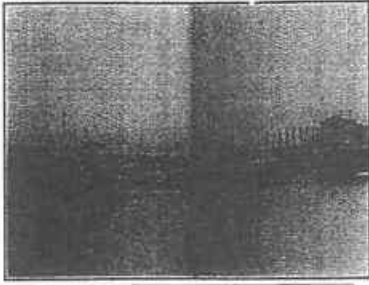
電化前の八幡宿駅前 (S.35)

## 6. 臨海工業地帯

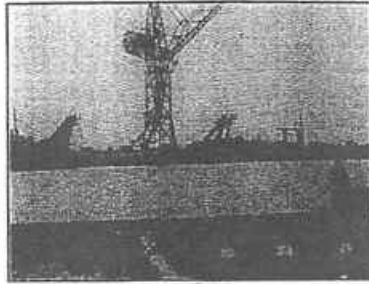
～港を以て発展～



五井海岸地区埋め立て造成地 (S.35)



海岸埋め立て中の八幡海岸 (S.35)



昭和電工側から三井造船側を望む (S.37)



工場プラントの建設が進む八幡ふ頭 (S.36)



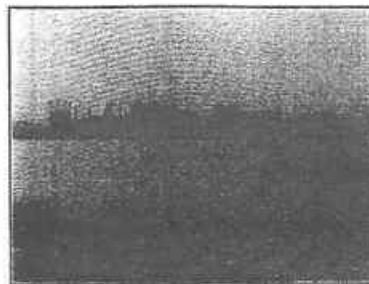
市原橋から市原ふ頭を望む (S.36)



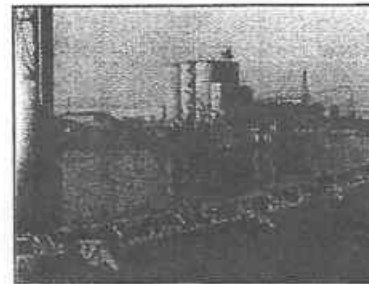
旧道バス通りから辰巳台方面を望む (S.36)



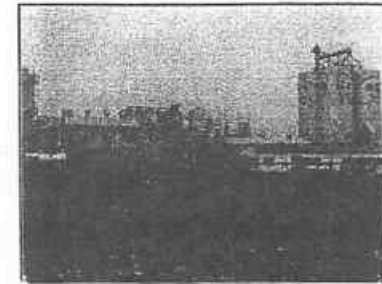
市原ふ頭から山側を望む (S.36)



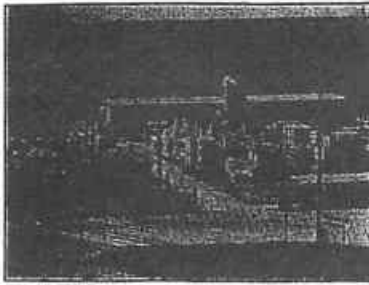
八幡海岸から五井海岸埋め立て地を望む (S.35)



日東エフシー千葉配合工場 (S.43)



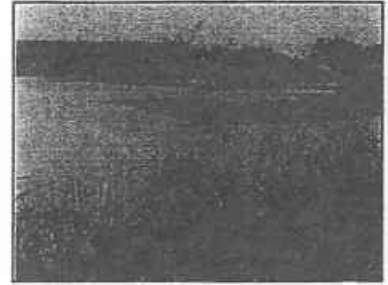
京葉臨海鉄道と日本油糧工場 (S.43)



日本イトン工業→(株)ク  
リオン (S.42)



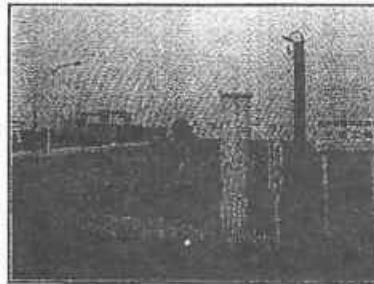
駐日アメリカ大使ライシ  
ャワー夫妻 (S.38)



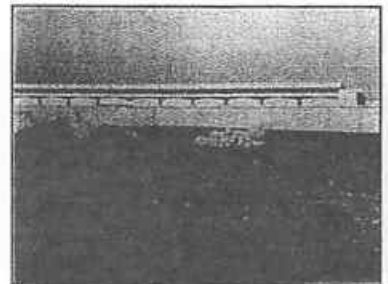
貯水池越しに八幡北町大  
三商工を望む (S.40)



竣工式を迎えた富士電機  
工場 (S.36)



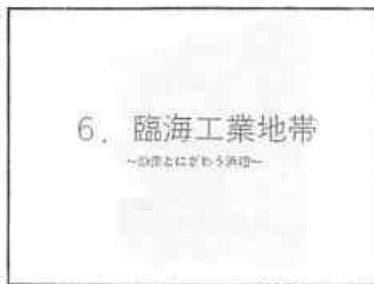
三井造船千葉工場正門前  
(S.38)



竣工式を迎えた古川電工  
工場 (S.36)



八幡水門を海側から望む  
(S.45)



6. 臨海工業地帯

～お楽しみはあつち～

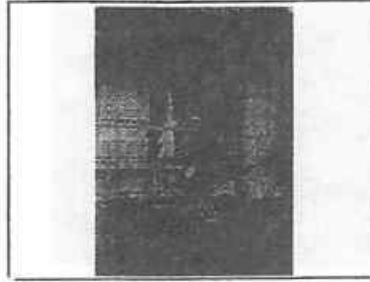


埋め立て直前の八幡南町  
港 (S.32)





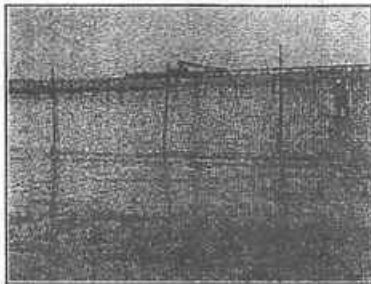
八幡海岸の濤 (S.30)



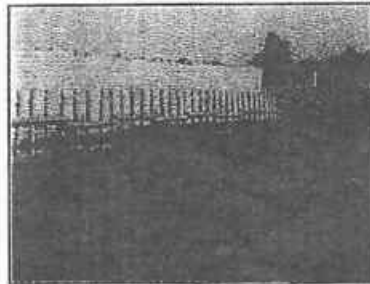
海苔採りに出かける五所地区の男性 (S.30)



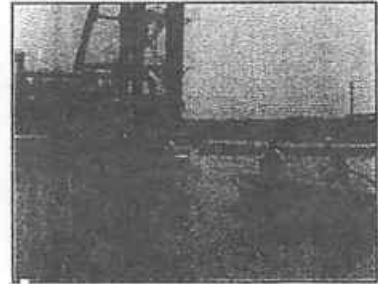
五所金杉川の河口風景 (S.32)



八幡海岸の海苔養殖場 (S.30)



埋め立てが始まった五所金杉海岸 (S.33)



五所海岸、現大日本インキあたりから五所 (S.32)



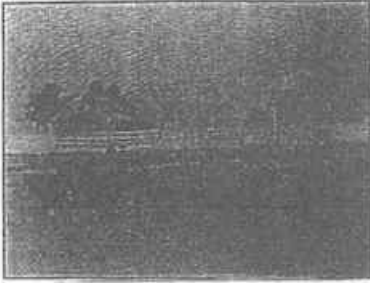
八幡南町の濤 (S.35)



埋め立て地に海砂を送り込んだ送泥管 (S.34)



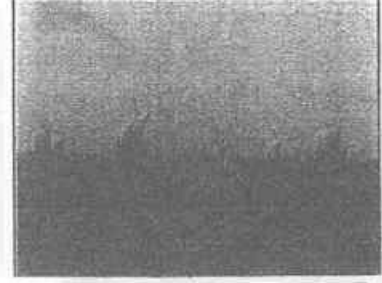
八幡海岸の海苔干し風景 (S.35)



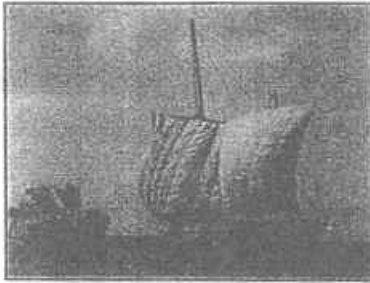
大雨で冠水した八幡中学校グラウンド (S.30)



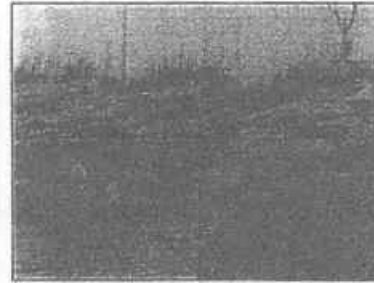
出洲海岸での海苔洗い (S.20)



五井海岸の打瀬船 (S.20)



五井海岸に停泊する打瀬船 (S.20)



船溜まり (S.20)



カニ網を修繕する男性 (S.21)



姉崎海岸、海苔網を引き揚げてきた男性 (S.30)



八幡海岸 海の家 魚惣本店 (S.30)



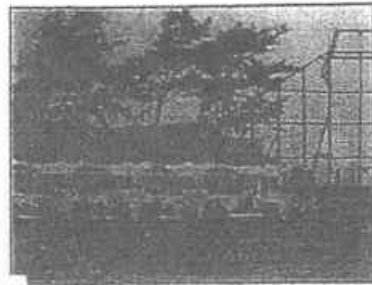
海の家 魚惣本店の内部 (S.30)



県下素人浪曲、のど自慢大会 (S.20) 魚惣本店



アサリ獲りへ向かう八幡の女性たち (S.30)



潮干狩りシーズン (S.30)



潮満ちて引き上げる子ども達 (S.30)



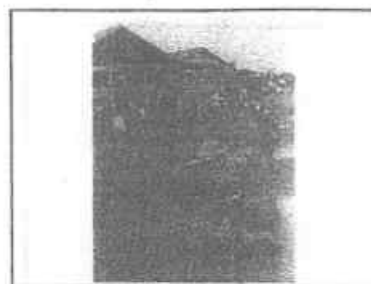
看護学校から八幡海水浴場を望む (S.30)



干潮時の海側から飯香岡八幡宮二の鳥居 (S.30)



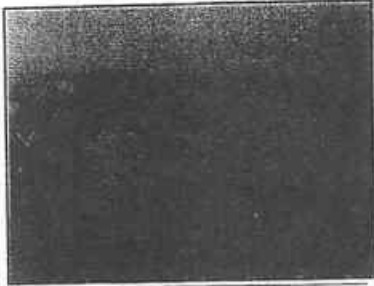
記念写真を撮る子ども達 (S.30)



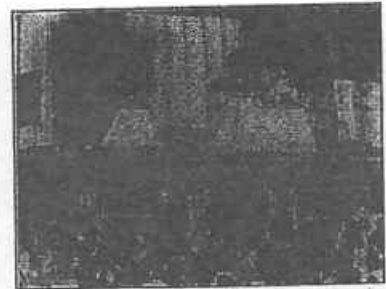
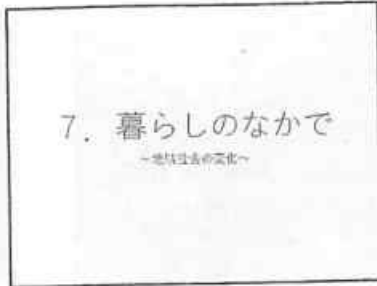
アサリ獲りの女性 (S.30)



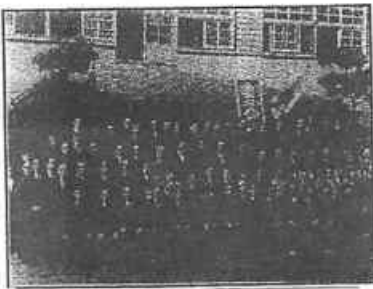
アサリを売る女性 (S.30)



麓立て風景  
(S.30)



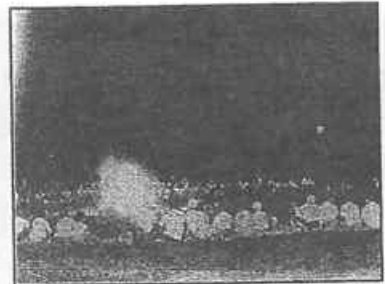
八幡公民館での浪曲大会  
吾妻おとめ (S.26)



八幡公民館での成人式  
(S.27)



修武会剣道講習会  
(S.28)



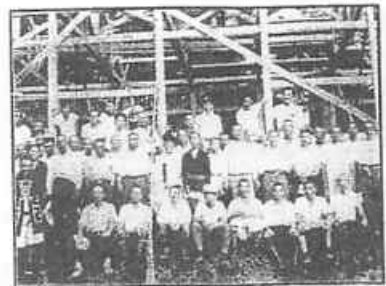
ボーイスカウトガールスカウト市原郡大会 (S.28)



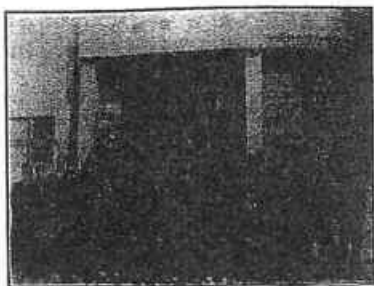
八幡中学校グラウンド整備 (S.20)



八幡公民館仮装大会  
(S.20)



中学校校舎上棟式  
(S.23)



八幡警察署  
(S.40)



忠霊塔建立の落慶式  
(S.30)



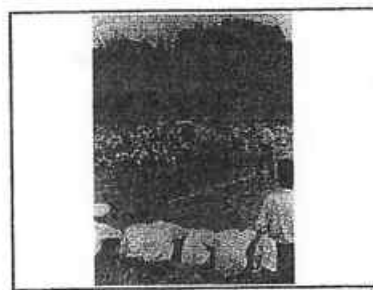
市川本店前での職人  
(S.32)



森永ロボット象トッフィー君 (S.32)



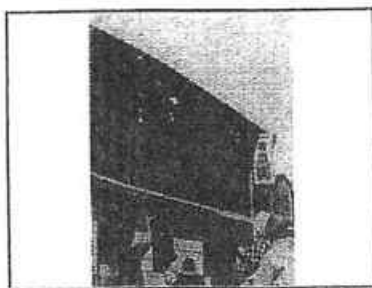
正月の凧揚げ風景  
(S.30)



八幡中学校での野球大会  
での応援風景 (S.30)



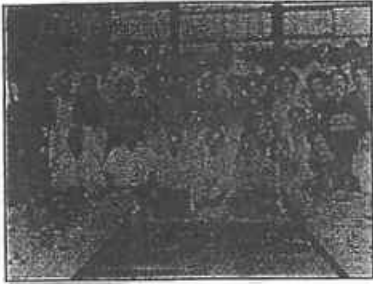
野球大会の応援を終えて  
(S.30)



八幡料亭の餅まき  
(S.35)



八幡公民館での結婚式  
(S.20)



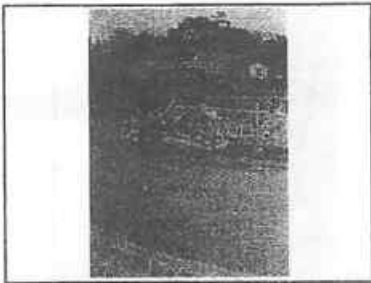
市内料亭での八幡中学校  
同窓会 (S.45)



学校対抗女子ソフトボ  
ール大会 (S.30)



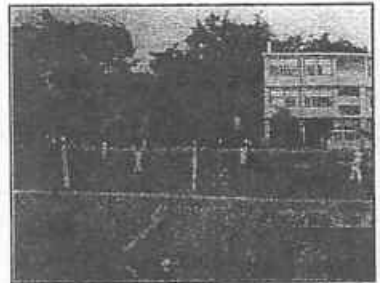
飯香岡八幡宮での結婚式  
(S.20)



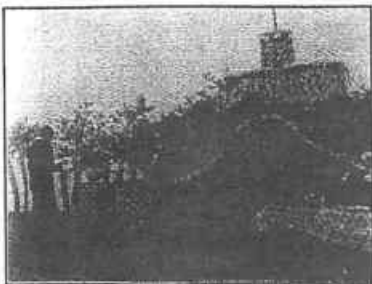
八幡海岸の埋め立て工事  
① (S.35)



八幡海岸の埋め立て工事  
② (S.37)



埋め立て地側から八幡中  
学校を望む (S.37)



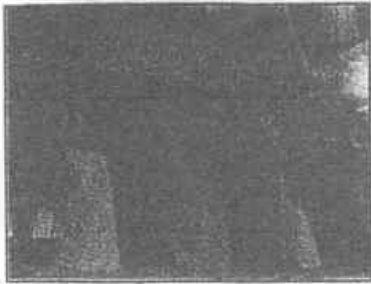
市原市市制施行一周年  
(S.39)



区画整理事業説明会  
(S.39)



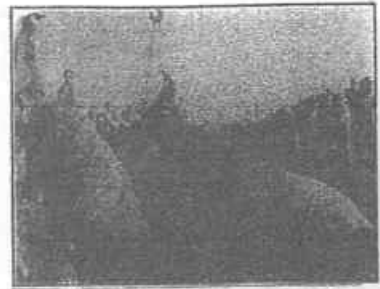
飯香岡八幡宮境内舞台の  
ミス千葉港 (S.30)



港まつり演芸大会  
(S.40)



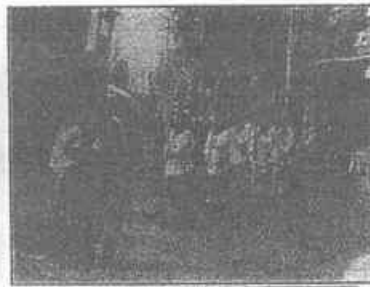
小湊タクシー五所営業所  
前 (S.44)



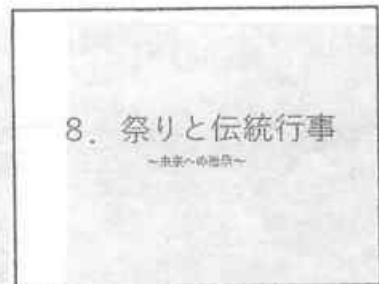
シャチが迷い込んだ五所  
海岸 (S.45)



修復する山口達画伯  
(S.47)

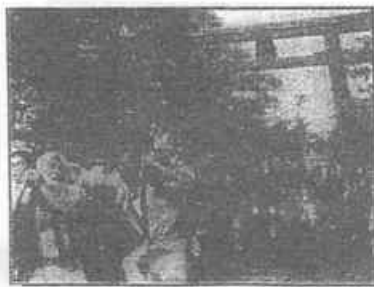


交通安全パレード  
(S.52)



## 8. 祭りと伝統行事

～表紙への続き～



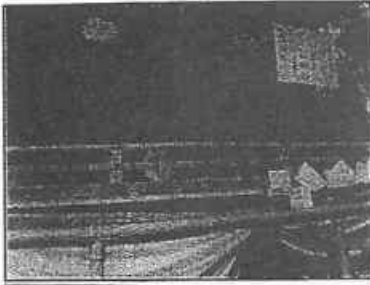
飯香岡八幡宮の祭り  
(S.41)



飯香岡八幡宮秋季大祭①  
(S.49)



飯香岡八幡宮秋季大祭②  
(S.48)



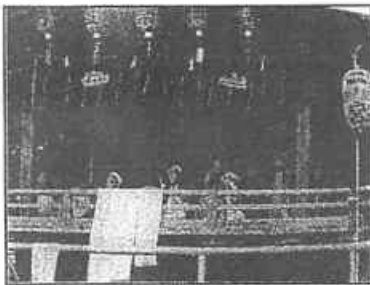
飯香岡八幡宮春季大祭①  
(S.44)



飯香岡八幡宮春季大祭②  
(S.44)



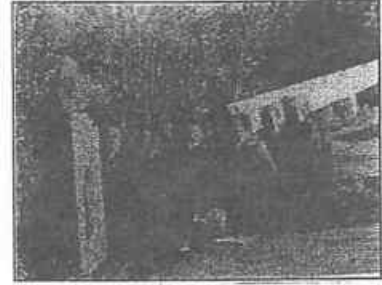
飯香岡八幡宮秋季大祭③  
(S.49)



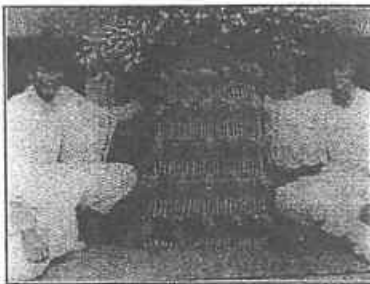
飯香岡八幡宮秋季大祭④  
二の宮 (S.49)



浜本町の山車  
(S.45)



五所金杉の庚申塔前  
(S.55)



柳桶の調整を終えた司家  
(S.43)



五所司家を出発する柳桶  
(S.43)



八幡神社御神木「六角杉」  
伐採 (S.39)

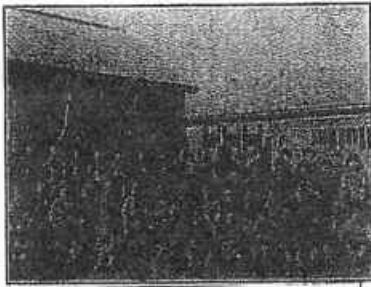


8. 祭りと伝統行事  
—七五三—



八幡公民館での合同七五三 (S.27)

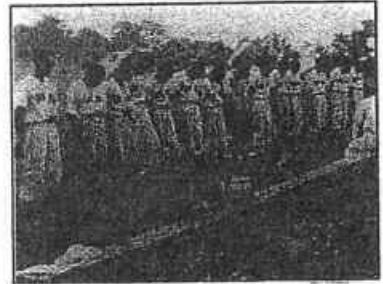
9. なつかしの学び舎  
—戦後復興の戦前と子どもたち—



八幡小学校2,3年生記念写真 (S.23)



八幡小学校運動会① (S.20)

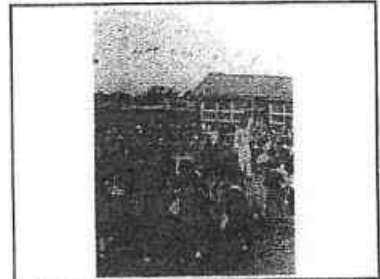


八幡中学校野球部ミーティング風景 (S.35)

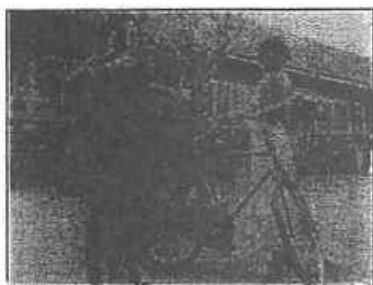


八幡中学校応援団 (S.35)

9. なつかしの学び舎  
—戦後の子どもたち—



八幡小学校運動会② (S.30)



八幡小学校ソフトボール部 (S.30)



海遊び風景 (S.30)



放課後の八幡中学校グラウンド風景 (S.30)



干潮時の八幡海岸水門付近での水遊び (S.29)



潮干狩り場に立つ飯香岡八幡宮二の鳥居 (S.30)



干潮時の八幡海岸 (S.32)



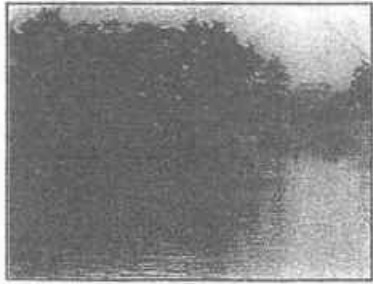
埋め立て前の八幡南町風景 (S.32)



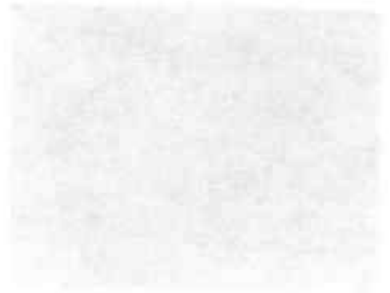
五所金杉川 (S.30)



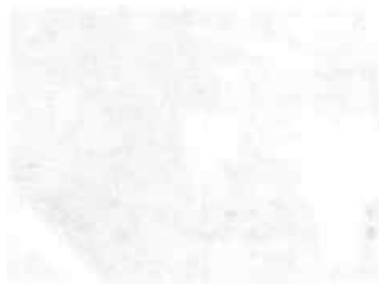
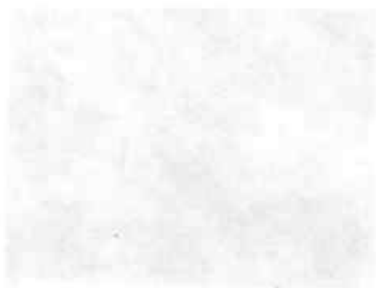
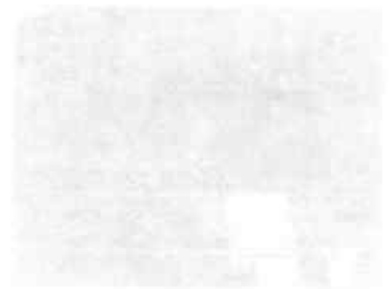
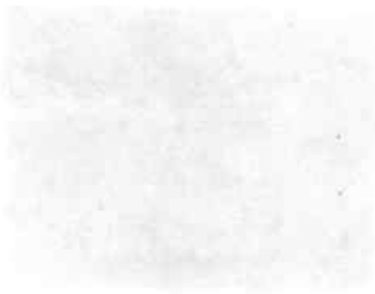
農家の庭先 (S.36)



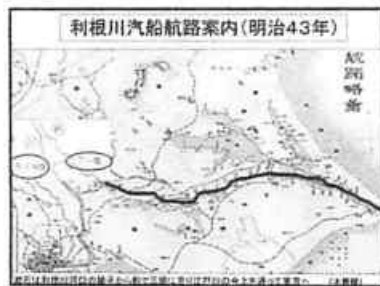
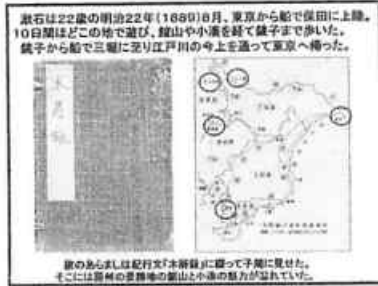
ご清聴ありがとうございました。



旧縦溝跡



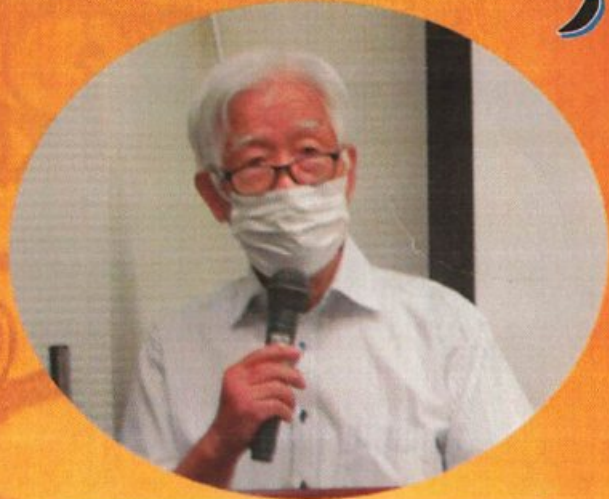






# 八幡史学館⑤

10/12



講師 山岸弘明氏

今年度最終回



テーマ

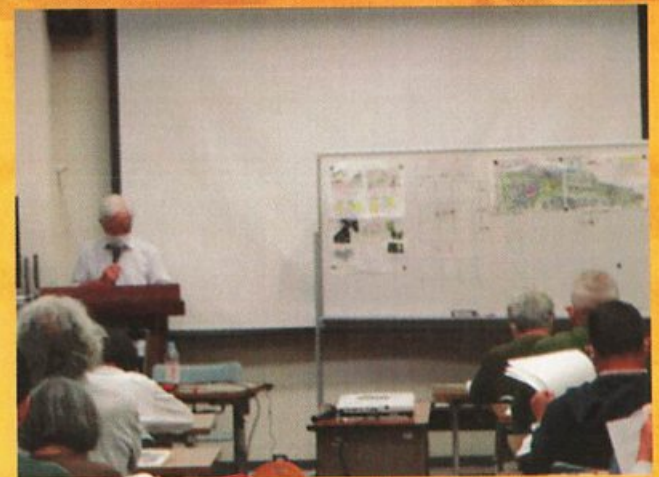
「江戸城」と  
花の「大江戸八百八町」  
～江戸 100 万、ロンドン 70 万、パリ  
50 万、ウーン 25 万  
西洋をこえた世界最大都市～



前半「江戸と八幡のかかわり」を説明



中盤  
「江戸城」  
について映  
像で説明



後半「江戸の町割り」をホワイトボードで説明

# 「江戸城」と花の「大江戸八百八町」

江戸 100万、ロンドン 70万、パリ 50万、ウィーン 25万

～西欧こえた世界最大都市～

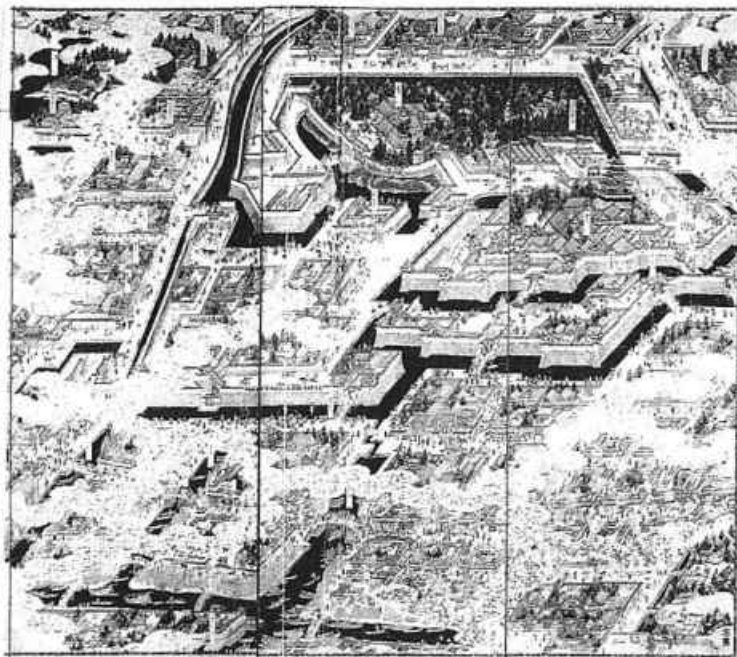
令和3年10月12日

山岸弘明



富士山	増上寺	江島	山王	浅上	北の丸
河口	徳川幕府	徳川幕府	徳川幕府	徳川幕府	徳川幕府
江戸城					

左側6冊 5冊 4冊 3冊 2冊 1冊



徳川幕府	寛永寺	板橋
	不忍池	浅草
		川崎

右側6冊 5冊 4～1冊

図-1 江戸図屏風

## 江戸城を彩った人たち

**太田道灌**(1432～86)=関東動乱期の関東管領一族、扇ヶ谷上杉家執事(家老)。江戸城を築いて古河公方と対決、戦さ上手で連戦連勝したが謀られた主人の上杉定正に暗殺された。

**徳川家康**(1542～1616)=岡崎城主松平広忠長男。天正18年豊臣秀吉の天下統一に協力して江戸240万石入府、関ヶ原の合戦の勝利で反対勢力を一掃して、慶長8年江戸幕府を開く。10年世襲のため引退、元和元年豊臣家を滅亡、後顧の憂いを払った翌2年没。東照大権現の神名を授かる。

**徳川秀忠**(1579～1632)=家康3男、長男信康悲劇の自害の後、次兄秀康を差置いて後継者となる。慶長10年2代将軍就任、天下平定後の家康政治を継承して江戸城と城下建設を進めた。元和9年家光に将軍職を譲って、大御所として後見した。

**徳川家光**(1604～51)=秀忠の次男、法度、参勤交代の制などを定め、領国を布き、諸侯を威圧して徳川幕府興隆の基礎を確立した。寛永12年外堀総構え工事で江戸城を完成させた。

**徳川綱吉**(1680～1709)=家光の4男、江戸最盛期の将軍。学問を好んで聖堂を建立、極端な「生類憐みの令」を出して「犬公方」とも呼ばれた。後期に赤穂浪士の吉良邸討入り事件が起こった。

**徳川慶喜**(1837～1913)=徳川幕府最後の将軍。水戸斉昭7男から一ツ橋家を相続、13代将軍の継嗣騒動は敗れたが、慶応2年家茂没後15代将軍に就任。翌3年大政を奉還、4年「鳥羽伏見の戦い」に敗れて寛永寺に謹慎する。明治元年養子・田安家達の静岡70万石移封に従い、明治35年宗家を分家して公爵となった。

**明治天皇**(1852～1912)=15歳で第122代天皇即位。慶応3年「王政復古」の大号令、明治元年「五か条の誓文」、江戸を東京と改めて都を遷す。その治世下に「憲法発布」「議会招集」「教育勅語発布」などの新制を定め、「中央集権国家」を確立した。また日清、日露戦争などの勝利で「軍事大国」への道を進んだ。昭和天皇はその孫、平成・今上天皇は後胤。日本国の象徴として旧江戸城西の丸の皇居にお住まいされている。



太田道灌 徳川家康 徳川秀忠 徳川家光 徳川慶喜 明治天皇

おことわり=この講座は昨年度第5回講座として計画、コロナウイルス拡散にともなって今年に繰り下げ、また、自主企画として「江戸城と外堀現地見学会」を、今年度は「足利義明ゆかりの小弓城現地見学会」を計画しましたが、実現できませんでした。

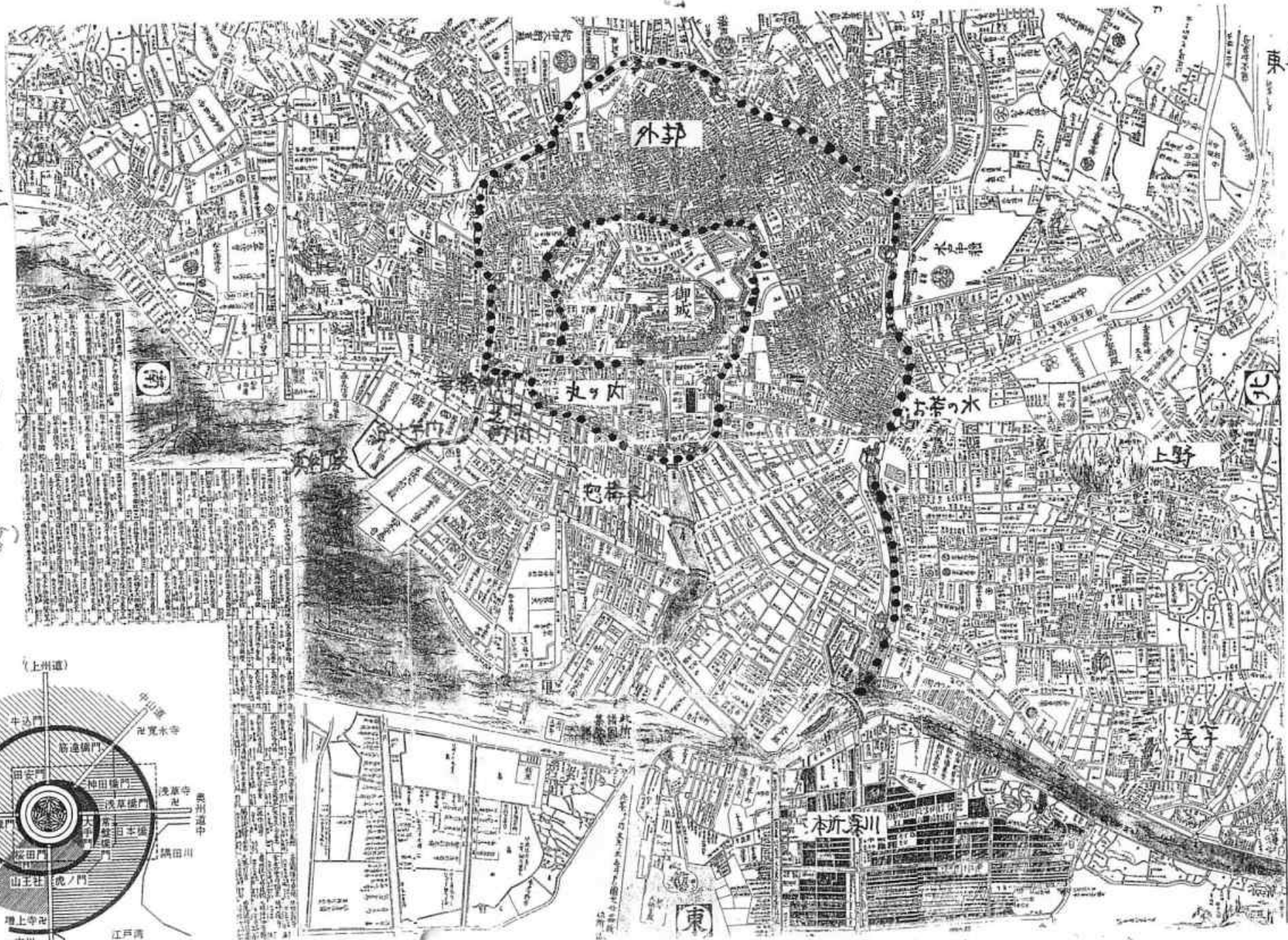
### \*令和4年度「八幡史学館」計画

- 第1回 6月14日(火曜日)=①飯香岡八幡宮<菅田家系図>を読む～新発見文書から  
②よみがえる戦前八幡町～市川得三撮影16ミリ映像を編集  
山岸弘明(八幡史学館グループ代表)
- 第2回 7月8日(金曜日)=飯香岡八幡宮と八幡 平澤牧人(飯香岡八幡宮神官)
- 第3回 8月2日(火曜日)=昔の八幡の思い出 パート3  
時田光男(八幡公民館運営委員会副会長)
- 第4回 9月14日(水曜日)=更級日記からみた千年前の八幡 小関勇次(清和大学特任教授)
- 第5回 10月11日(火曜日)=市原の出羽三山信仰 立野 晃(前鎌ヶ谷市立郷土資料館長)



図一2 元禄2年(1689)江戸図鑑綱目

(東海道) 白虎の神宿る道 北は 90度 東海路計回りにふらふら

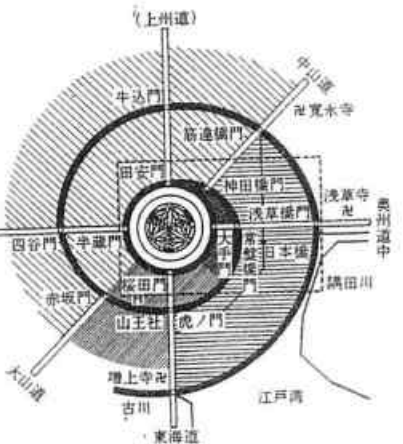


東海道

東北道

すく 朱の 神宿る道 (江戸湾)

玄武の 神宿る山 90度 (富士山)



青龍の神宿る 90度 (平川, 利根川)

「四神相応」から「の」の字に広げる

## 江戸城関係年表

- 保元ころ 1156~ 江戸重継、現在皇居東御苑に居館を構える  
治承 4 年 1180 重継の子・江戸重長、源頼朝の挙兵に際し、始め平氏に参陣したが、のち頼朝の旗下に入り、武蔵国総検校職を与えられる
- 延元 23 年 1366 江戸氏、平一揆に加担して敗れる。江戸城を廃して多摩郡に移り、喜多見氏と改姓  
長祿元年 1457 関東動乱おこり、太田道灌、江戸城を築く  
応仁元年 1467 (応仁の乱、戦国時代始まる)  
文明 9 年 1477 豊嶋泰経の江戸城攻めに対抗して、道灌、豊嶋氏の諸城を落とし入れる  
" 18 年 1486 道灌、主君の上杉定正に暗殺される。江戸城は上杉氏に帰属する  
永正 2 年 1505 上杉朝良、山内上杉氏に敗れ、江戸城に隠退  
大永 4 年 1524 北条氏綱、江戸城を攻め落とす  
永祿 11 年 1568 (織田信長、足利義昭を奉じて京に入る)  
天正 10 年 1582 (本能寺の変。信長自害)  
" 11 年 1583 (信長の後継者・豊臣秀吉、大坂城を築く)  
" 14 年 1563 (徳川家康、秀吉に臣従する)  
" 18 年 1590 秀吉の小田原征伐で、家康ら江戸城を攻略。家康、関東移封、江戸に入る  
文祿元年 1592 家康、西の丸拡張工事  
" 2 年 1593 本丸、二の丸、三の丸、吹上の原形工事に着手  
慶長 3 年 1598 増上寺を移し、徳川家菩提寺とする  
" 5 年 1600 家康、関ヶ原の合戦に勝利、天下人となる  
" 6 年 1601 江戸城下の屋根を茅葺きから板葺きとする布達を出す  
" 8 年 1603 家康、征夷大將軍に任じられ、江戸幕府開く、神田山を取り崩し市街地を造成  
外様大名に江戸の邸地与える  
" 9 年 1604 江戸城拡張工事のため、西国 24 家に石材、木材の運搬を命じる  
" 10 年 1605 (家康、將軍職を秀忠に譲り、なお大御所として実権を握る。駿府・江戸 2 元政治)  
" 11 年 1606 藤堂高虎、江戸城総縄張り、本丸完成、秀忠入る  
" 12 年 1607 初代 5 重天守、大手門など完成  
" 13 年 1608 外郭の北塁、堀を構築  
" 16 年 1611 西の丸造営を奥羽、関東、信濃諸侯に命ず  
" 17 年 1612 江戸城外郭の土塁を石積みにするため石材輸送を命ず  
" 19 年 1614 西国大名に本丸、二の丸、三の丸石垣修復を命ず  
元和元年 1615 (家康、大坂の陣で豊臣氏滅亡させる、武家諸法度、禁中公家諸法度を制定)  
" 2 年 1616 徳川家康没  
" 4 年 1618 西の丸の堀拡張を関東諸大名に命ず  
" 6 年 1620 西の丸を修築し、前將軍の居所とする。本丸殿舎、天守閣を修築  
" 9 年 1623 (家光、3 代將軍となる)  
寛永 2 年 1625 天海を開山に將軍菩提寺として寛永寺を創建  
" 6 年 1629 家光、総構え拡張工事開始、石垣 1750 間、4 万 4533 坪、助役高 300 万石に及ぶ  
" 13 年 1636 城普請総仕上げ、主郭、内郭、外郭完成  
明暦 3 年 1657 明暦の大火で市街の大部分と城内天守、本丸、二の丸などを全焼、焼死者 10 万  
万治年間 江戸市街を広げ、防火対策すすめる  
文久 3 年 1863 西の丸、ついで本丸、2 の丸を焼失、以後本丸御殿再建せず將軍は西の丸へ移る  
明治元年 1868 (鳥羽伏見の戦いで徳川慶喜敗走)  
江戸開城。江戸を「東京」と改称、明治天皇西の丸に入る  
" 2 年 1869 東京遷都、21 年皇居を「宮城」と呼ぶ  
昭和 20 年 1945 太平洋戦争の東京空襲で明治宮殿を全焼。日本無条件降伏  
" 23 年 1948 宮殿の呼称を「皇居」と改称、天皇は国民の象徴となる

# 天下泰平のシンボル「日本一の巨城」

## 1) 「の」の字に延びる～江戸図に見る町の発展～

図-1 江戸図屏風 国宝、国立歴史民俗博物館所蔵。作者、制作年代不詳。6曲1双、金地著色、本間屏風。寛永はじめの江戸市街図(11年の総構え工事は反映していない)。豪華絢爛、江戸城天守、黄金に輝く外様雄藩、御三家御成門。活気あふれる日本橋、町人の暮らし。5千人の人物と2500の建造物を描く。

図-2 江戸図鑑綱目 元禄2年(1689=⑤代將軍徳川綱吉代)、相模屋板、石川流宣作。江戸は「四神相応」から「の」の字に拡大の一途をたどったが、明暦元年の大火は江戸城本丸、天守以下、市中の大半を灰塵と化した。被害の大きさにこりた幕府は大規模な都市改造を実施。かつての国境線・隅田川を挟んだ本所、深川も江戸に組み込んだ。「元禄文化」華やかなこのころ、天下泰平、花の大江戸を演出、人口は100万人を超え、世界最大都市に成長していた。

図-3 御府内朱引き図 文政元年、それまで大目付、町奉行、寺社奉行支配などまちまちであった江戸の範囲を幕府評定所が統一した「境界図」で、現在の千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、渋谷区、豊島区、荒川区のすべて、品川区、目黒区、北区、板橋区、練馬区の一部にあたる。

## 2) 江戸城の広さ～千代田区と中央区全域、およそ20k㎡～

①皇居=旧江戸城と思っている人が多い。

江戸城は一部町人町を取り込んだ「総構え城郭」で都心部のほぼ全域におよんだ。

②旧江戸城主郭(將軍居住空間=水堀を含む) 合計1.80k㎡

本丸、2の丸、3の丸(現在皇居東御苑)	0.44 平方k㎡
西の丸(皇居)	0.33
吹上(吹上御庭)	0.69
北の丸(北の丸公園)	0.34

図一3 御府内朱引き図





「江戸城」とは  
花の「大江戸八百八町」

八幡史学館第16シリーズ  
第5回 山岸弘明



右隻  
うせき  
江戸城と  
その西側



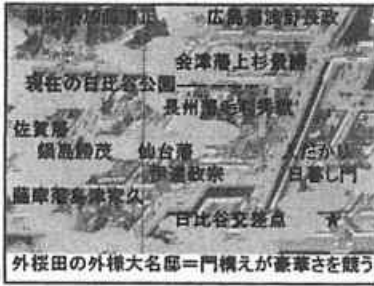
左隻  
北西側

江戸関原風 国立歴史民俗博物館所蔵 ★

作者(作風は狩野派などに特定できない)  
制作年代不詳(江戸前期か)  
寛永始めの家光治世の江戸城と市街図

天守は寛永14年の家光天守だが、  
寛永11年の「総構え工事」は反映していない

金地屏風(地色を金箔で仕上げる)  
着色(権彩色)  
6曲1双(12面)  
本間(ほんげん)京間1×2M屏風 ★



關原原野合戦 広島藩浅野長政  
金澤藩上杉景勝  
現在の百太郎公園  
長州藩毛利秀吉  
佐賀藩  
鍋島勘次 仙台藩 だかい  
伊達政宗 日暮し門  
臨陣落馬津久  
日比谷交差点

外桜田の外様大名邸=門構えが豪華さを競う

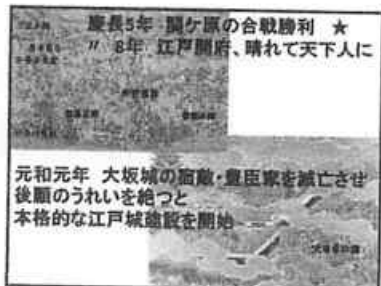


戦国時代の江戸は小田原北条氏支城 ★

天正18年、織田信長の天下統一を後継した  
豊臣秀吉の「小田原征伐」で北条氏は滅び★



天正18年(1590)の江戸城は  
關原原野合戦に敗れた豊臣氏、  
江戸城へ入城



慶長5年 関ヶ原の合戦勝利 ★  
11年 江戸關府、晴れて天下人に

元和元年 大坂城の圍籠=豊臣家を滅亡させ  
後顧のうれいを絶つと  
本格的な江戸城建設を開始



家光 秀忠

江戸城工事  
慶長7年、家康の遺志をついだ秀忠が起工、  
30年後の寛永12年家光の時完成

江戸城工事は「天下普請」★

幕府所在都市(首都)の建設

諸大名への「天下普請」として命令  
①江戸城と街区の大規模造営  
②インフラ(道路、港湾、水道)建設



江戸城  
もつとも工事を  
伊達政宗 合

動員人夫延べ42万3千人  
大判2676枚と数億圓  
諸大名は幕府の愚謀にふれないよう  
ひたすら工事に精を出した ★



江戸城でもっとも美しいといわれる  
半蔵門周辺の桜田堀 ★



緑が映える桜田門の正倉  
内側に皇居宮殿や宮中三殿がある



富士見櫓  
桔梗門

大平桔梗門と江戸城五ツツノ



毎月1日、15日の御登城日は参勤中の  
全大名が得度御膳のため江戸城に集結 ★



丸藻壘線の古写真 ★

## ③旧江戸城内郭(準主郭)

西の丸下(皇居外苑)、大手(大手町、一ツ橋)、丸の内(丸の内、有楽町)

## ④旧江戸城外郭

外桜田、霞が関、永田町、神田、日本橋、銀座、新橋

## ⑤千代田区、中央区のすべてが江戸城だった

現在の千代田区  $11.5 \text{ km}^2$  + 中央区  $9.7 \text{ km}^2$  =  $21.2 \text{ km}^2$  (埋立てなどで当時より若干増加している)

## 3) 将軍家の威風たなびく天下の覇城～何人も寄せ付けぬ石垣の城～

## ①日本最強の堅城=城郭史上最大の傑作

平城を生かした巨大レイアウト=「の」の字に広げる拡張のりしろ

城の大きさ、虎口の構え、石垣、水堀の広さ、殿舎、天守、門の規模、豪華さ

諸大名に付した石材調達=石垣技術が江戸城と徳川大坂城に極まる

## ②高石垣のみどころ=本丸の2の丸間、北の丸間、西の丸間、推定25m、伊豆石の素朴な打込みハギとコーナー部「算木組」がみごとに調和。厳しい守りを体感

\*高石垣ランキング ①徳川大坂城本丸東面32m、②〃 南外堀30、③伊賀上野城29.7

## ③天守=家康、秀忠、家光が構築。最後の天守は5重5階、台石とも51m、屋根に黄金のシャチが輝いた。明暦の大火で焼失、焼け焦げた天守台は一新したが天守が上がることはなかった。白い巨石は瀬戸内小豆島から運んだ

## ④本丸殿舎=初代殿舎は慶長11年秀忠が築くが火事との戦い、寛永、明暦、天保、安政と焼失、最後の殿舎は完成3年後に焼失、14代家茂将軍下の幕府政治がコントンとした時代。付け火の噂が広がり、本丸での新築をあきらめて西の丸に仮御殿を築いた。

## 4) 武家地ゆったり、町方ぎっしり～10%の土地に50%が居住～

## ①江戸の住区分別面積

年代	総面積=武家地	+町人地	+寺社地	+その他
正保年間(江戸前期)	44.0km <sup>2</sup> =34.1(77%)	+4.3(10%)	+4.5(10%)	+1.1(3%)
享保10年(江戸中期)	69.9km <sup>2</sup> =46.5(65%)	+8.7(10%)	+10.7(10%)	+4.0(5%)

## ②明治維新時の住区分別人口総括表(推定)

住区分	人口	面積	人口密度
武家地	65万人	38.7 km <sup>2</sup>	1,800人/ km <sup>2</sup> (江戸城主郭分を除く概算)
寺社地	5	8.8	5,700
町人地	60	8.9	67,300
合計	130	55.4	23,500

## 5) 「花の大江戸八百八町」～実数は数千町にも～

## ①花=美しいこと、盛り、栄えること

大=大きい、一番、尊敬、美称

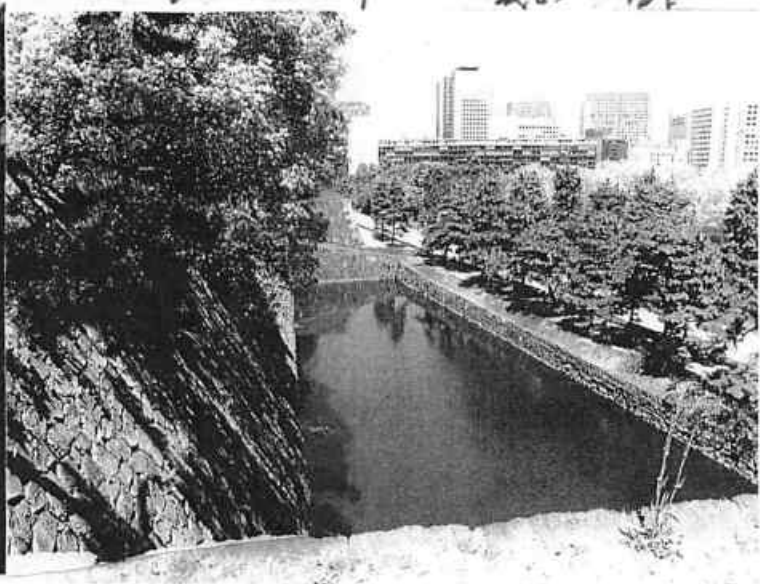
八百=物事の多いこと。江戸八百八町は実数ではなく町数の多いことをいう

## ②町奉行所支配の町数の変遷

\*慶長～寛永年間(1596～1644) 江戸古町。幕府創設にともなう「町割り」で江戸城を中心に多数の町が誕生  
およそ300町

魅力の宝 江戸城本丸高石垣群

桜山 桜



追分橋奥の北の橋側高石垣

本丸から見た下の白鳥溪側高石垣



蓮池塔側本丸高石垣

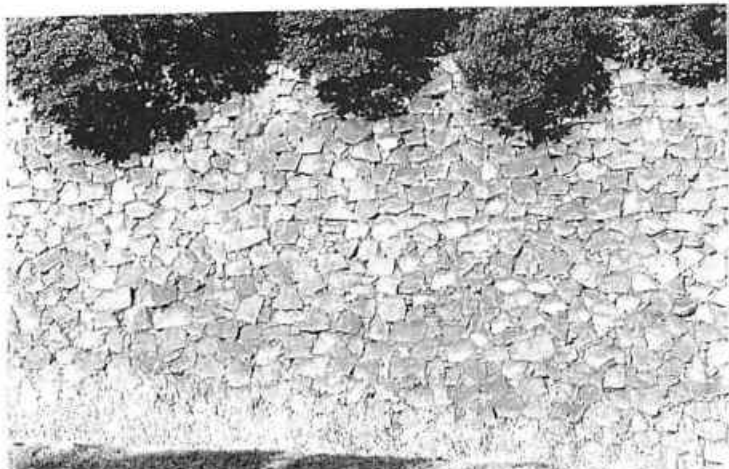
富士見櫓台

一直線心の白鳥の丸側高石垣



二重橋伏見櫓台 内桜田内3真世小

天守台のコーナー部築木組

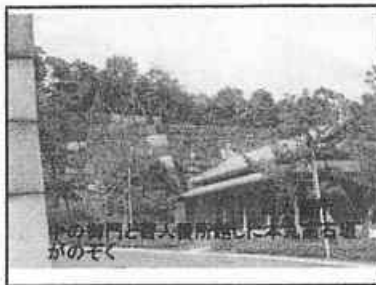


蓮池塔の魅力本丸高石垣打込みハギ

発掘現場からの石蔵が夜露をさらす



明治始めの古写真  
渡り櫓のある中仕切り門 ★



この御門と普門所造りに本丸高石垣  
がのぞく



本丸表御殿玄関遠待跡  
広い本丸敷地いっぱい到大広間、白書  
院、黒書院などの大建築が連なった



江戸城の中心建物「大広間」  
従5位、年賀得軍駕見の図



浅野内匠頭刃傷事件  
松の大廊下跡



大発射  
最大3千人をかぞえた大奥ハーレム  
「次期將軍生母」の座をめぐる女の戦いが  
くりかえされた

関東大震災でもビクともしなかった  
江戸城本丸高石垣 ★

- ①本丸2の丸御殿白鳥漆高石垣
- ②本丸北拵橋高石垣
- ③本丸蓮池堀高石垣
- ④本丸富士見櫓高石垣

いずれもおよそ25m

この時代、石垣技術が一気に向上

関ヶ原後「慶長の築城ラッシュ」

- ①徳川方勝利で、福島正則、加藤清正、池田輝政らが大幅加増、加増に見合う大城郭を構築
- ②一門の新城取立て、大阪城包囲網など、相次ぐ天下普請で石垣技術が一気に向上、共有化進む
- ③東西緊張で諸大名の築城、増改修が活発化、石工は奪合いとなり、高禄で召し抱えられた

元和匱乏(武器を納めて用いないこと)  
元和元年豊臣家を滅亡させた幕府は「一國一城令」を発し、居城を制限、新規築城を禁じた



慶長12年の江戸城第1期工事  
本丸高石垣が完成



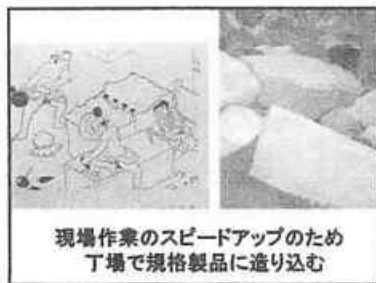
本丸石垣工事を命じられた  
西園筋外様大名28名 ★



伊豆海岸に専用の石切丁場が現存



石道  
小田原一夜城直下、早川石切丁場跡  
半製品や失敗品を所狭しと放置



現場作業のスピードアップのため  
丁場で規格製品に造り込む



切出された石材は  
石船で江戸へ運んだ ★



当時の石積み技術の主流  
「打込みハギ」





- \*明暦の大火(1657) 江戸の大半を焼失。新たな都市計画。築地一帯の海洲、赤坂・小日向など湿地埋め立て。本所・深川の開発。江戸発展の基礎になる
  - \*寛文2年(1662) 芝→下谷、浅草の街道筋の町屋を町奉行支配とする 627町
  - \*延宝年間(1673~81) 千住→品川まで続く大江戸が出現。2里四方→4里四方に広がる。ほぼ江戸の原型出来上がる
  - \*正徳3年(1713) 本所、深川一帯、山の手の町屋を町奉行支配とする 933町
  - \*延享年間(1744~47) 町の強制移転による代替え地、寺社門前町を町奉行支配とする 1678町
  - \*天保14年(1843) 町奉行支配の町数が最大となる 1719町
- 注=武家地や寺社地、町奉行支配以外の町(品川、内藤新宿、板橋、千住)や周辺農村地は数えていないので総数は不詳、数千町にもなる
- ③「大江戸」の呼び名は、江戸中期の天明ころに登場、文化文政ころ盛んに使われた。

## 6) 一極集中、膨張し続けた江戸~町人50万+武士50万、合計130万~

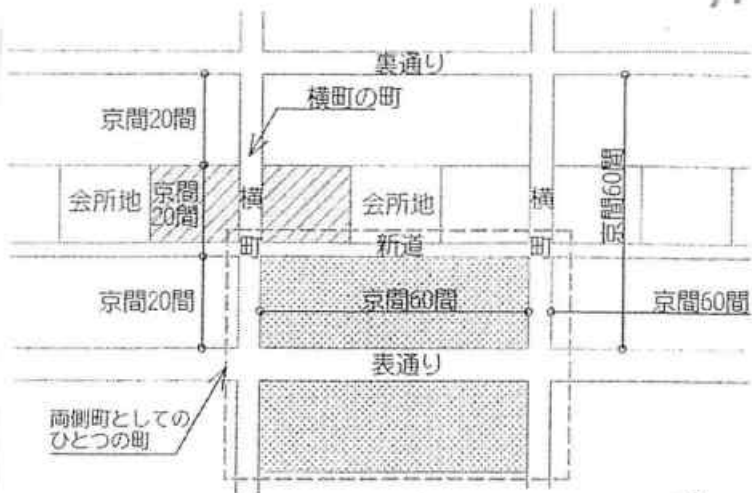
- ①江戸時代中後期の江戸の人口は、町人がおよそ50万人で、武家が50万人、僧侶・神官2万人ほかなど合計130万人
- ②町奉行支配町方人口の変遷
  - \*寛文元年(1661) ほぼ30万人
  - \*享保6年(1721) 町方合計501,394人、男323,285人(64%)、女178,109人(36%)
  - 天保3年(1832) 町方合計545,623人、男297,536人(54%)、女248,087人(46%)
- 始め男が多く次第に男女差が縮まる、しかし町人以外の武士や中間、奴、神官らは男社会で女性が少ないことに変わりはない。結婚できない男性が多かった
- \*ピークは嘉永6年(1853)574,925人、幕末慶応3年は53万余人であった
- ③江戸が膨張した原因は参勤交代や人口流入による「一極集中」であった。
  - \*地方で破産、離農した百姓や犯罪人などの無宿人も江戸なら隠れ住めた
  - \*「天保の飢饉」で百姓たちが大量に流入、幕府は「人別改め」を強化して強制的に帰農させたがその後も増加した(天保の改革、人返し政策)
  - \*江戸は諸国のはきだめ(萩生祖徠)

## 7) 江戸の町割り、町屋と会所地

- ①江戸城築城工事=慶長11年の「第1次江戸城工事」に始まり、寛永の総構え工事で完成。
- ②第1期工事=江戸城直下の丸の内まで入り込んでいた「日比谷入り江」を埋立て、日本橋、京橋が成立、中世からあった神田を加えた「江戸下町」が誕生する。
  - \*下町に駿府や上方など全国から商人や職人が移住し、「町屋」となる
  - \*下町の語源は低地の町で、台地を「山の手」といった。のち江戸の拡大で下町は浅草、深川に広がり、戦後、世田谷、杉並も山手と呼ばれるようになった
- ③江戸の「町割り」は京間(2m)60間四方の正方形街区を碁盤目に区画され、その真ん中に作られた空間を「会所地」といった。町は街区ではなく、道路を挟んだ両側の町屋敷(20間)で1町とした。
- ④会所地は20間四方で、入会い、共有地のこと。始め多くが排水場やごみ捨て場であったが、のち私有化されて「裏長屋」を立てた。享保のころ裏長屋が一般化した。



定歩図の日本橋町印が会所地の長屋



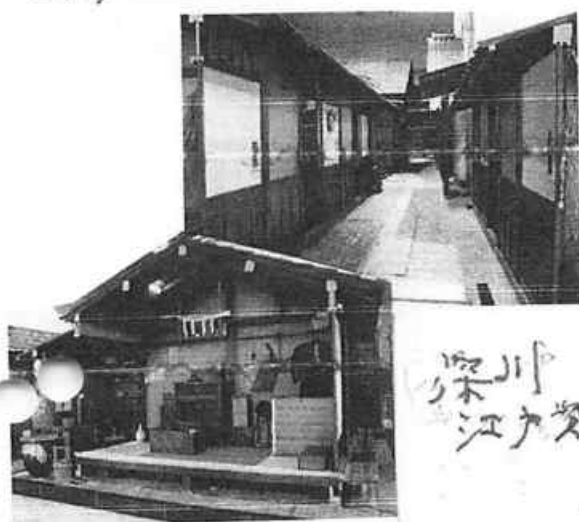
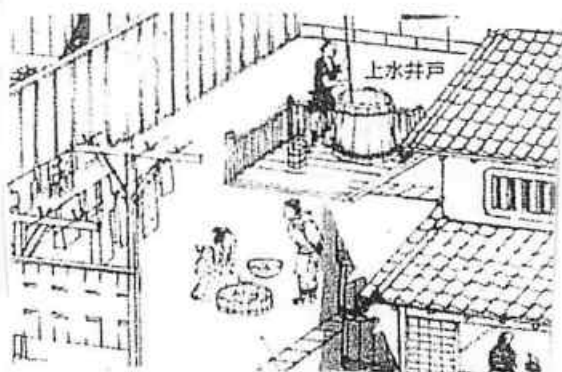
江戸の町作りと会所地



木戸と自身番所



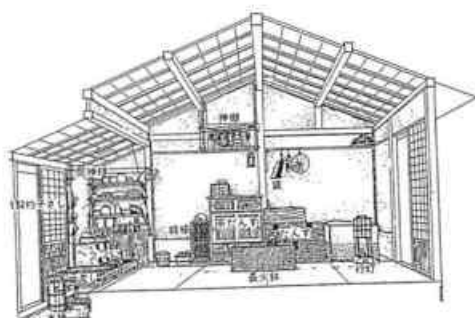
江戸の町作りと会所地



長屋の暮らし



●長屋の内部 多くの長屋は、間口9尺(約2.7m)、奥行2間(約3.6m)、面積3坪(約9.9m<sup>2</sup>)で、挿入のない台所兼用の土間つきの4畳半1間が標準であった。裏路地の中央には、どぶ板が通り、井戸・便所・ごみ捨て場は共同となっていた。深川江戸資料館/東京都



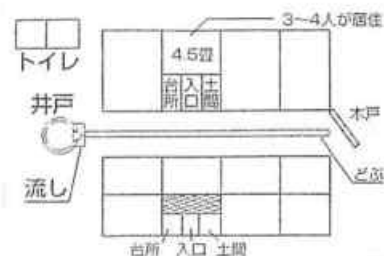
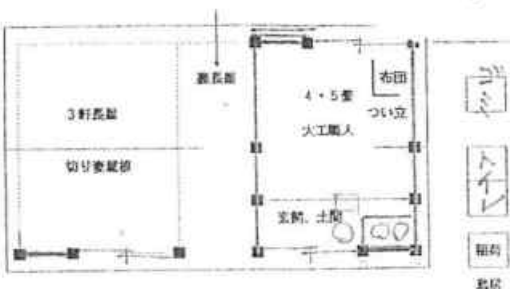
深川江戸資料館



●上水井戸 木桶や竹桶などの椀で運ばれた上水は、のなかに溜められ、草の先に取りつけた桶で汲み上げて、長屋の住人が共同で使った。



江戸水産博物館



## 8) 八さん、熊さんが住んだ裏長屋～9尺2間の1Kの暮らし～

- ①江戸の大部分は武家地と社寺領で、町屋は江戸の10%ほど。下層庶民の居住区は限られたので、増え続ける人口で過密生活が余儀なくされた。
- ②町屋は表通りが「町屋敷」を構える地主、借地で店を持つ商人が生活し、裏店の会所地は、権利を持つ地主、家主が複雑に絡みあった長屋と小さな一軒家が所狭し、雑然と連なっていた。長屋は棟を長く建てた家で、この一棟を数戸に仕切って住む集合住宅で、家借人の町、奉公人や職人、裏通りで小商いをする人、行商人、日雇いなどが生活した。町方のおよそ70%を占めた中下層一般庶民(町方小前)は、その日暮らしの生活を送った。
- ③裏店は地主が町屋敷の土地をいかに活用して収益をあげるかという「町屋経営」の一環。一般に名主の名前をとって「何兵衛長屋」と呼んだ。税金は地主だけで、裏店はない。江戸は火事が多く家主もカネをかけない。
- ④「大家」は地主の代理人。家賃(相場 300 文)を集め「町触れ」の徹底や「人別帳」管理などの雑務にあたった。
- ⑤表通りと裏長屋への路地に木戸を置き、夜間10時ころ施錠した。江戸市中警備のため町ごとに設けた自身番所でのちに家主たちも詰めた。泊まり込みの番人を番太郎といった。日用品などの小商いも兼ねた。
- ⑥裏長屋の標準は「9尺2間」の3坪、よくて2間×3間、3～4人家族が生活した。切妻屋根トントン(板)葺き、天井はない。柱は3寸角か、隣との境は薄く物音や通話も筒抜け、玄関の障子戸明けると台所兼用の土間と1K、内戸はなく一目で家中が見渡せる。仕切り、押し入れもない、小さなついたてとせんべい布団を隅に重ねた。  
\*生活用品=なべ、釜、水かめ、七輪、ざる、すりばち、神だな、ついたて、小たんす、火鉢、あかどん、提灯、衣装こうり、裁縫道具、茶びつ、ハエ帳、お膳
- ⑦井戸と食事の下拵えと洗い物、洗濯と奥さんたちの「井戸端会議」がはずんだ。トイレは共同、おわいは江戸近郷の農家が肥料として買い取り、大家の小遣いとなった。
- ⑧風呂は公衆浴場の「湯屋」を利用した。始め混浴で、寛政3年幕府が禁止、守られなかったものかたびたび取締りを強化した。

## 9) 火事と喧嘩は江戸の花、宵こしのゼニはもたない～

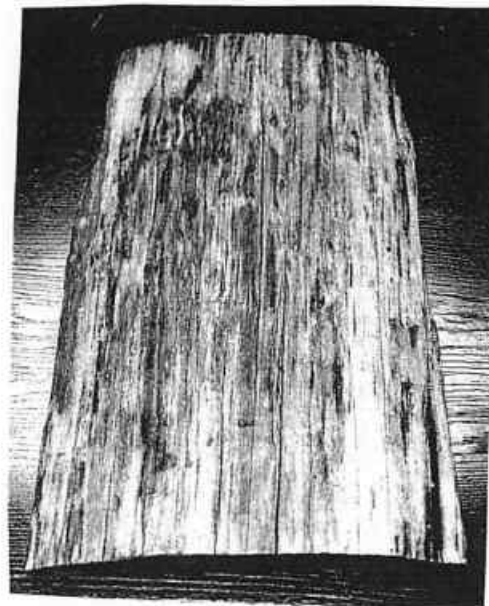
- ①江戸は火事が多く大火だけでもおよそ100件あった。「明暦の大火」は冬の乾燥期、北西の季節風下、「明和の大火」は春の南風にあおられて江戸市中の大半を焼失した。根本原因は燃えやすい木の家の密集と防火対策の遅れにあった。
- ②南町奉行・大岡忠相は「享保の改革」で江戸市中、表屋敷の瓦屋根使用を義務化、「町火消し」常備化した。当時の消防活動は「破壊消化」で周囲の家を破壊して防御ラインを築いた。
- ③江戸は焼け太りの町、経済は大火後の復旧工事で潤い、火事のたびに発展した。裏長屋の庶民たちもまた火事で仕事にありつき、火事で財産を失った。「宵こしのゼニをもたない」とする名啖阿も火事と関係していた。

以上



飯香岡真景

(明治 43 年=飯香岡八幡宮版木)  
八幡宮の清見の滝越しに、洋々と  
広がる東京湾と富士山を遠望。か  
つての八幡海岸が偲ばれる



飯香岡八幡宮海中鳥居残材

(昭和 16 年=海苔業組合再建)  
足利義満創建、足利義明、千葉富胤  
ら再建という。昭和 35 年海岸埋立  
てのため撤去

令和3年度 八幡公民館主催事業 4月5日受付開始



# いきいき八幡塾



3回とも出席できる方先着30人募集

生活に役立つ学習や体験

参加費無料

	日時	内容
1	5/6(木) 9:30~ 11:30	<p>◆火災から身を守る</p> <p>「安全な生活のために火災に備える」</p> <p>講師 市原消防局八幡消防署</p> 
2	5/13(木) 9:30~ 11:30	<p>◆介護について</p> <p>「介護の現状と介護の仕方」</p> <p>講師 セントケア市原 伊勢田 葉子 氏</p> 
3	5/20(木) 9:00~ 12:00	<p>◆五所歴史ストリート</p> <p>「神話と武士<sup>もののふ</sup>の町を歩く」</p> <p>30分座学の後、2時間程度歩きます。</p> <p>講師 八幡史学館講師 山岸 弘明 氏</p> 

\*3回目はバス研修に代わり地域を歩いて歴史探検を行います。

★キャンセル・欠席の場合は、公民館まで必ず連絡をお願いします。

八幡公民館 (41)1984



# いきいき八幡塾

全3回

1回目 5/6(木)

「防火講座」

初期消火



講師  
八幡消防署の皆さん

映像で防火意識の向上



水消火器を体験



軽くて動かし  
やすい  
車椅子



最新の介護用品に興味津々



多機能の介護ベッド

2回目 5/13(木)

「介護講座」



講師 セントケア市原  
伊勢田 葉子 氏



臭いも安心部屋用トイレ



講師 山岸 弘明 氏



見て聞いて歩いて  
八幡の街再発見



来年度も街歩きの  
続きを計画!



3回目 5/20(木)

「街歩き」



八幡公民館主催事業「いきいき八幡塾」第3回講座

## 神話ともののふの町を歩く ～五所歴史ストリート～

令和3年5月20日（木曜日）

山岸弘明

五所まちショートショートストーリー

日本武尊や源頼朝が通った房総の旧道＝神話～現代へ

600年以上続く「柳楯神事」と「八幡宮元宮伝説」＝神話時代

関東将軍家復活にかけた「御所さま」＝室町時代

庄左衛門が開いた25万坪の塩田＝江戸時代

海苔干しが八幡五所海岸の風物詩に＝昭和時代

### 本日の主要行程

9時00分～9時45分 講座（第1会議室）「五所まち歩きの見どころ」  
飯香岡八幡宮所蔵「天明4年金杉浜塩田大絵図」

10時00分～12時ころ 「五所まち歩き」（公民館前集合、解散）

主要行程＝八幡公民館、白金通り、八幡運河の市原橋、  
ポートピア裏通り、県営住宅前、ジョイフル本田前（小休息）、  
白幡神社、旧房総往還、五所共同墓地、満蔵寺前、五所バス停、  
柳楯の小路、大宮神社、JR側道、五所小学校跡、若宮神社、  
ウエルシア前、八幡公民館

三密防止など＝公民館職員の指示にしたがってください



1/7 塩田跡



八幡運河



磯野神社



白幡神社

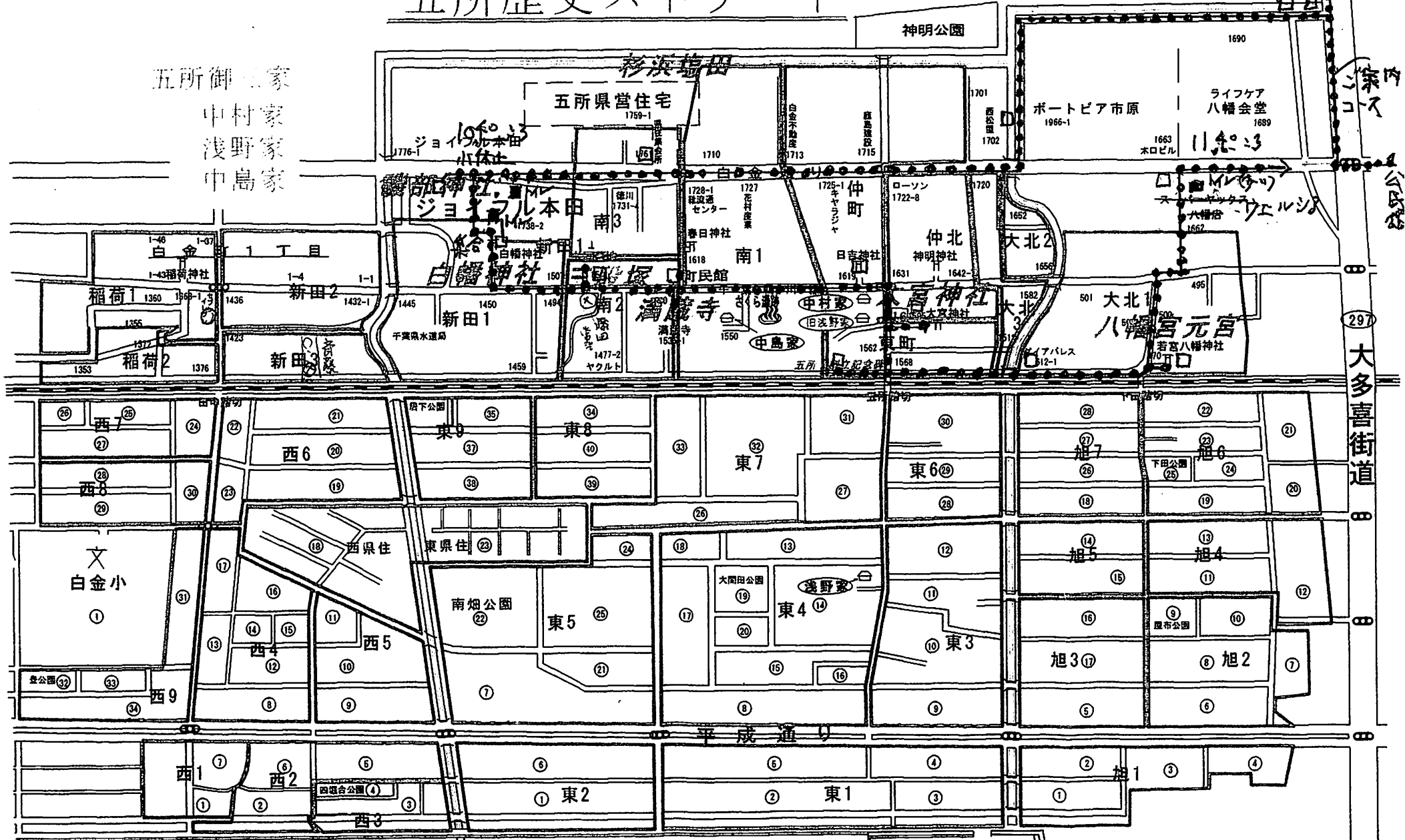
海

海

# 五所歴史ストリート

10.10.13  
家時村ト  
白田

五所御三家  
中村家  
浅野家  
中島家

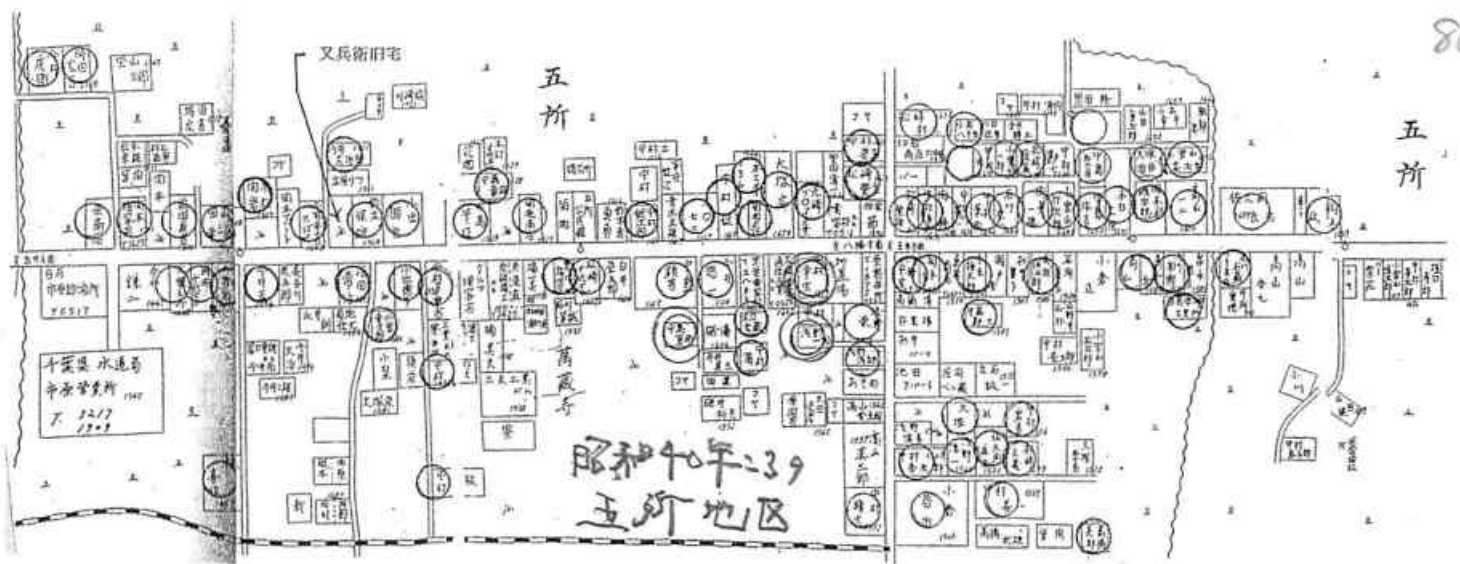


家内  
コース  
公民館  
297  
大多喜街道

条里制遺跡 五所小学校  
五所小

カード作成 時田光夫





八幡史学館チーム選定

やわた名所100選Ⅱ五所地区

第40番Ⅱ金杉浜塩田跡(埋め立て工場地帯)

江戸中期の天明4年、江戸金杉の人・庄左衛門が五所村と八幡村海岸の干潟地26万坪に金杉浜塩田を開設、およそ半分は4年後の台風で壊滅したが、残りの塩湯は明治維新後に及んだ。昭和30年代に埋め立てられ、現在は京葉工業地帯の一翼を担っている。

第41番Ⅱ北川、金杉川みお跡  
江戸時代からの小川。大正時代、昭和前期はのり採り舟の拠点であった。

第42番Ⅱ伝飯香岡八幡宮元八幡(若宮八幡宮)  
飯香岡社の創設神話にある「海中から神像を掬い上げた」元宮とする。由来碑は「神名帳考証」の一節を引く。

第43番Ⅱ明照院跡と五所小学校創立の地(JR線路沿い満蔵寺裏)  
真言宗、釈迦院末。創建不詳という。江戸後期に寺小屋を開設、明治6年学制発布にもとない本堂で五所小学校を開校し22年まで続いた。大正10年火災焼失、密蔵寺とともに満蔵寺に合併された。

第44番Ⅱ満蔵寺  
新義真言宗、釈迦院、長谷寺末。創建は不詳で江戸中期とみられる。境内に「市原新霊場」二十番札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像などがある。

第45番Ⅱ出羽三山信仰と方形3段供養塔(五所共同墓地)  
五所は三山信仰が盛んで元禄時代に始まり現在に続いている。三段塚に宝暦2年、嘉永7年などの碑が並ぶ。墓地に金杉浜塩田を開いた庄左衛門の墓がある。

第46番Ⅱ幡御所跡、白旗神社碑(シヨイフル本田鳥辺)



昭和30年=39 五所海岸

戦国期、八幡・小弓御所足利義明の居城跡伝承地。白旗神社の碑文は義明の御座所で小弓城を攻略したとする八幡御所伝承を刻む。江戸時代の明細帳は義明古城除地を記載している。

第47番Ⅱ金杉川の庚申塔  
庚申信仰の名残。元禄8年の建造で、青面金剛像と3猿、鶏、2童子を刻む。

第48番Ⅱ国分寺道標(田中踏み切りそば)  
「この方、こくぶんじへ十八丁、かさもり四り」を刻む。年代の記載はない。

第49番Ⅱ古代官道跡と四反田遺跡(五所小学校)  
発掘調査で古代道と農耕具などが出土した。律令体制により計画的に整備された官道で「更級日記」の作者菅原孝標のむすめは京へ、源頼朝も鎌倉をめざした。

第50番Ⅱ柳橋神事の道(五所小学校後ろのたんぼ道)  
飯香岡八幡宮秋期大祭の神事で、市原から柳橋を運ぶ古代道、五所小学校前で引き継ぎ、かつては五所御三家、現在は町民館に一泊して翌朝八幡宮に向かう。いまも柳橋が到着しない。りみこし渡御が開始できない決まりが守られている。



万蔵寺



五所共同墓地



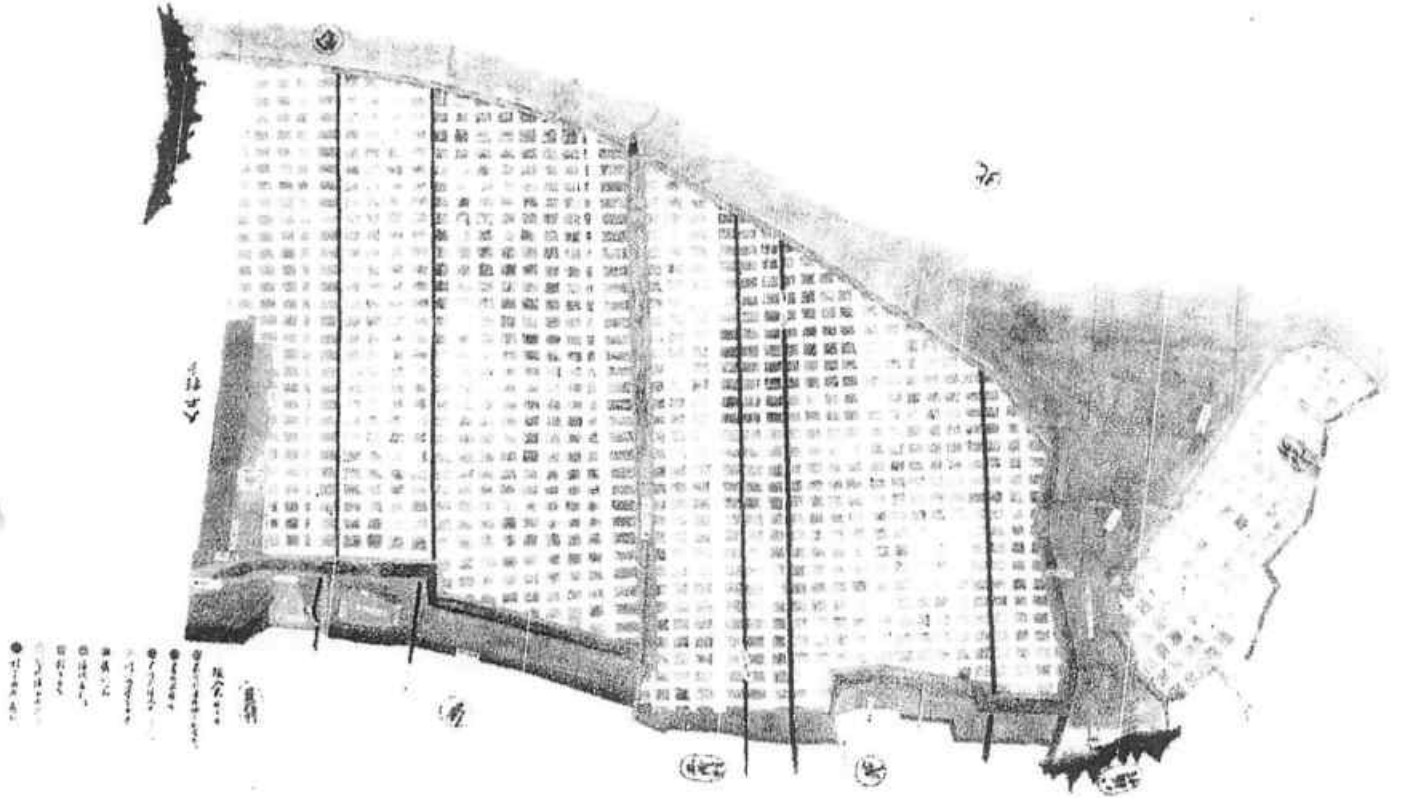
房総街道



元八幡

## 参考初公開

## 飯香岡八幡宮所蔵文書「天明4年、金杉浜塩田絵図」



## 北川沿いポートピアの「満開桜」～五所歴史ストリート案内コース



## 主な参考資料

千葉県の歴史、市原市史、市原のあゆみ、市原市歴史と文化財シリーズ、市原市の昭和、房総叢書、市原郡誌、やわた名所百選

千葉の道千年物語、千葉市の戦国時代城館跡、浦安市郷土博物館調査報告書、戦国房総人名辞典、小弓公方足利義明、国府台合戦を点検する、戦国遺文、市原の古文書研究、金杉浜塩田資料集成、八幡の石造物研究、市原市八幡あれこれ、市原の柳橋神事、飯香岡八幡宮柳橋神事

## 協力＝

八幡史学館チーム、市原の古文書研究会、飯香岡八幡宮  
時田光夫様、平澤牧人様、高澤恒子様、小出惣治様（故人）、皆川 進様、清水あき子様、佐倉東雄様、多村勝彦様、鷺津寛子様、柴田正子様、堆美登里様

## 日本武尊や源頼朝が通った古代道＝房総往還ものがたり

### ①はじめに古道ありき～古代の房総路、八幡五所は東海道だった

バス通りの旧道・千葉鴨川線は太古の時代に遡る古道と考えられ、日本武尊（やまとたけるのみこと）は古東海道を三浦半島の走水から船で東京湾をわたって房総に入った。途中暴風にあい妻の弟橘媛（おとたちばなひめ）が海神の怒りを静めるため海に投じ、流れついた着物の袖にちなんで、八幡五所を含む内房海岸一帯がかつて袖が浦と呼ばれた。日本武尊は八幡に宿陣し、千葉、佐原、鹿島、常陸へと北上、あらぶる蝦夷（えみし）をことごとく服従させたとされる。

### ②市原国府からの旅立ちをえがいた菅原孝標のむすめの「更科日記」

奈良時代末の宝亀2年（771）、東海道は相模から武蔵国を通して常陸に通じるようになった。房総道は本道から支線となり、京への道も危険な海路から陸路に代わった。

「更科日記」は平安時代後期の寛仁4年（1018）、筆者である菅原孝標の女（むすめ）が、無事上総介の任期を解かれた父に連れられた帰京の旅日記に始まる。一行は国司館（所在地未詳）からいったん「いまたち」（同）に移り、豪雨について八幡五所の古代道、境川（村田川）の国境から下総の「いかだ」（同）に宿泊した。帰り道はゆっくり、およそ3か月をかけて京都に到着、日記行程に不明箇所が多く、場所探しが今日に続いている。

### ③源頼朝が源氏再興の軍を進める

治承4年（1180）源氏再興の旗を上げた源頼朝は「石橋山の戦い」こそ敗れていったん安房に逃れた。房総には源氏に心を寄せる武士団が多い。ただちに体制を立て直して進軍を開始。千葉介常胤は300騎で下総国府に駆け付け、上総の在地領主・上総介広常も2万の大軍を引き連れて隅田川で追いついた。追々関東の武士団が加わって大軍となる。平家は西へ西へと敗走し、壇の浦で滅びた。鎌倉幕府では2人の千葉氏が明暗を分けた。常胤は頼朝から父とも慕われ、一方傲慢な態度が目立った広常はうとまれて暗殺、幕府編集の「吾妻鑑」からも抹消された。「広常なくては頼朝の挙兵はならず、広常がいては頼朝の政権はならない」、広常の功績とともに上総国府攻略や通過の謎も封印されてしまった。八幡地区には君塚で常胤軍を見た頼朝が「喜びを見たり」といった地名伝説や、飯香岡八幡宮150町石寄進、「逆さいちょう伝説」などが残されている。

### ④江戸時代の房総往還

「房総往還」は明治以降の名前で、江戸時代は上りが江戸道、下りは木更津道、安房街道、房州往還など行き先地名で呼ばれることが多かった。江戸幕府の道路行政は「軍事的政策」として進められた。徳川家康が「関が原の戦い」に勝利した翌慶長6年、江戸日本橋と京都を結ぶ拠点宿場に伝馬の負担を命じて「東海道」を整備し、のち中山道、奥州街道などを加えて「五街道」に広げた。幕府は街道保護政策として参勤交代などの出張旅行を五街道通行に義務化、久留里黒田、佐貫阿部、勝山酒井、館山稲葉、五井有馬、房総5藩の大名行列は千住まで奥州街道と重複した成田街道を迂回した。船橋から先の成田街道は道中奉行管理の国営道路だが、千葉、市原から木更津、館山間の房総往還は中小脇往還で保守管理は領主と村の責任とされた。八幡、五井、姉が崎の3宿は継ぎ場として、また周辺組合村親村として地方の中核的な役割を果たした。

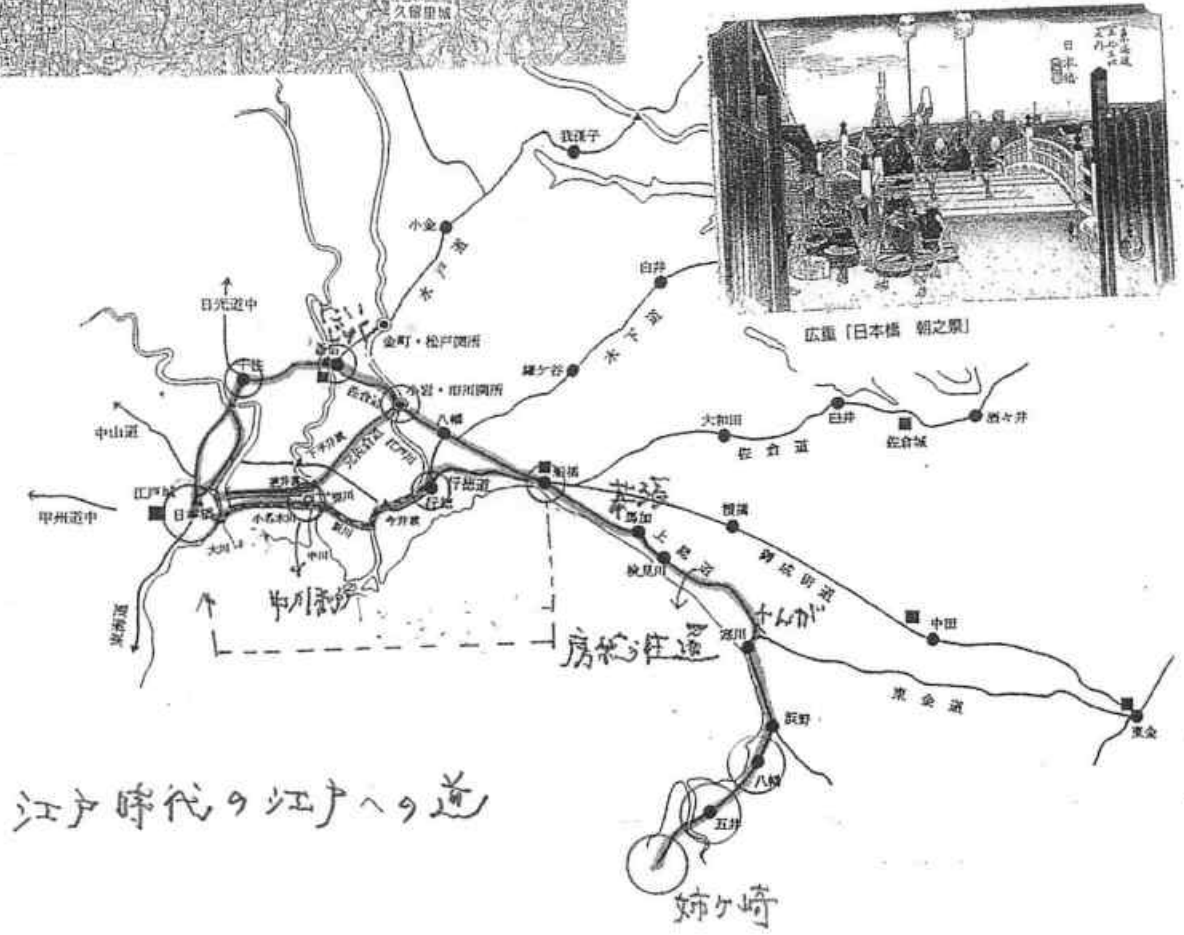
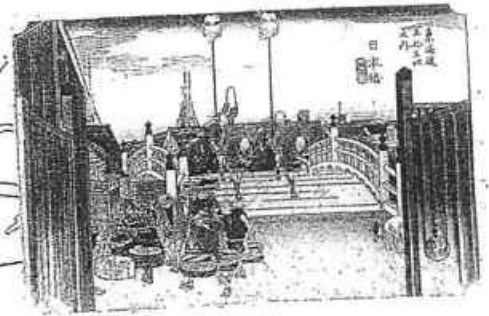
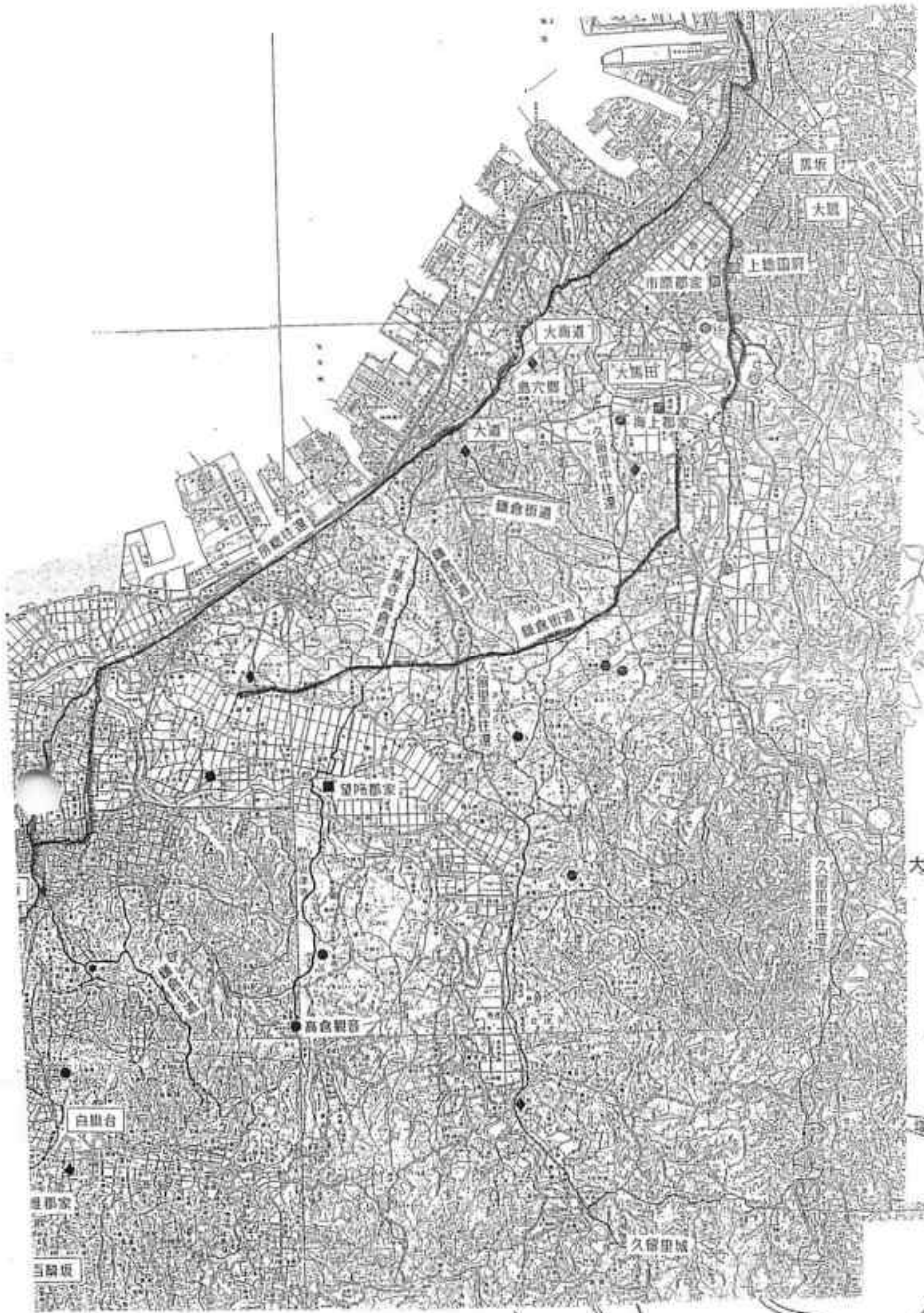
江戸時代、庶民が旅行することは原則禁止されたが、商用や神社仏閣参詣、療養、文人墨客の通行があった。多くは曾我野、寒川、登戸、検見川、船橋から行徳まで歩き、乗り合い舟で小名木川の中川船番所経由、江戸小網町河岸に抜けた。

旧房総往還は主要地方道、バス通りとしてかつての街道の名残をいまに伝えている。

### ⑤見学コース

八幡宿駅～姉ヶ崎駅行きバス通りとなっている旧道「房総往還」を歩く

### 房総の古道



### 江戸時代の江戸への道

姉ヶ崎

## 600年以上つづく特殊神事＝柳楯、八幡宮元宮ものがたり

### ①飯香岡八幡宮と特殊神事「柳楯神事」

飯香岡八幡宮は八幡の地名となった古社で、境内案内看板は「白鳳4年(675)天武天皇の勅命により八幡宮として創建、また天平宝治3年(759)一国一社の国府八幡宮として、また上総国の総社として広く信仰を集めてゆくこととなった。(中略)源氏、千葉氏、北条氏、足利氏、徳川氏をはじめ近隣に所領を持つ大名、旗本など武将の崇敬が厚く、徳川家康から社領150石を安堵され、格式10万石の待遇を受けた」としている、飯香岡の地名は東征の途次宿陣した日本武尊から、差し上げた酒食に「飯の香りよし」として地名を賜ったとされる。

「柳楯神事」は旧暦8月15日(現在は直後の日曜日)に行われる秋季大祭で600年間以上続く特殊神事で千葉県有形民俗文化財に指定されている。柳楯が神社に到着しない限り祭儀の開始はもちろん、みこしの渡御もできない。柳は古来、神降臨の霊木とされ、武神の八幡神に楯をささげる意味があるという。柳楯は祭礼の前日、国府の置かれた市原地区の司家で調整され、光善寺、市原八幡宮、阿須波神社を回って五所村に運ばれる。五所村では御三家と氏子総代が村境いまで出迎え、三家は交代で当番家となる。かつて当番の家に柳楯が安置され、そこで翌朝の出振る舞いも行われた。御三家は文政2年の「当社年中神祭行事」に、五所村柳楯掛として代々中村源四郎、浅野清治郎、内出(中島)弥惣八家が勤めたことが記されている。

### ②柳楯が五所御三家に一泊(現在は五所町民館に安置される)

市原台地の阿須波神社から五所小学校をへて五所バス停近くの押しボタン式交差点に通じる小路が柳楯神事の道で、かつては大道だった。JR内房線と旧房総往還の真ん中あたりに柳楯の受け渡しが行われたといわれる大宮神社があり、小路を挟んで御三家が並んだ。うち浅野家(屋号=セイジロウ)は移転され、中島家(屋号=ウチデ)は継承者がなく、現在は中村家(屋号=マゴシロウ)だけが旧地に現住されている。

### ③元八幡の由来(神名帳考証土代=伴信友著)若宮八幡神社碑

往古隣村五所村の人都に至りある神祠にて神像を奪い立ち退けるが追手の者に窘らして詮方なきままに五所の浦に着き玉へと祈念して海中に投げ入れける。(中略=帰国の後、海中光あり、網で像を得たり)すなわちその地に祀る。この地をいまは元八幡と称す。

### ④御三家中嶋家に伝わった「八幡宮伝記、大永3年の写し一卷」(要旨)

古老伝えて曰く、天武天皇御宇白鳳2癸酉年(中略)わが朋友中邨(典膳)、麻野(権藤治)、それがし中嶋(要人)3人(中略)これより都に登り、筑紫のかたをも巡拜せばやと思うなり(中略)筑前宮崎の八幡宮に詣でて(中略)神前の太玉ぐしと柳の神楯を賜り、これを汝らに授くとまさしく夢想ありける。(中略)柳の楯を筏となし、神宝を遷しまいらせ、こいねがわくば東国総州市西県袖ヶ浦手長の磯につかせたまえと流しける。(後略=五所の入り江で発見、若宮神社を建立し祀る)

### ⑤柳楯の起源を記す行基伝説「上総国市原郡市東庄八幡宮御縁起」(要旨)

聖武天皇天平年中、僧正行基は衆生化度のため天下を巡行の時この地を経歴し、たまたま某の寺(光善寺)に説法し給う。(中略)時に戴冠の異人あり来たりて石の上に座し給う。(中略=問うと)「われはこのわたりなる広幡八幡麻呂なり」(中略)僧正驚かせ給い急に柳樹を削りて楯のごとく成し給い、神の御後ろを覆い給えば異人につこと笑わせ給い、かき消えて失せたまえり(中略)じらい祭祀に柳楯を備えるを例とす。

### ⑥見学コース

600年の伝統を守って飯香岡八幡宮秋季大祭で柳楯が通る「柳楯神事的小路」と大宮神社、五所柳楯御三家、八幡宮の元宮とされる若宮八幡神社を回る。

千民第7号

指定書

柳楯神事

右と千葉県文化財保護条例に基づき千葉県指定民俗文化資料として指定する

昭和四十一年十二月二日

千葉県教育委員会

柳楯の道



昭和50年の29  
五折竹三の  
記念写真



（左） 図） （参） （子供神輿昇の係） （柳楯） （祭典係） （柳楯御三家） （氏子青年会）

古史... 天竺... 柳楯... 祭典係... 氏子青年会... 柳楯御三家... 子供神輿昇の係... 参... 図... 柳楯の道... 千葉県文化財保護条例... 指定書... 昭和四十一年十二月二日... 千葉県教育委員会...

「八宮日記」

柳楯の道 柳楯神事 柳楯御三家 氏子青年会 祭典係 子供神輿昇の係 参 図

柳楯の道... 柳楯神事... 柳楯御三家... 氏子青年会... 祭典係... 子供神輿昇の係... 参... 図... 柳楯の道... 千葉県文化財保護条例... 指定書... 昭和四十一年十二月二日... 千葉県教育委員会...

## 鎌倉公方復活にかけた御所さま＝足利義明ものがたり

### ①関東の戦国時代は30年前に始まる～鎌倉公方と関東管領の争い

歴史教科書による戦国時代は応仁元年（1467）の「応仁の乱」に始まるが、関東ではそれ以前から室町足利将軍から関東を任された鎌倉公方（関東将軍）関東足利氏とその補佐役の関東管領上杉氏が争う戦国時代が始まっていた。房総では各地に在地領主が割拠し、16世紀前半には足利義明が村田川の千葉側、小弓城を本拠として周辺に勢力を伸ばすなど戦乱は拡大の一途をたどった。

### ②古河公方2代政氏の2男足利義明

足利義明（長享ころ1487?～天文7年1538）は関東の争乱で室町幕府と組んだ上杉氏と戦い、鎌倉御所を古河に移した初代古河公方・足利成氏の子、2代政氏の2男として誕生。幼くして鎌倉鶴岡八幡宮別当・雪ノ下殿（公方No.2、寺社行政長官）に就任、父と兄高基との権力闘争が始まると、父に与して後継者を名乗る。永正15年（1518）真里谷武田氏と安房里見氏の支援を受けて高柳御所から八幡に移座、17年ころ小弓城に入って小弓上様、御所様などと呼ばれた。小弓城は千葉市中央区南生実町の高台、城跡一画に千葉市埋蔵文化財調査センターがある。八幡宿駅から北東直線距離およそ4kmを隔てる。城跡には地形や大手虎口、櫓台、土塁、空堀などの遺構が現存、支城群として北小弓城（生実城＝生実陣屋の前身）、柏崎砦、永山砦などがあつた。上総は足利氏の準本願地で御料所が散在、足利氏に心を寄せる家臣やゆかりの神社も多い。義明は小弓城を本拠に上総、安房と下総の大半を掌中に収め、関東公方家の正嫡争いと威光復活に夢をはせたが、兄高基との抗争が続き、天文7年、その子晴氏と同盟した北条氏綱との「国府台の合戦」に嫡子、弟もろとも敗死した。

### ③五所の地名となった八幡御所

『角川日本地名大辞典』は「地名は戦国期に足利義明の御所が置かれたことにちなむ」、『里見九代記』は「下総の関宿ならびに生実（小弓）八幡御殿を御所有せられ御住居なり」。また、天保9年『五所村差し出し明細帳』は「古城跡除地、足利義明居城の由、申し伝えにござ候」とあり、少なくとも跡地が幕府に公認され免税されていたことがわかる。市原は上総守護職を勤めた足利氏の準本願地で飯香岡八幡宮とも深いかかわりがあつた。落合忠一説によるジョイフル本田の推定地で発掘調査が行われたが遺跡は確認できず、また飯香岡八幡宮や満徳寺に「伝義明夫妻の墓」や義明所伝が数多く存在する。八幡御所にかかわる伝承は謎が多いが、五所に御殿を構えたことに間違いはなく、今後の研究成果に期待したい。

### ④地元の足利義明伝承

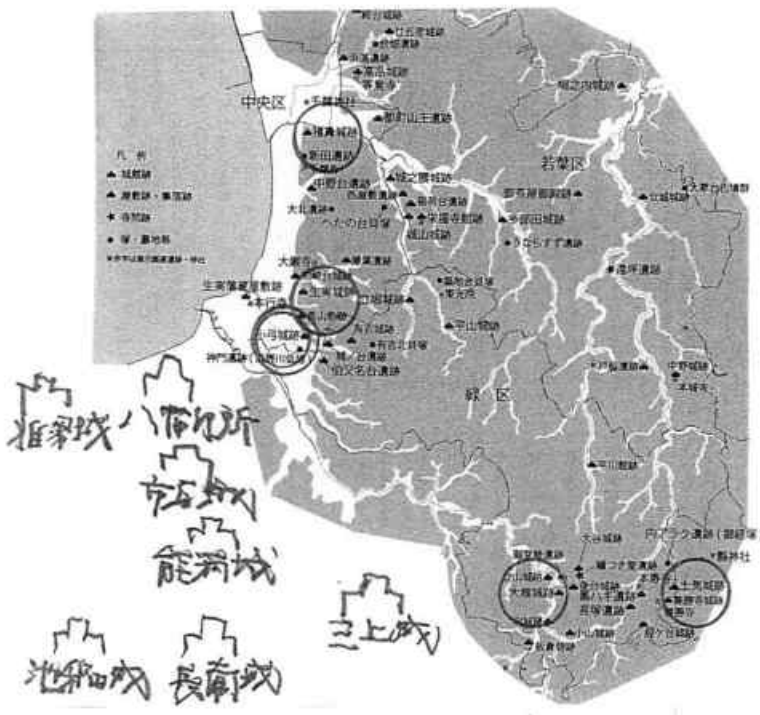
市原のあゆみ＝生年不詳、足利政氏2男。鎌倉別当寺に入り空然を名乗る。古河に戻るが父兄の争いをみて陸奥に出奔、三浦盛高の食客となる。真里谷武田信興に招かれ八幡霊応寺に入り、五所に八幡御所「乙西館」を築く。八正院公方、社家様、八幡御所などと尊称され、安房里見、武田氏などを従えて勢力を拡大した。永正14年小弓城を攻め落とし原氏にかわって小弓城に入り、小弓公方、小弓御所を称した。

飯香岡八幡宮由緒本記＝寛正6年当郷に御所を築かれ八幡御所と称し奉る。文明元年新たに（当社）銅板屋根葺き替えそのほか造営、御寄進あらせられる

### ⑤見学コース

義明を祀る白幡神社碑で、志半ばでついでた義明の「夢ものがたり」を偲ぶ。

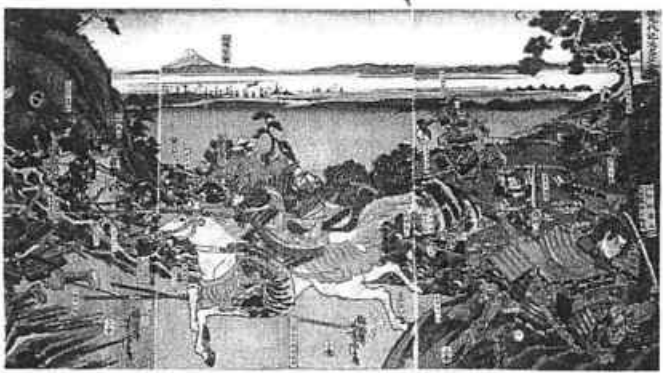
八幡宿駅近くの満徳寺は義明ゆかり寺で、境外墓地には「伝足利義明夫妻の墓」がある。また、義明の居城、小弓城や北小弓城まで車でおよそ10分、討ち死にの市川国府台はJR総武快速で小一時間、ぜひ訪ねられたらどうだろうか。



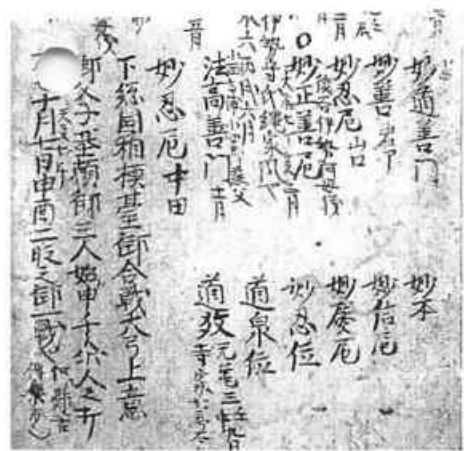
小弓城

関係年表

永享11年1439	永享の乱=曾祖父持氏敗死、関東戦国時代
享徳3年1454	享徳の乱=祖父成氏、山内上杉憲忠を殺害
康正元年1455	古河公方成立=成氏鎌倉から古河へ
3年1458	管領方太田道灌、江戸城などを築く
応仁元年1467	応仁の乱=全国の戦国時代はじまる
長享延徳ころ	義明誕生。斐王丸、斐松王
文明18年1486	道灌、上杉扇谷に殺される
明応2年1493	高柳御所、雪下殿。*八幡説=鎌倉、八正院殿
6年1497	祖父成氏死去
文亀3年1503	このころ得度。空然
6年1506	*八幡説=古河、のち陸奥黒川城の食客
永正7年1510	還俗。義明
13年1516	*八幡説=このころ霊応寺、八幡御所、八幡公方
14年1517	兄高基、父成氏を退放
15年1518	真里谷武田、小弓城攻略
17年1520	*八幡説=義明が攻略、小弓に入城、小弓御所(公方)
大永6年1526	小弓御所=武田氏に招かれる
天文2年1533	このころ道哲
5年1535	このころ両総に武威振るう。海路、鎌倉も攻める
7年1537	このころ上総、安房と下総の大半を治める
	兄高基没、晴氏相継
	国府台の戦いで北条氏綱と戦い討死

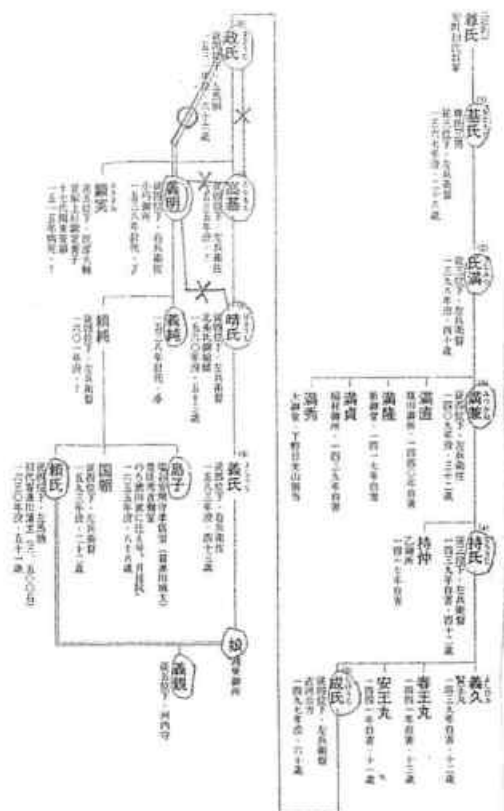


足利義明討死の図



本土寺退去帖

十日、氏綱掃陣。  
 十一日、於小田原御合戦、無為之御祝儀有之。  
 一日、向下総氏綱父子逃免、是小弓上様里見引率、鶴台御出張アリ、同六日、氏綱江戸城出陣、同七日、合戦、敵、上様并御曹司・基頼公三大将、惟津・村上・堀江・鹿島等面々競戦、氏綱先陣、志水・笠野・笠原・遠山・伊東等防之、急ニ攻戦、小弓衆打負、御曹司林・上様御吉第基頼御討死、小田原方安藤備前上様御手懸り討死、三浦城代横井神助、上様御吉第討死、松田弥次郎御首奉討取、逸見山城入道祥出、為山中修理亮方被誅、凡討死百四十余人、其外御所方佐々木源四郎、逸見八郎・佐野藤三、町野十郎等連戦場、上様御末子御曹子奉伴、則小弓城焼払、房州落行畢、逸里見三云、



御墓堂の伝義明墓



五所白幡神社



## 江戸の百姓が開いた 25 万坪の塩田＝でばり庄左衛門ものがたり

### ①田沼時代と塩田開発

江戸中期、10代将軍徳川家治の治世に老中となった田沼意次（享保4年1719～天明8年1788）はまいない（わいろ）政治家として悪名をはせたが、一方で商業資本を積極的に利用して幕府の財政を再建しようと考えた経済通政治家でもあった。同業者組織の株仲間にも恩典を与えて莫大な税金をかけた。新田や塩田開発、産業振興に力を注いだ。田沼政治が続けば、もっと早い時点で鎖国が終了したとする歴史家もある。

②当時、塩の生産地は赤穂など瀬戸内海で全国の9割を占めたが、乱開発で値崩れ、コストダウンのため薪焼きを石炭焼きに切り替えたり、生産調整に取り組んだりもしていた。金杉浜塩田にとっては厳しい環境下でのスタートとなった。

### ③江戸百姓庄左衛門が出張（でば）る～金杉浜塩田の誕生まで

\*天明2年9月、江戸金杉村（現在台東区下谷）庄左衛門、坂本村又兵衛が八幡村から五所、君塚村までの水際洲（干潟地）およそ150町歩（50万坪）での塩田開発を勘定奉行に願い出る

\* 3年8月、普請役出役の現地取り調べの上、許可水際洲を飯香岡八幡宮神域、八幡湊水域を除く86町余（25万坪）と決定

\* 4年7月、願主2名、八幡、五所、君塚村3か村総代が連署で勘定奉行に願い出、許可の上、開発請け書を提出

\*ただちに着工、3年間の工事期間で竣工。2人は現地に移り住み、江戸から手先の者多数を引き連れて工事を指揮した。総工費3千両（現在に換算すると5、6億円か）、江戸商人と地元有志らが金主として支援した。幕府への塩場地代は建設期間の3年分が38両余、完成後は役料30両余を毎年上納することになった。

### ④台風で壊滅的被害～短かった金杉浜塩田の最盛期

\*完成した塩田は庄左衛門の出身地名から金杉浜新田（塩田）と名付けられた。八幡海岸の一部に始まり五所海岸、金杉海岸のすべてと五井海岸の大半、飛び地は八幡北町、八幡浦など。除外された八幡海岸を加えれば現在の埋め立て工業地帯を上回る。200余年の昔、これだけの事業が私人によって行われたことに感動させられる。

\*完成わずか4年後の寛政3年の津波（高潮？）は塩田を無残にも飲み込んだ。「君塚村浦の天明度開発塩田は寛政2年と3年の2回の洪水のため海側の塩田と水田囲い堤は破壊され元の海面となった（稿本五井町歴史年表）」。金杉浜塩田の80%近くを流失したが残り塩田は明治維新に引き継がれ、一部は明治、大正、昭和戦前まで続いた。

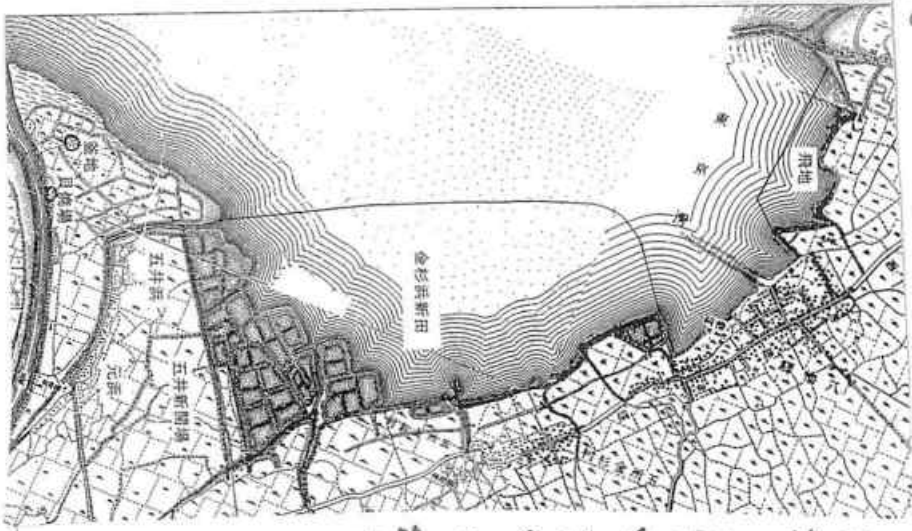
\*木更津県あて金杉浜新田塩浜起立取り調べ書（明治5年＝金杉村旧名主家文書）  
塩浜元反別85町余、文化、安政3口田畑起し返し反別16町余、引き残し反別68町余  
この訳、当時塩稼ぎ場反別19町余、当時浪欠け荒浜反別49町余

### ⑤飯香岡八幡宮所蔵 金杉浜塩田古図（参考展示＝五井村分を除く）

満潮時の水面より低い位置に塩田を作る「入浜式」塩田。外周に堤防（塩田囲い堤）を築く。潮入り大堀は4か所、潮入り小堀はおよそ1800か所を数える。海水は毛細管現象で浸潤、上昇を繰り返しながらさらに天日で蒸発して「鹹水」（かんすい＝塩分を多量に含んだ水）を作る。鹹水は古図の陸側白いベルト状部分に置かれた「釜場」で煮詰めて製塩した。迂回悪水川が2本、米造りのための灌漑用水や生活排水などを海に落とした。（右の部分図＝君塚村旧名主家文書）

### ⑥見学コース＝

市原橋とボートピアから金杉浜塩田跡を遠望、塩窯場跡、塩田囲い堤跡、迂回水路跡をのぞみ、塩の神様を祀る磯部神社、共同墓地で出張り庄左衛門の墓などを探る。



村屋書上帳

上原市史稿  
金杉塩田

塩田

天明四年年  
一住居と地畵の古左取掛大下  
上原市史稿  
金杉塩田

塩田

天明四年年  
一住居と地畵の古左取掛大下  
上原市史稿  
金杉塩田

明治志田圖に加筆した金杉塩田の範圍

天明四年の村屋の出土跡



海難者供養  
古来八幡に住する者は後船にて江戸池へ送る他、集まる魚貝海苔等の収穫、当然生活と海に密接な、風波を起して生と死は、彼我の別なく海へ送る、以て毎年八月二十四日、一方、毎年八月二十四日、当寺に集まり「ほま道」と唱えて有縁無縁の海難者といふ行事があった。此竹筒を用いて、海へ送る十年比の供養塔が建てられ、朝暮に礼を送ったこと、昭和三十六年海難埋大さく谷を渡った、金回用池として造成されること、供養塔を移し奉安するも



塩田創設の瓦座を竹筒の蓋

明治志田圖に加筆した金杉塩田の範圍



南町

天明四年塩田台図

金杉川

北川

新田川

深内川

## 海苔干しが八幡五所海岸の風物詩に＝海苔養殖ものがたり

### ①波静かで遠浅、あさり、はまぐりがとれた八幡五所海岸

江戸時代の八幡五所海岸は遠浅で波静かな干潟地であったが、漁獲はなく漁業は成立しなかった。江戸時代後期、五所の名主が領主へ提出した「村鑑明細帳」(村現況届け)には、「農業の間稼ぎ(副業)に男女とも浜に出て、はまぐり、あさり取り、男は野方へ持ち出て商い」と課税の口実とならないようひたすら海浜の小寒村を強調している。海では自家消費程度のはぜやカレイなどの小魚がとれ食卓をうるわせた。

### ②明治31年宮吉長五郎を組合長に八幡五所漁業組合が創立、五所海岸での水産講習所(現在海洋大学)カキ養殖場を支援したが成功前に神奈川県金沢湾に移った。

### ③大正はじめから八幡、五所で海苔養殖が始まる

江戸後期の文政3年、江戸前の浅草海苔を房総で作ろうと悲願に燃えた江戸商人の近江屋甚兵衛が利根川河口の行徳、浦安、次いで養老川の五井村で「養殖」を持ちかけたが理解を得られず、南へ南へと下った小糸川河口の人見村でようやく許可がでる。初めて立てた竹ヒビに海苔が付着、成功をみた村人たちはこぞってこの技術の教えを乞い、次々と内房沿岸に広がった。市原では明治33年の青柳漁業組合が最初で、大正時代に五井、姉崎、八幡、五所へと続いた。市原の海苔は、生産高第一位の千葉県の中でもとくにツヤがあつておいしいと評判がよかった。

### ④厳しい厳冬期の海苔養殖作業

昭和33年最終期の八幡五所漁業組合員は2389戸、多くが兼業海苔養殖関係者で、共有漁業権面積164万坪、生産額は海苔、魚貝1億数千万円であった。生産に直結する柵場割りには毎年8月の抽選で決まった。1区画はイロハの何番と呼ばれ、長さ50m、幅2mほどの带状で、真ん中に広い舟道が作られた。持ち場が決まると2mごとに太い竹柱を立て、種菌を付けた海苔網を括り付けた。海苔養殖は厳冬期、素手作業の厳しい仕事であったが1日1日が勝負、早朝シガ波の中ベカ船を走らせた。しばらくすると海苔の胞子が伸びて網にぶら下がる。20cmほどで収穫。夜明けを待って大きな包丁で刻む。次いでヨシで作った海苔簾を積み上げ、その上に木わくを乗せ、海水に浮かせた刻み海苔の桶から、弁当箱状のマス一杯、熟練の早業で漉く。最後の行程は乾燥、海岸や町中の空き地にならべた海苔干し台にメグシで取り付けた。夕方、仕上がった海苔を点検、10枚1状に束ねて、海苔屋さんを持ち込むと品質が評価されてその場で現金がもらえた。

### ⑤八幡運河がかつての海岸線。トライヤル、ポートピア、県営住宅の再開発前は水田で、海との境に土手、古堤があった。八幡運河の先は葦の生い茂る干潟地で満潮時は土手近くまで波が押し寄せた。夏の海は子供たちの天国、海で泳いだり、舟で競争したり大自然を満喫した。

### ⑤漁業権放棄による海岸埋め立て＝昭和32年、千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、海が埋め立てられ、旭硝子、大日本インキ、富士電機、古河電工、三井造船などが相次いで操業を開始した。

### ⑥見学コース＝ポートピア手前の斜め路は一の膳横の新田川の旧水路跡、草刈堰中川溝からの灌漑用水を集めて海に流した。明治時代は水車小屋と柳の木のある風向明媚な行楽地で、散策に訪れる人が多かったという。八幡との村境いで、土手に大正10年海難者供養塔が立てられたが、埋め立ての時無量寺境内に移築、解説の碑文を加えた。また、北川と金杉川はかつて五所の海苔養殖の人たちの母港で海苔取りベカ舟が係留された。

\* トライヤル周辺の変遷＝明治7年図塩浜、16年図塩田、大正10年、昭和30年代図水田。昭和50年代以降の再開発＝ダイエー、イトーヨーカ堂、忠実屋、ポートピア、看護専門学校、トイザラス、トライヤル、高層マンション

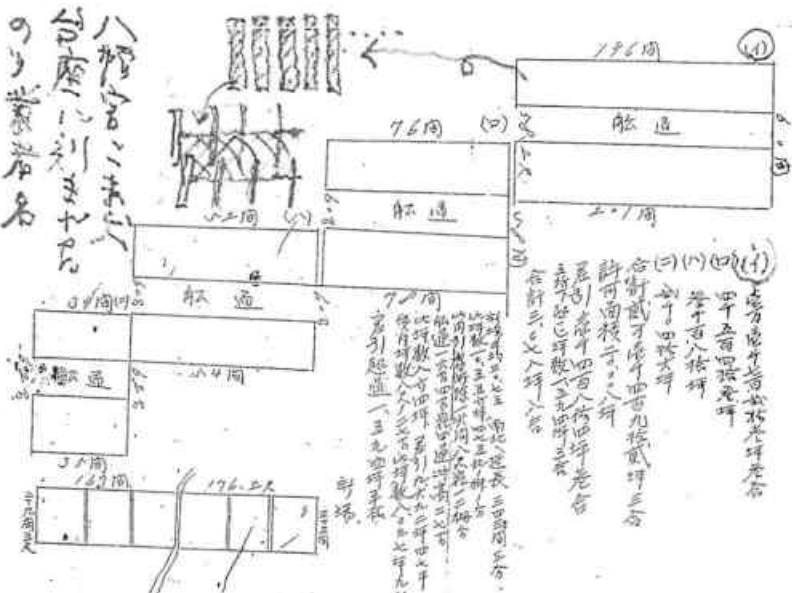


一更政正平中... (Vertical text columns describing historical events or local legends related to the area.)

上総ヨリ起キ立ニ一竹貫当 (天侍7年)

**記念碑**  
 明治廿五年... (Text describing the commemorative monument and its significance.)

- のり養殖者名
- \*上白石り奉 大正四年度 根本吉太郎、宮吉桂太郎、近藤善太、辻井重雄
  - 大正五年度 西川清五郎、宮原平吉、加藤茂吉、保坂長四郎、時田平次、丸山善吉、丸山健
  - 海苔業者連名 浜本町、関善八、石井兼吉、松田藤吉、国吉幾太郎、石橋藤吉、大宮善吉、関七蔵、白鳥善吉、吉田七次郎、白鳥藤次郎、根本勘次郎、観音町、松田勝、安藤若五郎、佐倉宇之吉、宇田川源蔵、加藤兼吉、菊地三五郎、小宮山要助、大野清三、山越弥吉、石井市蔵、土屋伊三郎、保坂初太郎、宮原伝蔵、松田龍吉、大川勘次郎、松田兵蔵、杉山市太郎、鈴木吉五郎、石井兼次郎、石井庄次郎、南町、田山登松、保坂常吉、白鳥定吉、石井安五郎、丸定吉、丸青七郎、村越善太郎、茂木芳郎、石井長五郎、宮吉喜八



昭和6年の「のり養殖場図」

**八幡町大観**

のり採取場

すだて漁場

五千坪 五十谷耕地

金刀比羅神社 富士見橋

観音舟溜 割交魚船

蓮田 八幡港

海浴場 放魚池 蓮田 八幡港

野球場 飯高八幡宮 公民館 投擲場

南町舟溜 佃専場 千葉場

五所舟溜 佃専場

五所新田耕地 五所公民分館

金杉橋 五所 北川橋 新田橋 新

至木更津

八幡町大観

八幡町公民館

「八幡町図」



のりはバケ? 特々場は8月の抽送を決まる



カキ屋のバカ舟へ向う

海苔干しが八幡五所海岸

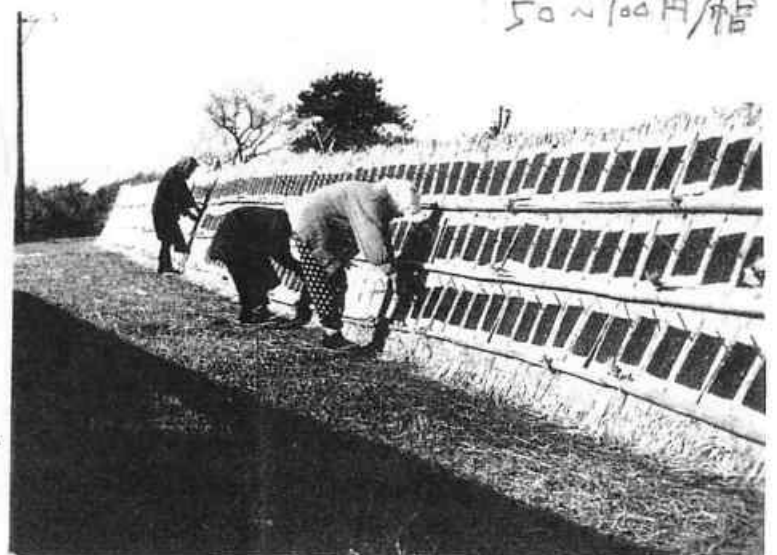
「冬の風物詩」

2021-5-20 八幡公民館  
「いきいき八幡宿」付録

海苔養殖「収穫の一日」



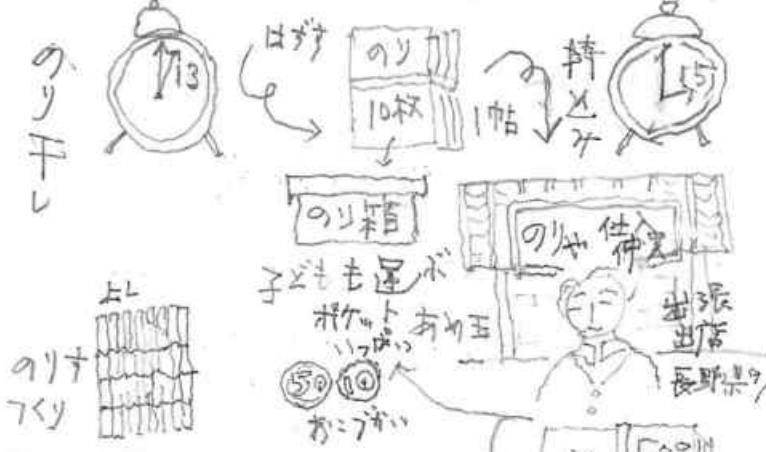
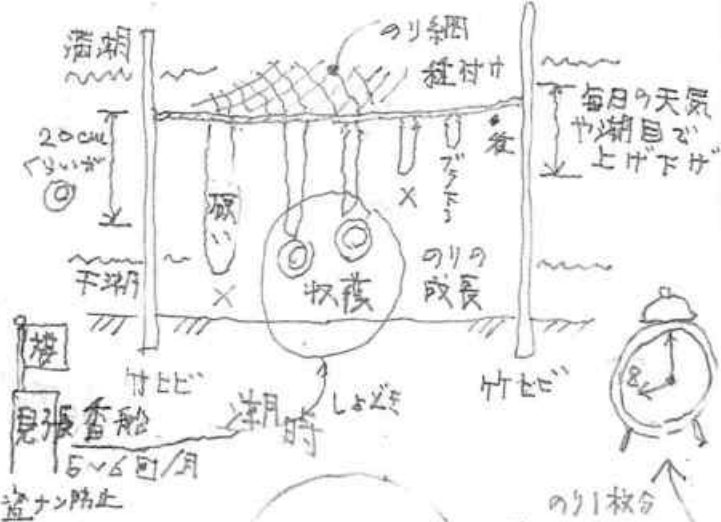
ピカリ1万円 / 正月が勝負  
一帖+(当時) 2~300帖/日  
50~100円/帖



メダックで固定。町々明き地を埋めつゝいたの干レ



収穫は歳冬期素午作業、海水で洗い



家族給出 現金  
子ども戦力  
登校前、下校後  
も手何  
4円札は主  
80

市教生セ第738号  
令和3年10月2日

山岸 弘明 様

市原市教育委員会  
教育長 林 充



令和3年度 いちはら市民大学教養講座（歴史探訪講座）の講師について（お礼）

仲秋の候、山岸様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。  
日頃から市原市の生涯学習推進に御理解、御協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、過日開催いたしました「いちはら市民大学」では、御多用のところ講師として御講義いただき、深く感謝申し上げます。

おかげをもちまして、受講生全員が有意義で充実した学習を行うことができました。

市原市では、今後も生涯学習による人づくり、まちづくりに取り組んでまいりますので、引き続きの御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただきます。

問合せ先 市原市教育委員会 生涯学習センター 担当 松下・桑原  
〒290-0081 市原市五井中央西 1-1-25 サンプラザ市原 10F  
TEL 0436-20-1180 FAX 0436-25-2577  
E-Mail syougaigakusyuu-center@city.ichihara.lg.jp

令和3年9月3日

山岸 弘明 様



市原市教育委員会

生涯学習部 生涯学習センター

担当 松下・桑原

電話 0436(20)1180

FAX 0436(25)2577

syougaiyakusyuu-center@city.ichihara.lg.jp

---

### 書類等送付のご案内

---

時下益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

この度は、いちほら市民大学教養講座「歴史探訪講座」の講師をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

下記のとおり送付させていただきますので、宜しく御査収ください。

---

- ① 講師依頼文
- ② 「いちほら市民大学」講義にあたってのお願い
- ③ 口座振替依頼書

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、②「いちほら市民大学講義にあたってのお願い」を御一読いただき、「いちほら市民大学参加者情報及び同意書(講師用)」を講義当日に担当へ御提出くださいますようお願いいたします。
- ③「口座振込依頼書」は、必要事項を御記載の上、講座当日までに担当へ提出いただくようお願いいたします。
- 謝金は、源泉徴収税(10.21%)が引かれた額を講座終了後にお振込いたしますが、振込までに1ヶ月ほどかかってしまう場合がございます。御不便をおかけし恐縮ですが、あらかじめ御了承ください。

以上、お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

市教生セ第659号  
令和3年9月3日

山岸 弘明 様

市原市教育委員会  
教育長 林 亮



令和3年度 いちはら市民大学教養講座「歴史探訪講座」の講師について (依頼)

初秋の候、山岸様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。  
日頃から市原市の生涯学習推進に御理解、御協力を賜り厚くお礼を申し上げます。  
さて、本市では、学習機会の提供による市民力の向上を目的に、「いちほら市民大学」を  
開催しております。  
この度、教養講座「歴史探訪講座」を、下記のとおり計画いたしましたので、御多用中の  
ところ大変恐縮に存じますが、御講義いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

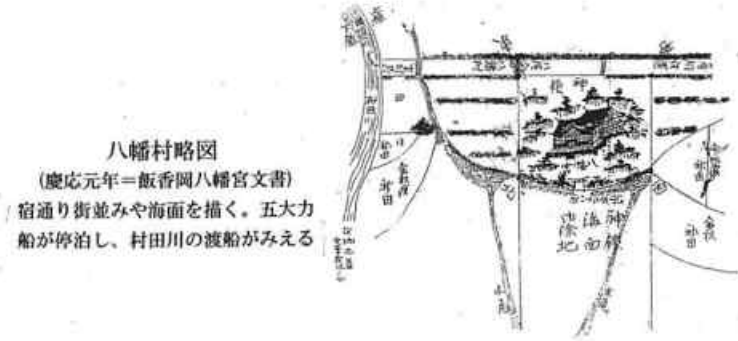
1. 日 時 令和3年9月29日(水) 13:30~16:30
2. 講座内容 『八幡町歩き』
3. 会 場 JR八幡宿駅周辺
4. 参加人数 20名程度
5. 謝 金 10,000円(源泉税及び交通費を含みます)
6. 感染症対策 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、別紙「いちほら市民大学講義  
にあたってのお願い」に記載された対策に御協力ください。
7. その他
  - ・講義に使用する資料等がございましたら、こちらで印刷をさせていただきますので、開催日の一週間前までに御連絡ください。
  - ・講義当日は、講義開始20分前には会場にお越しくください。

問合せ 市原市教育委員会 生涯学習センター 担当 松下・桑原  
〒290-0081 市原市五井中央西1-1-25 サンプラザ市原10F  
TEL 0436-20-1180 FAX 0436-25-2577  
E-Mail syougaiakusyu-center@city.ichihara.lg.jp





飯香岡真景  
(明治43年=飯香岡八幡宮飯木)  
八幡宮の清見の滝越しに八幡海岸  
と富士山を望む

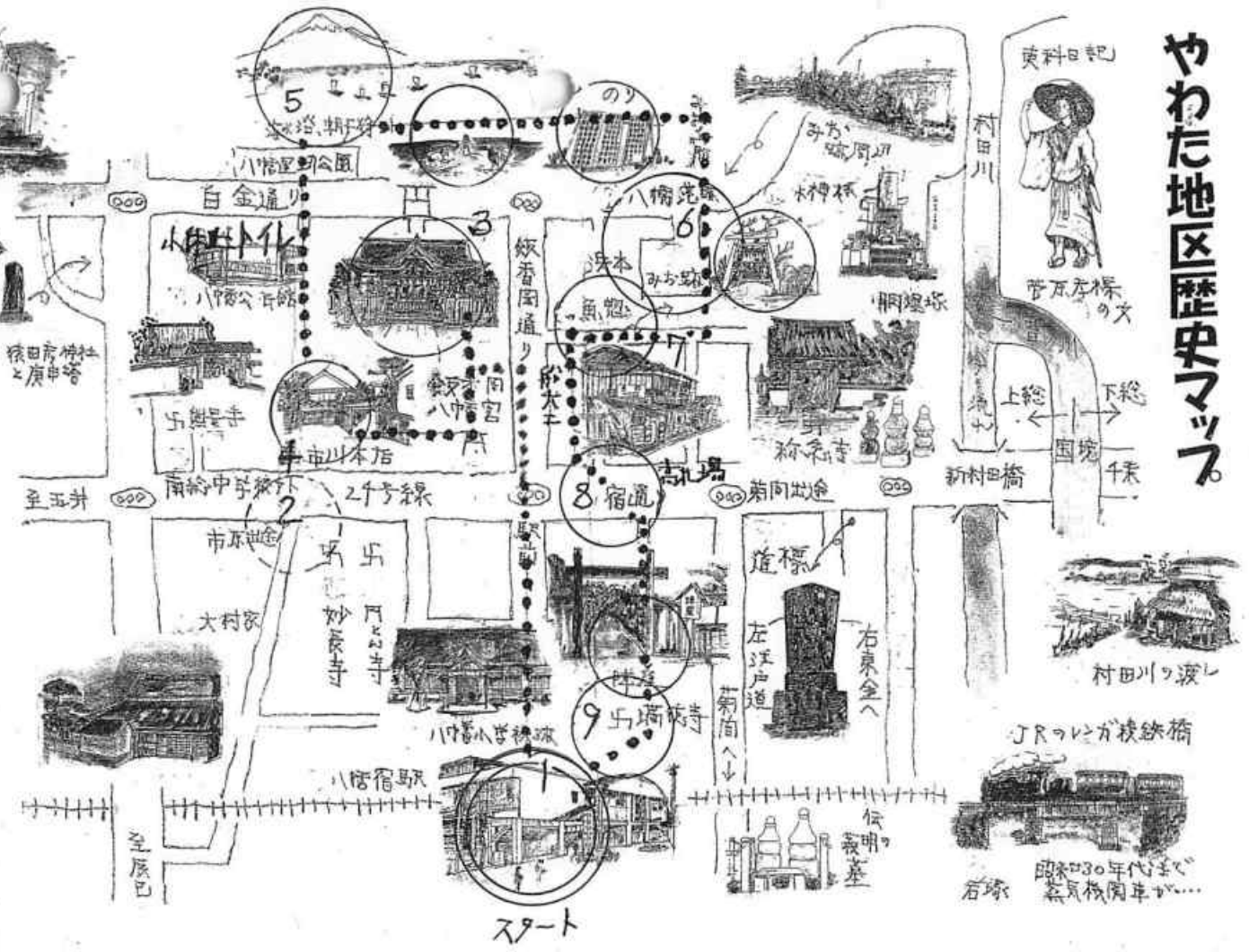


市原市生涯学習センター 市原市民大学「八幡町歩き」

# 「八幡さまと海の町」を歩く

令和3年9月29日(水曜日)

山岸弘明

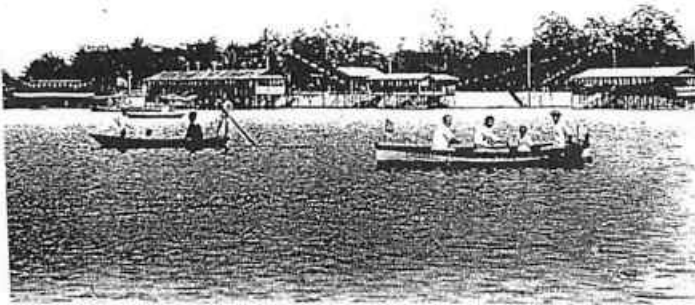


みなさんはむかし八幡が「海の町」だったことをご存知でしょうか。目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せました。気候温暖、加えて人柄も温厚、かつて五大力船が江戸・東京と結ぶ「物資供給拠点」として発展した八幡は「信仰」と海に支えられた「歴史の町」でもあったのです。昭和の八幡海岸は潮干狩りや海水浴場としてにぎわう一方、町びとたちの多くはわずかばかりの田んぼで農業のかたわら、海苔を養殖し、貝を拾って生活しました。「高度成長」が始まる千葉県は「京葉工業地帯」造成を計画します。海を埋め立てるといふ巨大プロジェクトに人々は驚きます。年寄りたちは先祖からの海をなくしてはいけないという意見でしたが、若い人たちの考えは違っていました。海苔や貝に頼る将来に不安を持つ一方、雇用拡大による新しい街づくりに期待したのです。

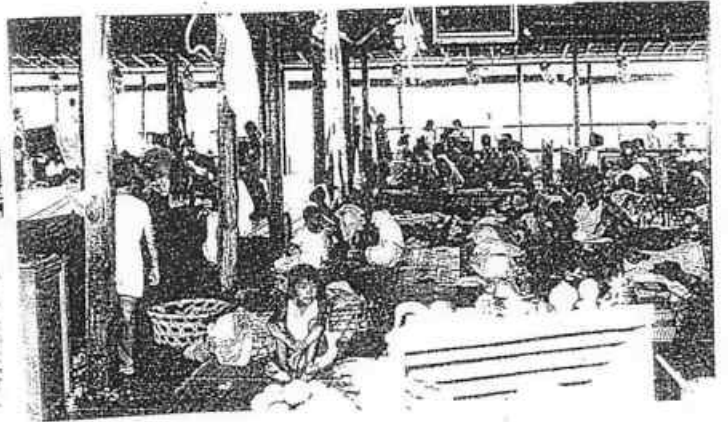
昭和32年、地元「八幡五所漁業協同組合」が「漁業権」を放棄、八幡海岸はあっという間に埋め立てられて、進出企業の大規模プラントが建設されました。あれから60余年、八幡町はすっかり様変わりしました。歴史や文化など海岸理立てで失った代償も決して少なくありません。しかし今日、工業都市としての八幡地区の発展は先祖伝来の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあったのです。きょうはみなさんを昔の「八幡さまと海の町」へとご案内します。



昭和30年代までの八幡海岸は潮干狩りや海水浴場として賑わった



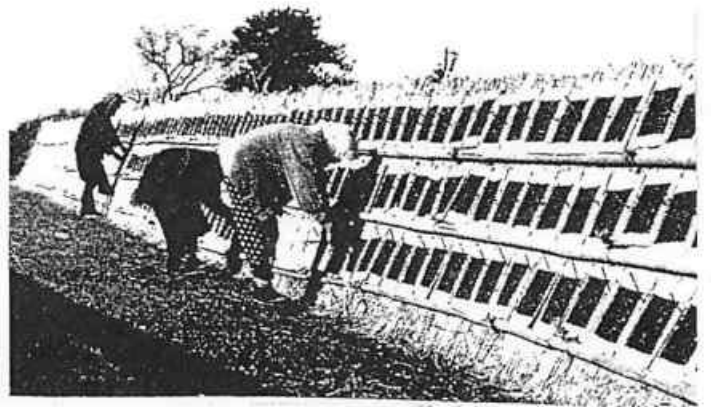
満潮時は運動公園まで潮が満ちた



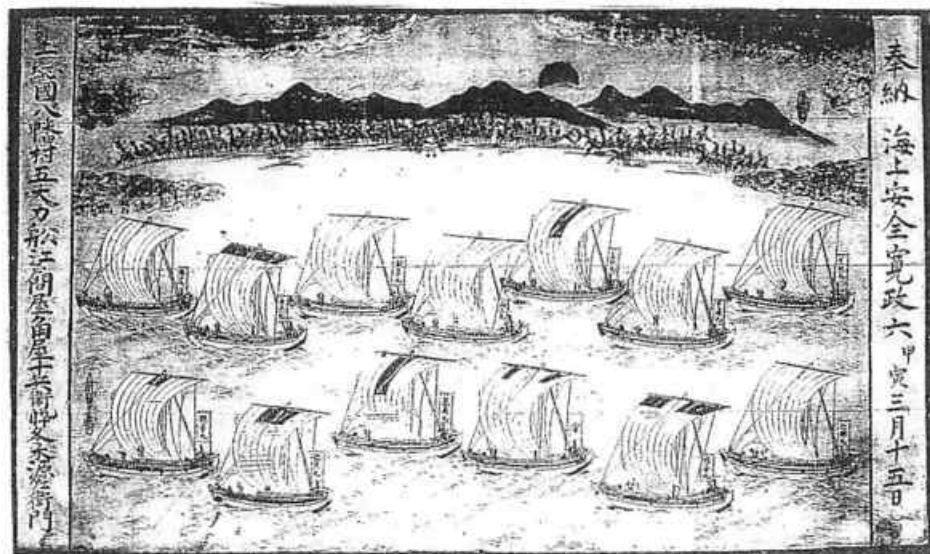
満員の海の家



現在の埋立て工場地帯



海岸の空き地は海苔干し場になった



### 八幡村五大力船々揃い図

(寛政6年=飯香岡八幡宮宝庫蔵展示大絵馬)

初代登亭北寿画、ピカソに影響を与えたとされる葛飾北斎の門人で、北斎の洋風版画を引き継いだ个性的作品が多い。市原台地の日の出、青松林などに片鱗、五大力船は船名や帆印、船乗りや積荷、手信号などが詳しく描写されている

### 八幡港の五大力船

五大力船は江戸内湾で発達した荷物運搬用海川両用の大型帆船である。積載量60~150石、長さ10~20m、乗組み3~4人。力強さを五大力菩薩に例えた。八幡湊は木更津とならぶ江戸への物資供給拠点で、船株30艘、實働およそ13艘、最盛期の明治末期に30艘を数えた。明治6年の八幡船改所文書群が現存、『市原の古文書研究』(同会=平成29年ほか)が船船台帳、出帆免状、積荷明細などを解析している。



令和元年の台風被害前の飯香岡八幡宮



見学する国重要文化財の本殿内部

## 1 始めに飯香岡八幡宮ありき=JR八幡宿駅をスタート

①八幡宿駅一帯の江戸時代は飯香岡八幡宮の別当寺(神社を構成した祈祷寺)で、菊間・若宮八幡神社の別当寺を兼ねた霊応寺といい、また若宮寺をも名乗った。本寺京都醍醐三宝院、飯香岡八幡宮朱印150石の内18石(+兼任支院分)を所領配当したが、檀家はなく、明治維新の「廃仏棄釈運動」で暴力的に破壊された。

②明治9年跡地の一部が円頓寺、称念寺をへた八幡小学校となる。以後、八幡のこどもたちの「学び舎」として親しまれたが昭和42年老朽化と児童数の増加で、駅裏側の現在地に移転した。

③明治45年国鉄木更津線開通にともなって八幡宿駅が開業。駅名は江戸時代の継立て宿場に由来、戦後まで両国始発の蒸気機関車が走った。当初は単線、西口のみ小さな駅舎であったが、平成7年、現在のモダン階上駅に装いを一新した。

## 2 物資の集散口～大多喜街道を結ぶ房総往還 (市原出途は見学しません)

- ①町を縦断するバス通り県道 24 号千葉鴨川線は、日本武尊や源頼朝伝説に遡る古道で、江戸時代は参勤交代の大名行列も通行した。通称「房総往還」は明治以降の呼び名で、かつて上りを江戸道、下りは木更津道、安房街道などの地名をあてた。市原出途には道案内のための「道標」が建てられ、明治時代、乗合い馬車発着所、人力車立場が置かれた。
- ②「国道 297 号線」はかつて大多喜街道、九十九里往還、鶴舞街道などと呼ばれ、市原出途を起点とした。八幡は市原の内陸部や外房方面からの年貢米や薪炭、材木、わら製品の集散拠点で、明治時代の市原出途は、問屋街として、また周辺に醤油醸造、佃煮などの地場産業が発展した。現在も当時の面影を伝える蔵やお宅が点在する。

## 3 神官に重文本殿と宝蔵蔵を特別案内していただきます～「飯香岡八幡宮」

- ①八幡の地名となった神社。社伝は白鳳年間(7世紀後半ころ)「一国一社八幡宮」、天平宝字 3 年(759)全国放生の地に勧請された国府八幡宮の 2 説を記す。八幡宮ははじめ「御影山」といい、往古、日本武尊が東征の途中着陣し、「この飯の香りしごくよろし」と宣われ、「飯香岡」の地名を賜ったとされる。鎌倉、室町、江戸幕府から手厚く保護され、源頼朝は治承 4 年 150 町歩を寄進、足利義満は至徳元年銘神輿 4 基を、足利義政は長祿 3 年現本殿を建立寄進し、徳川家康は天正 19 年 150 石の朱印を定めた。今回はとくに平澤牧人神官に社殿と宝蔵庫を特別解説していただきます。
- ②本殿(国重要文化財)=外観は力強く簡素、室町中期の特色を伝える。内陣は義満寄進神輿を収納する特別な造りになっている。拝殿(県指定文化財)=屋根の唐・千鳥破風や彫刻、海老虹梁、組み物など、江戸初期の建築美が調和している。
- ③宝蔵庫=五大力船などの大絵馬、義満寄進みこし、徳川家康銘大太刀、当世具足
- ④柳楯神事=秋季大祭の朝、市原台地で調整された柳の楯を神前に奉納する特殊神事
- ⑤夫婦いちょう、逆さいちょう、放生池、1 の鳥居、出羽三山・富士講塚、市原出途道標

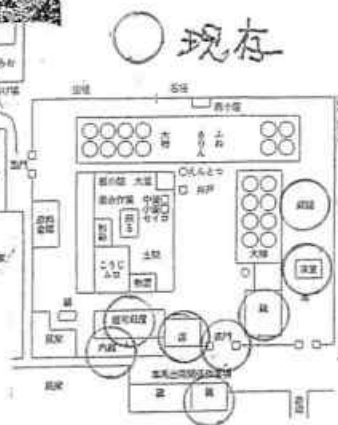
## 4 旧町家の面影を残す～天保時代創業の「市川本店」醤油醸造所跡と帳場

- ①市川本店は八幡宮創設以来の旧社家で八幡屈指の旧家。古来八幡宮神職の副業が認められ、江戸後期天保年間に醤油醸造所を創業、酒類問屋などを巾広く手がけた。「千葉県博覧図」がその繁栄を伝える。子孫が母家と帳場、門、蔵など江戸後期の歴史的建物に現住される。また明治維新时期の当主が八幡宿戸長(村長)となり、千葉県創設期の戸長文書や五大力船文書などの貴重文書およそ 5 万点を保管されている。

小休止(トイレタイム)=八幡公民館(進行状況で変更することがあります)

## 5 東京から観光バスで潮干狩りに押し寄せた「八幡海岸」～いまは工場街

- ①八幡運動公園の八幡運河先の埋立て工場街はかつて遠浅で波静かな干潟地。満潮時は岸壁まで潮が押寄せ、干潮時は 4 km ほど砂浜になった。海岸堤防にそって「白砂青松」が五井鼻に連なり、帆船が浮かぶ大海原に遠く富士山や丹沢山系が望めた。
- ②昭和の戦前、戦後期は、東京最寄りの潮干狩り場、海水浴場として観光バスを連ねた学童たちで賑わった。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が立ち並び、運動公園の八幡中学校校庭は臨時のバス駐車場になった。夏の海は子供たちの天国、海で泳ぎ、舟を持ちだして大自然を満喫した。



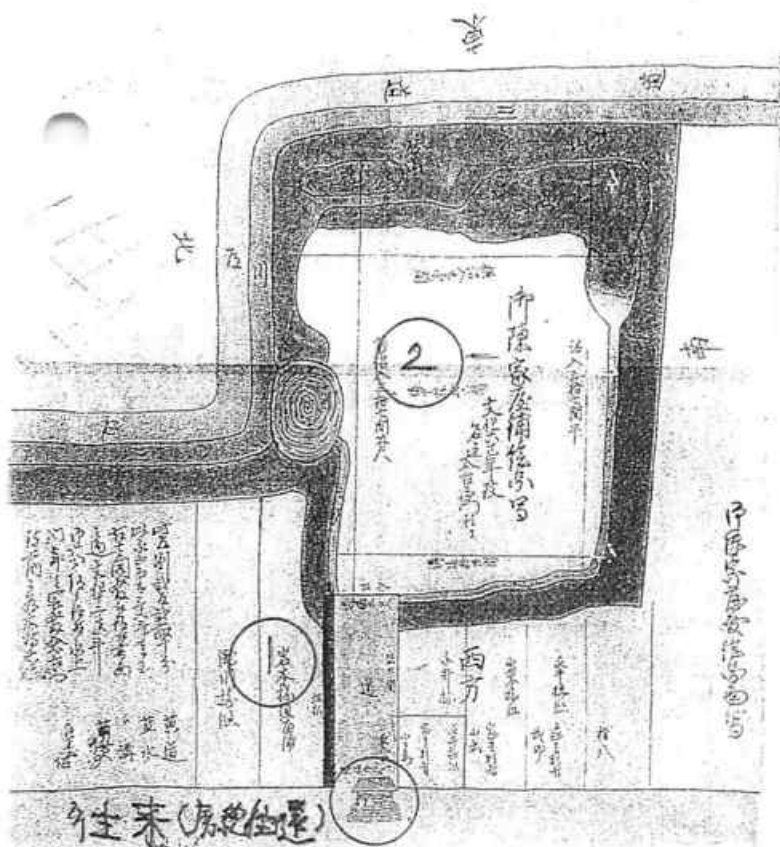
明治の「博覧図」に描かれた市川本店醤油醸造所



五大力船の本拠だった浜本町

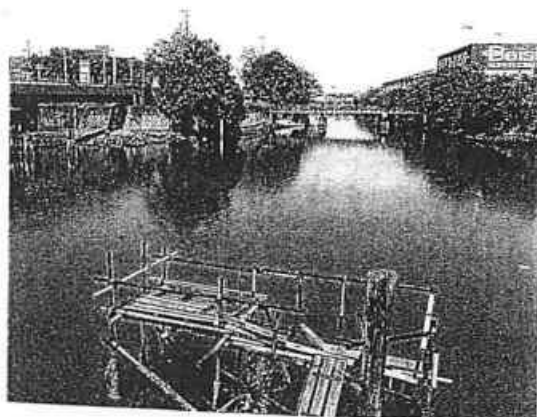


宿場町の名残りを伝える宿通り



往來(原史伝)

屋号じんや家に伝わる拝領御陣家屋敷絵図面



ベイシア周辺に広がる船溜り跡

③海はまた、八幡の人たちの生活の場で仕事場でもあった。大正初めから「千葉海苔」の養殖が始まる。養殖はつらい厳冬期の素手作業、早朝シガ波をかきわけてベカ船を走らせた。海苔の胞子が伸びたところで収穫。夜明けを待って大きな包丁で刻む。どの家からもトントンと海苔を刻む音が響いた。次いでヨシで作った海苔簾に刻み海苔を漉く。最後は乾燥、海岸や町中の空き地にならんだ海苔干し台は冬の風物詩となった。

④漁業権放棄による海岸埋め立て=昭和32年、千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、海が埋め立てられ、旭硝子、大日本インキ、富士電機、古河電工、三井造船などが相次いで操業を開始した。

## 6 江戸へ米穀、薪炭、材木を運んだ～五大力船の母港・浜本町みお跡

①江戸時代の八幡湊は南町みおと浜本町みおの2港で構成した。八幡は遠浅で大きな船が接岸できなかったため、人工運河の「みお」を開いた。「南町みお」は慶長19年、八幡村を所領とした本多正信、正純父子、永井直勝3氏の年貢津出し湊として構築、「浜本町みお」は船主仲間が築いた。「みお筋」と「豎みお」は航路で、「横みお」は船だまり(港)。積荷は海上ではしけ舟が中継した。満ち潮の時、横みおや雁田川を広げたベイシアや胴埋塚、称念寺裏の船溜りに停めた。八幡湊は巨大消費都市・江戸への米穀、薪炭、木材、わら製品の供給拠点として、また帰り船で衣料品や酒、日常雑貨、江戸文化を運んだ。八幡の五大力船は江戸時代は常時13、4艘、最盛期の明治後期は30艘を数え、上総屈指の経済都市・八幡町発展の担い手になった。のち鉄道と自動車普及、その役割を終えて消滅した。

②「大海住(おおわたつみ)神社」は、古来八幡の五大力船々乗りたちが崇拝した水神様。力石は船乗りたちが力くらべした名残という。

## 7 市原の中心地として発展した五大力船の町～河岸地跡

①昭和30年代の海岸埋立てで、みお筋は八幡運河となり、豎みおと横みおは住宅街や集会所に替わった。将棋盤のように区画された浜本町の街並みは旧河岸地で、伊勢町通り、横町通り、八軒町、倉町、川岸などの街区名が伝わる。廻船問屋や船主、船乗り、船大工、はしけや輸送作業の人たちが居住、米穀、薪炭などの商店や問屋、料亭などが軒を並べた。かつて「屋号」で呼び合ったが、いまでは知る人も少なくなった。大正から昭和時代、五大力船に代わって海苔養殖が始まり、あさりのつくだ煮工場や潮干狩り客で再び活況を呈した。あれから60年余り、町に海はなく、潮の香り一つ漂うことはない。すでに死語にも等しい「海の町」の面影を探る。

②豎みお、横みお跡、荷揚げ場跡、佃煮工場跡、漁業協同組合跡、蔵跡、廻船問屋、船持ち、船乗り、はしけの人たち、湯屋跡

③浜本町一列目の旧街区「伊勢町」「倉町」あたりは米穀、薪炭など大店が多かった

④魚惣=明治37年創業の料亭、海の家、昔の八幡に詳しいアキおばあちゃんち

⑤元船大工棟梁宅=近江の出。信長琵琶湖船大工子孫? 代々八幡の五大力船を造る

## 8 房総往還 宿通りと伝八幡陣屋跡

①武道館前の小さな交差点が旧房総往還「八幡宿」の中心地で高札場跡、本陣は年番名主の持回りで、八幡組合村15か村寄せ場大総代を兼ねた。高札場を中心に継立て伝馬所、旅館や木賃宿、大型商店や問屋に混じって小商いが並んだ。宿通りを参勤交代の久留里黒田藩、五井有馬藩などの房総諸藩、大名行列が進み、旅人たちが江戸をめざした。

②八幡武道館とじんや駐車場一帯は元禄時代の八幡堀藩1万石陣屋跡といわれ、また八幡

大久保藩 1 万石陣屋ともされる。文化 6 年旗本 3400 石永井家の名主を勤めた鈴木家が陣屋跡地と「陣屋名乗り」を許された拝領絵図面を所蔵する。往還から 50m ほどの引込み道があり、川、溝とする堀、土塁に相当する竹山が囲んだ。東西 37 間×南北 15 間、面積およそ 6 百坪、図面は年貢米蔵を中心とした地方陣屋を想定させる。明治から戦中期は醤油と味噌醸造所を興し、鈴木家から八幡・市原町長と初代市原市長が出た。

## 9 国府台の戦いで壮絶敗死～足利義明ゆかりの満徳寺(省略することがある)

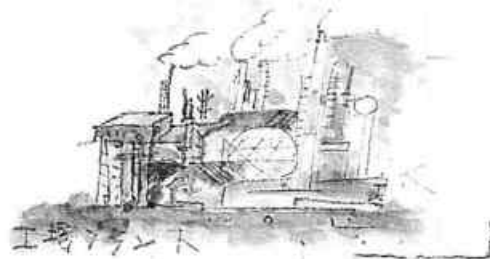
- ①足利義明は関東公方と上杉管領家が戦った関東動乱期、古河公方足利政氏 2 男に誕生、真里谷武田氏、安房里見氏の招聘で八幡、小弓公方を名乗って、房総 3 か国を領有したが、天文 7 年関東の覇権をかけた小田原・北条氏綱との「国府台の戦い」に敗死した。飯香岡八幡宮、霊応寺、八幡御所跡とともに義明ゆかり地で、100m ほど離れた境外墓地「御墓堂」に伝義明夫妻の墓がある。
- ②出発点の八幡宿駅に戻る。お疲れさまでした。

## 10 今回見学できなかった八幡の見どころ～後日ぜひ回ってください

- ①無量寺(浄土宗)=伝白鳳年間創建、八幡海岸に出現した「阿弥陀如来像」を本尊とする。八幡宮、千葉氏ゆかり寺で、「伝千葉康胤中世五輪塔」や不動明王像、巡拝塔、回国塔など石仏が優れる。旧盆の「おえんまさま」はえんま十王像などを公開する。
- ②称念寺(〃)=天正 3 年生実・大蔵寺念仏道場として創建、参道の経塔は増上寺住職・祐天上人の書。山門近くに並ぶ 50 基ほどの小型五輪塔は圧巻、すべて無銘だが、室町中後期、僧侶か武士層の供養塔と考えられ、町域造成を知る上からも重要だ。石仏にみるべきものが多く、著名日本画家・山口達画伯の作品が本堂や鐘楼などを飾っている。
- ③円頓寺(日蓮宗)=浜野・本行寺末、「上総七里法華」の祖・日泰上人創建で没寺。明治 7 年当寺本堂において八幡小学校を創立、令和元年の台風被害で本堂を大破、現在改造中、毎年の新春初祈禱会で「水行」が行われる。
- ④妙長寺(〃)=池上本門寺末。八幡の寺院ではもっとも古い正長 2 年、日行聖人創建という。本堂前の日蓮聖人座禅像は日行聖御作、千葉県は日蓮の誕生地で遺跡も多いが、石像ここ以外にはみあたらないという。
- ⑤胴埋塚=室町時代の関東動乱、「小弓城の戦い」で敗れた千葉康胤が村田川で討ち取られ胴体を埋葬したとされる。
- ⑥猿田彦神社と庚申塔=猿田彦は国つ神の一つで八幡宮神話ともかかわる。かたわらの碑が神社の由来を記し、庚申塔は元禄 6 年、村人 12 名を刻む。
- ⑦菊間出途=古くからの八幡と菊間をつなぐ間道。明治元年沼津藩・水野忠敬 5 万石が菊間に転封したことで、引込み大手道となったが、4 年に廃藩となった。
- ⑧観音町入口の東金みち道標=かつての八幡宿入口。宿の出入口には村への災害や悪疫の進入を守る「庚申塔」が立てられた。安永 10 年碑は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を記す。茂原をへて東金に通じた間道で一部が現存する。
- ⑨境川と村田川の渡し=村田川は上総、下総の境川で、房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代橋は許されず、旅人たちは干潮時は歩渡り、水多いとき片道 2 文の渡し船を使った。明治 7 年架橋。戦後、河川の改修工事で 100m ほど移動、旧村田川と渡船場は現在、村田川公園になっている。



飯香岡真景、南総八幡  
 (明治43年=飯香岡八幡宮版木)  
 八幡宮の清見の滝越しに、洋々と  
 広がる東京湾と富士山を遠望。か  
 つての八幡海岸が偲ばれる。



猿田彦神社  
 と庚申塔

000

白金通



五郎寺

④

至五井

000

南総中予

②

市原出金

大村家

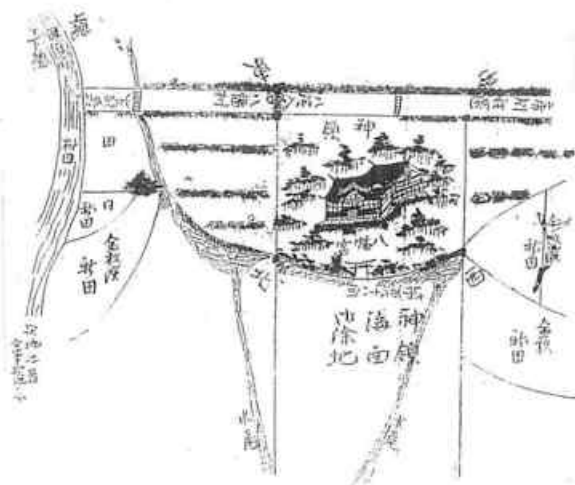


至辰巳

八幡村略図

(慶応元年=飯香岡八幡宮文書)

宿通り街並みや海面を描く。八幡湊に  
 五大力船が停泊し、村田川の渡し船も  
 描かれている。



ふるさと市原をつなぐ連絡会

市原フィールドマップ第1回「八幡宿」

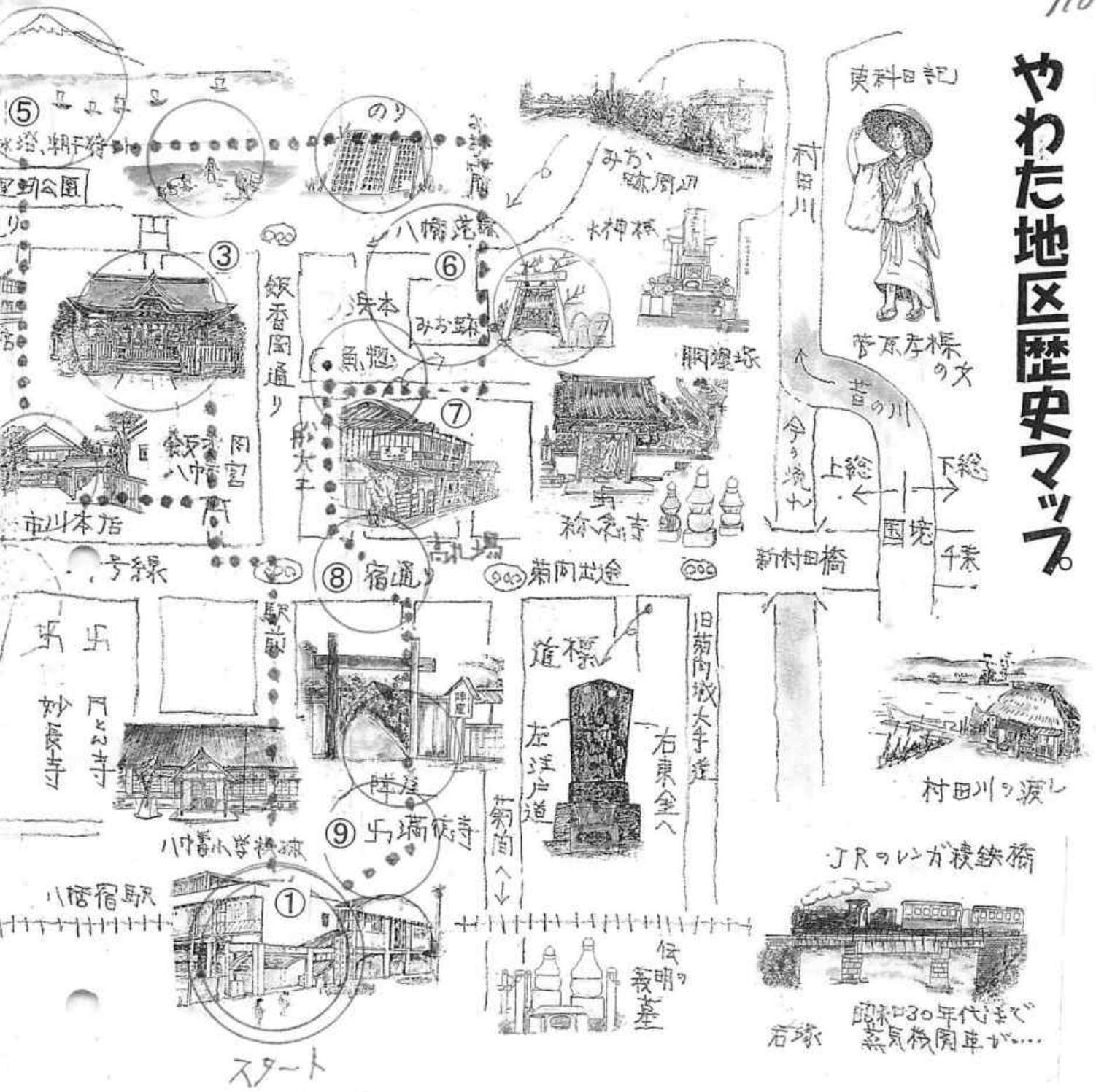
「八幡さまと海の町」を歩く

令和3年10月20日(水曜日)

山岸弘明



# やわた地区歴史マップ

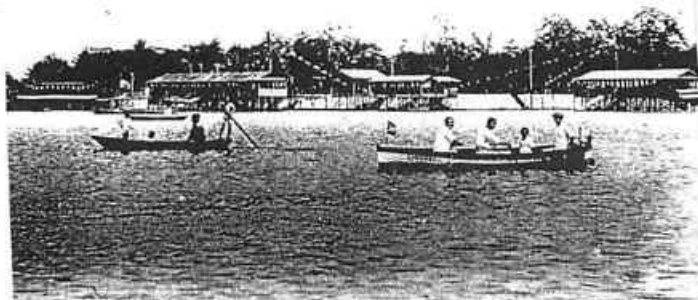


みなさんはむかし八幡が「海の町」だったことをご存知でしょうか。目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せました。気候温暖、加えて人柄も温厚、かつて五大力船が江戸・東京と結ぶ「物資供給拠点」として発展した八幡は「信仰」と海に支えられた「歴史の町」でもあったのです。昭和の八幡海岸は潮干狩りや海水浴場としてにぎわう一方、町びとたちの多くはわずかばかりの田んぼで農業のかたわら、海苔を養殖し、貝を拾って生活しました。「高度成長」が始まると千葉県は「京葉工業地帯」造成を計画します。海を埋め立てるといふ巨大プロジェクトに人々は驚きます。年寄りたちは先祖からの海をなくしてはいけないという意見でしたが、若い人たちの考えは違っていました。海苔や貝に頼る将来に不安を持つ一方、雇用拡大による新しい街づくりに期待したのです。

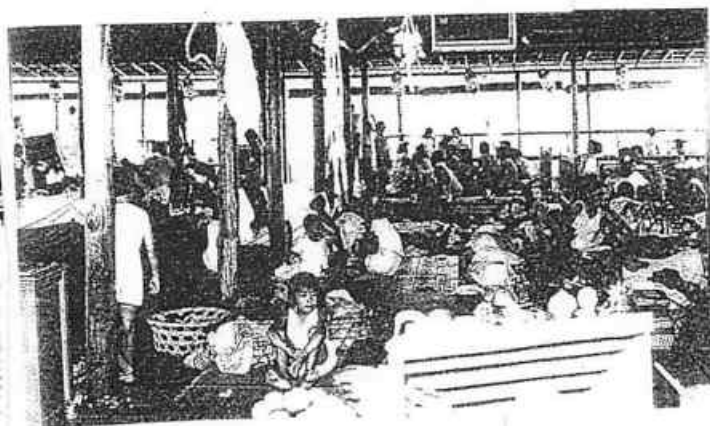
昭和32年、地元「八幡五所漁業協同組合」が「漁業権」を放棄、八幡海岸はあっという間に埋め立てられて、進出企業の大型プラントが建設されました。あれから60余年、八幡町はすっかり様変わりしました。歴史や文化など海岸埋立てで失った代償も決して少なくありません。しかし今日、工業都市としての八幡地区の発展は先祖伝来の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあったのです。きょうはみなさんを昔の「八幡さまと海の町」へのご案内します。



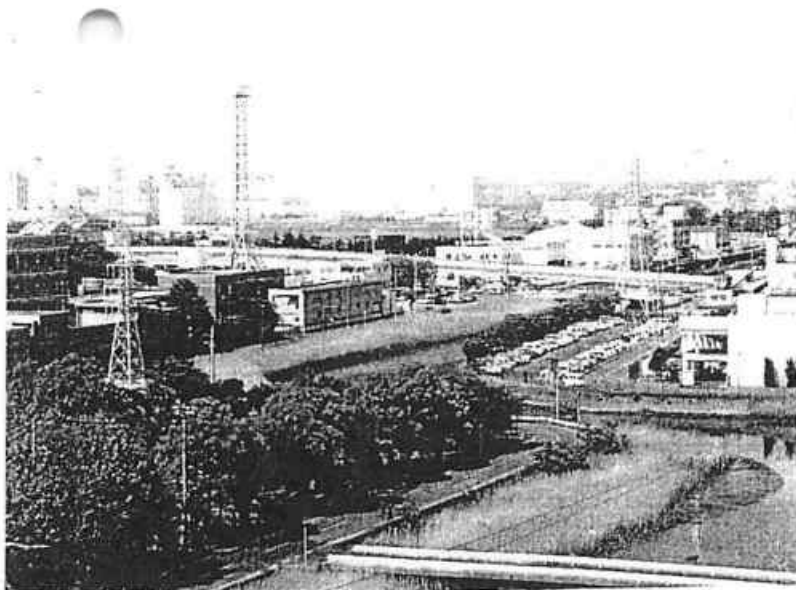
昭和30年代までの八幡海岸は潮干狩りや海水浴場として賑わった



満潮時は運動公園まで潮が満ちた



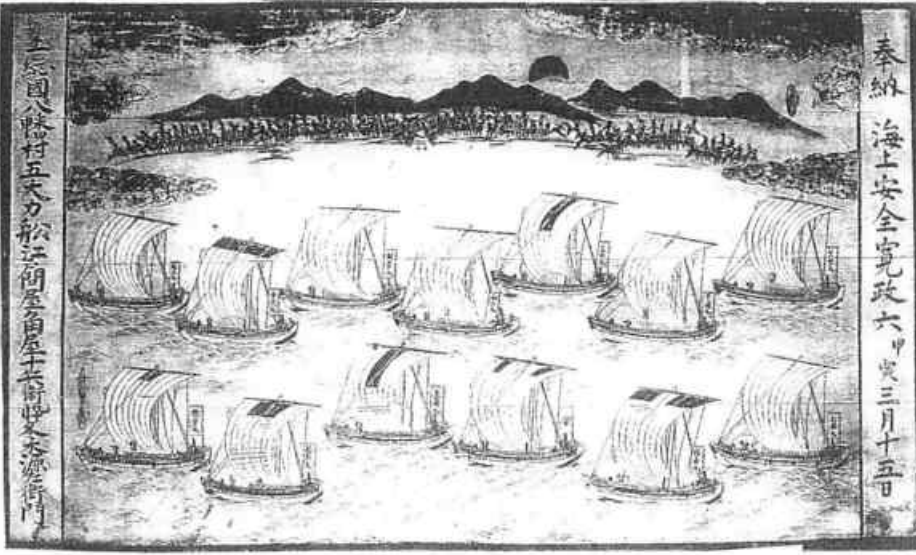
満員の海の家



現在の埋立て工場地帯



海岸の空き地は海苔干し場になった



八幡村五大力船々揃い図

(寛政6年=飯香岡八幡宮宝蔵庫展示大絵馬)

初代登亭北寿画。ピカソに影響を与えたとされる葛飾北斎の門人で、北斎の洋風版画を引き継いだ個性的作品が多い。市原台地の日の出、青松林などに片鱗、五大力船は船名や帆印、船乗りや積荷、手信号などが詳しく描写している。

八幡港の五大力船  
五大力船は江戸内湾で発達した荷物運搬用海川両用の大型帆船である。積載量60~150石、長さ10~20m、乗組み3~4人。力強さを五大力菩薩に例えた。八幡湊は木更津とならぶ江戸への物資供給拠点で、船株30艘、実働およそ13艘、最盛期の明治末期に30艘を数えた。明治6年の八幡船改所文書群が現存、地元「市原の古文書研究会」が船舶台帳、出帆免状、積荷明細などを解析している。



令和元年の台風被害前の飯香岡八幡宮



見学する国重要文化財の本殿内部

1 始めに飯香岡八幡宮ありき=JR八幡宿駅をスタート

- ①八幡宿駅一帯の江戸時代は飯香岡八幡宮の別当寺(神社を構成した祈祷寺)で、菊間・若宮八幡神社の別当寺を兼ねた霊応寺といい、また若宮寺をも名乗った。本寺京都醍醐三宝院、飯香岡八幡宮朱印150石の内18石(+兼任支院分)を所領配当したが、檀家はなく、明治維新の「廃仏棄釈運動」で暴力的に破壊された。
- ②明治9年跡地の一部が円頓寺、称念寺をへた八幡小学校となる。以後、八幡のこどもたちの「学び舎」として親しまれたが昭和42年老朽化と児童数の増加で、駅裏側の現在地に移転した。
- ③明治45年国鉄木更津線開通にともなって八幡宿駅が開業。駅名は江戸時代の継立て宿場に由来、戦後まで両国始発の蒸気機関車が走った。当初は単線、西口のみ小さな駅舎であったが、平成7年、現在のモダン階上駅に装いを一新した。

## 2 物資の集散口～大多喜街道を結ぶ房総往還（市原出途は見学しません）

- ①町を縦断するバス通り県道 24 号千葉鴨川線は、日本武尊や源頼朝伝説に遡る古道で、江戸時代は参勤交代の大名行列も通行した。通称「房総往還」は明治以降の呼び名で、かつて上りを江戸道、下りは木更津道、安房街道などの地名をあてた。市原出途には道案内のための「道標」が建てられ、明治時代、乗合い馬車発着所、人力車立場が置かれた。
- ②「国道 297 号線」はかつて大多喜街道、九十九里往還、鶴舞街道などと呼ばれ、市原出途を起点とした。八幡は市原の内陸部や外房方面からの年貢米や薪炭、材木、わら製品の集散拠点で、明治時代の市原出途は、問屋街として、また周辺に醤油醸造、佃煮などの地場産業が発展した。現在も当時の面影を伝える蔵やお宅が点在する。

## 3 神官に重文本殿と宝蔵庫を特別案内していただきます～「飯香岡八幡宮」

- ①八幡の地名となった神社。社伝は白鳳年間(7世紀後半ころ)「一国一社八幡宮」、天平宝字 3 年(759)全国放生の地に勧請された「国府八幡宮」の 2 説を記す。八幡宮ははじめ「御影山」といい、往古、日本武尊が東征の途中着陣し、「この飯の香りしごくよろし」と宣われ、「飯香岡」の地名を賜ったとされる。鎌倉、室町、江戸幕府から手厚く保護され、源頼朝は治承 4 年 150 町歩を寄進、足利義満は至徳元年銘神輿 4 基を、足利義政は長祿 3 年現本殿を建立寄進し、徳川家康は天正 19 年 150 石の朱印を定めた。今回はとくに平澤牧人神官に社殿と宝蔵庫を特別解説していただきます。
- ②本殿(国重要文化財)=外観は力強く簡素、室町中期の特色を伝える。内陣は義満寄進神輿を収納する特別な造りになっている。拝殿(県指定文化財)=屋根の唐・千鳥破風や彫刻、海老虹梁、組み物など、江戸初期の建築美が調和している。
- ③宝蔵庫=五大力船などの大絵馬、義満寄進みこし、徳川家康銘大太刀、当世具足
- ④柳楯神事=秋季大祭の朝、市原台地で調整された柳の楯を神前に奉納する特殊神事
- ⑤夫婦いちょう、逆さいちょう、放生池、1 の鳥居、出羽三山・富士講塚、市原出途道標

## 4 旧町家の面影を残す～天保時代創業の「市川本店」醤油醸造所跡と帳場

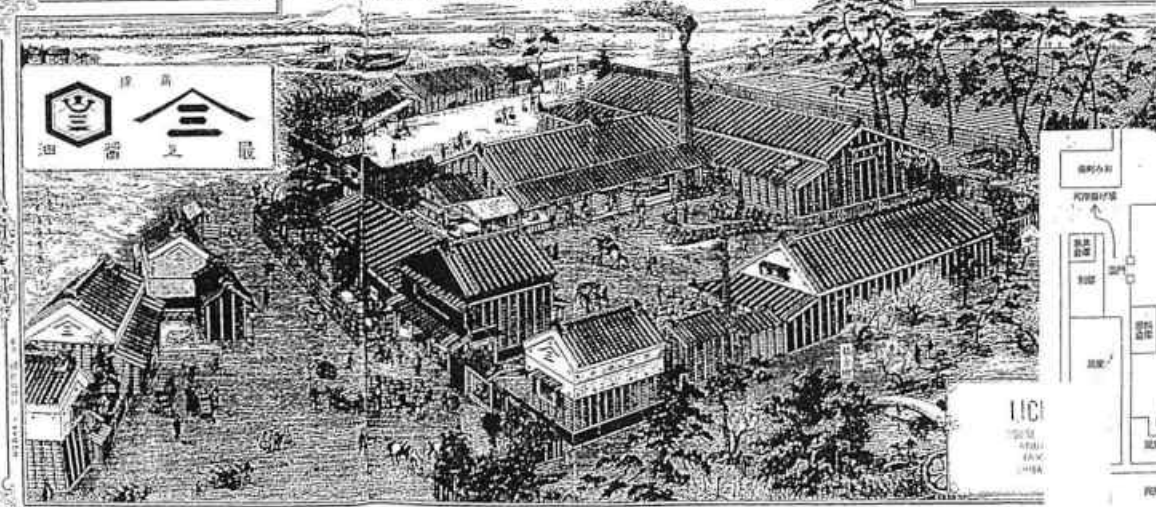
- ①市川本店は八幡宮創設以来の旧社家で八幡屈指の旧家。古来八幡宮神職の副業が認められ、江戸後期天保年間に醤油醸造所を創業、酒類問屋などを巾広く手がけた。「千葉県博覧図」がその繁栄を伝える。子孫が母家と帳場、門、蔵など江戸後期の歴史的建物に現住される。また明治維新期の当主が八幡宿戸長(村長)となり、千葉県創設期の「戸長文書」や「五大力船船改所文書」などの貴重文書およそ 5 万点を保管されている。

小休止(トイレタイム)=八幡公民館

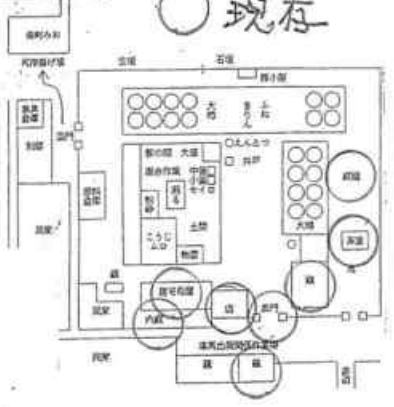
## 5 東京から観光バスで潮干狩りに押し寄せた「八幡海岸」～いまは工場街

- ①八幡運動公園の八幡運河先の埋立て工場街はかつて遠浅で波静かな干潟地。満潮時は岸壁まで潮が押寄せ、干潮時は 4 km ほど砂浜になった。海岸堤防にそって「白砂青松」が五井鼻に連なり、帆船が浮かぶ大海原に遠く富士山や丹沢山系が望めた。
- ②昭和の戦前、戦後期は、東京最奇りの潮干狩り場、海水浴場として観光バスを連ねた学童たちで賑わった。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が立ち並び、運動公園の八幡中学校校庭は臨時のバス駐車場になった。夏の海は子供たちの天国、海で泳ぎ、舟を持ちだして大自然を満喫した。

宅院石川市商賈仲頼河邊醸油醬町橋八郎原市國總上縣管子



○ 現在



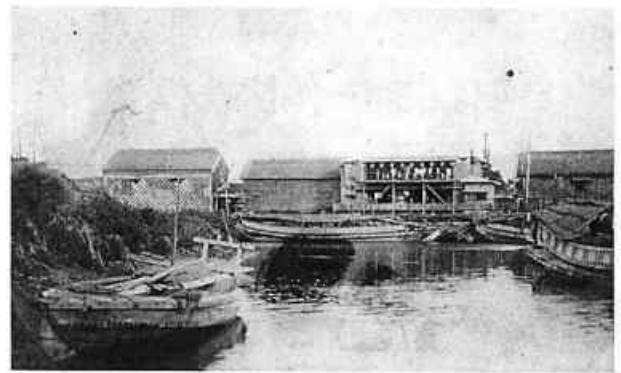
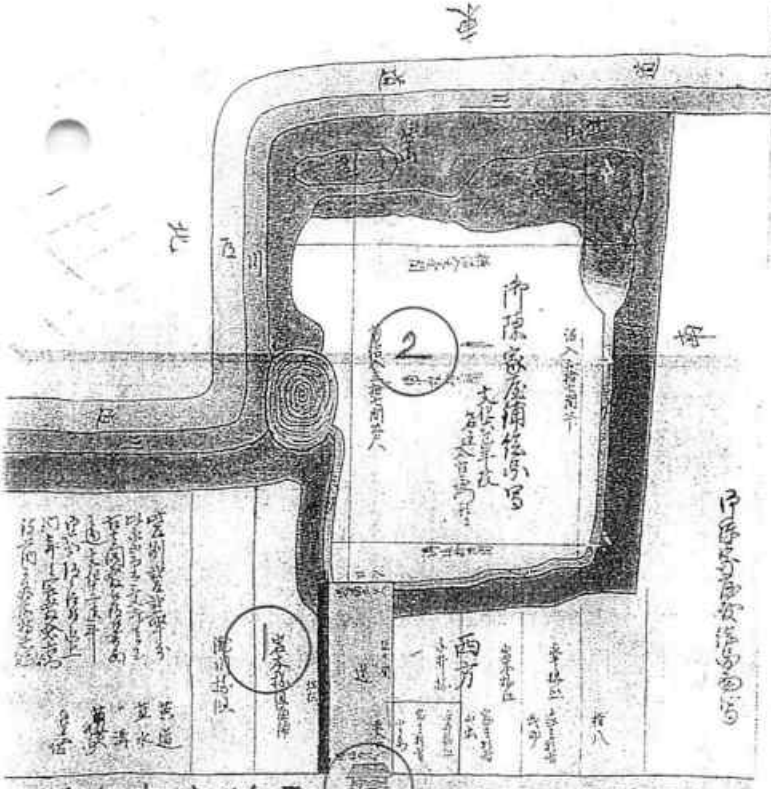
明治の「博覧図」に描かれた市川本店醤油醸造所



五大力船の本拠だった浜本町



宿場町の名残りを伝える宿通り



八幡港の縦みおと横みおの古写真

往來(原住還)

屋号じんや家に伝わる拝領御陣家屋敷絵図面

③海はまた、八幡の人たちの生活の場で仕事場でもあった。大正初めから「千葉海苔」の養殖が始まる。養殖はつらい厳冬期の素手作業、早朝シガ波をかきわけてベカ船を走らせた。海苔の胞子が伸びたところで収穫。夜明けを待って大きな包丁で刻む。どの家からもトントンと海苔を刻む音が響いた。次いでヨシで作った海苔簾に刻み海苔を漉く。最後は乾燥、海岸や町中の空き地にならんだ海苔干し台は冬の風物詩となった。

④漁業権放棄による海岸埋め立て=昭和 32 年、千葉県が進めた「京葉工業地帯」造成計画に協力して漁業権を放棄、海が埋め立てられた。

### 6 江戸へ米穀、薪炭、材木を運んだ～五大力船の母港・浜本町みお跡

①江戸時代の八幡湊は南町みおと浜本町みおの 2 港で構成した。八幡は遠浅で大きな船が接岸できなかつたため、人工運河の「みお」を開いた。「南町みお」は慶長 19 年、八幡村を所領した本多正信、正純父子、永井直勝 3 氏の年貢津出し湊として構築、「浜本町みお」は民間の船主仲間が築いた。「みお筋」と「豎みお」は航路で、「横みお」は船だまり(港)。積荷は海上ではしけ舟が中継した。満ち潮の時入出港、横みおや雁田川を広げたベイシアや胴埋塚、称念寺裏の船溜りに停泊した。八幡湊は巨大消費都市・江戸への米穀、薪炭、木材、わら製品の供給拠点として、また帰り船で衣料品や酒、日常雑貨、江戸文化を運んだ。八幡の五大力船は江戸時代は常時 13、4 艘、最盛期の明治後期は 30 艘を数え、上総屈指の経済都市・八幡町発展の担い手になった。のち鉄道と自動車が普及すると、その役割を終えて消滅した。

②「大海住(おおわたつみ)神社」は、古来八幡の五大力船々乗りたちが崇拝した水神様。力石は船乗りたちが力くらべした名残という。

### 7 市原の中心地として発展した五大力船の町～河岸地跡

①昭和 30 年代の海岸埋立てで、みお筋は八幡運河となり、豎みおと横みおは住宅街や集会所に替わった。将棋盤のように区画された浜本町の街並みは旧河岸地で、伊勢町通り、横町通り、八軒町、倉町、川岸などの街区名が伝わる。廻船問屋や船主、船乗り、船大工、はしけや輸送作業の人たちが居住、米穀、薪炭などの商店や問屋、料亭などが軒を並べた。かつて「屋号」で呼び合ったが、いまでは知る人も少なくなった。大正から昭和時代、五大力船に代わって海苔養殖が始まり、あさりのつくだ煮工場や潮干狩り客で再び活況を呈した。あれから 60 年余り、町に海はなく、潮の香り一つ漂うことはない。すでに死語にも等しい「海の町」の面影を探る。

②豎みお、横みお跡、荷揚げ場跡、佃煮工場跡、漁業協同組合跡、蔵跡、廻船問屋、船持ち、船乗り、はしけの人たち、湯屋跡

③浜本町一列目の旧街区「伊勢町」「倉町」あたりは米穀、薪炭など大店が多かった。

④魚惣=明治 30 年創業の料亭、海の家、昔の八幡に詳しいアキおばあちゃん家。

⑤元船大工棟梁宅=ばっじょ、船で一くの屋号で代々七兵衛を名乗った。近江の出といい琵琶湖船大工子孫が考えられる。地元旧家に明治の見積りや大正の進水式写真が現存する。

### 8 房総往還「宿通り」と伝八幡陣屋跡

①武道館前の小さな交差点が旧房総往還「八幡宿」の中心地で高札場跡、本陣は年番名主の持回りで、八幡組合村 15 か村寄せ場大総代を兼ねた。高札場を中心に継立て伝馬所、旅館や木賃宿、大型商店や問屋に混じって小商いが並んだ。宿通りを参勤交代の久留里黒田藩、五井有馬藩などの房総諸藩、大名行列が進み、旅人たちが江戸をめざした。

②八幡武道館とじんや駐車場一帯は元禄時代の八幡堀藩 1 万石陣屋跡、八幡大久保藩 1 万石陣屋ともされる。文化 6 年旗本 3400 石永井家の名主を勤めた鈴木家が陣屋跡地と「陣屋名乗り」を許された拝領絵図面を所蔵する。往還から 30m ほどの引込み道があり、川、溝とする堀、土塁に相当する竹山が囲んだ。東西 37 間×南北 15 間、面積およそ 6 百坪、図面は年貢米蔵を中心とした地方陣屋を想定させる。明治から戦中期は醤油と味噌醸造所を興し、鈴木家から八幡・市原町長と初代市原市長が出た。

### 9 国府台の戦いで壮絶敗死～足利義明ゆかりの満徳寺(省略することがある)

- ①足利義明は関東公方と上杉管領家が戦った関東動乱期、古河公方足利政氏 2 男に誕生、真里谷武田氏、安房里見氏の招聘で八幡、小弓公方を名乗って、房総 3 か国を領有したが、天文 7 年関東の覇権をかけた小田原・北条氏綱との「国府台の戦い」に敗死した。飯香岡八幡宮、霊応寺、八幡御所跡とともに義明ゆかり地で、100m ほど離れた境外墓地「御墓堂」に伝義明夫妻の墓がある。
- ②出発点の八幡宿駅に戻る。お疲れさまでした。

### 10 今回見学できなかった八幡の見どころ～後日ぜひ回ってください

- ①無量寺(浄土宗)=伝白鳳年間創建、八幡海岸に出現した「阿弥陀如来像」を本尊とする。八幡宮、千葉氏ゆかり寺で、「伝千葉康胤中世五輪塔」や不動明王像、巡拝塔、回国塔など石仏が優れる。旧盆の「おえんまさま」はえんま十王像などを公開する。
- ②称念寺(〃)=天正 3 年生実・大巖寺念仏道場として創建、参道の経塔は増上寺住職・祐天上人の書。山門近くに並ぶ 50 基ほどの小型五輪塔は圧巻、すべて無銘だが、室町中後期、僧侶か武士層の供養塔と考えられ、町域造成を知る上からも重要だ。石仏にみるべきものが多く、著名日本画家・山口達画伯の作品が本堂や鐘楼などを飾っている。
- ③円頓寺(日蓮宗)=浜野・本行寺末、「上総七里法華」の祖・日泰上人創建で没寺。明治 7 年当寺本堂において八幡小学校を創立、令和元年の台風被害で本堂を大破、現在改造中、毎年新春初祈禱会で「水行」が行われる。
- ④妙長寺(〃)=池上本門寺末。八幡の寺院ではもっとも古い正長 2 年、日行聖人創建という。本堂前の日蓮聖人座禅像は日行聖御作、千葉県は日蓮の誕生地で遺跡も多いが、石像ここ以外にはみあたらないという。
- ⑤胴埋塚=室町時代の関東動乱、「小弓城の戦い」で敗れた千葉康胤が村田川で討ち取られ胴体を埋葬したとされる。
- ⑥猿田彦神社と庚申塔=猿田彦は「国つ神」の一つで八幡宮神話ともかかわる。かたわらの碑が神社の由来を記し、庚申塔は元禄 6 年、村人 12 名を刻む。
- ⑦菊間出途=古くからの八幡と菊間をつなぐ間道。明治元年沼津藩・水野忠敬 5 万石が菊間に転封したことで、引込み大手道となったが、4 年に廃藩となった。
- ⑧観音町入口の東金みち道標=かつての八幡宿入口。宿の出入口には村への災害や悪疫の進入を守る「庚申塔」が立てられた。安永 10 年碑は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を記す。茂原をへて東金に通じた間道で一部が現存する。
- ⑨境川と村田川の渡し=村田川は上総、下総の境川で、房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代橋は許されず、旅人たちは干潮時は歩渡り、水多いとき片道 2 文の渡し船を使った。明治 7 年架橋。戦後、河川の改修工事で 100m ほど移動、旧村田川と渡船場は現在、村田川公園になっている。

お願い

- ①コースに住宅地があり、ご近所や通行者にご迷惑がかからないようご注意ください
- ②一部に足元が不安定な所があります。事故のないよう、安全には十分ご注意ください

# 古事記

天孫降臨神話を読む

## 一、迹迹芸命の出生

爾に、天照大御神、高木神の命以て、太子正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命に詔りたまはく、今

葦原中國を平け訖へぬと白す。故れ言依さし賜へる隨に、降り坐して知ろしめ

せとのりたまひき。爾に其の太子正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命の告白したまは

く、僕は降りなむ装束せし間に、子生れましつ。名は天邇岐志國邇岐志

天津日高日子番能邇邇藝命、此の子を降すべし、とまをしたまひき。この御子は、

高木神の女萬幡豊秋津師比賣命に娶ひまして生みませる子、天之火明命、次に

日子番能邇邇藝命にます。二柱。是を以て白したまふ隨に、日子番能邇邇藝命

に科詔せて、此の豊葦原水穗國は、汝知らさむ國なり、と言依さしたまふ。故れ

命の隨に天降りますべしとのりたまひき。

高木神の御子

二、猿田里古神の先 爾に日子番能邇邇藝命、天降りまさむとする時に、

天之八衢に居て、上は高天原を光らし下は葦原中國を光

らす神、是に有り。故れ爾に天照大御神、高木神の命以て、天宇受賣神に、汝は

手弱女人なれども、い向ふ神と面勝つ神なり。故れ専ら汝往きて問はむは、吾が

御子の天降りまさむと爲る道に、誰ぞ此如くて居ると問へ、と詔りたまひき。故れ

問はせたまふ時に告白さく、僕は國神、名は猿田毗古神なり。出で居る所以は、

天孫降臨神話 神代卷 二

『神代卷』 天孫降臨神話 二

葦原中國



天神の御子天降り坐すと聞きつる故に、御前に仕へ奉らむとして、参向へ侍ふぞ、とまをしたまひき。

天孫降臨

三、天孫の降臨

爾に天兒屋命、布刀玉命、天宇受賣命、

伊斯許理度賣命、玉祖命、并せて五伴緒を支り加へて、

天降らしめたまひき。

是に其の招ぎし八尺勾璽、

鏡、

及草那藝劍、

亦常世の思

金神、

手力男神、

天之石門別神を副へ賜ひて、詔りたまへらくは、此れの鏡は専ら我が御魂として、吾

が御前を拜くがごと、齋き奉れ。次に思金神は、前の事を取り持ちて、政爲

よ、とのりたまひき。

此の二柱の神は、佐久久斯侶伊須受能宮に拜き奉る。次に登由宇氣神、此は外宮

の度相に坐す神なり。次に天之石門別神、亦の名は櫛石窓神と謂し、亦の名は

豊石窓神とも謂す。此の神は御門の神なり。次に手力男神は、佐那縣に坐せり。

故れ其の天兒屋命は、中臣連等が祖。布刀玉命は、忌部首等が祖。天宇受賣命

は猿女君等が祖。伊斯許理度賣命は鏡作連等が祖。玉祖命は、玉祖連等

が祖なり。

故れ爾に天津日子番能邇邇藝命、天之石位を離れ、天之八重多那雲を押し分け

て、稜威の道別きに道別きて、天之浮橋に、浮きじまりそりたたして、

竺紫日向之高千穗之久士布流多氣に天降り坐しき。

故れ爾に天之忍日命、天津久米命二人、天之石鞞を取り負ひ、頭椎之大刀を取

り佩き、天之波士弓を取り持ち、天之眞鹿兒矢を手挟み、御前に立たして仕へ奉

りき。故れ其の天之忍日命、此は大伴連等が祖。天津久米命、此は久米直等が祖なり。

是に詔りたまはく、此地は韓國に向ひ笠紗の御前に眞木通りて、朝日の直刺す國、夕日の日照る國なり。故れ此地ぞ甚吉き地と、詔りたまひて、底津石根に宮柱太しり、高天原に氷椽高しりて坐しましき。

四、天宇受賣命と猿 故れ爾に天宇受賣命に詔りたまはく、此の御前に立ちて仕へ  
田毘古神 奉れる猿田毗古大神をば、専ら顯し申せる汝送りまつれ。

亦其の神の御名は、汝負ひて仕へ奉れとのりたまひき。是を以て、猿女君等、其の猿田毗古神の名を負ひて、男 女を猿女君と呼ぶ事、是なり。故れ其の猿田毗古神、阿耶訶に坐しける時に、漁して、比良夫貝に其の手を啗ひ合はさえて、海水に沈溺れたまひき。故れ其の底に沈み居たまふ時の名を、底度久御魂と謂す。其の海水のつぶたつ時の名を、都夫多都御魂と謂し、其の沫咲く時の名を、阿和佐久御魂と謂す。

是に猿田毗古神を送りて、還り到りて、乃ち悉に鰭廣物、鰭狹物を追ひ聚めて、汝は天神の御子に仕へ奉らむと白す時に、諸の魚ども皆、仕へ奉らむと白す中に、海鼠白さず。爾れ天宇受賣命、海鼠に謂ひけらく、此の口や答へせぬ口、と云ひて、紐小刀以ちて其の口を拆きき。故れ今に海鼠の口拆けたり。是を以ちて、御世御世、島之速贄獻る時に、猿女君等に給ふなり。

五、木花之佐久夜毘  
売との聖婚

是に天津日子番能邇邇藝命、笠紗の御前に、麗き美人に  
遇へるに、爾ち誰が女ぞと問ひたまへば、答へ白したまは

く、大山津見神の女、名は神阿多都比賣。亦の名は木花之佐久夜毗賣と謂したま  
ひき。又、汝が兄弟有りやと問ひたまへば、我が姉石長比賣在りと答白したまひ

き。爾れ詔りたまはく、吾、汝に目合せむと欲ふは奈何に、とのりたまへ、僕はえ  
白さじ。僕が父大山津見神ぞ白さむと答白したまひき。故れ其の父大山津見神に

乞ひに遣しける時に、大く歡喜びて、其の姉石長比賣を副へて、百取机代物を持  
たしめて奉り出しき。故れ爾に其の姉は甚醜きに因りて、見畏みて、返し送りた

まひて、唯其の弟木花之佐久夜毗賣を留めて、一宿婚爲たまひき。爾に  
大山津見神、石長比賣を返したまへるに因りて、大く恥ぢて白し送りたまひける言

は、我が女二人竝べたてまつれる由は、石長比賣を使はしては、天神の御子の命  
は、雨零り風吹けども、恆なること石の如く、常磐に堅磐に坐せと。また

木花之佐久夜毗賣を使はしては、木の花の榮ゆるが如、榮え坐せと、誓ひて貢進り  
き。此るに今石長比賣を返して、木花之佐久夜毗賣を獨留めたまひつれば、天神

の御子の御壽は、木の花のあまひのみ坐しまさむとす、とまをしたまひき。故れ是  
を以ちて今に至るまで、天皇たちの御命長くましまさざるなり。

故れ後に木花之佐久夜毗賣、參出て白さく、妾妊めると、今産むべき時に臨りぬ。  
是の天神の御子、私に産みまつるべきにあらず。故れ請す、とまをしたまひき。爾

に詔りたまはく、佐久夜毗賣、一宿にや妊める。是は我が子に非ず。必ず國神の  
子にこそあらめ、とのりたまへば、爾ち、吾が妊める子、若し國神の子ならむに

は、産む時幸くあらじ。若し天神の御子にまさば、幸からむ、と答曰して、即ち  
戸無き八尋殿を作りて、其の殿内に入りまして、土以て塗り塞ぎて、産ます時に方

りて、其の殿に火を著けてなも産ましける。故れ其の火の盛りに燃ゆる時に、生  
 れませる子の名は、火照命。此は隼人阿多君の祖なり。次に生れませる子の名は  
 火須勢理命、次に生れませる子の御名は火遠理命、亦の名は天津日高日子  
 穗穗出見命。三柱。

## 海苔のお話 豆知識

海苔についてお話しさせて戴きます。豆知識としてまとめました。  
何かのお役に立てれば幸いです。

### 1 自己紹介 海苔屋の3代目。

昭和31年(1956年)五井生まれ。

昭和60年(1985年)から家業の海苔屋の仕事に従事。

### 2 海苔の大まかな分類

- 黒のり 海から採取後の海苔を紙状に漉き、干し上げたものを「乾のり」と呼んでいます  
「乾のり」を焼いたものが「焼のり」です
- 青のり 緑色の香りの良い海苔です
- はば海苔 お正月のお雑煮で使う縁起物の海苔です

これからお話しする内容は特段お断りしない限り「黒のり」についてのお話です。

### 3 日本では海苔は馴染みの深い食品ですが、いつ頃から日本人は海苔を食べているのでしょうか。

大和朝廷の時代、飛鳥白鳳時代には既に食べられていたと言われています。

8世紀頃には文献に出てきます。大宝律令に出てきます。

大宝律令は文武天皇の時代、西暦701年に制定されました。租税制度である租庸調の調の中に海苔が選ばれています。「紫菜」との記述があります。朝廷の五位以上の高官に支給された貴重な品とされています。

租——田に課せられる税 田一反につき稲2束2把(にそくにわ)

庸——成人男子に課せられる労役

調——地方の特産物

調の中に海苔が載っています。

大宝律令の原文は現存していません。757年に施行された養老律令との類似性や続日本紀(しよくにほんぎ)など他の古文献の記述から推測復元されています。

### 4 現在は「海苔」と表記されていますが、その昔は下記のような表記で文献に登場しています。

紫菜(むらさきのり)

紫藻(むらさきのり)

甘海苔(あまのり)

神仙菜(あまのり)

海苔の栄養成分は河川の流れを通して陸地からきます。  
 養老川の河口付近の海苔は美味かったと言われています。  
 降水量の多い年の海苔は美味しいです。  
 千葉県は昭和30年代のコンビナート造成で海が埋まるまでは日本の主要生産地でした。

123  
 自然の海苔  
 美味しい  
 養老川から

7 現在の海苔の生産・流通工程

海苔の製造フローは別紙をご覧ください。

※資料 海苔の生産工程

8 黒のりは日本全国で年間65億~70億枚程度生産されています。

主な生産地は有明海 瀬戸内海 です。

千葉県は7000万枚程度です。量は少ないですが香りが高いので評価が高いです。

ヨシヅ

日本全国の消費量 約85億枚

供給 国産 約65億枚~70億枚

供給 輸入 約15~20億枚弱 韓国・中国より

あり  
 ① 巻く → あり  
 ② 乾燥

9 海苔の生産者数・生産量

生産人口の減少

生産量の減少

地球温暖化の影響 水温

クロダイ・鴨による食害海苔の種類

10枚のり 1/10 →

あり  
 ② 乾燥

10 海苔の種類

黒のり

アサクサノリ

スサビノリ ナラワスサビノリ

十六島

島根県の地名です。ワープロで『うつぶるい』と入力すると変換できます。

生命力が強い海苔なので、この海苔を養殖すると近くでは普通の海苔がうまく生育しません。コクのある濃い味が特徴です。但し仕上がりががさがさしていて穴も多く見栄えが悪いです。

青のり

徳島県吉野川がすじ青のりの日本最大の産地です。

四万十川の青のりも有名ですが、純天然のため生産量が安定しません。

はば海苔

お正月に欠かせない食材です。

「お正月にはばを食べないと一年間はばがきかない。」と言われています。

自然環境保護と地球温暖化と生産者高齢化の為に生産量が少なく、価格が高騰しています。高い年は10枚入で15,000円程度になったこともあります。

※資料 海苔の品種・はば海苔

11 御三家は

山本海苔店

山本山

山形屋海苔店

のり

のり

のり

14 恵方巻きの由来 海苔業者による仕掛け (販促) バレンタインデー (メリーチョコレート)

15 海苔の日 2月6日  
大宝律令の施行された大宝2年1月1日を西暦に換算すると西暦702年2月6日となります。全国海苔貝類漁業協同組合が2月6日を海苔の日としました。毎年この日に明治神宮で業界発展の祈願が執り行われています。

16 市内の小学校では海苔作り体験の授業をすることがあります。(京葉小学校)  
※資料 京葉小学校 海苔作り体験学習

17 よくあるご質問Q&A  
「海苔」の語源 → 海苔の単位「帖」の由来  
海苔の表と裏  
海苔はどうしておいしいか  
海苔を焼くとなぜ緑色になるか

海苔の語源  
海苔の単位「帖」の由来

※資料 海苔の雑学

以上が海苔の豆知識です。お付き合い頂き有難うございました。

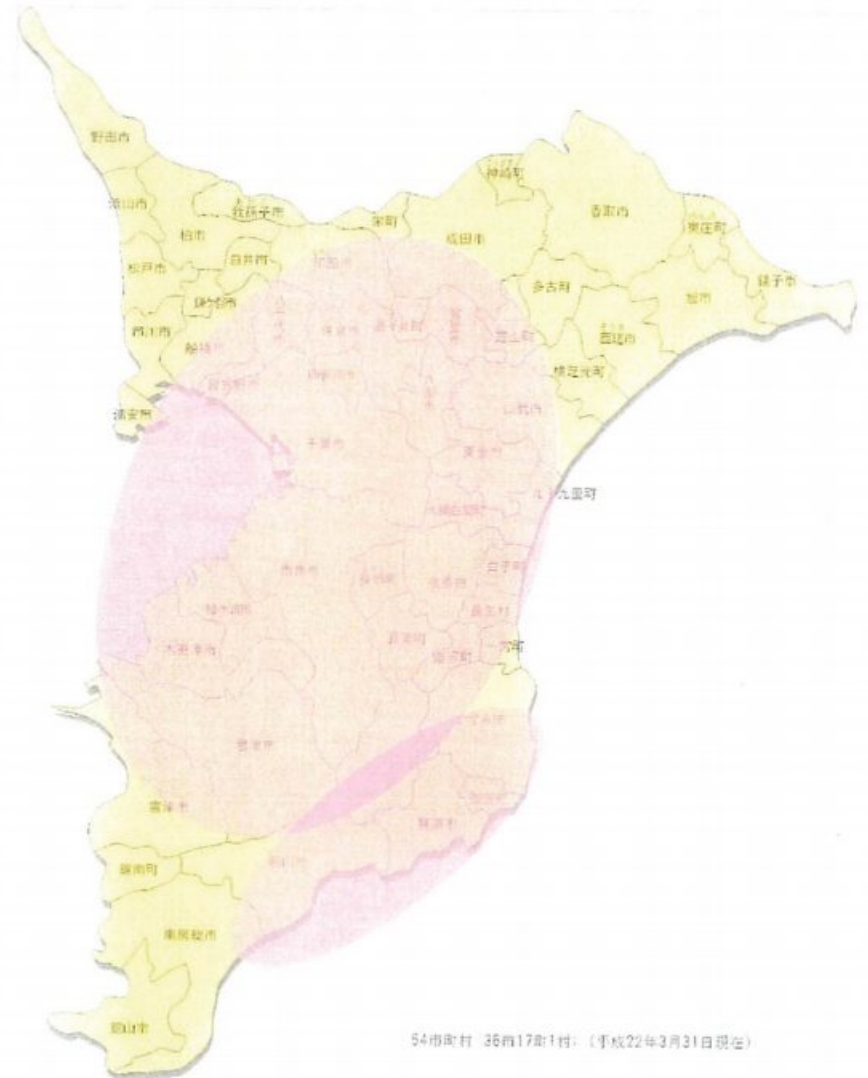
# はば海苔



## はば・青の 関係 需要エリア

株式会社 守屋

ピンクのエリアがはば・青のりの需要のあるエリアです。あくまで概要です。





歌川(安藤)広重 浮世絵



品川鮫州のノリヒビ 広重画

松尾栄一氏



ノリを焼く図……江戸自慢三十六景 広重画

東京郡 松尾栄一氏



ノリを焼く 国貞画

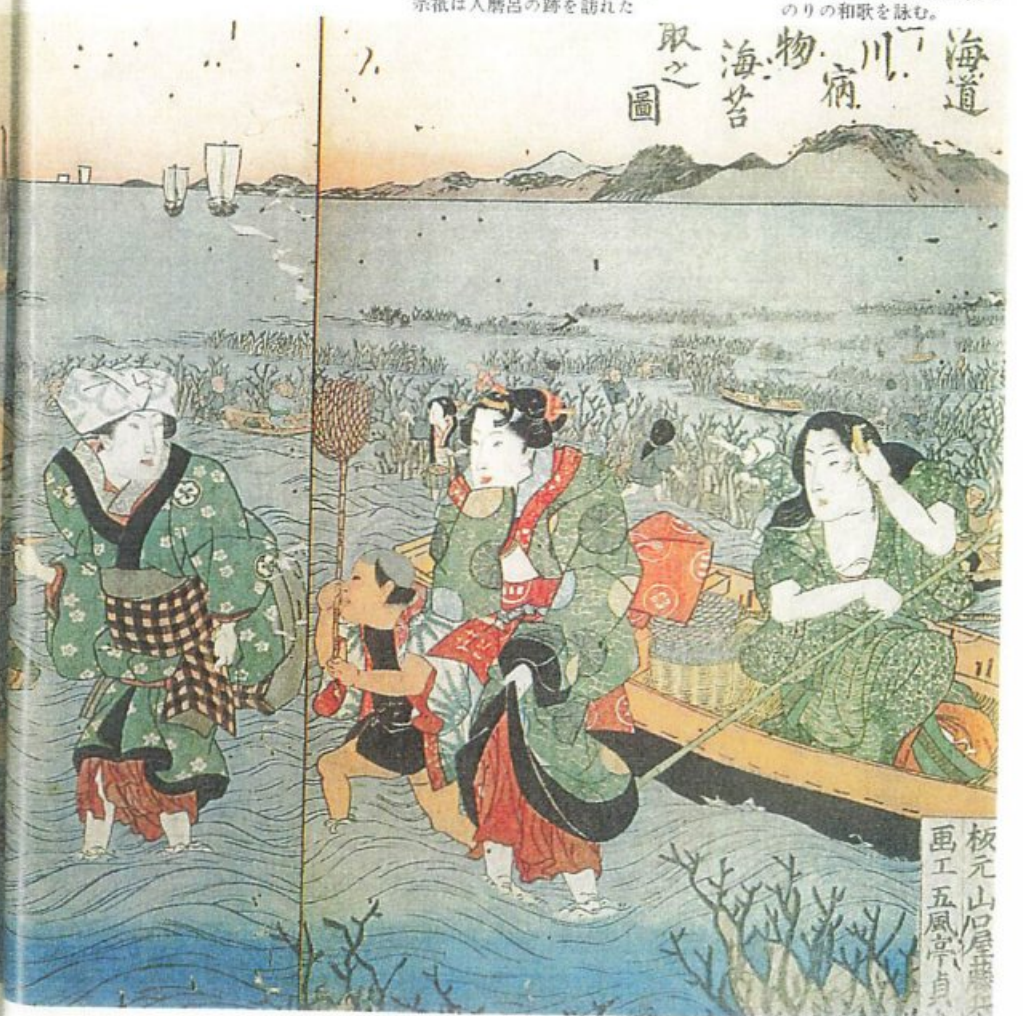
東京都窪田甚之助氏



中島屋平佐衛門の店頭 (東鑑) 窪田甚之助氏



品川海苔取之景



板元山石屋  
画工五風亭貞

広島市 三村義人氏

向津の奥の入江のささ波に  
思はずぬらす  
わが旅衣

宗祇

七百年後(室町末期) 連歌師  
宗祇は人磨呂の跡を訪れた

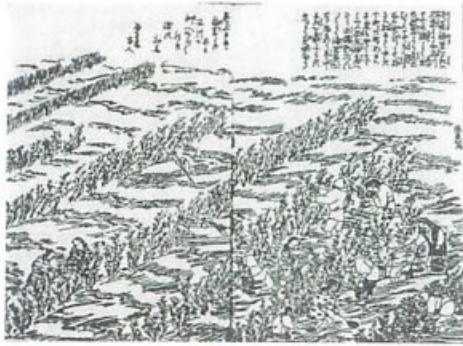


向津の奥の入江のささ波に  
のりかく海女の  
そではぬれつゝ、

人磨呂

柿本人磨呂長門国向津奥で  
のりの和歌を詠む。





品川にてノリをとる 東海道名所図会 (寛政9年)



浅草ノリを製する図 東海道名所図会 (寛政9年)



ノリを拾う図 日本山海名物図会 (寛政9年)

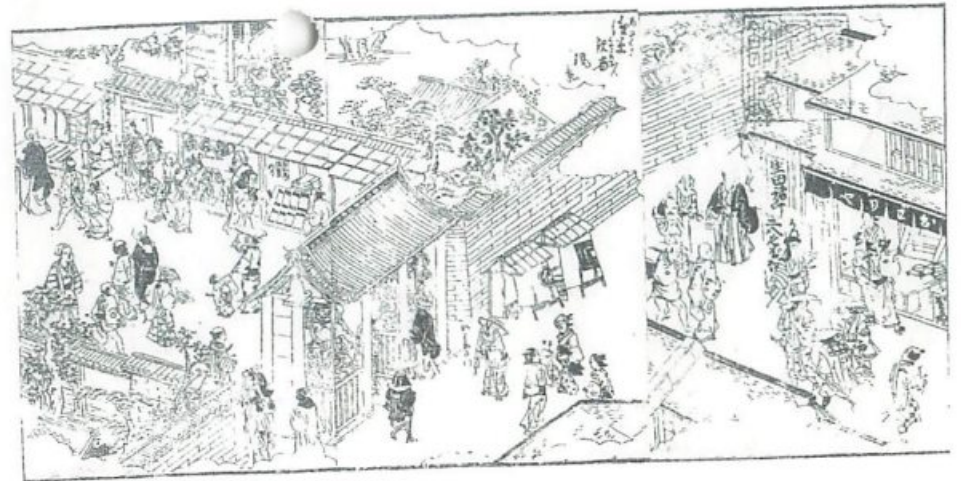


浅草観音来迎之図 これが浅草ノリを生むもととなった

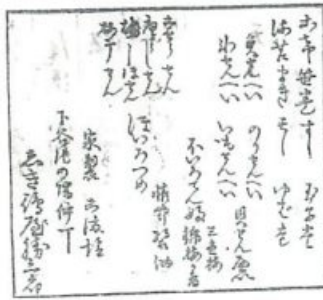


品川朝州朝之景 広重画

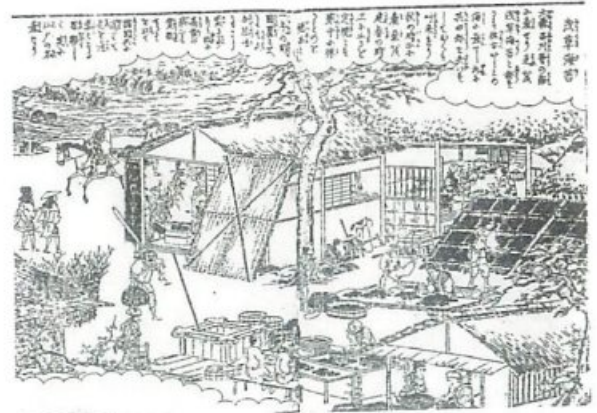
松尾宗一



浅草雷門仲店のノリ商 江戸土産 (宝暦年間)



ノリ巻すし、のりせんべい (江戸期の広告)



浅草ノリを製し売る図 江戸名所図会 (天保5年)



鈴ヶ森のノリヒビ 江戸名所図会

松ヶ島神社 他

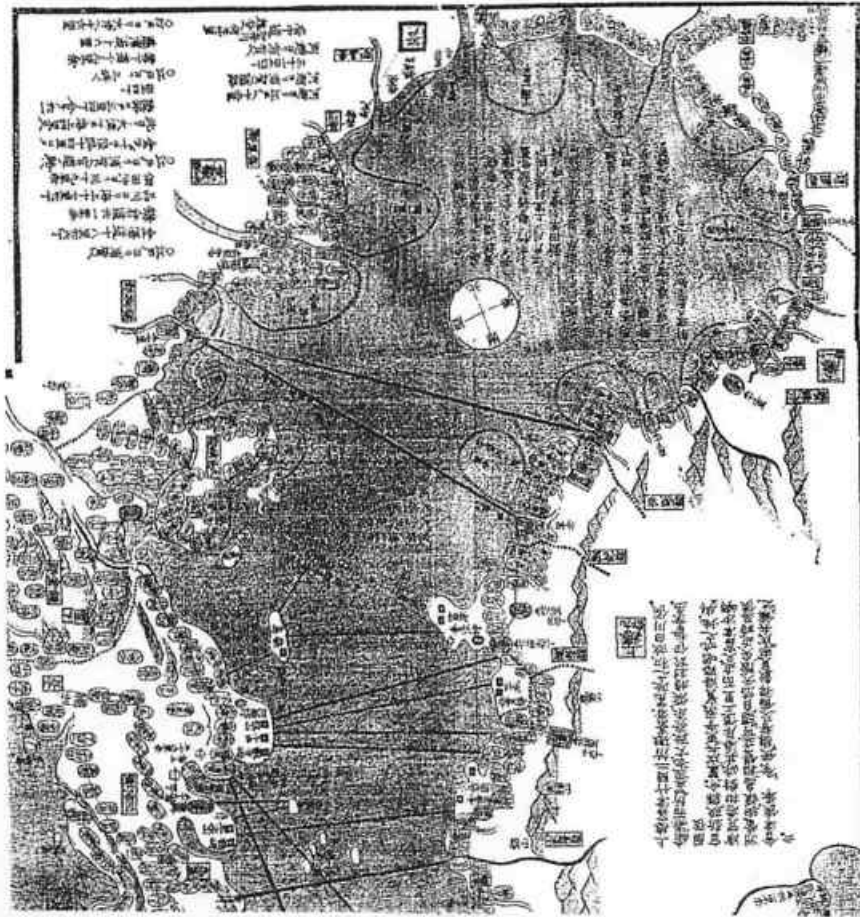


昭  
和  
十  
五  
年  
六  
月  
 建  
設  
松  
ヶ  
島  
漁  
業  
協  
同  
組  
合  
 紀  
元  
二  
千  
六  
百  
年  
記  
念  
指  
導  
農  
林  
省  
水  
産  
試  
驗  
場  
 海  
苔  
種  
付  
高  
ヶ  
基  
準  
線  
助  
成  
千  
葉  
県  
水  
産  
会  
市  
原  
郡  
水  
産  
会  
 千  
葉  
県  
水  
産  
試  
驗  
場  
内  
湾  
分  
場



ふるさと市原をつなぐ連絡会 第22回ふるさとをつなぐ会

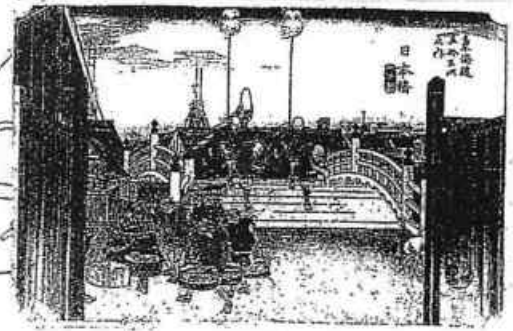
# 市原から江戸へ ～史料でたどる近世房総往還の旅～



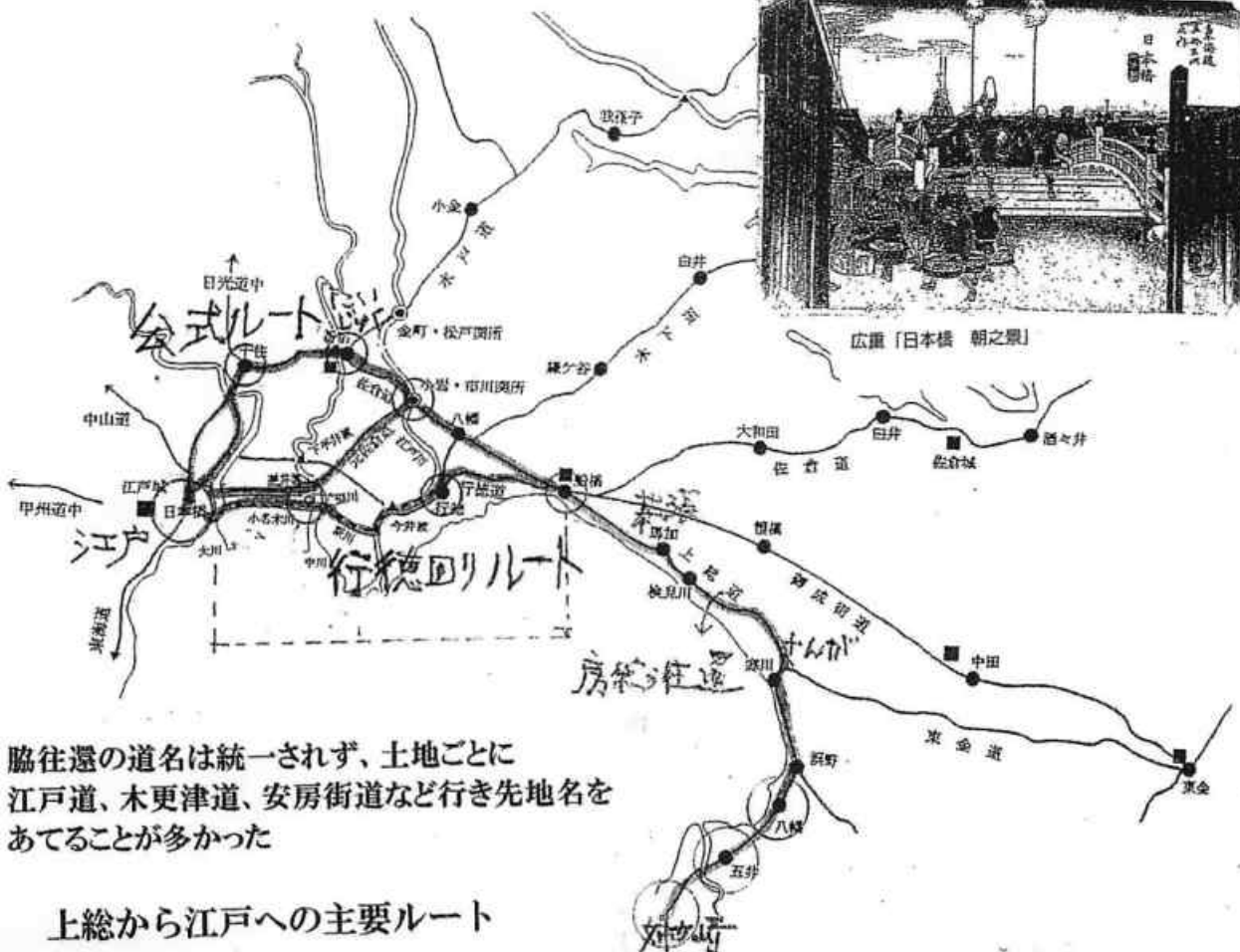
令和3年7月14日（水曜日）

市原市民会館

八幡史学館グループ代表 山岸弘明

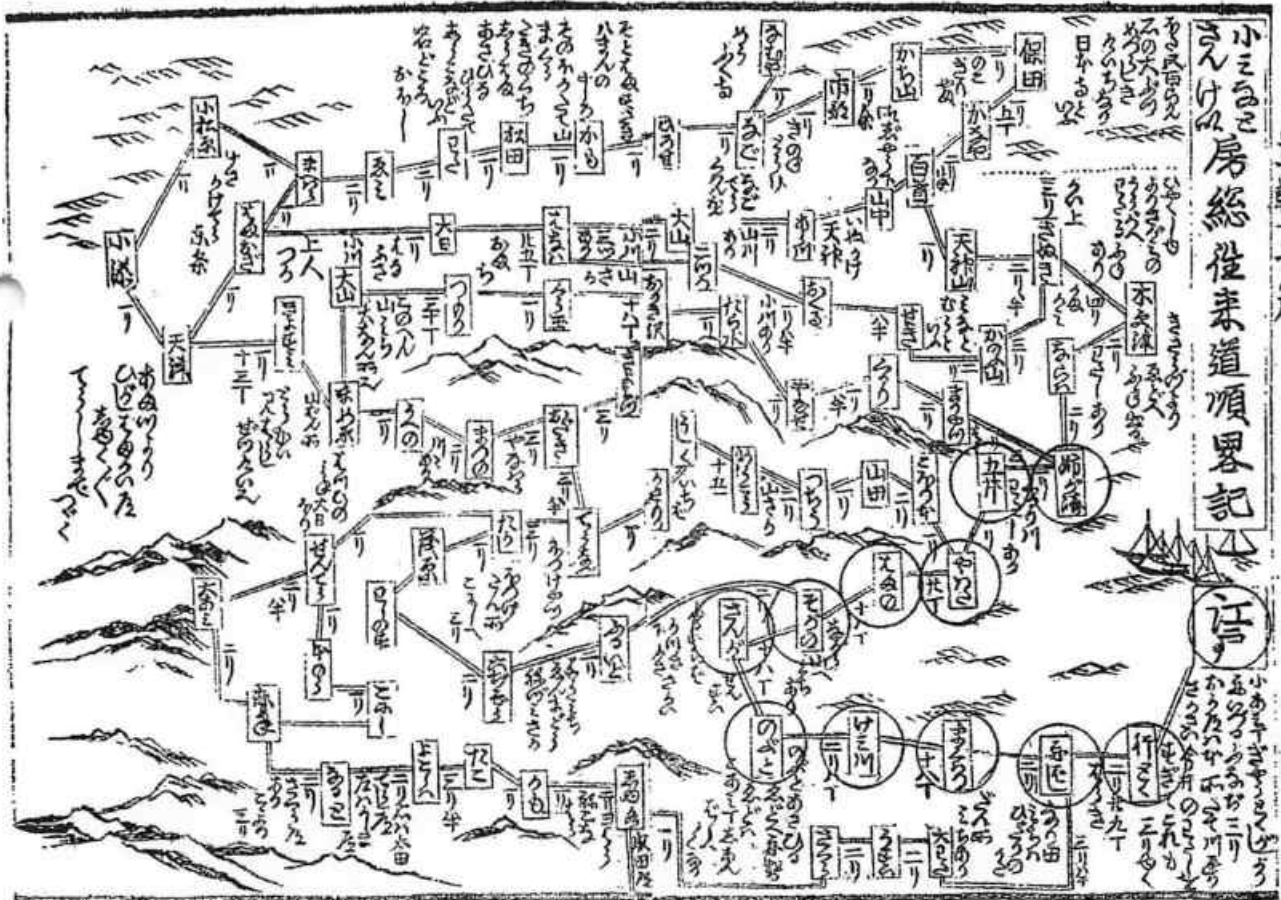


広重「日本橋 朝之景」



脇往還の道名は統一されず、土地ごとに江戸道、木更津道、安房街道など行き先地名をあてることが多かった

上総から江戸への主要ルート



# 「八幡史学館グループ」と郷土史料掘り起し

## 1) 八幡公民館主催事業「八幡史学館」

平成 18 年開講、ことし第 16 シリーズを迎えた郷土史講座

趣旨=郷土の歴史史料を掘り起し、その背景を学ぶことにより地域への愛着を深める。表彰=「平成 30 年度全国優良公民館」受賞。「郷土を愛する八幡史学館」として日頃の地域学習活動が評価 (文科省発表)

## 2) 八幡史学館グループ

### ① 八幡史学館チーム (旧八幡の石造物研究会)

平成 20 年創立。会員数 8 人。八幡地区の郷土史研究、八幡史学館運営協力

事業=やわたむかし写真館(八幡公民館ロビー)、八幡公民館創立 60、65、70 周年記念展、史学館 10 周年記念「五大船舶展」主管 (八幡駅市民ギャラリー)、山口達展 (称念寺)。刊行物=市原市八幡地区の石造物研究、八幡名所 100 選、写真アルバム・市原市の昭和 (八幡地区担当)、館史ものがたり「八幡町と歩いた八幡公民館 70 年の黎明」

### ② 市原の古文書研究会 (旧古文書学習会) 高齢化のため出版は今集で休刊予定

平成 13 年創立、会員 7 人。郷土史料の掘り起し、解説、発表。郷土史研究。

刊行物=市原の古文書研究第 1~8 集。調査先=飯香岡八幡宮、菊間若宮八幡神社、八幡・市川本店、寺島家、梅谷家、称念寺、万徳寺など、菊間・岡田家、五所・今井家、草刈・中村家。表彰=「千葉県文化財保護功労賞」受賞

### ③ 市川本店文書調査会 新型コロナ拡散防止のため中断中

市川本店は明治維新→千葉県創設期の戸長文書など 5 万点余の郷土文書を所蔵。平成 28 年から調査開始。大学教授・助教、博物館学芸員、市史担当者ら県内の古文書研究者およそ 20 人が目録作り応援

## ホットな「八幡史学館」新発見郷土史料

### ① 境川 (村田川) 架橋記録 (明治 7 年市川本店文書=市原の古文書研究第 8 集所載)

江戸幕府は全国の主要河川に橋の建設を認めず、境川(村田川)にも橋はなかった。旅行者は干潮時は歩き、増水時は片道 2 文の渡し船を利用した。明治 7 年 7 月架橋、総工事費 118 両 3 分で、八幡宿が 64 両、村田村が 54 両を負担した。通行人から橋銭を徴収、記録にある 1 か月半の 1 日平均が 76 銭。もし仮に渡船と同じ (2 文 = 新価条例切り替え 2 厘) とすれば、房総往還の通行量は 1 日延べ 380 人ということになる

一 金 八 十 九 兩 八 分  
 一 金 八 十 八 兩 八 分  
 一 金 八 十 七 兩 八 分  
 一 金 八 十 六 兩 八 分  
 一 金 八 十 五 兩 八 分  
 一 金 八 十 四 兩 八 分  
 一 金 八 十 三 兩 八 分  
 一 金 八 十 二 兩 八 分  
 一 金 八 十 一 兩 八 分  
 一 金 八 十 兩 八 分  
 一 金 七 十 九 兩 八 分  
 一 金 七 十 八 兩 八 分  
 一 金 七 十 七 兩 八 分  
 一 金 七 十 六 兩 八 分  
 一 金 七 十 五 兩 八 分  
 一 金 七 十 四 兩 八 分  
 一 金 七 十 三 兩 八 分  
 一 金 七 十 二 兩 八 分  
 一 金 七 十 一 兩 八 分  
 一 金 七 十 兩 八 分  
 一 金 六 十 九 兩 八 分  
 一 金 六 十 八 兩 八 分  
 一 金 六 十 七 兩 八 分  
 一 金 六 十 六 兩 八 分  
 一 金 六 十 五 兩 八 分  
 一 金 六 十 四 兩 八 分  
 一 金 六 十 三 兩 八 分  
 一 金 六 十 二 兩 八 分  
 一 金 六 十 一 兩 八 分  
 一 金 六 十 兩 八 分  
 一 金 五 十 九 兩 八 分  
 一 金 五 十 八 兩 八 分  
 一 金 五 十 七 兩 八 分  
 一 金 五 十 六 兩 八 分  
 一 金 五 十 五 兩 八 分  
 一 金 五 十 四 兩 八 分  
 一 金 五 十 三 兩 八 分  
 一 金 五 十 二 兩 八 分  
 一 金 五 十 一 兩 八 分  
 一 金 五 十 兩 八 分  
 一 金 四 十 九 兩 八 分  
 一 金 四 十 八 兩 八 分  
 一 金 四 十 七 兩 八 分  
 一 金 四 十 六 兩 八 分  
 一 金 四 十 五 兩 八 分  
 一 金 四 十 四 兩 八 分  
 一 金 四 十 三 兩 八 分  
 一 金 四 十 二 兩 八 分  
 一 金 四 十 一 兩 八 分  
 一 金 四 十 兩 八 分  
 一 金 三 十 九 兩 八 分  
 一 金 三 十 八 兩 八 分  
 一 金 三 十 七 兩 八 分  
 一 金 三 十 六 兩 八 分  
 一 金 三 十 五 兩 八 分  
 一 金 三 十 四 兩 八 分  
 一 金 三 十 三 兩 八 分  
 一 金 三 十 二 兩 八 分  
 一 金 三 十 一 兩 八 分  
 一 金 三 十 兩 八 分  
 一 金 二 十 九 兩 八 分  
 一 金 二 十 八 兩 八 分  
 一 金 二 十 七 兩 八 分  
 一 金 二 十 六 兩 八 分  
 一 金 二 十 五 兩 八 分  
 一 金 二 十 四 兩 八 分  
 一 金 二 十 三 兩 八 分  
 一 金 二 十 二 兩 八 分  
 一 金 二 十 一 兩 八 分  
 一 金 二 十 兩 八 分  
 一 金 一 十 九 兩 八 分  
 一 金 一 十 八 兩 八 分  
 一 金 一 十 七 兩 八 分  
 一 金 一 十 六 兩 八 分  
 一 金 一 十 五 兩 八 分  
 一 金 一 十 四 兩 八 分  
 一 金 一 十 三 兩 八 分  
 一 金 一 十 二 兩 八 分  
 一 金 一 十 一 兩 八 分  
 一 金 一 十 兩 八 分  
 一 金 十 九 兩 八 分  
 一 金 十 八 兩 八 分  
 一 金 十 七 兩 八 分  
 一 金 十 六 兩 八 分  
 一 金 十 五 兩 八 分  
 一 金 十 四 兩 八 分  
 一 金 十 三 兩 八 分  
 一 金 十 二 兩 八 分  
 一 金 十 一 兩 八 分  
 一 金 十 兩 八 分  
 一 金 九 兩 八 分  
 一 金 八 兩 八 分  
 一 金 七 兩 八 分  
 一 金 六 兩 八 分  
 一 金 五 兩 八 分  
 一 金 四 兩 八 分  
 一 金 三 兩 八 分  
 一 金 二 兩 八 分  
 一 金 一 兩 八 分  
 一 金 一 分

一 金 十 兩 八 分  
 一 金 九 兩 八 分  
 一 金 八 兩 八 分  
 一 金 七 兩 八 分  
 一 金 六 兩 八 分  
 一 金 五 兩 八 分  
 一 金 四 兩 八 分  
 一 金 三 兩 八 分  
 一 金 二 兩 八 分  
 一 金 一 兩 八 分  
 一 金 一 分  
 一 金 十 九 兩 八 分  
 一 金 十 八 兩 八 分  
 一 金 十 七 兩 八 分  
 一 金 十 六 兩 八 分  
 一 金 十 五 兩 八 分  
 一 金 十 四 兩 八 分  
 一 金 十 三 兩 八 分  
 一 金 十 二 兩 八 分  
 一 金 十 一 兩 八 分  
 一 金 十 兩 八 分  
 一 金 九 兩 八 分  
 一 金 八 兩 八 分  
 一 金 七 兩 八 分  
 一 金 六 兩 八 分  
 一 金 五 兩 八 分  
 一 金 四 兩 八 分  
 一 金 三 兩 八 分  
 一 金 二 兩 八 分  
 一 金 一 兩 八 分  
 一 金 一 分



②五大力船船大工見積（明治31年市川本店文書＝〃）

八幡の船大工・関七三郎が依頼主北島峯吉にあてた口1丈5寸、船大工  
工賃見積165円、木挽き料とも材木代金265円。ほかに材木手配メモ。

一五大力船船大工  
金百六拾五圓也  
右通  
三三三三  
北島峯吉様  
此口船大工位  
他三三三人  
三三三三

廿有廿七  
只  
糸吉様ハ  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

廿八  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

廿九  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十一  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十二  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十三  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十四  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十五  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十六  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十七  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十八  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

三十九  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

四十  
文三三三  
三三三三  
三三三三  
三三三三

③徳川義軍府八幡宿御組宿（慶応4年市川本店文書＝〃）

慶応4年江戸開城の日に集団脱走した幕府正規軍「撤兵隊」は軍艦で千葉寒川淡などに上陸、木更津→真里谷  
に集結して「義軍府」の中核となる。前線部隊を市川、船橋に布陣したが官軍に大敗、閏4月7日の市原戦争も義老川、姉崎地区で多くの犠牲者を出して壊滅した。史料は当番名主から出された8分隊80名の宿振り書き

御組宿名

一分隊 八人 住居 三三三三

二分隊 七人 住居 三三三三

三分隊 六人 住居 三三三三

四分隊 五人 住居 三三三三

五分隊 四人 住居 三三三三

六分隊 三人 住居 三三三三

七分隊 二人 住居 三三三三

八分隊 一人 住居 三三三三

④江戸払い構い場所書付（天明7年若宮八幡神社旧蔵文書＝〃）

神官家から北五井村名主家へ養子入りしていた重蔵が領主である西条有馬藩から追放刑となった。品川、板橋、  
千住、本所、深川、四谷大木戸、北五井、菊間、右の場所徘徊すべからざるものなり。現存はきわめて珍しい

- ⑤旧神官菅田家系（明治か飯香岡八幡宮文書＝新発見文書）
- ⑥金杉浜塩田大絵図（天明4年飯香岡八幡宮文書＝新発見文書）

右の場所徘徊すべからざるものなり

天明七年  
六月廿七日

金杉浜塩田大絵図

## 千住まで遠廻りした房総諸侯の参勤交代

江戸幕府の交通行政は軍事的政策として進められた。徳川家康が「関が原の戦い」に勝利した翌慶長6年、江戸日本橋と京都を結ぶ拠点宿に伝馬の負担を命じて「東海道」を整備し、のち日本橋から高崎、岐阜をへて京都に通じる「中山道」、日本橋、宇都宮、白河への「奥州街道」、日光社参のための「日光街道」、甲府への「甲州街道」を加えた「五街道」と呼ばれる幹線道路に広げた。幕府は街道保護政策として参勤交代などの公用旅行を五街道通行に義務化、上総、安房地区諸藩は日本橋、千住間を奥州街道と重複させた水戸街道・成田街道を迂回した。五街道に接続する準幹線街道は「(主要) 脇往還」で、千住から新宿で「水戸街道」とわかれ、船橋で「成田(佐倉)街道」とも分かれた。五街道とこれら主要脇往還は幕府直轄で道中奉行が管理した。

船橋から先、千葉、市原をへて木更津、館山に至る「房総往還」など、中小の脇往還は勘定奉行の管轄で、保守、管理は領主、村の責任とされた。八幡、五井、姉ヶ崎の3宿もこの範疇に属したが大名の参勤交代もあり、継ぎ場として、また周辺組合村親村として中心的な役割を果たした。

江戸時代、庶民が旅をすることは原則禁止されていた。ただ2つ例外として認められた旅行がけがや病氣治療のための「湯治」と、信仰としての伊勢参り、富士・三山登山など神社仏閣の参拝であった。今回は現存史料を中心に主に公用、私用旅行「近世、市原から江戸への旅日記」を紹介する。

### 1) 房総5藩の大名行列が八幡「宿通り」を進んだ

①参勤交代=寛永12、19年に定めた諸大名義務行為。1年(譜代江戸地回りは6か月)交代に石高に応じた人数を率いて出府し、將軍の統制下に入る制度。「参勤(参府)」は江戸に向かう旅、「交代」は国元へ帰国の旅をいう。

②房総往還を利用した参勤交代

久留里黒田藩3万石(江戸まで23里、毎年12月参府、8月御暇=献上物箱着)

佐貫阿部藩1万6千石(江戸まで24里16丁、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

勝山酒井藩1万2千石(江戸まで36里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

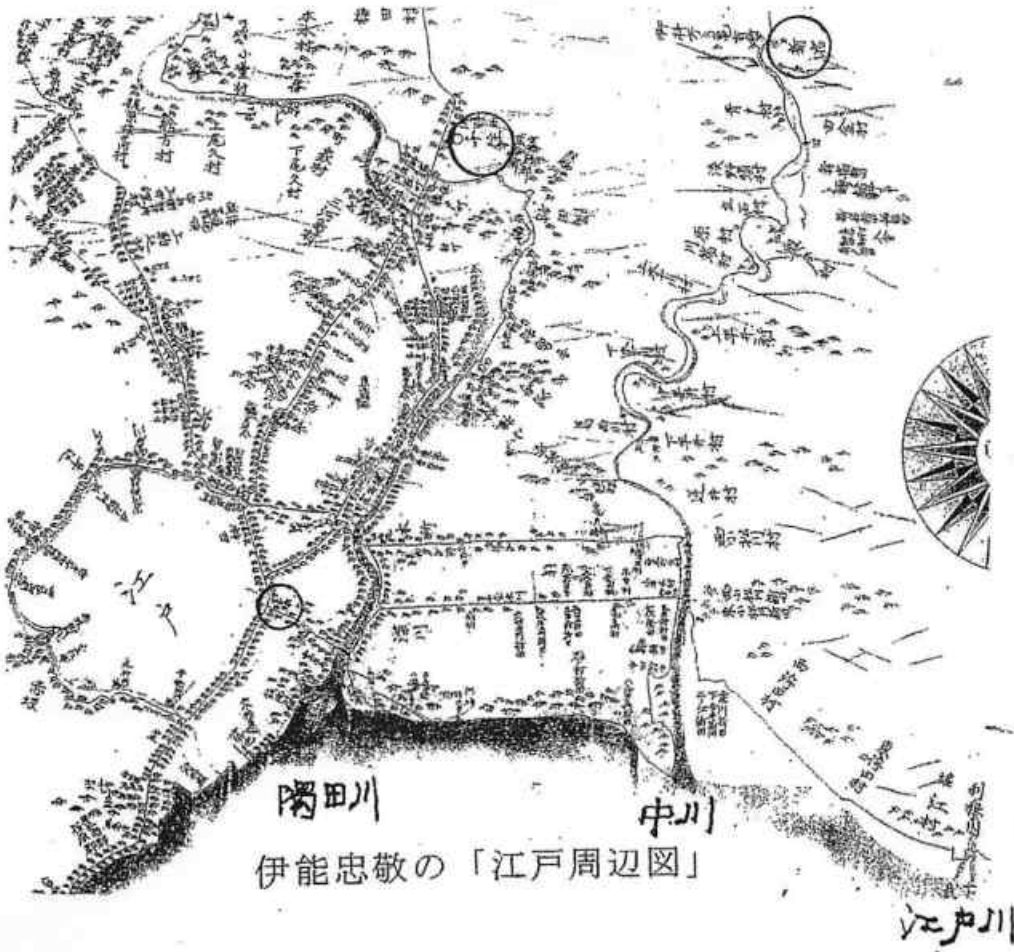
館山稲葉藩1万石(江戸まで36里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

五井有馬藩1万石(江戸まで13里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

③大多喜松平藩、飯野保科藩、請西林藩、鶴牧水野藩、一の宮加納藩は定府大名(参勤交代なし) 有馬藩は天明2年~天保11年の五井藩時代、久留里黒田藩は年賀登城のため12月に先乗りした。

\*文化元年「武鑑」による分類=全大名264家中、隔年参勤が175家、半年交代27家、定府26家、現職老中など21家、要地警固21家ほか

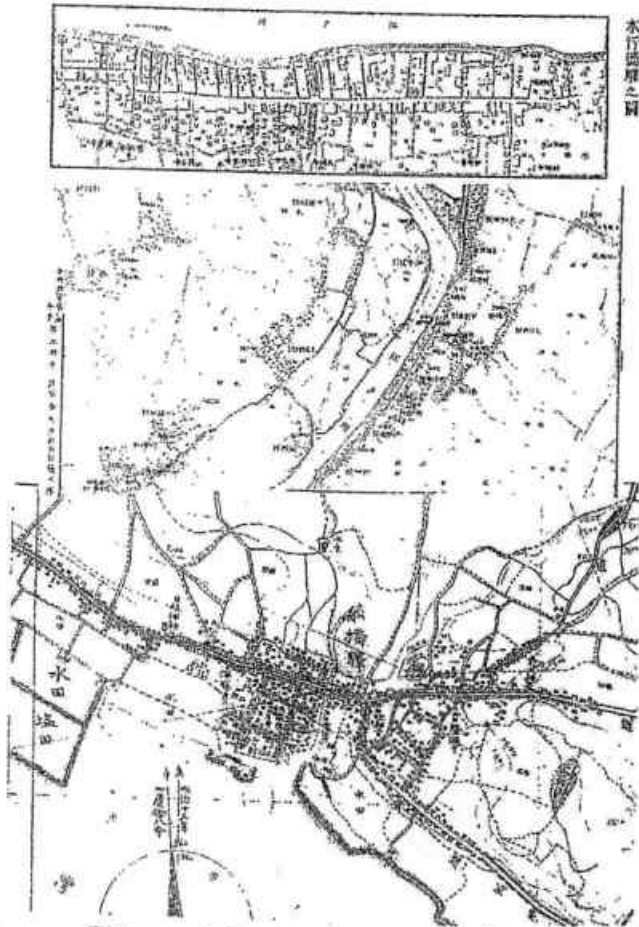
④参勤制度の廃止=文久2年、松平慶永、徳川慶喜主張の「幕制改革」で参勤交代を大幅緩和。3年に1度、在府100日、人質の嫡子、妻子の解放などであった。街道沿い宿場は帰国大名ラッシュの一方、突然の改革で足輕、中間など多数の失業者が出た。翌3年参勤交代を復活させたが、すでに幕府には造反者に対処する力はなかった。慶応2年、「長州再征」幕府軍敗報のなか將軍・家茂が陣中で急逝、同4年、15代將軍・慶喜が「鳥羽伏見の戦い」に敗れて徳川幕府が倒れた。



隅田川 中川 江戸川  
伊能忠敬の「江戸周辺図」



大正中ごろの中川周辺図



明治始めの行徳と船橋

水戸藩領之図

- ⑤ 参勤交代の人数は石高に応じたが時代によってもさまざま。最大は加賀前田家で全盛期が4千人、最少は2千500人だった。標準は100石につき0.4~0.8人、出立と江戸入りは見送りと迎への家臣が加わった。行列はいくさ体制、弓、鉄砲、槍、徒歩(かち)隊などを連ねた。参勤交代の行列は藩の家臣や陪臣のほか、3分の1を「通し日雇い」の人足が占めた。継ぎ立てによる時間ロスと経費削減のために、大藩は駕籠かき(陸尺)、先箱持ち(手廻り)、派手なパフォーマンスで参勤交代を盛り上げた毛槍持ちなどを採用した。
- ⑥ 八幡宿を通過した大名行列は譜代小藩が多く、60人から150人。本陣、伝馬継ぎ立ては8給の年番で務めたが、旅を急ぐ行列が休泊することはほとんどなかった。

2) 久留里黒田藩3万石の「参勤交代」

① 久留里黒田藩 = 黒田家の藩祖・直邦は寛文6年旗本中山直定の2男として誕生、母は館林藩時代の徳川綱吉家老黒田用綱の娘であった。はじめ神田屋敷で綱吉の世子・徳松に近侍となる。綱吉の將軍就任で江戸城に従ったが徳松が逝去、以後綱吉小姓に取り立てられて出世していく。元禄13年下館1万5千石、正徳8年奏者番兼若年寄、將軍が家宣、家継、吉宗に代った享保18年、世子・家重付西の丸老中で沼田3万石に栄進した。2代直純の時久留里3万石に国替え、江戸湾防備のための重臣配備といわれる。市原では田淵、月崎、徳氏村など15か村、郡奉行の下、代官、郷村足軽が領内を支配した。上屋敷は御徒町などを変遷、中屋敷は目白台で現在の椿山荘、下屋敷は両国国技館そば、墓

紅橋	四里	五里半	七里半	八里	十里半	拾一里半
下総八幡	一里半	三里半	四里	六里半	七里半	
曾我野	濱野	二里	二里半	五里	六里	
二拾丁	濱野	馬加	十八丁	三里	四里	
一里二丁	十八丁	上総八幡	検見川	二里半	三里半	
二里二丁	一里半	一里	川井	寒川	一里	
四里二丁	三里半	三里	今富			曾我野
七里二丁	六里半	六里	八里	二里	眞里	久留里
九里二丁	八里半	八里	七里	五里	二里	

久留里藩制一冊 卷之四  
 徒 徒小頭  
 徒 徒目付  
 徒 徒長力  
 徒 徒御長  
 徒 徒御手代  
 徒 徒御足軽

安永五年丙申九月  
 八月二十五日  
 九月十一日  
 十月七日  
 十一月三日  
 十二月十日  
 天候

御主人  
 御奉行  
 御中納言  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

足軽一人  
 御手代  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

御主人  
 御奉行  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

御主人  
 御奉行  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

御主人  
 御奉行  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

御主人  
 御奉行  
 御御前  
 御御中  
 御御手代  
 御御足軽

所は西武池袋線飯能駅の能仁寺で初代直邦以下歴代藩主室子女数十基がならんでいる。最後の藩主直養は久留里城近くの真勝寺に眠っている。

②市原と結ぶ久留里道は八幡、五井、姉ヶ崎を結ぶ上、中、下の3ルートがあったが、参勤交代は「殿様道」と呼ばれた「中往還」五井ルートを利用した。

③久留里より御参勤宿割り帳（延享2年＝最初の参勤交代の宿割り記録、行列人数がわかる）

御本陣付（上25人、下29人）＝森清大夫以下24人、足輕・中間小頭、御用長持ち・幕長持ち才領下宿＝幕下11人、5人、6人、押さえ足輕5人、勝手中間9人、家臣供7人、ろうそく持ち中間1人、門馬郷藏ほか15人、幕下8人、幕下5人、幕下4人、裏上1人、下4人、裏上下3人、裏上9人徒士小頭、下2人徒士、裏8人足輕・先払い2人、手筒2人・□1人・鎧才領1人、裏12人中間・指物棹1人・鎧4人・合羽持3人・茶弁当2人・両懸扱箱2人 惣人数185人、内上38人、下147人

④久留里道中里数つけたり（延享2年＝最初の国入り時の行程記録帳要旨）

- ・逆井（さかさい）より（下総）八幡まで3里＝逆井船渡し、西小松川村、同新町、同五分一村……、小岩村、下小岩村、伊予田村、市川村、この所関所船渡し、この船渡し舟中より右に真間弘法寺・国府台総寧寺見ゆる、滝田村、平田村、八幡より新宿までの間並木、あるいは田畑間の在所
- ・八幡より船橋まで1里半＝鬼越村、中山村、この間中山法華寺経寺左にあり、下宿村、二子村、この所南に海見ゆる、本郷村、山野村、西海村、海神村、間の在所
- ・船橋より馬加（幕張）まで2里＝谷村、空田村、鷺沼村
- ・馬加より検見川まで18町＝馬加新田、間の在所
- ・検見川より寒川まで2里8町＝稲毛、黒砂、登戸村
- ・寒川より曾我野まで28町＝この辺海辺砂場、千葉寺新田、今井、間の在所
- ・曾我野より八幡まで1里＝この間左に大巖寺見ゆる、生実新田、浜野、村田、村田川徒歩渡り、この川上総、下総の境、ただし船にても越し候、八幡新田、この辺り海辺砂場、間の在所
- ・八幡より五井まで1里半、御所（五所）村、この辺り海辺、間の在所
- ・五井より今富まで1里半、町田村、五井船渡し
- ・今富より真里村まで3里、この間山原あり、川原井村、市ヶ原村、山王村
- ・真里村より久留里まで2里

⑤真里村より千住まで道中つけたり（延享2年＝最初の参府時の行程記録帳要旨）

- ・今留（富）村、問屋共名主次郎左衛門（本陣として宿泊）
- ・今富村下北の方五井川舟渡し 舟主・利平次
- ・五井川舟渡しの儀相尋ね候ところ、川舟5、6艘も舟橋かけ候えば地水は2艘ならべにてよく、先年2度ござ候川舟かり候儀は、10日も前に仰せ下され候わばまかり成り候ことにござ候、右兩人申し候
- ・これより浜方、五井村より八幡へ一里 兩名主、問屋幸助
- ・御地頭・有馬備後守様宿入り、宿外塩焼き場小屋、西方塩場へ宿入り、小石橋あり20間ほど、北方薬師堂、左右田畑小橋、西方半町ほど行き海、東方は松森小宮2か所
- ・一間宿・御（五）所＝西方白はた権現小宮、観音堂並びに寺、西方神明の小宮、東方寺
- ・八幡村より曾我野村まで1里、御地頭御料所御代官井戸助左衛門様（ほか5給）、町入口橋、東方寺3か所、西の方神主市川山城守・八幡宮大社森・大橋高さ2丈余
- ・八幡村6騎・御代官所組頭持ち、永井伊勢名主長三郎・佐野三之助名主庄三郎・水野十兵衛名主庄七・川野権右衛門名主葉右衛門 いずれも月番石高にて相勤め申し候、問屋5人にて相務め・本陣御見立て成られ候由、海端まで4丁、海端まで横丁3か所、西の方に寺、町外橋2か所、西の方沼、東方松森3、4町、間の宿、八幡、塩小家あり、道より西北方の森
- ・間の宿村田・名主庄八＝上総下総の境、村田川渡し小河、御地頭森川兵部少輔、左右田畑、海端松森、大木2丈余り
- ・間の宿浜野村・名主新左衛門＝浜への横町、浜通り磯端より曾我野へ直道あり
- ・曾我野村より寒川まで28丁、問屋名主5人にて一手、本陣・名主七左衛門
- ・寒川村・問屋名主善八＝検見川まで8町
- ・間の宿登戸・問屋名主善右衛門
- ・稲毛＝茶屋6軒、本村は土手上の台
- ・検見川宿より馬加まで18町、問屋名主庄左衛門、本陣名主次郎左衛門
- ・馬加宿より船橋まで2里。問屋名主与五左衛門、庄右衛門、本陣与左衛門
- ・船橋町より下総八幡まで1里半、本陣名主源助・十左衛門、問屋源七。東の方佐倉道、石の橋1か所、町中大橋、同北の方堂、西の方海端へ横町
- ・八幡村。笠井新宿へ2里8町、市川へ28町、問屋名主市兵衛、本陣名主七左衛門

- ・市川村。笠井新宿まで1里半、名主治郎左衛門、北の方に2か所市川渡し、西の方御関所御番所
- ・御関所町。御関所より左右よし山、西の方町道より低し田畑
- ・笠井新宿より千住まで1里半、北の方大木宿入りに大橋、左右池、南の方山王社、西の方寺、新宿渡し、西笠井渡し、間の宿
- ・千住町。本陣秋葉市郎兵衛、問屋5丁の名主月番にて相勤め申し候由

⑥久留里藩の参勤交代ルート=延享2年「道中付れたり」の上り参勤の旅程は新宿、千住を遠回りする正規ルートだが、復路である交代を記す「里程表」は両国屋敷から逆井の渡し、小岩の関所を通る「元佐倉道」で船橋に一泊している。こうした変則的なルートが認められたのであろうか、房総他藩の事例も検討する必要がある。

### 3) 会津藩主・松平容敬、容保の「富津海防陣屋巡見」

①松平容敬（かたたか）、容保（かたもり）=会津松平藩23万石第8、9代藩主。容敬は藩政改革や民治、藩士子弟教育など仁政を布いた。嘉永5年病滅したが実子はなく、末期養子にいとこの尾張徳川家支藩・高須3万石6男・容保を迎える。容保は最後の将軍・慶喜の最側近として京都守護職に就任、維新の戦いでは薩長軍の攻撃目標とされて会津城が落城した。

容敬は嘉永元年、容保も同5年江戸湾警備のため派兵していた富津陣屋を巡見、今回は容敬の「巡見日誌」を引用した。

②11代将軍家斉前期の文化年間、外国船の近海出没など身近な国際情勢に危機感をもった老中・松平定信は湾岸諸藩に海防警備の強化を指示する一方、房総半島が小藩と幕府直轄領、旗本領が混在して不備があるとして自らの白川藩が警備を担当した。文化8年洲崎、竹ヶ岡に台場を構築、富津に遊軍出張所を設置、文政4年洲崎台場を富津に移して海防陣屋を構築していた。会津藩は弘化4年から嘉永6年までの6年間房総海岸防備を担当、この間「ペリー来航」があり、海防陣屋の緊張が一段と高まった。

#### \* 富津陣屋お固め担当藩の変遷

文化8年～文政6年 松平定信（老中=白川11万石）  
 文政6年～天保13年 森覚蔵、羽鳥外記、篠田藤四郎（代官=佐倉藩、久留里藩支援）  
 天保13年～弘化4年 松平忠国（忍10万石）  
 弘化4年～嘉永6年 松平容敬、容保（会津23万石）ペリー来航  
 嘉永6年～安政5年 立花鑑寛（柳川10万石）  
 安政5年～慶応3年 丹羽長国（二本松10万石）大政奉還  
 慶応3年～〃4年 松平直方（前橋15万石）鳥羽伏見の戦い、維新の戦い  
 明治元年～明治4年 保科正益（飯野2万石）廃藩置県

③会津藩は家老・黒川権兵衛、軍事奉行・黒河内十太夫以下藩士233名を派遣、富津陣屋、竹ヶ岡砲台を警固させた。翌嘉永元年（1848）自ら現地を視察、この時の日記を「松平容敬手控え、房総御備え場御用一件」に残した。会津藩による房総海岸お固めの陣容は兵力1400人、大小銃470うち砲7門、新造船19艘を記録している。

④富津岬は江戸湾に飛び出た三角州で東京湾対岸の横須賀観音崎までおよそ10kmと迫る。文字通り首都・江戸城の喉ぼとけに立地、その先端近くに富津陣屋があった。富津公園から徒歩5分、現況は住宅地と草地など、史跡標示もなく地元でも陣屋地と知る人は少ない。竹ヶ岡砲台は中世造海（百首）城要害中腹の急ガケに立地、見学は観光気分では無理、難易度は高いが江戸湾に向けた砲台は一見の価値がある。

⑤嘉永元年2月2日午前6時。容敬は供揃いも凛々しく、江戸城坂下門前の西の丸下（皇居前広場）和田倉門内・会津藩上屋敷を出立、総勢は100人規模であろうか。この日の宿泊地・検見川宿までおよそ10里40km。現代人には強行軍だが、当時では普通。

139

二月二日 明六ツ時已前、供船引明出起乗馬、山下ニ而乗輿、千住小  
 休、中川之渡、新宿休、四ツ時前着、小岩小休、市川ニ渡、是ノ道筋  
 左右梨子樹多シ、国府台左ニ見ユル、八幡迄歩行、是ノ乗馬、村中右  
 ニ八幡不知森有、舟橋小休、左ニ宿中大神宮有、検見川宿、七ツ半時  
 着ニ後、家老、用人召出、

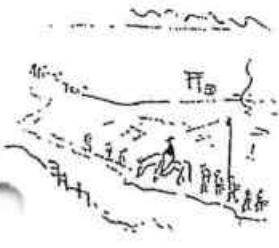
三日 快晴、昼前風、夕陰小雨、七ツ半時、検見川を起、磯辺を通ル  
 頃、夜へしらくと明行、波静ニ而眺望誠ニ宜、寒川小休、是ノ歩行  
 浜辺ノ之路、誠ニよく巻籠棚引、漁舟多く見ゆる、是赤蛙を取舟也と  
 ぞ、富士山遥ニ見渡リ海之面浪平也、

明わたる浪静なる朝なきに遥かにしろき雪のふしのね  
 是ノ歩行、八幡小休、此所小休佐倉領之由、是ノ馬、道脇ニ塩竈アリ  
 風景よし、五井休、四ツ時過着、宿地少し行、養老川アリ、

養老川

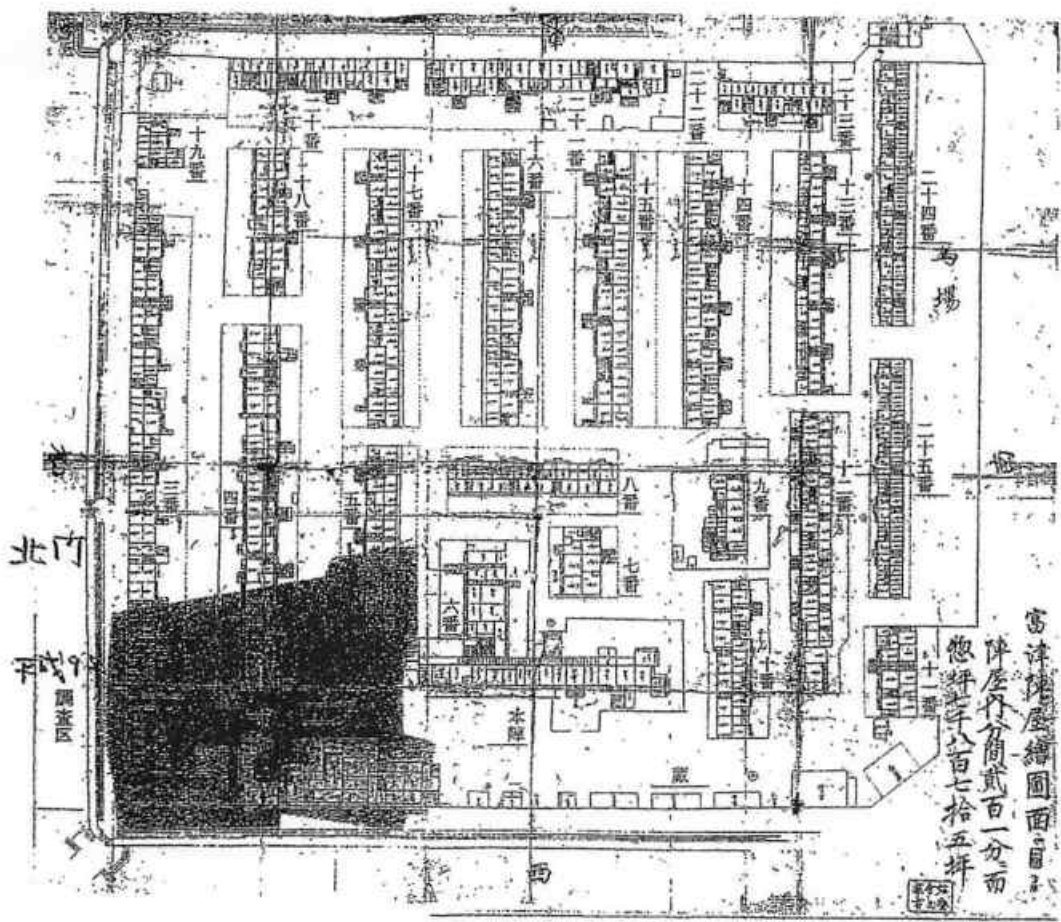
たらしめの為にや汲ん老らくをやしなふ川の流也けり  
 姉ヶ崎ノ浜通、左ハ山ニ而路狭き所あり、姉ヶ崎小休、海岸之路狭き  
 所あり、今井村ニ先海中ニ鳥井あり、井戸清水湧出ル、八幡御洗水と  
 唱ふ、奈良輪小休、同所ノ八丁程先、市場川舟橋道ハ渡之由也、是ノ

談記



その名は養老川は、昔は、養老の川と云ふが、  
 名を改、養老川と改、其の由、五井休、四ツ時也  
 是地也、養老川と改、其の由、五井休、四ツ時也

「はらちめ」井戸、清水湧出ル、八幡御洗水と  
 唱ふ、此所小休佐倉領之由、是ノ馬、道脇ニ塩竈アリ  
 「はらちめ」は、老らくをやしなふ川の流也けり



富津陣屋繪図面  
 陣屋外方簡武百一分ニ而  
 惣坪八百七拾五坪

会津藩主松平容敬の巡見日記と富津陣屋繪図面

- ⑥容敬のスタートは乗馬、上野寛永寺の山下で乗輿、気分転換か歩いたり駕籠だったり馬だったり、頻りに乗り継ぐ。千住大橋を境にした南、北千住が奥州街道の第1宿、ここで初めての小休止。  
\*会津藩邸から200mほどに日本橋がある。橋中央の「日本国道路元標」が東海道、奥州街道、日光街道など日本のあらゆる道路の原点であることを示す。五街道に準じる水戸・成田道もここが起点だが、傍らの黒御影石の街道名にない。当時の成田(佐倉)道は水戸街道の脇往還で、千住から忘れられたような旧道をたどって市川小岩関所に抜け、船橋から始まる房総往還とつながった。成田から東京行き総武快速電車を、わざわざ船橋で武蔵野線に乗り換え、さらに常磐線に乗り継いで東京へ通勤するにも等しい。幕府の街道保護政策でわざわざ遠回りさせられた公用族の特別ルートで庶民は行徳からの船便が多かった。
- ⑦2日後半の行程。千住小休、中川の渡し、新宿休み(10時)、小岩小休、市川、八幡、船橋小休、検見川宿(17時)。休憩はおよそ2、3時間に1回、速足で進む。  
\*千住宿=隅田川の千住大橋を挟んで荒川区の南千住と足立区の北千住にまたがる。日光街道、奥州街道、中山道の第1宿、大橋は江戸入り直後の徳川家康が北関東経営の要として伊奈忠次に作らせた  
\*中川の渡し=中川の水戸街道足立区青戸・亀有と葛飾区新宿を結ぶ渡し場  
\*新宿(にいじゅく)=中川を渡った新宿で昼食  
\*小岩=江戸川にかかる市川橋が市川の渡し跡で、小岩側に市川・小岩関所がおかれた
- ⑧市川。これより道筋左右梨樹多し、国府台左にみゆる。八幡まで歩いて乗馬、村中右に森(蔵)知らず。現在の市川市八幡、市役所や市民会館などのある中心地で、当時八幡といたら市川をいい、市原の八幡は上総八幡と国名を付けて区別した。船橋小休、左に大神宮。船橋は町の中心地を流れる大川に実在する橋名。大名行列など舟橋とした故事から。検見川は現在千葉市花見川区、かつて宿場駅兼漁師町として栄えた。家数350軒、幕府天領と旗本3家の相給で名主の次郎左衛門家が代々本陣を張った。
- ⑨3日に市原を通過。旅先の朝は早い。午前5時検見川宿を出立、千葉あたりで夜はしらじらと明け。浪静かにて眺望まことによろし、浜辺よりの路春かすみたなびく。漁船多くみゆる。赤貝を取る舟なりとぞ、富士山遥かに見渡り海の面、浪平らなり。ここで一句  
明けわたる 浪静かなる朝なぎに 遥かにしろき雪のふじのね  
下総、上総国境の村田川。橋はなく旅人たちは干潮時徒歩渡り、満潮時は渡し舟を使った。八幡で小休止。「道脇に塩かまあり、風景よし」と、容敬が旅スケッチ「絵図1」に書き留めた。帆船が行き来する江戸湾の先に富士山。「絵図2」の今井村は八幡村の間違い。八幡様の海中鳥居や清水の出る井戸があり、自身は馬上でシンボルの鎗の供揃いを描いている。
- ⑩五井宿には10時過ぎに着く。少し行き養老川でまた一首  
たらちめの ために汲まん老いらくを やしなう川の流れなりけり  
「たらちめ」は生みの母のこと、身分違いでほとんど違ふこともなかったであろう生母に想いをこめたか。この日は木更津宿に泊まる。
- ⑪4日飯野保科藩陣屋前を通過、本家、分家の間柄だが藩主正もとが定府不在のため通過。小糸川を舟橋で渡る。西川村からが会津藩領内、名主宅小休止(昼食)、これより乗馬、富津町通行、同所詰めの諸士出迎える。富津陣屋多門(正門?)を素通り、さっそく視察開始。武器浜辺大砲、遠見番所に、家老・権兵衛を召し出して夕弁当をとる。軍事奉行・十太夫付き添いかれこれ尋ねる。潮合いよし、出洲の様子見に半道(2km)ほど乗船。夜家老ら重臣と宴。
- ⑫5日朝、同所詰め諸士座列にて目見え、10時供揃え出立、遠見番所で浜辺大砲打ちなどを検分、台番所で弁当、それより山道歩行、七曲り、浜通り、またまた山道、この日は竹岡陣屋泊、翌日造海(百首)城跡登山、岩石の門あり物見台へ登る。大銃火通番所へ上がり小休、下台場を望む。以後11日まで視察が続いた。
- ⑬12日帰路へ。12時、供揃い乗馬で富津本陣を出立、途中雨のため駕、中野村網屋小休止、これより歩行、貝渕より乗馬、木更津宿へ17時前着。13日は曇、南風折々風雨、朝5時出発、奈良



輪、姉ヶ崎小休止、12時五井で昼食、八幡、寒川小休止、往路と同じ検見川宿本陣に宿泊、2月14日に江戸城坂下門前の上屋敷に戻る。

「富津陣屋松平藩領湊村名主御用留め」にみる関係史料(富津市史の要旨)

- ①弘化5年2月5日、御領主松平肥後守様昨4日富津御陣屋へ御着あらせられる。今朝御台場御見分これあり(行程や継ぎ立てなどの対応が詳しい)
- ②嘉永5年4月24日、異国船伊豆沖へ見え候て、浦賀、忍、会津様大騒ぎ成るべく候
- ③嘉永6年3月6日、(松平肥後守様=容保)来る11日江戸表御発駕、御着日13日、いずれ6日御道中にて御巡見遊ばされ候段仰せ出され候、御休泊の村々ならびに道筋村々すべて御役方油断なく取り計らい候よう(継ぎ立てなどの指示を出す千住問屋役所触れ書き=対応省略)
- ④6月9日、異国船昼九つ時ころ富津洲崎を乗り、内2艘は大森沖合漂着、2艘は小芝沖合に懸りおり申し候(その後も黒船の動き活発)
- ⑤11月15日、御領主松平肥後守様富津、竹ヶ岡備え場御持ち御手替え仰せ付けられ、江戸品川築出新備え場二番持ち仰せ付けられ、富津、竹ヶ岡の儀は立花左近将監様御備え役に仰せ付けられ候由、御触れこれあり

#### 4) 全国を測量した伊能忠敬の「沿海測量日記」

- ①「大日本沿海輿地」を残した伊能忠敬は山辺郡の寒村に生まれた。佐原村の名主・伊能家のムコ養子となり、ここで暦学や算術、測量術を学んだ。49才で家督を長男に譲り、江戸へ出て幕府天文方高橋至時に師事した。測量の第1歩は蝦夷地の地図作成で、享和元年の第2次測量で江戸から青森までの太平洋岸を歩く。忠敬の身分は「天文方高橋至時弟子」、幕府からの支給金も出たが大半は忠敬が「趣味道楽」で負担した。忠敬の測量術は自らの足で「1歩2尺3寸(70cm)」を守りぬくこと。「忠敬先生日記帳」が活字本に。6月19日深川黒江町の居宅を出立した測量隊6人は、6月21日八幡、五井を通過、38日間を要して房総半島を一周した。
- ②享和元年6月1日=品川駅に自分先触れを出し、かつ勘定奉行お村触れを問屋より写し来る。自分先触れ=覚え 一、長持ち1棹、ただし人足6人、増人足とも。一、襦籠1挺、この人足2人。一、本馬1疋 右は我ら測量について御用上下6人、明2日江戸出立、海辺通り、伊豆国までまかり越し候あいだ書き留めの人馬、御定め賃これを取り請け、いささかも遅滞なく差し出し継ぎ立て、かつまた渡船、川越え、止宿などの儀これまた差し支えこれなきようかつ雨天その外逗留の儀もこれある候あいだ、その心得にて取り計らい給うべく候。以上酉4月朔日、伊能勘解由 江戸より品川海岸通り相州浦賀まで右村々宿々、名主、問屋、年寄中
- ③6月21日=朝は曇、五つ(8時)後より段々晴れ、午前より晴天。6つ半(9時)半より検見川出立、稲毛村に至る。黒砂村、登戸村、寒川村(この村駅場なり)、千葉村新田後田方入会、今井村、泉水村(この日馬駅、曾我野と月番)、生実新田、浜野村(この所も駅場なり)、村田村、八幡村(八幡宿という=上総国市原郡滝川小右衛門御代官所・高107石余、岩本内膳正知行所…、高150石八幡宮領・別当若宮寺社持ち10坊・神主市川大隅・社家8人・家数382軒・寺6か寺・人別1713人、この村も駅場なり)、五所村、金杉浜村、君塚村、五井村、八つ(14時)ころ着止宿、すなわち甚五左衛門本陣なり、この夜曇天中少々測る。
- ④翌22日は岩崎新田、玉前新田、松が島村、青柳村、今津朝山村、姉崎村、椎津村、奈良輪と進み、中島村に止宿した。「木更津まで泊触れ出し候えども届きかね急に触れ替え」「この夜晴天測量」。毎夜、天体測量を実施、村々の緯度を確定した。
- ⑤東京国立博物館現存の「大日本沿海輿地全図(伊能図)」日記帳の「御料所、岩本内膳正、松本弥門、水野石見守、村上三十郎、河野善十郎、佐野九右衛門、永井十左衛門知行所、八幡宮領、八幡村」のが記され、海岸線、房総往還の宿通り出入り口枡形などが書きこまれている。

## 5) 水戸黄門が鎌倉への道すがら八幡宮に立ち寄った「甲寅紀行」

- ①延宝2年(1674)、テレビ時代劇「水戸黄門」で知られる、御三家・水戸徳川家第2代・光圀が「大日本史」取材のため鎌倉への道すがら八幡、五井を通過した時の記録が自身の「甲寅紀行」にある。供数は未詳、助さん、格さんは？
- \*光圀=寛永5年、家康11男頼房2男に誕生。母は側室。いとこの3代將軍家光に可愛がられ、6才の時兄頼重をさし置いて世子に決まる。寛文元年封を継ぎ元禄3年隠居、明暦3年から「大日本史」編纂を開始、全国から多くの学者を招聘した。領内巡視や鎌倉取材日記が「水戸黄門漫遊記」のもととなった。寛文元年没59才。
- ②4月22日水戸城出発、26日利根川を越えて下総に入る。成田山に詣でて不動を拝す。西の方に印旛沼を望み見る。(中略)4月27日千葉に入る。妙見寺、伊野花(猪鼻)古城の山根に水あり、東照宮お茶の水という。右の方に松の森あり東照宮御旅館の跡なりという。千葉寺見ゆ。寒川を過ぎ曾加野(曾我野)村にて憩う。それより出でて小弓の大岸(大蔵)寺へ過る。(中略)大岸寺の入り口の前、右の田向いに古城(小弓城)あり、西江孫六若狭守、50年以前ここにおれりという。今は森川出羽守重信これを領すとなり、浜野を過ぎ、村田村を通る。
- この所の末の出口に草刈というあり。馳走のためにとて舟橋かけたり。この川また村田川といい、下総、上総の境川なり。川を渡りて南は上総の地なり。市原郡八幡村とて社あり。社僧がいわく。「勧請の年は白鳳2年なり、一説に至徳2年ともいい、または古の社壇頽破し、至徳年中に改め作るともいう。神領150石なり。御朱印あり。別当並に供僧12坊、祠官12家あり」となり。五井村を過ぐれば青柳村と飯沼村との間にふとい河あり、飯沼川ともいう。徒歩渡りなり。それより姉ヶ崎に入る。(中略)遂に姉ヶ崎の妙経寺に至りて宿す。5月2日鎌倉にわたり、9日江戸小石川邸に帰った。
- ③鎌倉は頼朝の幕府所在地であるとともに、光圀の父頼房の養母お勝(家康側室=太田氏、英勝院)が家光から拝領した先祖道灌屋敷跡に開基した英勝寺があり、初代庵主・清因院(光圀の姉か妹)以下代々水戸家の娘が入った。お勝が眠る仏殿などが創建時の面影を残している。

## 6) 江戸の国学者・岡田真澄の紀行文学「上総日記」

- ①岡田真澄(1783~1838)は江戸後期の国学者・歌人。弟子の墓参を兼ねて天保2年から6年までの間に海、陸路あわせて5回、木更津、君津など西上総地区を訪ねた。本文は和歌のやり取りなど歌物語も多く難解だが、ここでは千住、新宿、市川、船橋の正ルートで市原を通った最後の旅行記関係分を、江戸後期の御鷹奉行同心片山賢自写本の「校註上総日記」(西野元)から紹介する。
- ②(天保6年10月)16日、日よし、明はなるころやとりを出でて水戸街道を横折れて、新宿を過ぎ……。柴又という所に帝釈天王のおわしますを詣づ(中略)市川の関を越えてふとひ川を舟してわたる。(中略)八幡、鬼越、海神などすぎて舟橋にしぼし休む、(中略)幕加にやどる。
- ③17日、風つよく晴れていと寒し、検見川、登戸、寒川など過ぎて(中略)浜野の如意山本行寺に至る(中略)こよいはこの村にやどれり。
- ④18日、日ばかりより曇れり。村田川という川は上下の総の国境なり。舟渡りして八幡に到る。八幡宮たたせおはしませど今日は選擇して過ぐ。五所、君塚、五井など経てまた養老川というをわたる。名もうれしくて水にむすびたるに、いと清く、わが郷に近からましかば、かぞいろ(父母)にたてまつらほし、こよいのやどりはこの川の岸なる松ヶ崎という所なり。
- ⑤19日、去年の夏、この国にこし時、姉崎の明神、笠上の観音は、もがさ(痘)をやすらにまもらせ給うとききて、子どもをかるらかにせさせん事をとねぎ(ことし)つるに(中略)こたびはからずも又ここに来ぬるが嬉しくて、けふは朝とくよりいでてまず明神まうづ

# 行徳船で江戸へ向かった一般向け旅行記

## 1) 蘭学医・深川元備の「房総三州漫録」

①上総飯富神社神主家の分家で蘭学医でもあった深川元備（げんしゅん）が天保年間、江戸から下総、上総への見聞雑録としてまとめたもので動植物の学術書としても知られる。

②江戸より房総に至る主な陸路

小網町河岸より行徳に至る（舟）

下平井の聖天渡しより今井渡しを渡りて行徳に至る

下平井より市川を渡り八幡に至る

下平井渡しより河原渡しを渡りて行徳の下に至る

逆井の渡しを渡りて市川を渡るなどなり

③江戸より姉崎までの行程（要旨）

・この道中、酒のよきは行徳、船橋、千葉、八幡。人のよく馬に乗るは検見川、登戸の間、舟に乗るは浜野よし。登戸は慎み舟にのるべからず。船橋にて駕籠にのるべからず

・小網町より出船。乗合は1人64文くらい、酒手32文。火縄（たばこの種火）は中川御番所にて消えるようにす。行徳より乗りたるときも同じ

\*（\*印＝説明）江戸霊巖島小網町河岸は房総への舟の出発点で「行徳舟」が、隅田川から小名木川に入り、中川を横切って新川に繋ぎ、行徳の新河岸に着いた。3里8丁12kmをおよそ3時間で運行。小名木川は天正時代、徳川家康が行徳の塩を江戸に運ぶために開削した人口運河であったが、海路に比べて時間も早く航海が安全であったことから、銚子沖の魚介類や霞ヶ浦あたりのコメや野菜などが運びこまれた。江戸後期はとくに庶民信仰の「成田街道」として成田山参詣で賑わった。

・万年橋下をすぎて小名木川1里、釜屋堀辺り名松多し。すべてこの辺り松よし

・中川御番所、トーリマンスという、惣髪は断わりあり

・船堀川、ここより綱曳き、新川の口まで124文、行徳まで250文なり、ジンザクというを胸にかけそれにて曳く

・中川辺りの漁。秋土用明きにメナダ（ゴカイにて釣る）、フッコ、セイゴ、スズキ（下りの時なり、海に下るなり）四季釣れるは鯉（水濁れば釣れる）、鮒（10月後よろし脂あり）

・新川（利根川の新川＝江戸川）、東は猫実まで行徳、西は葛西、松よし、葉尖りまで青し、しかれども大木なし、風強きによって木みな西になびく

・行徳4丁目上り場なり、富士山見ゆ、制札あり、行徳船江戸へ入る時、船頭むじんとて32文ずつを乞う（帰り舟の綱引き酒手？）

\*行徳はJR船橋から地下鉄・東西線5分ほどの江戸川沿い、かつて塩田と田んぼの町で、江戸時代は「行徳100軒、寺100軒」と言われて繁栄した。河岸には12軒の旅籠があり、現存する常夜灯が当時繁栄ぶりを物語っている。

・この辺り成田詣か、徳願寺十夜の時忙し、漁事は春サヨリ、夏ウナギ、3月ころより暑くなるに従い、夜遊行するを九六にてとる、江戸前ウナギという

・4丁目笹屋、頼朝卿のうどんを食し給う故跡とぞ、箱入り100文より

・潮浜にて潮を焼く。近辺の山より松葉を売る。オマツたきでありとて価よろし、この辺りの塩釜のかけを上総五井にて買い砕きて塩母とす

・中山こんにやく、実は中山にあらず行徳にて製す。笹村屋よろし

・八幡梨を持ち出して売る。これは市川の通りの八幡村の名産なり

・船橋、日本武尊着岸の地という。大神宮あり、八兵衛名高し。このあたり漁労多し、貝バカ名物という。轎夫（かごや）馬方よりも人気悪く甚だ酒手をむさぼらる、乗るべからず

\*船橋は房総往還最大の盛り場で、成田道、御成り街道と交わる。海神地区は名にしおう遊興街、ペーペー方言で「八兵衛」とよばれた飯盛り女が街道をゆく男たちを手玉に取った。JR、本町あたりが

宿場の中心地で本陣や伝馬所、老舗商店などが軒をつらねた。明治維新の時、旧幕臣の義軍府が大神宮にこもり、新政府軍の砲撃で町が焼かれた

- ・谷津、久々田、鷺沼、馬加、向い原、検見川、稲毛、黒砂、登戸、寒河、五田保、今井、泉水をへて上総の海面まで貝類に富む。バカ、上総の青柳の産をアオヤギバカという
- ・牡蠣、君塚・五所の海岸まで波の寄る所にあり
- ・蛤、君塚・五井・青柳・今津、あさり寒川、ツブ潮吹きなり、貝のはらむは蛤5月、あさり12月、ツブ12月、バカ春
- ・寒河（JR本千葉駅と蘇我駅まん中あたりの元海辺）、白幡神社あり、頼朝卿この所に旗を立てて千葉介を召したり、河あり大河とい、橋を大橋と称す、頼朝卿今朝は寒いと宣いしより寒河というぞ。寒河の沖あさりよろし、鯛、カレイ名物なり、網は6人、イワシ主なり、地引き、手たぐり、イカ網
- ・浜野、村田、村田川国境なり、船賃2文
- \*村田川は上総、下総の国境の境川で房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代架橋は許されず旅人たちは渡し船、干潮時は徒歩で渡った。千葉市の史跡看板は「この地は南房総への交通の要所でした。明治20年ころまで船による渡しがあり、古来探訪の文人、墨客、兵馬など身分の上下を問わず船で川を越しました
- \*村田橋は明治7年架橋、八幡村と村田村が工事費を出して、橋銭をとった。渡船場跡は現在村田川公園、曲がりくねって大雨のつど決壊、昭和28年の拡幅改修工事で川と新村田橋が現在地に移った。かたわらの庚申塔は享保18年八幡村の人たちが寄進、村の安全を祈願した
- \*観音町入口に馬頭観音などが並ぶ。安永10年の庚申塔は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を刻む。東金に通じた間道で300mほど古道が残っている
- ・八幡村、八幡宮白風2年の勧請なり。五所の人都在り参詣してある所にて八幡の像を盗み、追手急なるによって「五所の裏に着きたまえ」と祝して海に棄つ（飯香岡八幡宮創立神話の一つ）
- \*八幡宿に入る。上総の玄関口で水陸交通の要衝で、市原郡最大の商業都市。五大力船が江戸へコメや薪炭、材木、竹材などを運んで江戸から日用品や江戸文化を伝えた。
- ・五所にてリュウキュー井（上総堀り？）を作る
- ・五井塩田あり、から味薄きゆえ行徳の塩釜のかけ貝灰を入れて強くす。養老川船賃5文

## 2) 十返舎一九の「金のわらじ 房総道中記」

- ①江戸時代後期の戯作者。駿河府中の人、また町同心次男ともいう。江戸、上方を放浪、のち江戸の出版元・蔦屋重三郎の食客として、黄表紙や洒落本、滑稽本、狂歌などを手掛けた。代表作は弥次さん、北さんの「東海道膝栗毛」、江戸町人の歯切れのよい洒落とユーモアで有名になった。「金のわらじ」は江戸見物、東海道、大坂見物などのシリーズもので、「房総道中記」は房総を一巡する道中記で、宿場ごとの絵草子になっている。
- ②行徳＝江戸小網町行徳河岸より船に乗る。陸路をゆくには兩國より本所壱川とおり、逆井の渡しをわたりて行徳にいたる。陸船路とも3里なり。行徳に徳願寺という大寺あり。笹屋うどん名物、中山こんにゃく。これよりすぐに八幡、真間、国府台、木下への道なり
- ③船橋、馬加＝船橋大神宮あり、宿外れより左は大和田へ3里半、成田道なり。右の方は上総道なればこの街道をゆく。馬加へ2里なり、この宿に飯盛りあり、八兵衛という異名あれば（狂歌略）、馬加より検見川、登戸へんは遠浅にて、めどりとて鞘巻の小エビをとるなり
- ④検見川、登戸＝馬加より18丁ゆきて検見川なり。この辺遠浅なり。潮干にも海の中を行くべからず、沼ふかくゆきがたし。それより登戸、この所より朝昼船出る。江戸の小網町思案橋へ行くなり
- ⑤寒河、曾我野＝登戸より9丁ゆきて寒河という宿は良き町なり。千葉の妙見の宮、社領は100石
- ⑥浜野、八幡＝浜野より武士、真ヶ谷の方へゆく道あり、浜野よりも江戸小網町へ20丁ゆく（狂歌）大黒の櫓の打ち出の浜野とや、他から（宝）入り込む宿の賑わひ  
八幡、八幡宮御宮あり、このところより郡本、山田のかたへゆく道あり。豆原へも行く街道なり

(狂歌) 正直の頭(こうべ)をたれてぬかずくや、これぞ兜の八まんのみや

⑦五井=五井の先により久留里の方へゆく道あり。3里の原をとおりゆく道なり。久留里川この辺より毎日、押送船出る。天気あしく風はげしきときはのるべからず

(狂歌) 旅人はごいされ、半乗れと我さきに いそぎてくるり川の渡し場

⑧姉ヶ崎=姉ヶ崎、これよりも押送船出る。このさき、椎津というところよりも3里の原通り、真里谷、久留里へいずる道あり、豆原、小湊へゆく本道は浜野より潤井戸へい出てゆけども、この道、大多喜というより川多し

### 3) 地方名主文書「出府道中諸入用控え」(八幡・寺嶋家文書)

①御殿様(旗本村上三十郎)大坂表(京都)御警衛御用として御登り遊ばされ、かつ英国一条懸樋につき勤番中につき(軍用金御用のため江戸屋敷出張=公務)

②文久3年3月、14代將軍家茂の上洛に警衛のため雇仕した旗本村上三十郎の軍用金御用として江戸に招集された肝煎り名主・寺嶋由治郎の公務出張入用帳。この年、生麦事件、下関での薩英戦争、尊攘過激派の追放による七卿落ちなど大事件が続発、政治の中心地はすでに京大坂へと移り、將軍は江戸へ帰ることができない。

\*関連文書=文久3年4月、村上三十郎→寺嶋由治郎。軍用金8両3分2朱余即納、5両1分余追加用意仰せ付けられ候。返済は三か年間の年貢引き

③5月13日(八幡宿→江戸)=32文馬加村茶代、4文橋代、4文船橋宿橋代、148文昼飯代、32文下総八幡茶代、16文市川渡船代、16文逆井渡船代、50文そば代、20文湯銭・茶代、20文たばこ代

15日=28文髪結い代、20文たばこ代、100文小遣い

16日=100文(判読不能)、20文たばこ代

17日=20文たばこ代、100文天ぶら、20文湯銭

18日=32文洗濯賃

19日=20文たばこ代、100文酒代、12文湯銭、28文髪結い銭、100文饅頭代

21日=148文たばこ代、48文鼻紙代

22日=28文髪結い銭

24日=64文ふふりだし

25日=100文まんじゅう

26日=64文ふふりだし

27日=48文鼻紙代

28日=28文髪結い銭、32文ふふりだし、4文もぐさ灸すえ貼り代

29日=12文湯銭、164文そば、酒代とも、372文黄木綿6尺代、4文小遣い、32文小遣い、茶代、たばこ、150文五茎散箱、100文茶代豊吉兩人分

晦日=32文洗濯代

6月1日=12文茶代、48文すし代、18文びわ湯2杯

2日=28文髪結い代、16文背負い直し代、10文賽銭、230文折代

3日(江戸→八幡宿)=100文行徳船、104文船橋屋飯、100文船橋より乗馬代、8文橋代、2文橋代、200文登戸夕飯、酒代 〆3貫382文、うち372文、〆3貫10文

備考=江戸滞在中、本所三つ目・村上三十郎屋敷に宿泊、旅館、食事代はない。江戸領主屋敷での仕事内容は不明だが、なんとなく観光気分がただよう

### 4) その他の史料

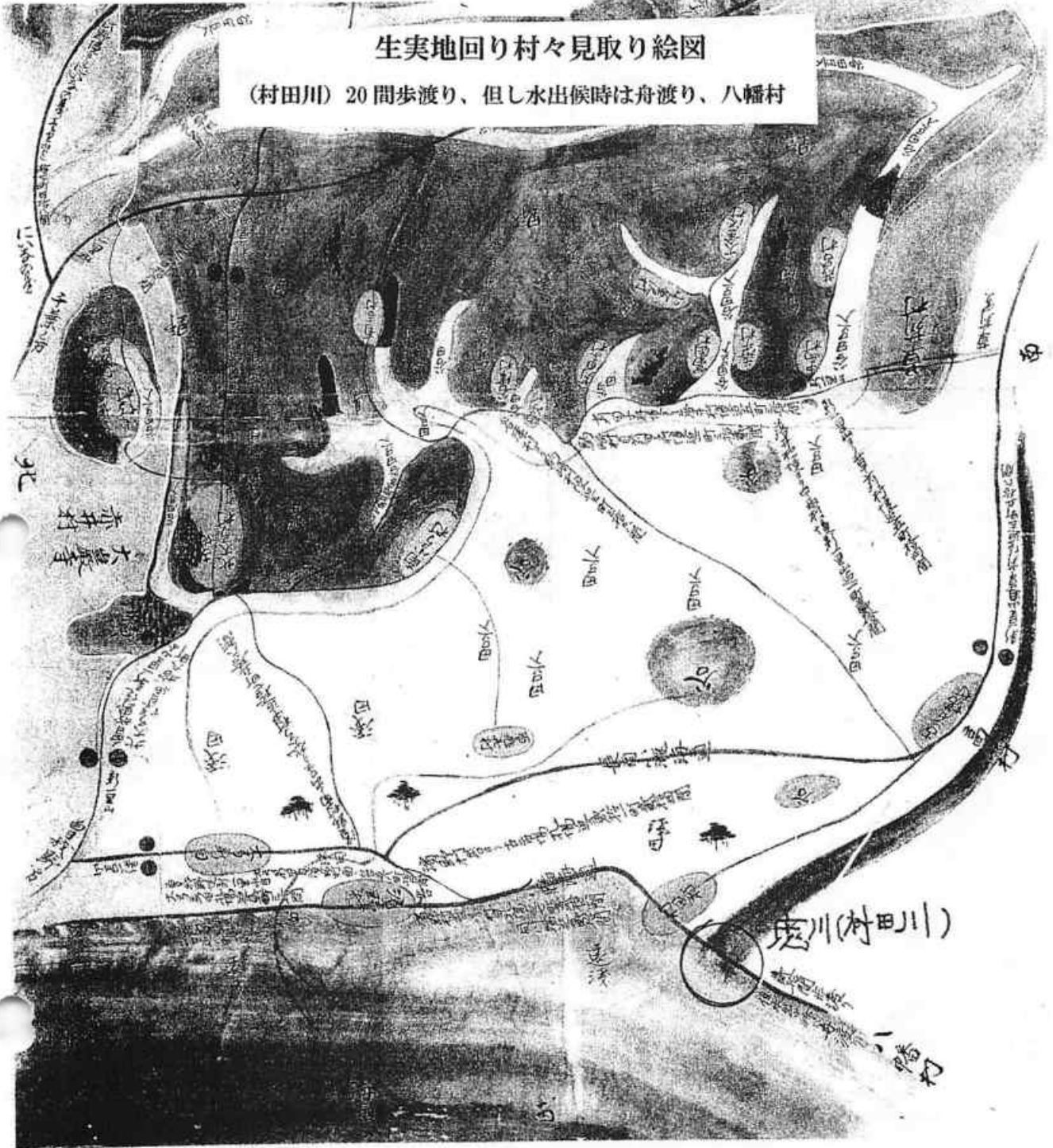
①御朱印改め、中川関所通行手形(飯香岡八幡宮文書=天保9年)

差し上げ申す一札のこと 御朱印 一、長持ち一棹

右は上総国市原郡八幡宿村八幡宮神主・市川伊賀亮より江戸日本橋佐内町常陸屋東助方まで積み送り申し候あいだ、御関所相違なく御通し遊ばされ下されべく候。後証のため一札差し上げ申すところ、よつてくだんのごとし。天保9戊辰4月26日 下総国葛飾郡本行徳村、右宿、九左衛門判 中川御関所御役人衆中様

## 生実地回り村々見取り絵図

(村田川) 20間歩渡り、但し水出候時は舟渡り、八幡村



## ②海士有木村所用向き日記 (勝間・佐野家文書)

慶応4年3月12日、仙石鉄次郎家来家族通行、持ち触れ=人足9人、ただし引戸駕籠3丁、馬1疋。右は鉄次郎知行所、上総国市原郡磯ヶ谷村へ家来家族差し遣わし申し候、今11日江戸見坂下屋敷出立、書面の人足お定め賃銭受け取り宿々村々差し支えなく(中略)、行徳宿より船橋、馬加、検見川、登戸、寒川、曾我野、浜野、八幡、海士有木より磯ヶ谷村まで、右宿々村々問屋役人中

・4月1日、風戸村日光寺宥元通行、江戸触頭真福寺宗用出府帰国先触れ(要旨)=乗軽尻1匹。行徳、船橋泊、馬加、検見川、上総八幡、郡本、海士有木村、山田より風戸村、右宿々問屋御役人中

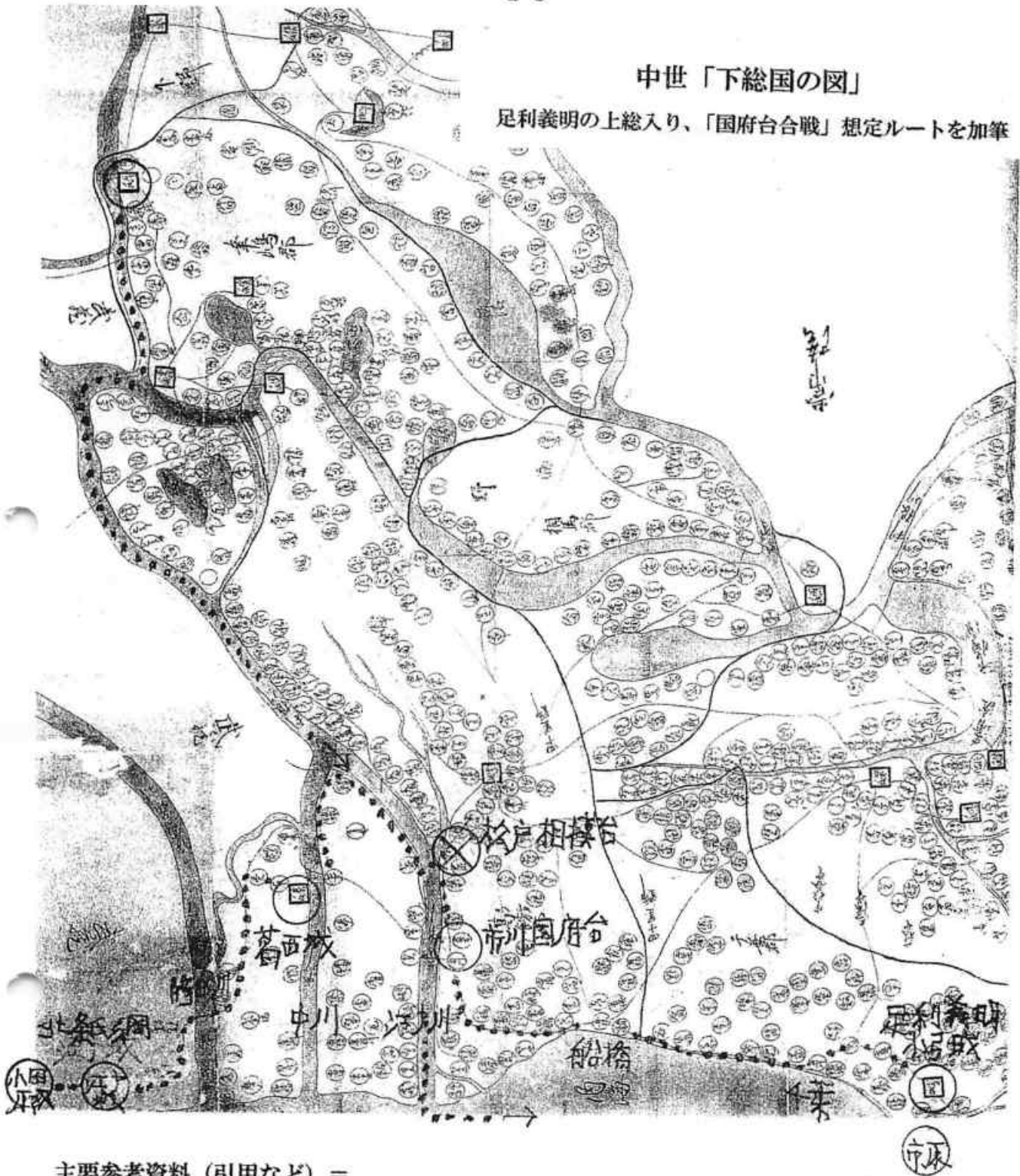
## ③上総土気宿往還御用留め (勝間・佐野家文書)

明治4年3月21日、宮谷県付属佐藤左衛門通行先触れ(要旨)=先触れ人足、伝馬1疋。桜井村出立、宮谷陣営まで引き上げ候あいだ差し支えなく取り計らいべく。木更津、泊奈良輪、姉ヶ崎、昼五井、八幡、泊潤井戸、野田、土気、大網、右宿々村々へ

以上

## 中世「下総国の図」

足利義明の上総入り、「国府台合戦」想定ルートを加筆



主要参考資料（引用など）＝

市原市史、君津市史、市川市史、松戸市史、絵にみる図によむ千葉市図誌、千葉県史料、千葉県の歴史、房総叢書、日本図誌大系、陸軍部測量局迅速測図、国郡全図並大名武鑑、房総の街道繁昌記、成田街道、房総往還、房総路、金の草鞋房総道中記、市原の古文書研究、個人蔵資料（本文記載）、（県市歴史博物館企画展資料）旅は世につれ、海と千葉、幕末の東京湾警備、江東幕末発見伝、里見氏の遺産、

お断わり＝引用文献は読み下し要旨、漢字や用字用語を現代仮名遣いにしました

3 2021/6/27 148

10.25 ~ 10.30  
25分



人権史学館グループ  
最新の調査活動

鎌倉岡八幡宮文書



旧神宮、市川家系図七景



編者第61代教直 菅田東系

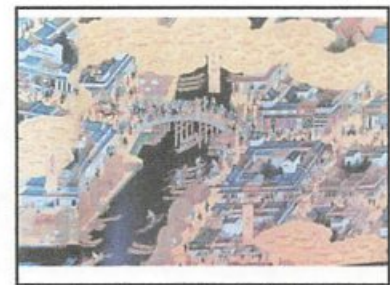
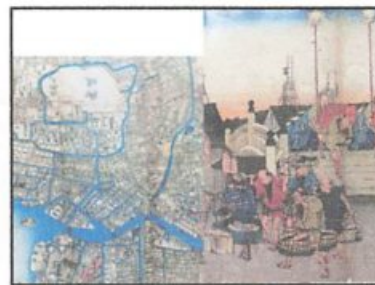
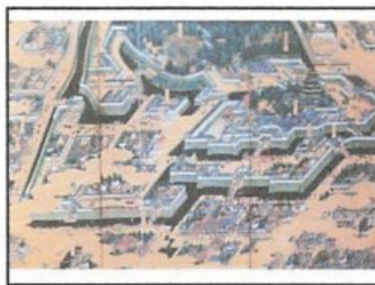


藤原氏系図



市原から江戸へ

史料でたどる近世房総往還の旅  
前半＝千住廻りした参勤交代、分限公儀  
後半＝新橋廻りを近畿した一般の旅



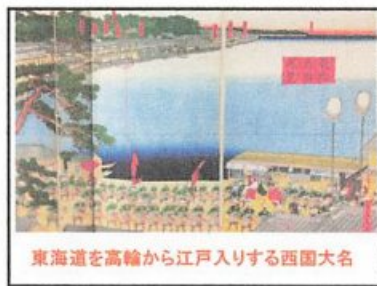
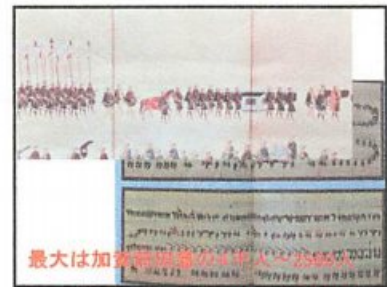




**テーマ① 参勤交代**

寛永時代、幕府が定めた大名統制義務行為  
 正室、世子は人質として江戸屋敷に居住  
 1年(半年)交代で軍役の人数を率いて出府し、  
 將軍の統制下に入る  
 参勤＝江戸への旅、交代＝帰国の旅

文化元年「大名武鑑」による分類  
 全大名264家  
 1年交代175家、半年交代27家、定府26  
 家、現職関係21家、要地警固21家ほか



**市原を通過した大名**

上総  
 ①久留里黒田藩3万石  
 ②佐貫阿部藩1万6千石  
 ③五井有馬藩1万石  
天明2年～天保11年の69年間

安房  
 ①勝山酒井藩1万2千石  
 ②館山稲葉藩1万石  
小藩が多く60人～150人

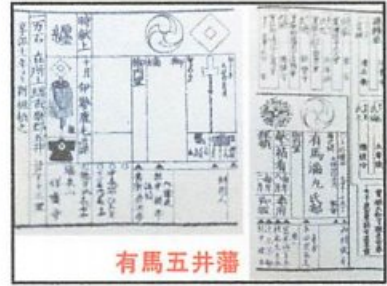




久留里城下



本丸から2の丸、3の丸を俯瞰



有馬五井藩



五井陣屋跡  
現在五井駅



阿部住居跡



有馬五井藩  
戦国時代星見氏御山城  
横断天守真下に陣屋地



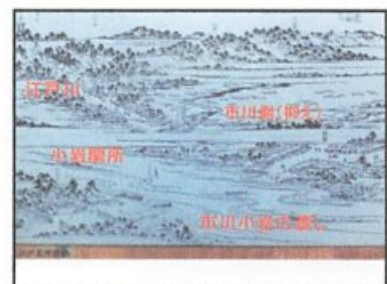
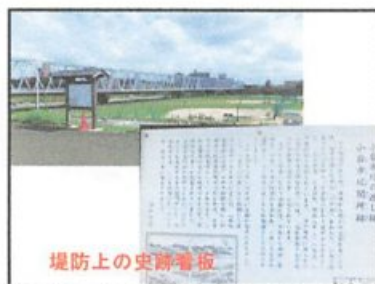
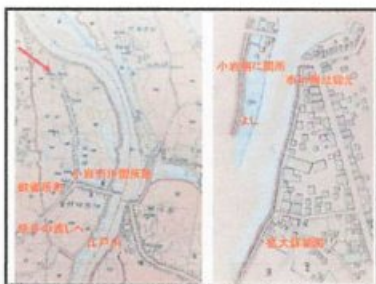
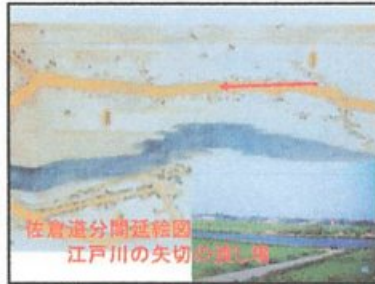
星見氏の御山城は惣め城  
重忠氏の御山城根古屋を活用

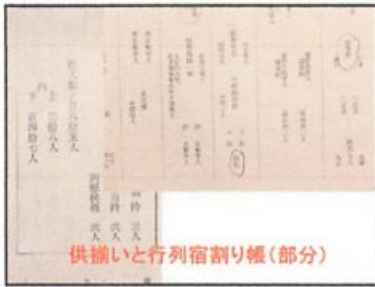
稲葉館山藩  
山藩の藩主御殿跡

定府で参勤交代のなかった  
房総大名

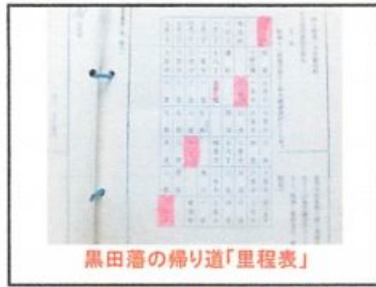
- ①大多喜松平藩2万石
- ②飯野保科藩1万7千石
- ③鶴牧水野藩1万5千石
- ④一宮加納藩1万3千石
- ⑤請西林藩1万石

久留里藩「藩政一斑」  
参勤交代の記録を残した黒田藩





供捕いと行列宿割り帳(部分)



黒田藩の帰り道「里程表」



黒田藩に認められた帰り道ルート

上屋敷=黒本市跡(現 現在の黒田町、上野正小橋そば)

下屋敷=本所石原町(現在の黒田園技館そば)



小嵐市川関所

②逆井の渡し

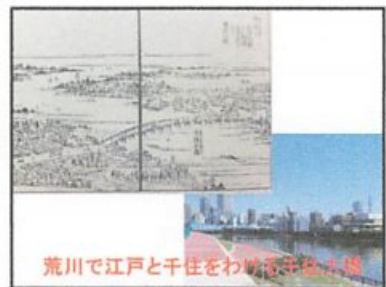
②両国下屋敷

黒田藩の帰り道ルート

逆井の渡し



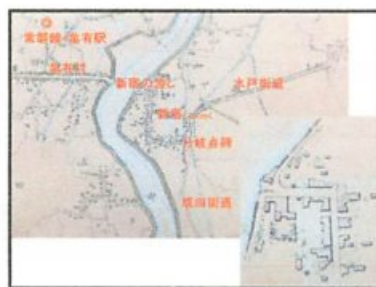
日光街道(左側は日光御宿跡)



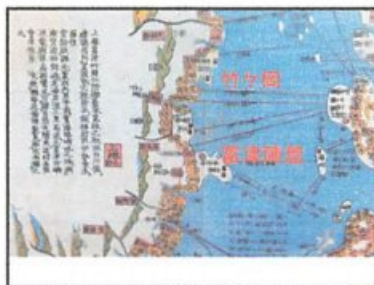
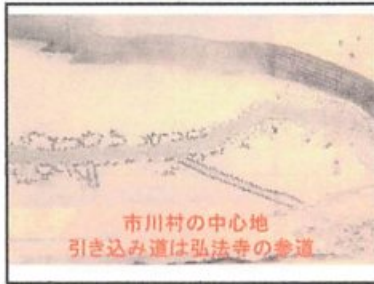
荒川で江戸と千住をわける千住大橋

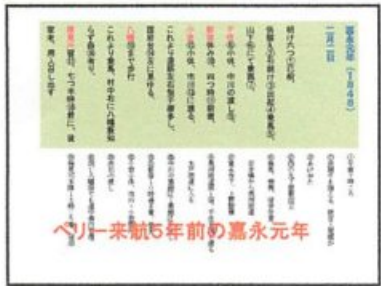


富岳36景 千住宿をゆく大名行列

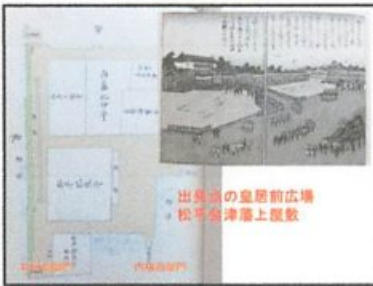


中川 新橋の渡し跡

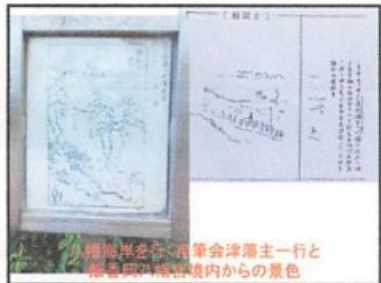
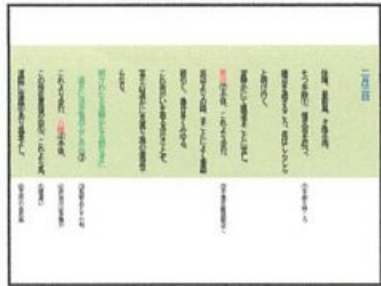




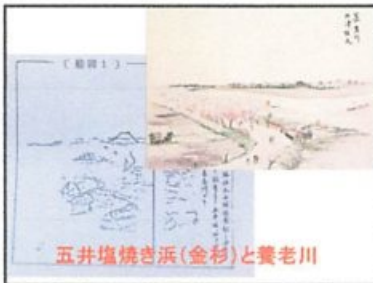
いんげん



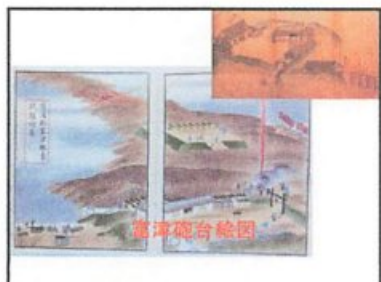
出陣広場  
御陣上段敷



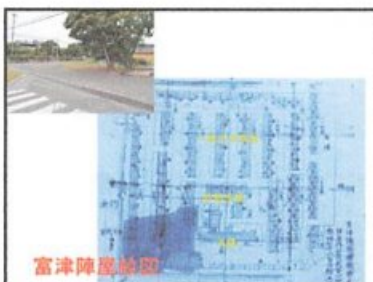
富津藩主一行と  
御陣上段敷内からの景色



五井塩焼き浜(金杉)と養老川



富津砲台絵図



富津陣屋絵図



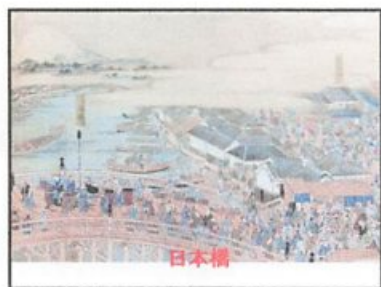
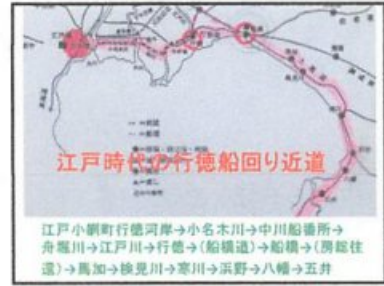
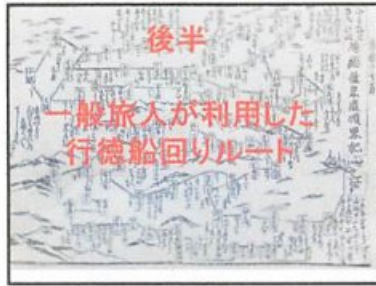
富津陣屋の出先、竹ヶ岡本陣跡



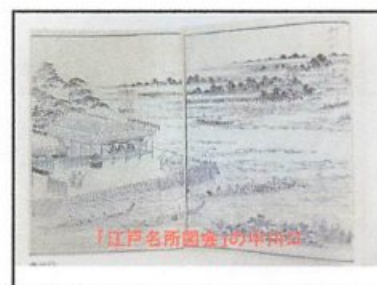
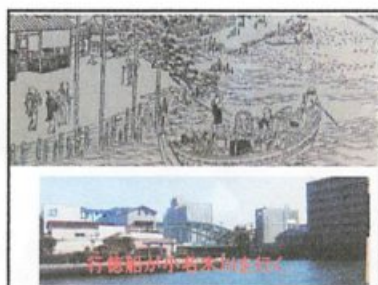
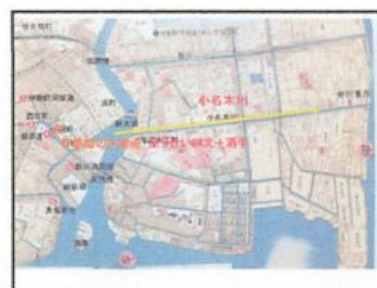
156  
2021/6/27

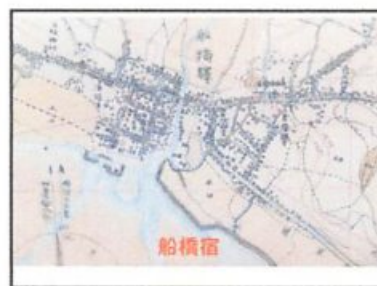
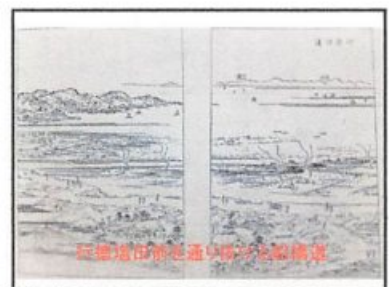
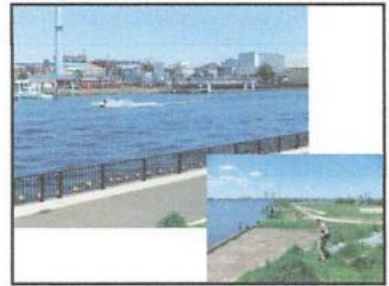
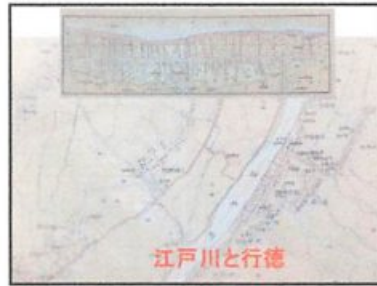
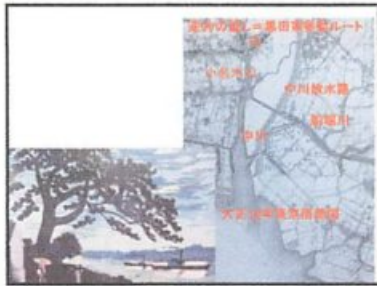
10時～11時  
20分

5分  
10分



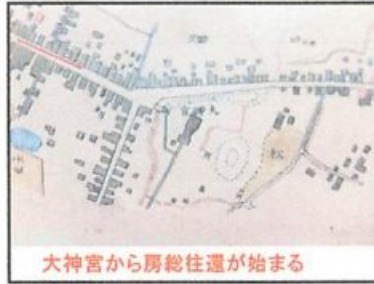








地名となった海老川橋と天正時代の賑わい



大神宮から房総往還が始まる



大神宮前のわかれ道

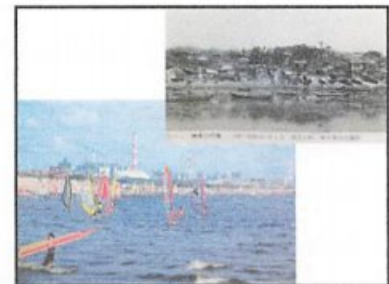


明治はじめの船橋

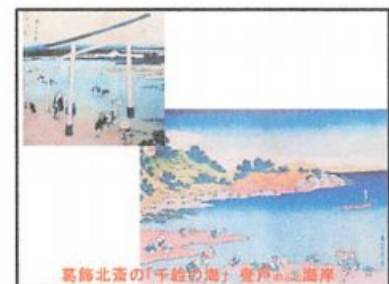
船橋大神宮



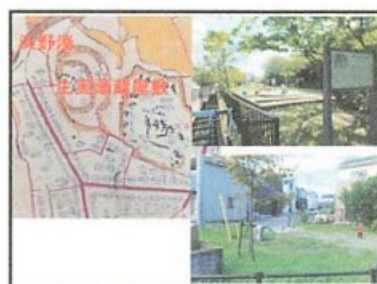
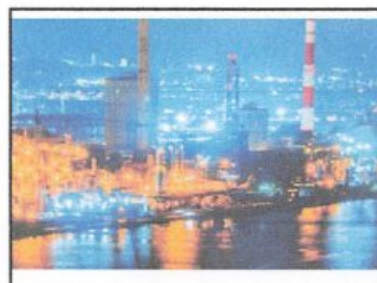
船橋村と現在の副都心

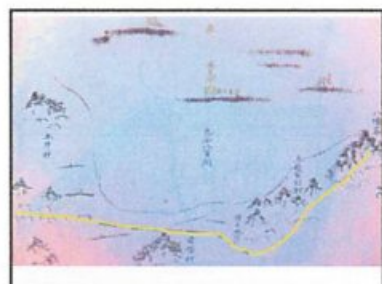
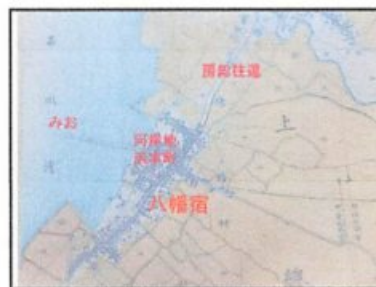


明治はじめの船橋村と戦前の船橋海岸



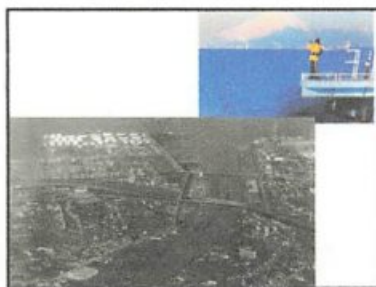
葛飾北斎の「千船の海」豊洲の海岸







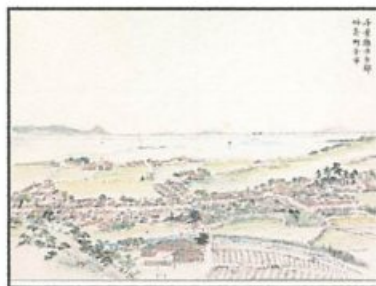
40年前の駅前大通り



養老川



姉ヶ崎駅



黄門さまが泊まった妙経寺



古い城下町のたすまいを伝える



鶴牧城水野藩1万石藩



新田氏代官邸・津波城が結核の城

